

一般国道 4 4 2 号八女筑後バイパス

埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

福岡県八女市室岡・亀ノ甲所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第77集

2007

八女市教育委員会

一般国道 4 4 2 号八女筑後バイパス

埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

福岡県八女市^{むろおか}室岡・^{かめ の こう}亀ノ甲所在遺跡の調査報告書

^{し げ}志計 遺跡

^{おり べ や し き}折部屋敷 遺跡

^{た し ろ}田代 遺跡

^{よん ち ょ う ぼ り}四丁堀 遺跡（2次調査）

^{な か み ち}中道 遺跡

^{さん たん ば た}三反畑 遺跡

^{に し や ま の う え}西山ノ上 遺跡（2次調査）

^{むろおかやま の う え}室岡山ノ上遺跡

^{う し ろ だ}後田 遺跡

序

国道442号八女筑後バイパス建設事業に伴い、平成13年度から、当教育委員会では事業地内の埋蔵文化財発掘調査を進めております。

平成14年度は平成13年度に引き続き、八女市室岡地区の遺跡を中心として発掘調査を実施いたしました。その結果、弥生時代を中心として貴重な遺跡が発見され、この地域の文化を考える上で重要な成果をあげることができました。

発掘調査にあたりまして、終始ご協力いただきました福岡県、福岡県八女土木事務所、地元町内会、福岡県教育委員会、筑後市教育委員会をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

平成19年3月31日

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

例 言

- 1 一般国道442号八女筑後バイパス建設事業に伴う発掘調査は、福岡県八女土木事務所の依頼を受け、平成13年度を初年度として毎年継続して実施しているが、本書は、平成14年度に発掘調査を実施した遺跡の発掘報告書である。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施した。なお、出土遺物の整理は岩戸山歴史資料館で行い、遺物も同所で保管している。
- 3 遺構の実測は、基本的には国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準としている。
- 4 本書に用いた写真の内、事業全体の航空写真は昭和58年度、平成11年度に八女市が作成したもので、遺跡別の空中写真は㈱空中写真企画に委託して撮影したものである。なお、各遺跡、遺構、遺物の写真については各担当者が中心となり撮影した。
- 5 各遺跡の担当及び執筆は下記のとおりである。なお、「久留米・八女地域の地形と地質」の執筆については黒木高等学校木戸道男氏にお願いした。編集は赤崎が行った。

	調査担当	執筆
志計遺跡	赤崎・安武	赤崎
折部屋敷遺跡	赤崎・安武	赤崎
田代遺跡	中川	中川
四丁堀遺跡（2次調査）	中川・安武	赤崎
中道遺跡	赤崎・安武	赤崎
三反畑遺跡	赤崎・安武	赤崎
西山ノ上遺跡（2調査次）	赤崎・安武	赤崎
室岡・山ノ上遺跡	赤崎・安武	赤崎
後田遺跡	中川	中川

本文目次

1	はじめに	1
2	位置と環境	2
3	各遺跡の調査概要	5
1	志計遺跡	5
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
2	折部屋敷遺跡	12
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
3	田代遺跡	16
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
4	四丁堀遺跡（2次調査）	25
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
5	中道遺跡	31
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
6	三反畑遺跡	37
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
7	西山ノ上遺跡（2次調査）	39
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
8	室岡・山ノ上遺跡	86
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
9	後田遺跡	154
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	

挿図目次

第1図	一般国道442号八女筑後バイパス志計遺跡・折部屋敷遺跡・田代遺跡 四丁堀遺跡（2次調査）・中道遺跡・三反畑遺跡・西山ノ上遺跡（2次調査） 室岡山ノ上遺跡・後田遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25,000]	第54図	西山ノ上遺跡2次	ビット出土土器実測図 [1/4]	
第2図	一般国道442号八女筑後バイパス 志計遺跡・折部屋敷遺跡・田代遺跡 四丁堀遺跡（2次調査）・中道遺跡・三反畑遺跡・西山ノ上遺跡（2次調査） 室岡山ノ上遺跡・後田遺跡 調査位置図 [1/5,000]	第55図	＊	2次	ビット出土土器実測図 [1/4]
第3図	志計遺跡 遺構配置図 [1/300]	第56図	＊	2次	堅穴住居 出土土器実測図 [1/2]
第4図	＊	第57図	＊	2次	2次堅穴住居 (SB16) 出土ガラス製品実測図 [1/1]
第5図	＊	第58図	＊	2次	出土土器実測図 [1/3]
第6図	＊	第59図	＊	2次	出土土器実測図 1 [1/2]
第7図	＊	第60図	＊	2次	出土土器実測図 [1/4]
第8図	＊	第61図	室岡山ノ上遺跡	遺構配置図 [1/300]	
第9図	折部屋敷遺跡 遺構配置図 [1/400]	第62図	＊	堅穴住居 (SB01・02・03・05) 土壊 (SK03) 実測図 [1/60]	
第10図	＊	第63図	＊	堅穴住居 (SB04・06) 実測図 [1/60]	
第11図	田代遺跡1・2地点 遺構配置図 [1/300]	第64図	＊	堅穴住居 (SB07・08) 実測図 [1/60]	
第12図	＊	第65図	＊	堅穴住居 (SB09・10) 実測図 [1/60]	
第13図	＊	第66図	＊	堅穴住居 (SB11・12) 実測図 [1/60]	
第14図	＊	第67図	＊	堅穴住居 (SB13・14) 実測図 [1/60]	
第15図	＊	第68図	＊	堅穴住居 (SB15・16) 土壊 (SK52・53・54) 実測図 [1/60]	
第16図	＊	第69図	＊	土壊 (SK02・04・15・17・19) 実測図 [1/60]	
第17図	四丁堀遺跡（2次調査）1・2地点 遺構配置図 [1/300]	第70図	＊	土壊 (SK16・20・23・25・36) 実測図 [1/60]	
第18図	＊	第71図	＊	土壊 (SK37・49) 実測図 [1/60]	
第19図	＊	第72図	＊	土壊 (SK24・50・51・55・67) 実測図 [1/60]	
第20図	＊	第73図	＊	周溝状遺構 (SX01) 実測図 [1/60]	
第21図	＊	第74図	＊	溝 (SD04・07・08) 土層実測図 [1/60]	
第22図	中道遺跡 遺構配置図 [1/300]	第75図	＊	溝 (SD04・08) 実測図 [1/120]	
第23図	＊	第76図	＊	堅穴住居 (SB01・02) 出土土器実測図 [1/4]	
第24図	＊	第77図	＊	堅穴住居 (SB03・06①) 出土土器実測図 [1/4]	
第25図	三反畑遺跡 遺構配置図 [1/300]	第78図	＊	堅穴住居 (SB06②・07①) 出土土器実測図 [1/4]	
第26図	西山ノ上遺跡（2次調査） 遺構配置図 [1/300]	第79図	＊	堅穴住居 (SB07②・08) 出土土器実測図 [1/4]	
第27図	＊	第80図	＊	堅穴住居 (SB09①) 出土土器実測図 [1/4]	
第28図	＊	第81図	＊	堅穴住居 (SB09②・10) 出土土器実測図 [1/4]	
第29図	＊	第82図	＊	堅穴住居 (SB11・16) 出土土器実測図 [1/4]	
第30図	＊	第83図	＊	土壊 (SK02・04・10・13) 出土土器実測図 [1/4]	
第31図	＊	第84図	＊	土壊 (SK14①) 出土土器実測図 [1/4]	
第32図	＊	第85図	＊	土壊 (SK14②) 出土土器実測図 [1/4]	
第33図	＊	第86図	＊	土壊 (SK14③・15・16①) 出土土器実測図 [1/4]	
第34図	＊	第87図	＊	土壊 (SK16②) 出土土器実測図 [1/4]	
第35図	＊	第88図	＊	土壊 (SK16③・19・21・23) 出土土器実測図 [1/4]	
第36図	＊	第89図	＊	土壊 (SK24・26) 出土土器実測図 [1/4]	
第37図	＊	第90図	＊	土壊 (SK29・30・32・35・37) 出土土器実測図 [1/4]	
第38図	＊	第91図	＊	土壊 (SK39) 出土土器実測図 [1/4]	
第39図	＊	第92図	＊	土壊 (SK40・41・47・51) 出土土器実測図 [1/4]	
第40図	＊	第93図	＊	土壊 (SK52・58・59・61・63) 出土土器実測図 [1/4]	
第41図	＊	第94図	＊	土壊 (SK64・66・67) 出土土器実測図 [1/4]	
第42図	＊	第95図	＊	周溝状遺構 (SX01) 出土土器実測図 [1/4]	
第43図	＊	第96図	＊	溝 (SD04①) 出土土器実測図 [1/4]	
第44図	＊	第97図	＊	溝 (SD04②) 出土土器実測図 [1/4]	
第45図	＊	第98図	＊	溝 (SD07・08①) 出土土器実測図 [1/4]	
第46図	＊	第99図	＊	溝 (SD08②) 出土土器実測図 [1/4]	
第47図	＊	第100図	＊	溝 (SD08③) 出土土器実測図 [1/4]	
第48図	＊	第101図	＊	堅穴住居、ビット 出土土器実測図 [1/2]	
第49図	＊	第102図	＊	堅穴住居、周溝状遺構、溝、ビット 出土土器実測図 [1/2]	
第50図	＊	第103図	＊	土壊 出土土器実測図 [1/3]	
第51図	＊	第104図	＊	堅穴住居、土壊、周溝状遺構 出土土器実測図 [1/2]	
第52図	＊	第105図	＊	堅穴住居、土壊、溝 出土土器実測図 [1/3]	
第53図	＊	第106図	＊	溝 出土土器実測図 [1/3]	
第54図	＊	第107図	＊	堅穴住居、土壊、周溝状遺構、溝 出土土器実測図 [1/2]	
第55図	＊	第108図	＊	堅穴住居、土壊、溝 出土土器実測図 [1/3]	
第56図	＊	第109図	＊	堅穴住居、土壊 出土土器実測図 [1/4]	
第57図	＊	第110図	後田遺跡 1・2・3地点 遺構配置図 [1/400]		

表目次

表1	志計遺跡	出土土器観察表	表6	田代遺跡	近世墓一覧表	表11	西山ノ上遺跡2次	SB・SK・SX・SD・ビット	表15	室岡山ノ上遺跡	SB・SK・SX・SD		
表2	＊	出土土製品観察表	表7	＊	1地点・2地点	出土土器観察表		出土土器観察表			出土土器観察表		
表3	＊	出土土製品観察表	表8	四丁堀遺跡2次1地点	出土土器観察表	表12	＊	2次	出土土製品観察表	表16	＊	出土土製品観察表	
表4	＊	出土ガラス製品観察表	表9	＊	2次2地点	出土土製品観察表	表13	＊	2次	出土ガラス製品観察表	表17	＊	出土土製品観察表
表5	折部屋敷遺跡	出土土器観察表	表10	中道遺跡	出土土器観察表	表14	＊	2次	出土土製品観察表				

図版目次

図版1 (1)	一般国道 442 号八女筑後バイパス調査地航空写真 (H11 年撮影)	図版16 (1)	SB18 (2) SB19・20 (3) SK56 (4) SK57
図版2 (1)	志計遺跡 発掘前 (西から) (2) 志計遺跡 (西から)	図版17 (1)	SK59 (2) SK60 (3) SK61 (4) SK62
図版3 (1)	* SD01～03 (西から) (2) 志計遺跡 SD01～03 (東から)	図版18 (1)	SK64 (2) SK66 (3) SK67 (4) SK69
図版4 (1)	折部屋敷遺跡 発掘前 (東から) (2) 折部屋敷遺跡 全景 (西から)	図版19 (1)	SK70 (2) SK72 (3) SK74 (4) SK77
図版5 (1)	* 全景 (西から) (2) 折部屋敷遺跡 SD05	図版20 (1)	SK81 (2) SK82 (3) SK84 (4) SK88
図版6 (1)	田代遺跡 全景 (西から) (2) 田代遺跡1地点 (東から)	図版21 (1)	SK89 (2) SK90 (3) SK92 (4) SK95
図版7 (1)	近世墓 (2) 近世墓 (3) 墓と墓並 (4) SD02	図版22 (1)	SX06 (2) SX09 (3) SX10 (4) SX11
図版8 (1)	田代遺跡2地点 (東から) (2) 田代遺跡2地点 SK01	図版23 (1)	室岡山ノ上遺跡 全景 (東から) (2) 室岡山ノ上遺跡 (上空から)
(3)	田代遺跡2地点 SD01 (北から)	図版24 (1)	SB01 (2) SB02 (3) SB05 (4) SB06
図版9 (1)	四丁堀遺跡2次1地点 (2) 四丁堀遺跡2次1地点 (西から)	図版25 (1)	室岡山ノ上遺跡 (上空から) (2) SB07 (3) SB08
図版10 (1)	四丁堀遺跡2次1地点 SD01・02 (南から)	図版26 (1)	SK11 (2) SK16 (3) SK19 (4) SK25
(2)	四丁堀遺跡2次1地点 SD03 (西から)	図版27 (1)	SK36 (2) SK37 (3) SK45
図版11 (1)	四丁堀遺跡2次2地点 (東から)	図版28 (1)	室岡山ノ上遺跡 (上空から) (2) SD04 (溝内堆積状況)
(2)	四丁堀遺跡2次2地点 SD01 (東から)	(3)	SD04 (南から) (4) SD08 (北から)
図版12 (1)	中道遺跡 全景 (西から) (2) 中道遺跡 全景 (北から)	図版29 (1)	後田遺跡 発掘前 (南から) (2) 後田遺跡 2地点 (南から)
図版13 (3)	中道遺跡 SX01 (東から) (4) 三反畑遺跡 全景 (西から)	図版30 (1)	後田遺跡2地点 (北から)
図版14 (1)	西山ノ上遺跡2次調査 全景 (東から)	(2)	後田遺跡2地点 斜面土層 (北から) (3) 後田遺跡3地点 (東から)
(2)	西山ノ上遺跡2次調査 全景 (西から)	図版31 (1)	後田遺跡1地点 発掘前 (北から) (2) 後田遺跡1地点 (東から)
図版15 (1)	SB13 (2) SB14・15 (3) SB16 (4) SB17	図版32 (1)	後田遺跡1地点 土層 (北から)

1 はじめに

一般国道442号八女筑後バイパスは、すでに供用されている八女市都市計画道路室岡平田線と一体となって、八女筑後両市内の交通混雑の解消を目的として、現在、事業が実施されている。

しかし、事業予定地には室岡遺跡群など周知の遺跡のほか、数多くの文化財の包蔵が予想されたため福岡県土木事務所と協議を重ね、平成13年2月14日付けで発掘調査の依頼が提出され、これを受けて八女市教育委員会では事業地内の発掘調査を実施する事とし、平成13年2月14日に委託契約を締結した。平成13年度には八女市の室岡地区に所在する包蔵地の内、西山ノ上遺跡、四丁堀遺跡の発掘調査を実施している。

引き続き平成14年度には平成14年4月14日に委託契約を締結し、八女市の室岡地区に所在する道路建設敷地内8ヵ所の遺跡について、発掘調査を実施した。発掘調査は平成14年4月8日から開始し、平成15年3月25日に終了した。

平成18年度は、平成14年度に発掘調査を実施した遺跡について、出土遺物等の整理作業と報告書を作成した。

平成14年度及び平成18年度の調査関係者は次のとおりである。

平成14年度

八女市教育委員会

教育長	中島清志
生涯学習課課長	諸富和生
生涯学習課参事	今村 求
生涯学習課長補佐	鹿野耕一
生涯学習課参事補佐	佐野正義
生涯学習課文化財係長	赤崎敏男
同係員	中川寿賀子・大塚恵治
同嘱託	山田朗子
	安武寛文（平成14年6月1日より平成16年3月31日まで 現 朝倉市役所）

平成18年度

八女市教育委員会

教育長	中島清志
生涯学習課課長	大津山篤（9月30日まで）
社会教育課課長	飯田せつ子（10月1日から）
生涯学習課長補佐	古庄龍美（9月30日まで）
社会教育課長補佐	松崎保元（10月1日から）
社会教育課文化財係長	赤崎敏男
同係員	中川寿賀子・大塚恵治

2 位置と環境

八女丘陵から派生した洪積台地の南端では標高約33m、古河川（矢部川）による侵食によって南側に広がる沖積地は標高約23mと、両者の間には10m近い高低差を生んでいる。台地の南東端には標高44.8mの、通称「岡山さん」があり、半島状に突き出た姿はひととき目立っている。山頂からは八女の平野部と遠くに有明海を隔て、佐賀、長崎の山並みを見渡すことができる。

一般国道442号八女筑後バイパスは、現在の国道の北側にはほぼ並行して八女市を東西に横断し、八女市納楚付近で現在の442号線と合流する。今回調査を実施した地域は、八女丘陵から派生した洪積台地と台地から続く沖積地にあたる。

八女丘陵の脊梁部には国指定史跡の八女古墳群（岩戸山古墳、乗場古墳、善蔵塚古墳、丸山塚古墳、茶臼塚古墳、丸山古墳）をはじめ、鶴見山古墳、釘崎古墳群、辻の西遺跡など、4世紀から6世紀にかけての筑紫君やその一族の古墳のほか、多くの群集墳が築かれているが、台地部分には古墳の存在は認められない。僅かに南東端の通称「岡山さん」上に、胴張り単室の横穴式石室を持つ岡山公園古墳（円墳）1基が築かれているのみである。

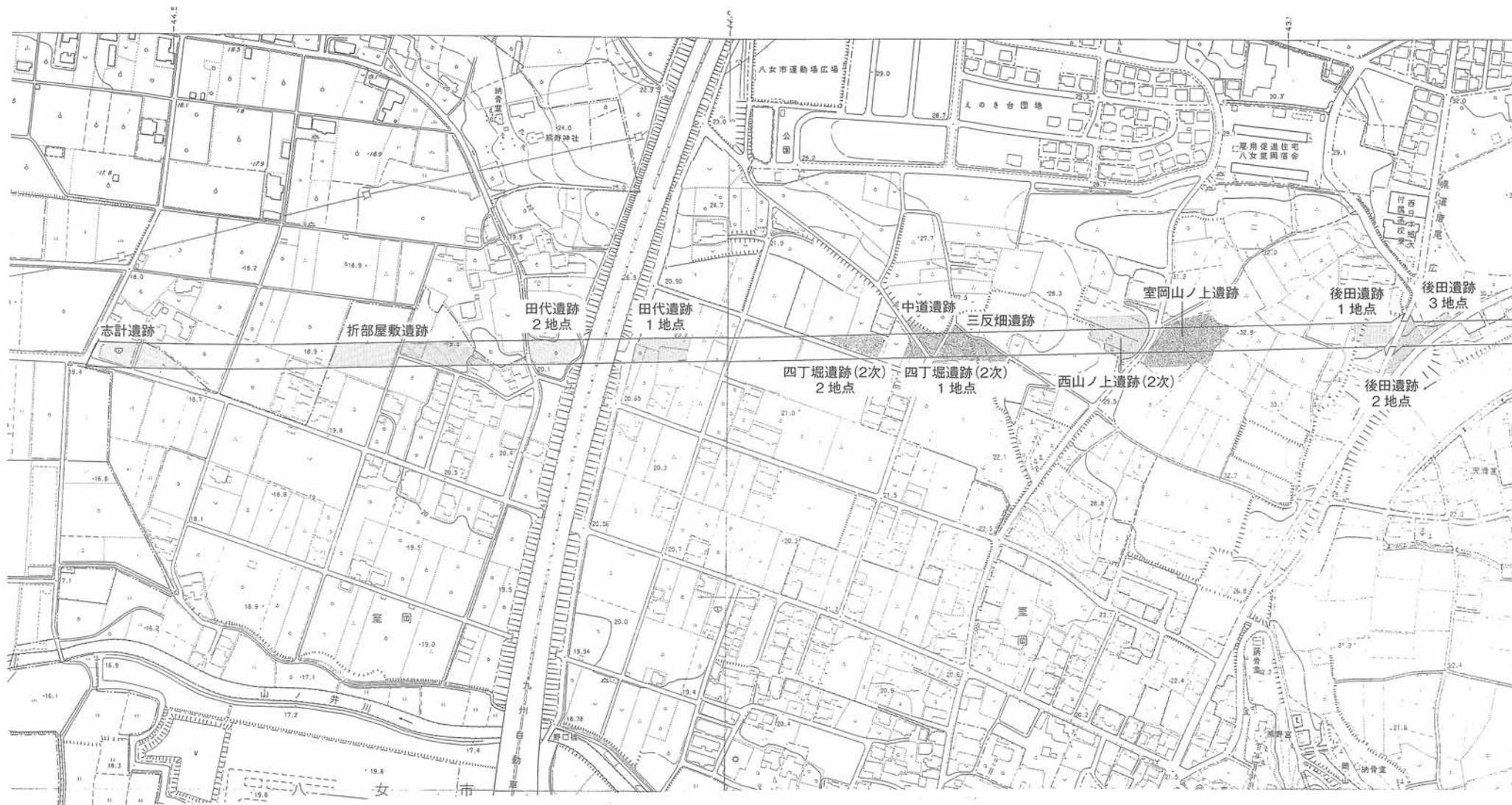
室岡台地上にはこれまで各所において発掘調査が実施されており、「埋蔵文化財調査報告Ⅰ」に詳細を記している。平成13年度から開始したバイパスの路線内や隣接地の調査で、四丁掘遺跡から中世から近世にかけての溝や土壌が発見されており、西山ノ上遺跡からは縄文時代の落とし穴をはじめ、弥生時代の竪穴住居3軒、土壌38基、墳墓5基（木蓋土壌墓1基、石蓋土壌墓4基）、西側の西山ノ上遺跡から延びた環濠1条、中世の掘立柱建物8棟、柵列5条、土壌14基、井戸1基、溝は居宅を囲む溝等3条が発見されている。平成13年度、14年度にはバイパスの建設に伴う茶工場の移転のため、バイパス北側隣接地の西山ノ上遺跡の発掘調査を実施し、弥生時代の竪穴住居43軒、掘立柱建物19棟、土壌54基、墳墓24基（木蓋土壌墓、石蓋土壌墓、土壌墓、甕棺墓）、周溝状遺構8基、環濠1条、中世溝1条、溝2条が発見され、弥生時代後期の竪穴住居内から多数の鍛冶関連遺物が出土し、SB21より内行花文鏡片が出土している。

このほか、台地南端に亀ノ甲遺跡があり、住居跡4軒、甕棺墓20基、箱式石棺墓25基、土壌墓21基、溝1条が発見されている。東側には九州縦貫自動車道があり、建設に伴って西中ノ沢遺跡（弥生時代住居跡7軒）、坊野遺跡（弥生時代住居跡2軒）、野口遺跡（弥生・古墳時代住居跡13軒、掘立柱建物2棟）、道添遺跡（弥生・古墳時代住居跡29軒、掘立柱建物1棟、円形周溝2基）が発見されている。同じ台地上には北小路遺跡（住居跡6軒、ピット8、甕棺墓6基、箱式石棺墓11基、土壌墓4基、石蓋土壌墓1基、木棺墓1基、大溝1条、中世遺構2）、山ノ上遺跡（住居跡14軒、貯蔵穴54基、土壌11基、甕棺墓1基、箱式石棺墓2基、土壌墓3基、溝5条）があり、今回の調査と大きく関連する遺跡群が存在している。



1. 一般国道 442 号八女筑後バイパス志計遺跡 2. 折部屋敷遺跡 3. 田代遺跡 2 地点 4. 田代遺跡 1 地点 5. 四丁堀遺跡 2 次 1, 2 地点 6. 中道遺跡・三反畑遺跡 7. 西山ノ上遺跡 2 次 8. 室岡山ノ上遺跡 9. 後田遺跡 10. 坊野遺跡 11. 西中ノ沢遺跡 12. 岩戸山古墳 13. 乗場古墳 14. 惣津遺跡 15. 福島中学校校庭遺跡 16. 岡山公園古墳 17. 岡山小学校校庭遺跡 18. 一竿遺跡 19. 立野・大坪遺跡 20. 篠原遺跡 21. 水町遺跡 22. 宮ノ后遺跡 23. ヒヤケ遺跡 24. 新庄・六反田遺跡 25. 新庄遺跡群 26. 上島町遺跡 27. 平遺跡 28. 袴田遺跡 29. 野田遺跡 30. 深田遺跡 31. 二反田遺跡 32. 宿町遺跡 33. 宮ノ前遺跡 34. 三河小学校校庭遺跡

第 1 図 一般国道 442 号八女筑後バイパス志計遺跡・折部屋敷遺跡・田代遺跡・四丁堀遺跡 (2 次調査)・中道遺跡・三反畑遺跡・西山ノ上遺跡 (2 次調査)・室岡山ノ上遺跡・後田遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25,000]



第 2 図 一般国道 442 号八女筑後バイパス 志計遺跡・折部屋敷遺跡・田代遺跡・四丁堀遺跡（2 次調査）・中道遺跡・三反畑遺跡・西山ノ上遺跡（2 次調査）
室岡山ノ上遺跡・後田遺跡 調査位置図 [1/5,000]

3 各遺跡の調査概要

1 志計遺跡

(1) 調査の概要

志計遺跡は、八女市室岡字志計に所在する。遺跡は八女市の西端で、大きく筑後市に入り込んだ部分にあたる。遺跡の西側隣接地は平成13年度に、東側隣接地は平成14年度に筑後市教育委員会で発掘調査が実施されている。遺跡は丘陵南端部の低位段丘上にあり、周辺の標高は18m前後で畑や水田として利用されている。調査の結果、調査区の東側は建物によって大きく壊されていたが、溝14条、土壇31基、不明遺構1基が発見されている。

(2) 遺構と遺物

土壇 (SK)

31基の土壇が発見されている。その多くは長方形又は楕円形で、畑作の際掘削された新しいものである。

SK01 (第7図)

長方形で、300×200cm、深さ50cm。出土遺物として、染付皿、甕が出土している。

SK02-SK31 (第7図)

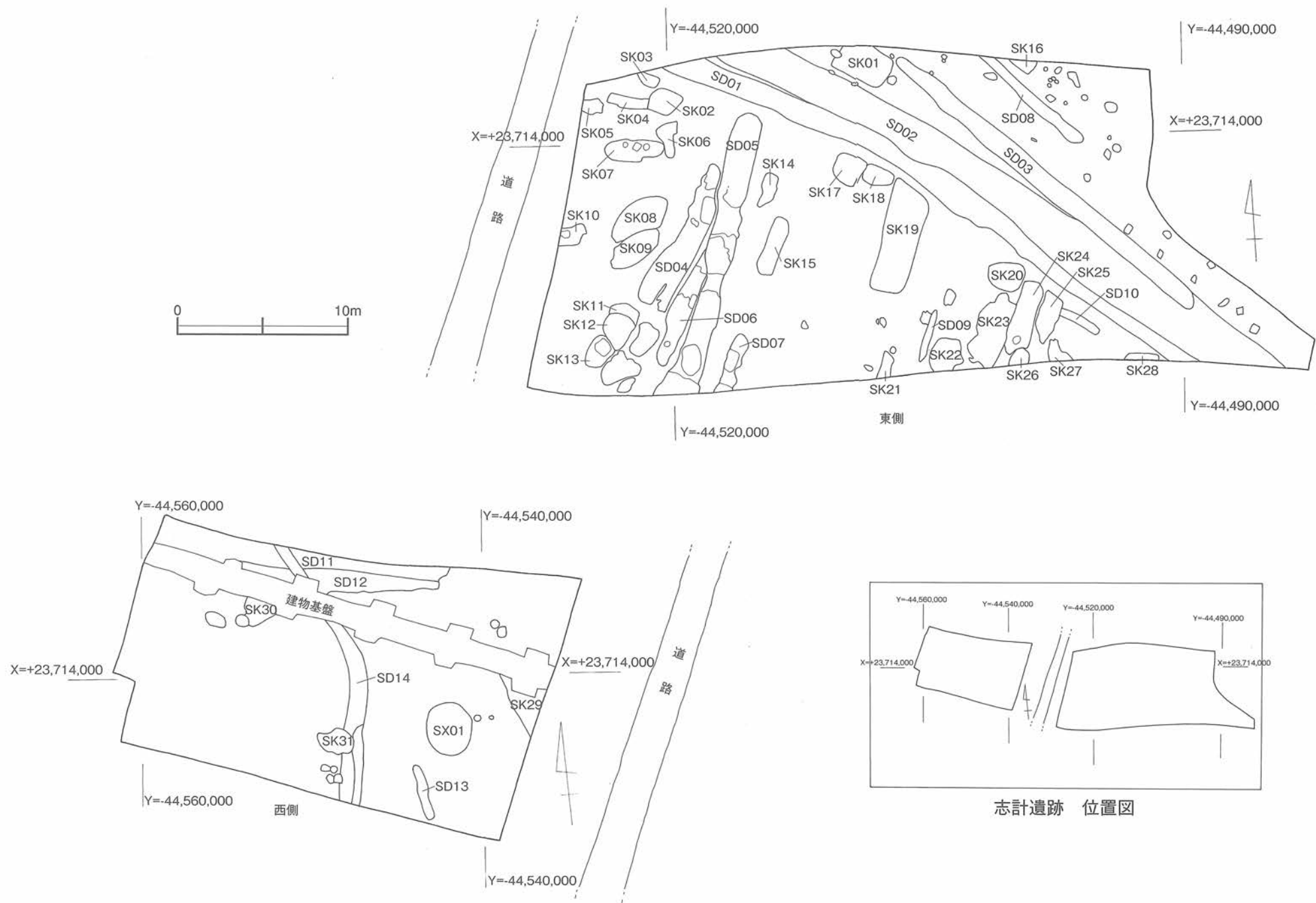
長方形又は楕円形で、深さも5-10cm前後と浅く、床面も凹凸が著しい。出土遺物としてわずかではあるが陶器片、磁器片が出土している。

溝 (SD)

調査区内より15条の溝が発見された。SD01、02、03、08はいずれも併行しており、北西から南東に延びる近代の道に沿って掘削された溝である。SD04、05、06、07、09、10、13、15は畑地掘削時の溝と思われる。

SD01 (第7図、図版3)

北西から南東に延びる溝で31mを検出した。SD02を切ってつくられている。幅は70-80cm前後、深さ30cm前後で南東から北西に流れ、断面は逆台形を呈している。遺物として近世の陶器片、瓦片が出土している。



第3図 志計遺跡 遺構配置図 [1/300]

SD02 (第5・6・8図、図版3)

SD01と併行する溝でSD01、03によって大きく両側を切られているが、33mを検出した。幅は200-250cm、深さ10-20cmで、断面は逆台形を呈している。地山上に堆積する黒色土を切り込んでおり、立ち上がりも急である。遺物はサヌカイト製石鏃、ガラス小玉、近世の染付磁器片、陶器片、硯片が出土している。

SD03 (第8図、図版3)

北西から南東に延びる溝で30mを検出した。SD02を切ってつくられている。幅は100-120cm前後、深さ20cm前後で南東から北西に流れ、断面は逆台形を呈している。溝肩や溝内に木杭が残っている。遺物として近世の染付磁器片、陶器片が出土している。

SD08

道路に掘削された北西から南東に延びる溝で7.5mを検出した。幅は50-60cm前後、深さ10-15cm前後で北西から南東に流れ、断面は逆台形を呈している。遺物は出土していないが比較的新しいものと思われる。

SD11

SD12と切り合い、東から西に延びる溝で11mを検出した。幅は90+a cm、深さ5cm前後で浅い。遺物は出土していないが、比較的新しい溝と思われる。

SD12 (第8図)

SD11と切り合い、東から西に延びる溝で11.5mを検出した。幅は150+a cm、深さ5-10cm前後で浅い。遺物は近世染付磁器片が出土、比較的新しい溝と思われる。

SD14

北西から南東に延びる溝で途中緩やかにカーブする。15mを検出した。幅は100-130cm前後、深さ20cm前後で南東から北西に流れ、断面は逆台形を呈している。遺物は出土していないが、比較的新しい溝と思われる。

SD04-SD07、SD09、SD10、SD13、SD15

いずれも畑作に伴う溝と思われる。

不明遺構 (SX)

SX01 (第4図)

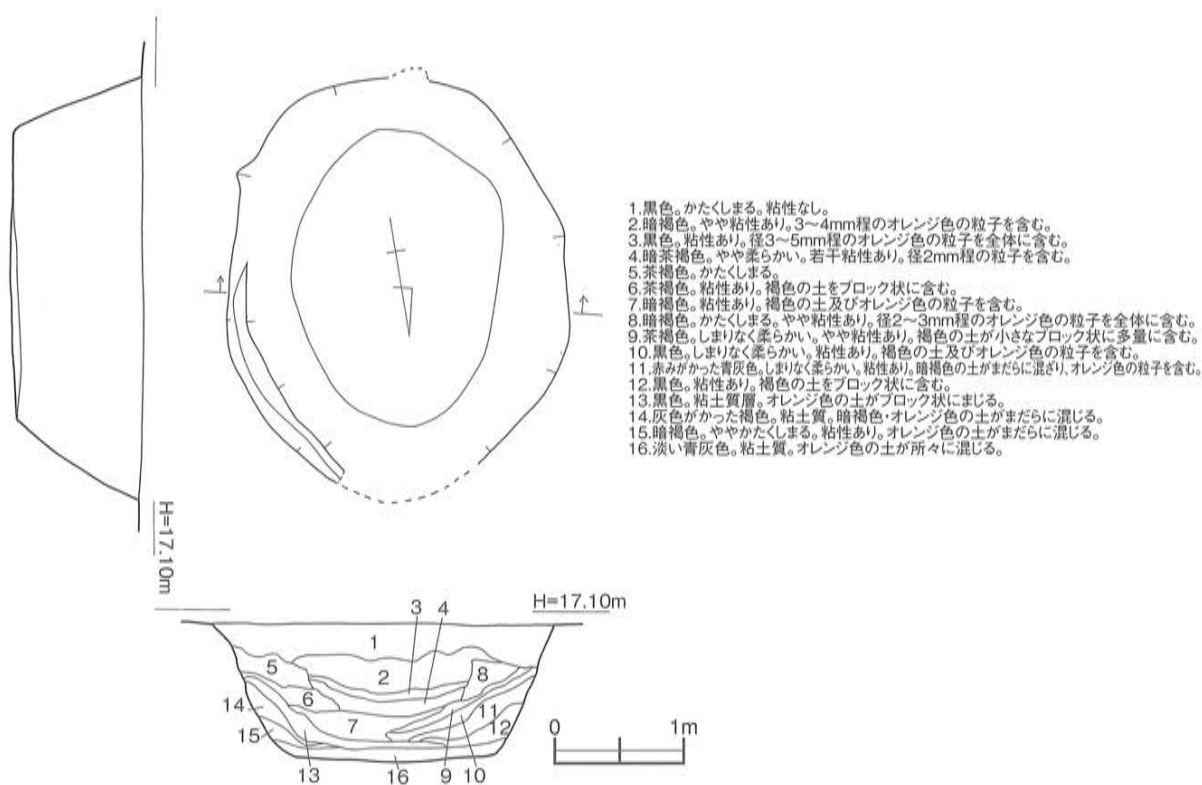
調査区の東端より1基発見された。ほぼ楕円形で、230×260cm、深さは最も深いところで102cmあり、底は平坦で逆台形となる。土層を観察すると最上層に黒色土・暗褐色土が厚く堆積し茶褐色土と続き、周辺から流れ込んだ土によって自然に堆積した状態である。出土遺物はない。

(3) まとめ

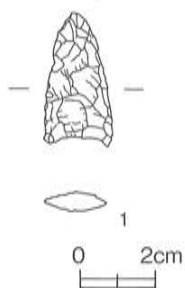
今回の発掘調査は複雑に入りこんだ筑後市との境界付近での調査であり、調査の期間や方法など協議をしながら進めた。調査の結果多くの溝や土壌が検出されたがほとんどは近世から近代にかけ

ての遺構である。溝の多くは北西から南東に延びる近世の道に沿って掘削された溝で、何度も浚渫した痕跡が見受けられた。西側の溝の一部は筑後市教育委員会で調査した柳ノ内遺跡1・2次調査地区にも延びている。土壌はいずれも畑地耕作時のもので遺物も出土していない。溝からはサヌカイト製の石鏃が発見されているが、柳ノ内遺跡D、C区から縄文期に属する石鏃が多く出土しており、一連の遺物が流れ込んだものと思われる。また、近世の遺物が大半のため、この地が近世になり初めて開発の手が入ったものとも考える事もできる。

参考文献 筑後市教育委員会「前津柳ノ内遺跡」筑後市文化財調査報告書 第55集 2004



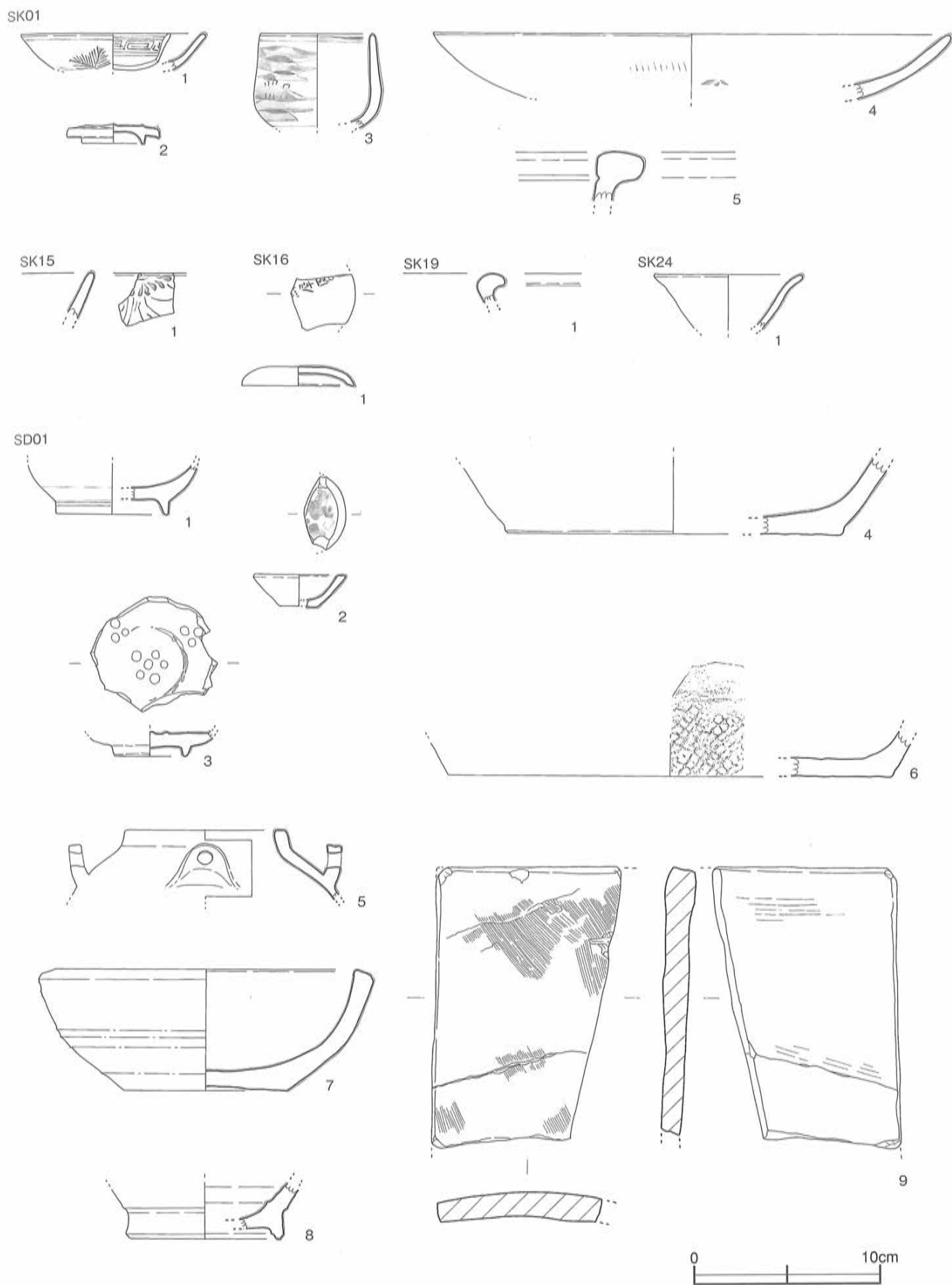
第4図 志計遺跡 不明遺構 (SX01) 実測図 [1/60]



第5図 志計遺跡 溝 (SD02)
出土石器実測図 [1/2]

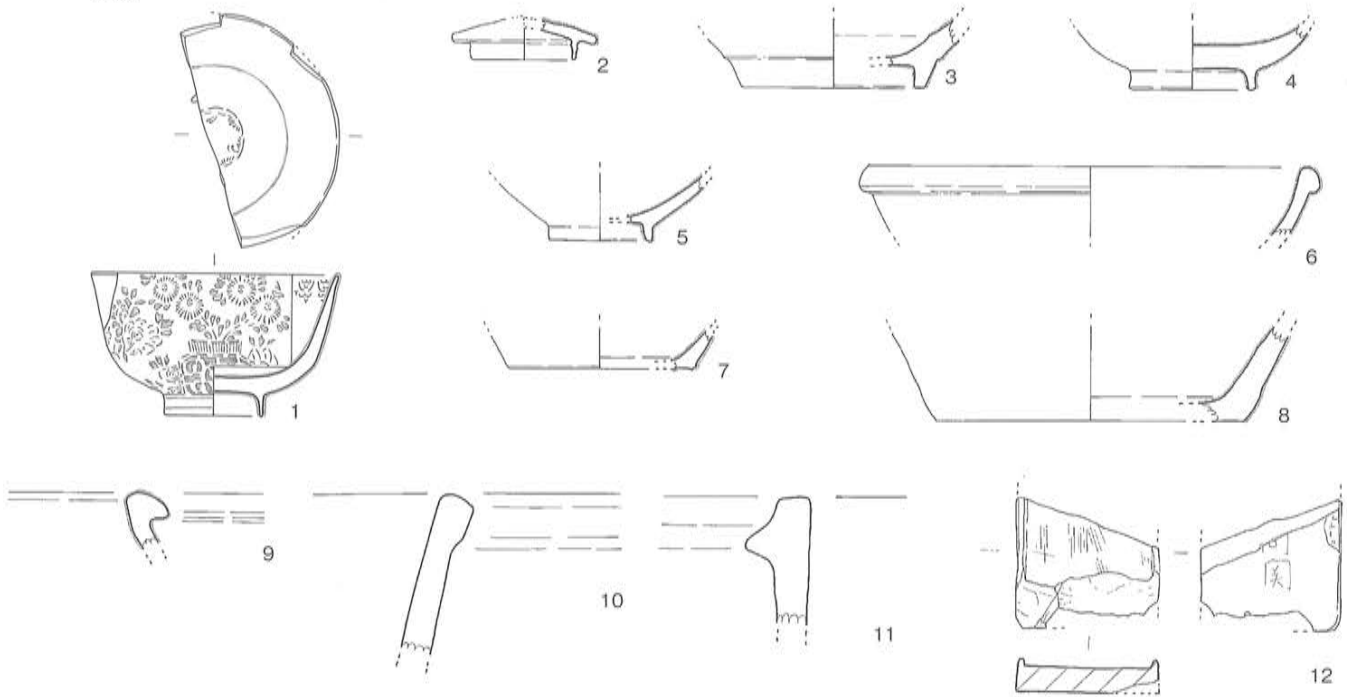


第6図 志計遺跡 溝 (SD02)
出土ガラス製品実測図 [1/1]

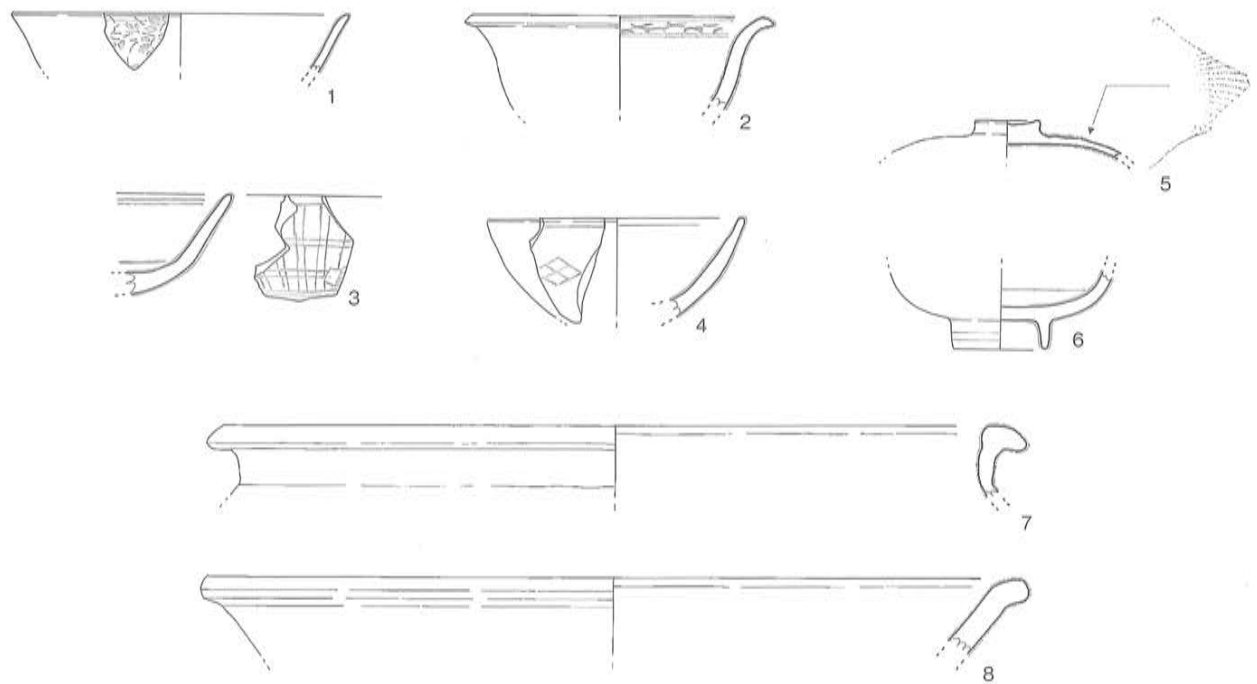


第7図 志計遺跡 土壙 (SK01・15・16・19・24) 溝 (SD01) 出土土器実測図 [1/3]

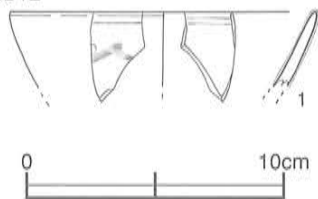
SD02



SD03



SD12



第8図 志計遺跡 溝 (SD02・03・12) 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口徑 (cm)	底徑 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第7図	SK01	1	染付 埴	10			精選されている。	白灰色の胎に灰白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		2	染付 蓋			1	精選されている。	淡黄色の胎に淡黄灰色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	青海波状文、タタキ	
		3	染付	6			精選されている。	白灰色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		4	染付 大皿	28			精選されている。	白灰色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		5	甕				精選されている。	暗茶褐色の胎に暗茶灰色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	沈線
	SK15	1	染付 埴				精選されている。	暗灰色の胎に光沢のある暗灰色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	SK16	1	蓋	6		1	精選されている。	白色の胎に白色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	SK19	1	甕				精選されている。	黒灰色の胎に暗茶青灰色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	SK24	1	小鉢	8			精選されている。	白灰色の胎に淡灰色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	SD01	1	染付 埴		6		精選されている。	白灰色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		2	染付 坏	4.8	2		精選されている。	白色の胎に灰色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		3	陶器 埴		3.9		精選されている。	灰色の胎に濃茶色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	内面に白色の二次施釉が残る
		4	陶器 皿		18		1~12mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤茶色の胎に黄色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	一部鶯色二次施釉有り
		5	陶器 二耳壺	8.4			砂粒を含む。	黒灰褐色の胎に黒茶褐色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		6	須恵器 甕		23.8		細砂粒を含む。	黒茶褐色	生焼	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、格子タタキ	
		7	陶器 鉢	16	8.6	6.5	1~2mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色の胎に薄茶色の釉がかかる。	普通	施釉	施釉	濃茶色の二次施釉有り
		8	陶器 鉢		8		精選されている。	淡茶褐色の胎に暗茶褐色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	二次施釉
		9	陶器 瓦				砂粒を含む。	黄茶褐色	良好	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
	SD02	1	染付 埴	9.6	3.8	5.6	精選されている。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。 藍色の染付	良好	施釉	施釉	
		2	陶器 蓋	4			精選されている。	淡灰色の胎に灰色の釉がやや厚めにかかる。	良好	施釉	ナデ	
		3	陶器 埴		7		精選されている。	淡灰色の胎に薄く、やや光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		4	陶器 埴		5		精選されている。	淡灰色の胎に青白色のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		5	陶器 埴		4		精選されている。	白灰色の胎に光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		6	陶器 鉢	17			砂粒を含む。	暗茶褐色の胎に暗茶褐色気味の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		7	陶器 鉢		7		精選されている。	淡黄褐色の胎に白玉色帯た釉が薄くかかる。	良好	施釉	施釉	
		8	陶器 甕		12		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	灰黒褐色の胎に薄く淡茶褐色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		9	陶器 甕				砂粒が混じるが 精選されている。	淡黄灰色の胎に光沢のある黒色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		10	鉢				砂粒を含む。	明黄褐色	普通	ヨコ方向のハケ目	ハケ後ナデ	
		11	陶器 火鉢				砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	不明	ヨコナデ	
		12	陶器 火鉢				精選されている。	白色の胎に透明釉がかかる。藍色の染色	良好	施釉	施釉	
		13	陶器 火鉢	13			精選されている。	白灰色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	SD03	1	染付 埴	11.2			精選されている。	白灰色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		2	染付 埴				精選されている。	白灰色の胎に白灰色の透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		3	染付 埴				精選されている。	白灰色の胎に白灰色の透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		4	染付 埴	9.8			精選されている。	白灰色の胎に白灰色の透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		5	陶器 蓋		つまみ 2.4		精選されている。	淡黄褐色の胎に暗黄褐色と 暗黒茶褐色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉、回転ヘラ 削り後ヘラ文様	内面細かい貫入有り
		6	染付 埴		3.6		精選されている。	白灰色の胎に白灰色の透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	型紙による染付文様有り
		7	陶器 甕	30.6			1~3mm大の小石が混じるが 精選されている。	灰黄色の胎に茶緑黒褐色の光沢のある 釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		8	陶器 鉢	31.8			砂粒を含む。	茶褐色の胎に暗褐色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		9	SD12	1	染付 埴	12	精選されている。	白灰色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	

表 1 志計遺跡 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	色 調	備 考
第8図	SD02	12	硯	幅5.5	1	輝緑凝灰岩	小豆色	裏面に線彫で文字が入る

表 2 志計遺跡 出土石製品観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	備 考
第5図	SD02	1	石鏃	4.5	1.6	サヌカイト	

表 3 志計遺跡 出土石製品観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	色 調	備 考
第6図	SD02	1	ガラス玉	径0.61	0.4	白色ブルー(スカイブルー)	孔径0.18cm

表 4 志計遺跡 出土ガラス製品観察表

2 折部屋敷遺跡

(1) 調査の概要

折部屋敷遺跡は、八女市室岡字折部屋敷に所在している。遺跡は八女市の西端で、筑後市に隣接した部分にあたり遺跡の西側隣接地は筑後市教育委員会で発掘調査が実施されている。遺跡は丘陵南端部の低位段丘上にあり、周辺の標高は19m前後で畑として利用されている。調査の結果、調査区全体から溝7条、土壇9基、井戸1基と多数のピットが発見されている。

(2) 遺構と遺物

溝 (SD)

調査区内より7条の溝が発見された。SD01、02、03、04は西側の調査区から、SD05は方形の区画で、深い溝がめぐる。SD06、07は東側の調査区の東端より発見された。SD05を除き、近世から近代の畑地掘削時の溝と思われる。

SD01 (第10図)

北から南に延びる溝で25mを検出した。幅は40cm前後、深さ15cm前後で北から南に流れ、断面は逆台形を呈し、遺物として近世の陶器が出土している。

SD02

SD03を一部切っているが、37mを検出した。幅は100-150cm、深さ60-70cmで、北西から南東に流れ断面は逆台形を呈し、立ち上がりも急である。溝内に堆積する黒色土を切り込んで近世の墓地が造られている。遺物は出土していない。

SD03

北西から南東に延びる溝で7.5mを検出した。SD02に切られている。幅は100cm前後、深さ20-25cm前後で北西から南東に流れ、断面はU字形を呈している。遺物は出土していない。

SD04

道路に掘削された北から南に延びる溝で13mを検出した。幅は60-110cmで北側が広く、深さ30-40cm前後で南から北に流れ、断面はV字形を呈している。遺物は出土していないが比較的新しいものと思われる。

SD05 (第10図、図版5)

東西18m、西側辺8m+a、東側辺5m+aではほぼ溝は方形に廻り、北東コーナー部分は緩やかにカーブする。幅は120cm前後、深さ50-70cm前後で断面は逆台形を呈している。遺物は近世の陶器鉢片が出土している。比較的新しい溝と思われる。

折部屋敷遺跡 位置図

第9図 折部屋敷遺跡 遺構配置図 [1/400]

SD06

西から東に延びる溝で19mを検出した。幅は30-80cm前後、深さ10-15cm前後で北から南に蛇行しながら流れ、北側では消滅する。断面は逆台形を呈し、遺物は出土していない。

SD07

北から南に延びる溝で17mを検出した。幅は40cm前後、深さ15cm前後で北から南に流れ、断面は逆台形を呈している。

土壙 (SK)

9基の土壙が発見されている。その多くは長方形又は楕円形で、北東隣接地に墓地が存在しており、いずれも近世墓地による攪乱と思われる。

井戸 (SE)

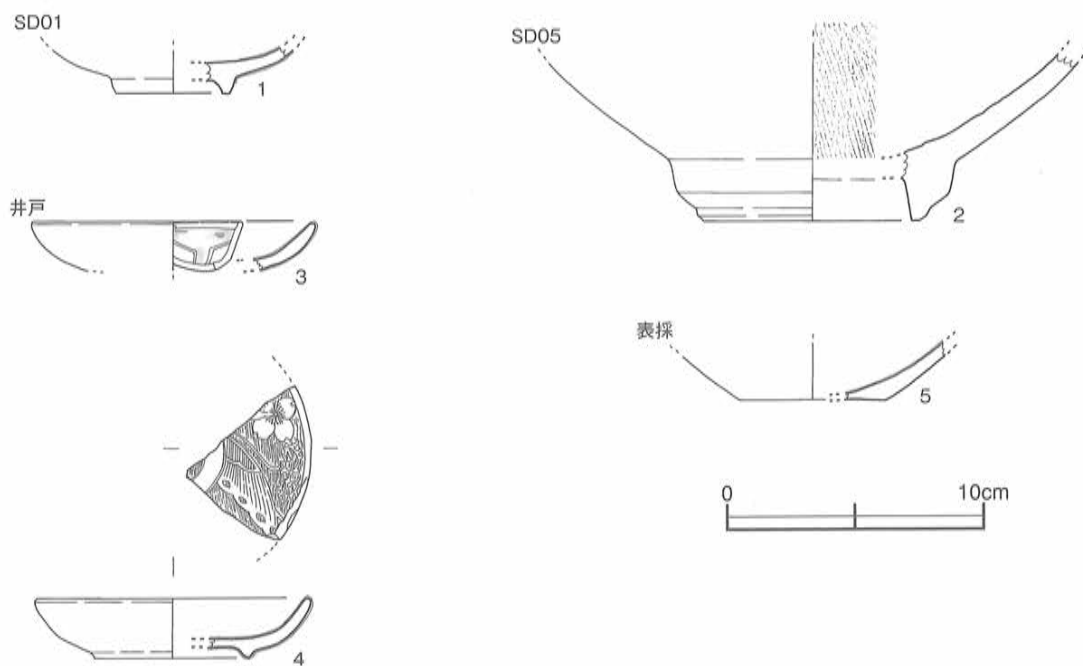
SE01 (第10図)

調査区の東端より1基発見された素掘りの井戸である。ほぼ円形で、110×120cm、深さは最も深いところで280cmあり、底はほぼ平坦で逆台形となる。出土遺物は近世の染付皿片が出土している。

(3) まとめ

今回の発掘調査では、調査区全体から溝7条、土壙9基、井戸1基と多数のピットが発見されている。その全ては近世、近代のもので、西側では近代の墓地によって一部掘削を受けている。発見された溝の多くは畑地に伴うものと思われる。わずかにSD05は東西18m、西側辺 $8m+a$ 、東側辺 $5m+a$ で深い溝に囲まれた方形区画となる。内側は削平されているため遺構の痕跡は検出できなかったが、溝内より近世の陶器片が出土し、また、近世の染付皿片を出土した素掘りの井戸も発見されているところから、小字の地名である「折部屋敷」の一部とも考えられる。

また、発掘調査によって、この地区は近世以前に開発された痕跡が少なく、近世以降の遺構や遺物が大半のため、この地が近世になりようやく開発の手が入ったものとも考える事もできる。



第 10 図 折部屋敷遺跡 溝 (SD01・05)、井戸、表採出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第10図	SD01	1	白磁 碗		4.6		細砂粒を含む。	黄灰色の胎に淡灰色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	SD05	2	陶器 鉢		8.4		細砂粒を含む。	暗褐色	良好	ヨコナデ	櫛状具による掻き目	
◇	井戸	3	染付 皿	10.8			細砂粒を含む。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	濃緑色の染付
◇	◇	4	染付 皿	10.6	6	2.3	精選されている。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	濃緑色の染付 (転写?)
◇	表採	5	不明		5.8		細砂粒を含む。	黄灰色の胎に暗黄褐色の釉がかかる。	良好	施釉	ヨコナデ	

表 5 折部屋敷遺跡 出土土器観察表

3 田代遺跡の調査

1 地点

(1) 調査の概要

本遺跡は、八女市室岡字田代に所在する遺跡である。平成13年（2001）に発掘調査が実施された四丁堀遺跡1次調査3地点の西側にあり、一部は同遺跡の続きであると考えられる。九州縦貫自動車道の東側に位置し、北西50mには坊野遺跡（弥生時代）があり、南西80mには野口遺跡（弥生時代）があるなど、室岡遺跡群の中にあって周辺には多くの遺跡が点在している。標高は20m前後である。

(2) 遺構と遺物

発掘調査の結果、土壙墓109基、溝2条が見つかった。

近世墓（ST）（第14図）

土壙墓群は、周辺よりやや標高が高くなっている部分で検出されており、発掘調査以前はお茶畑であった。墓域は調査区域外の南側に広がっており、周囲は溝で取り囲まれていた。

昭和37年7月に共同納骨堂が室岡に建設されたため、すでに掘り起こしが行われ、移設されて墓としての用途が終了していた。おそらく、土葬の歴史もその頃が転換期であったと思われる。約100基を越える墓が見つかった。（表6参照）

溝（SD）

本遺跡からは、2条検出されている。

SD01（第12・15図）

調査区域の東側で検出された。本遺構は、四丁堀遺跡1次調査3地点のSD01と同遺構であり、東西方向から南東方向に直角に曲がっていることがわかった。幅は4m前後で、深さは80cm前後である。底部は逆台形を呈しているが、内側は若干段になっている。

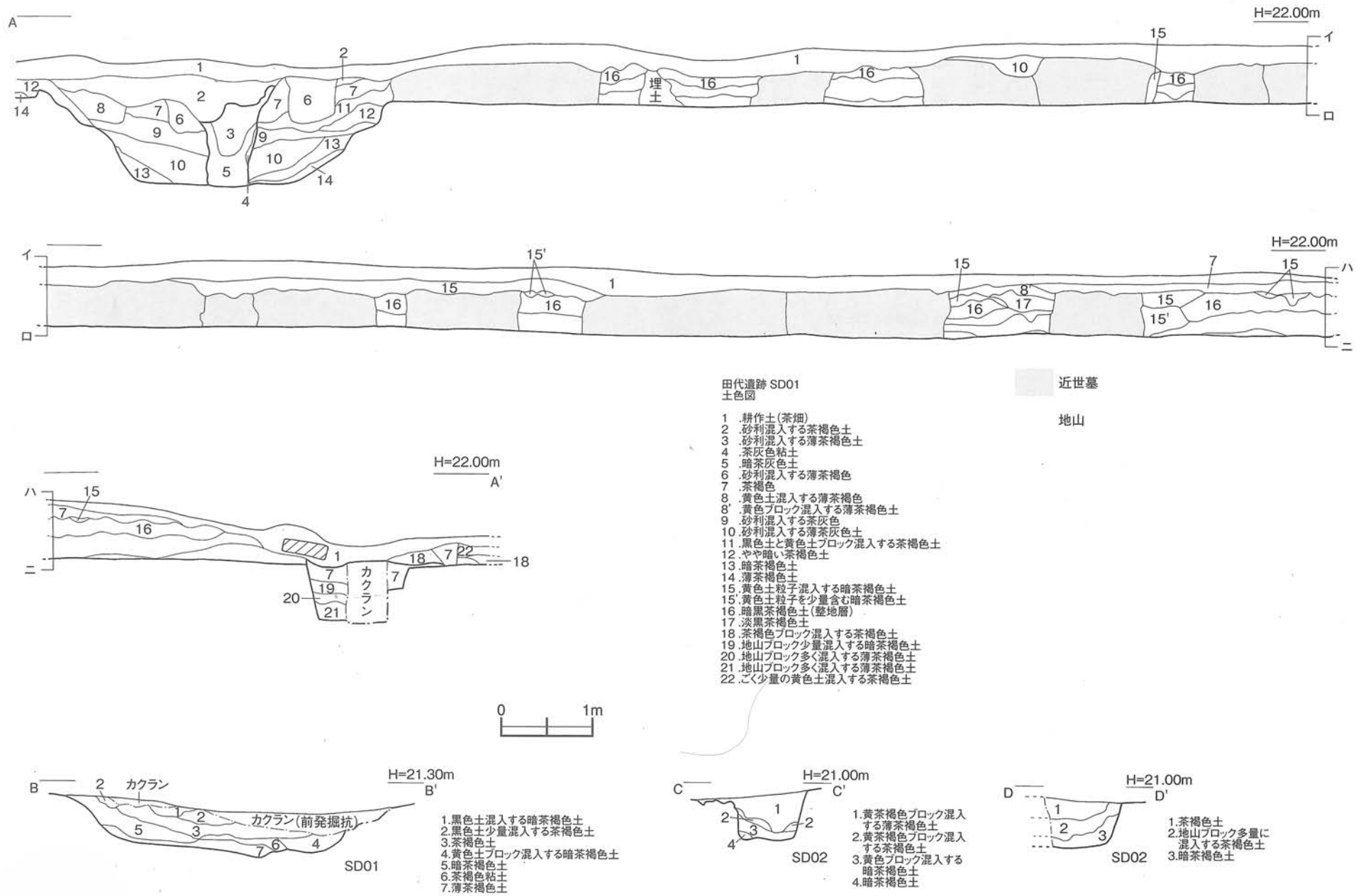
SD02（第12・15図）

調査区域の南側中央部分で検出されており、「コ」の字状になっている。

墓地は、納骨堂に移設されたため墓標がすでに無く、ほとんどが掘り起こされており、副葬品の出土は少なかった。ただ、埋葬施設として、木棺・2種類の甕棺の3パターンが見られた。時期的



第 11 図 田代遺跡 1・2 地点 遺構配置図 [1/300]



遺構番号	規 模			埋葬施設	遺 物	備 考
	長軸 (cm)	短軸 (cm)	残存高 (cm)			
1	90	85	99		鉄製入歯・櫛・化粧瓶・ボタン・木片・鉄製品	
2	90	90	106		釘	
3	130	82	81		釘	
4	87	83	84		玩具・磁器碗・釘	北側一部攪乱のため壊されている。
5	90	85	93		釘	
6	110	95	150～165	甕棺	木片・布・釘	凝灰岩製の石蓋あり。床面に甕を据えるための土壌あり。
7	85	82	111		釘	南側攪乱のため壊されている。
8	95	90	135～150	甕棺	釘	床面中央に甕を据えるための土壌あり。甕の口縁部に蓋の痕跡あり。
9	110	100	128		木片・釘	SD03を切る。
10	90	90	108		釘	SD01を切る。
11	—	—	95			南西部分をST09に切られ、北側をST10に切られる。
12	120	113	192		釘	骨壺あり。
13	97	90	131	木棺	磁器碗・ボタン・釘	一辺52cmの木棺。
14	120	90	60		釘	東側をST01に切られる。
15	110	—	100		釘	
16	105	87	116		釘	ST28を切る
17	95	95	89～76			床面中央より若干北側の部分に甕を据えるための土壌あり。
18	95	90	79		釘	南東部分攪乱のため破壊されている。
19	95	82	80～115		釘	北西部分攪乱のため破壊。ST20と切り合う。
20	103	100	95～105		鉄製入歯・数珠・木片・釘	北側部分に寄せて65cm×80cmの掘り込みあり。
21	130	125	135～160	甕棺	酒瓶・杯・釘	凝灰岩製の石蓋あり。北東部分に一辺65cmの土壌あり。
22	85	85	223		釘	床面に一辺50cmの方形の掘り込みあり。
23	90	90	90	甕棺		凝灰岩製の石蓋あり。甕の口縁は約30cmで小型。
24	83	83	88～95			西側壁に寄せて一辺37cmの方形の掘り込みあり。
25	107	104	142～158	甕棺		床面に甕を据えるための土壌あり。
26	110	108	115～140	甕棺	木片・釘	凝灰岩製の石蓋あり。床面に甕を据えるための土壌あり。
27	95	95	42～58			床面に一辺60cmの方形の掘り込みあり。
28	105	50	62		釘	
29	—	—	119		釘	
30	—	85	98		釘	南側攪乱のため壊されている。
31	110	105	135～147		釘	
32	96	96	155		釘	
33	145	110	158		木片・釘	
34	160	120	145～163			床面に床面に甕を据えるための土壌あり。
35	90	90	124		木片・釘	
36	100	90	100		釘	凝灰岩製の石蓋あり。
37						未掘。
38	90	85	135～150	甕棺		凝灰岩製の石蓋あり。床面中央に甕を据えるための土壌あり。
39	70	65	40～48			攪乱のため壊されている。床面中央に一辺45cmの土壌あり。
40	87	85	42～76			攪乱のため壊されている。
41	70	70	120～126	甕棺		床面に甕を据えるための土壌あり。西側ST15に切られる。
42	—	85	89			東側と南東部分攪乱のため壊されている。
43						未掘。
44	115	105	132			
45	105	130	130		釘	ST46に切られる。
46	96	90	90～114		硬貨・金属・釘	床面に65×70cmの土壌あり。
47	120	—	66～122			南側は調査区域外のため規模不明。
48	170	—	36～127			南側は調査区域外のため規模不明。
49					金属・釘	未掘。
50	106	100	120			
51	130	110	126		釘	ST52を切っている。
52						未掘。
53	105	105	123			
54	130	—	64			南側は調査区域外のため規模不明。
55	125	105	115		寛永通宝	ST56に切られる。

表 6 田代遺跡 近世墓一覧表

遺構番号	規 模			埋葬施設	遺 物	備 考
	長軸 (cm)	短軸 (cm)	残存高 (cm)			
56	88	82	101		釘	
57	95	90	105			
58	200	150	108~116			
59	105	—	105~113	甕棺		床面に甕を据えるための土壌あり。
60	107	85	89			
61	85	80	22		釘	
62	100	85	106			
63						未掘。
64	99	93	83			地表面攪乱のため壊されている。
65	96	90	135~155		硬貨	床面に甕を据えるための土壌あり。
66	84	84	34		釘	
67	104	95	110			
68	80	70	53		釘	東側はSD01を切る。
69						未掘。
70	115	105	126		釘	
71	120	105	110		釘	
72	113	100	103		釘	
73	107	101	120			
74						未掘。
75						未掘。
76	108	80	103		釘	
77						未掘。
78	110	110	90		釘	
79	100	95	117		釘	SD01を切る。
80						未掘。
81	100	85	130		釘	
82	140	120	96~131		釘	
83	110	105	97		釘	
84						未掘。
85	120	—	151~163	甕棺	釘	凝灰岩製の石蓋あり。北側はST108を切る。床面に甕を据えるための土壌あり。
86	1307	110	120	甕棺	釘・炭化物	
87	170	125	140~155	甕棺		凝灰岩製の石蓋あり。床面中央に甕を据えるための土壌あり。
88	90	90	135		釘	ST87を切る。
89						未掘。
90	130	—	92			南側調査区域外。
91						未掘。
92	—	72	90			南側は調査区域外。
93	—	83	83			南側は調査区域外。
94						未掘。
95	72	66	85		釘	地表面南北部分攪乱のため壊されている。
96	100	95	—	甕棺		コンクリート製の蓋あり。
97	120	83	—	陶製甕棺		陶製蓋
98	—	—	50	甕棺		小児用甕棺。凝灰岩製の石蓋あり。床面中央に甕を据えるための土壌あり。
99	—	90	105		釘	南側調査区域外
100	115	—	115		釘	南側調査区域外。
101	—	70	35			南側調査区域外。ST101と切り合う。
102	—	80	75		釘	南側調査区域外。
103	—	90	45			東側をST104に切られる。
104	210	128	65~116	甕棺		凝灰岩製の石蓋あり。甕を据えるための土壌あり。
105	—	86	65			南側調査区域外。
106	—	83	84			南側調査区域外。
107	95	82	97			ST46に切られる。
108	115	—	170~190		鉄箸入筒	凝灰岩製の石蓋。南側はST86に切られる。床面に甕を据えるための土壌あり。
109	—	100	107			南側調査区域外。

表 6 田代遺跡 近世墓一覧表

にはよくわかっていない。

「八女市史」によれば、墓堀りのことをイケ掘りといって、昭和20年頃までは、土葬が主流であったことが記されており、この役割は主に村の若者が担当していたらしい。甕棺の場合は、八女地方の東部（長野地区）で採掘される凝灰岩の蓋が使用されていた。蓋の中には、没年と氏名・年齢が記されたものもあった。

2 地点

本遺跡は、田代遺跡1地点から九州縦貫自動車道を挟んで50m西側に位置する。標高は20m前後である。1地点と同様室岡遺跡群内にあり、北東70mには坊野遺跡（弥生時代）があり、南東20mには野口遺跡（弥生時代）がある。

本遺跡の北隣には住宅があり、東西方向に小規模な排水路が設置されている。本遺跡は、発掘以前は畑地であった。

発掘調査の結果、土壙1基と溝1条、その他ピットなどが見つかった。

土壙（SK）

SK01（第13・16図）

調査区の北西端部に位置する楕円形の土壙である。北側の一部を攪乱によって破壊されているが、長軸360cm、短軸250cmで、深さは60～70cmを測り、北から南にかけて緩やかに深くなっている。

遺物は、瓦器碗が出土している。

溝（SD）

SD01（図版8）

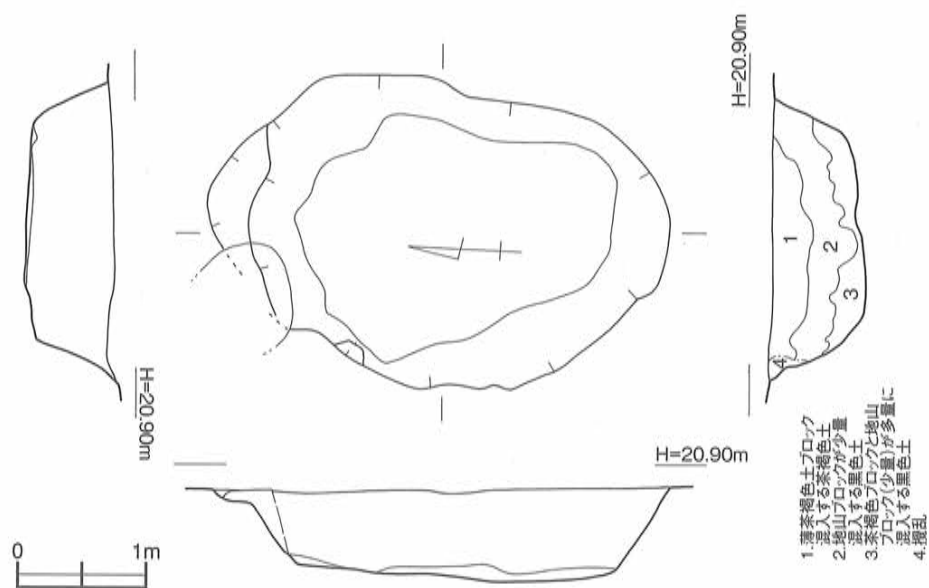
調査区東側に位置し、南北方向に延びている。幅200cm前後で、深さは75cm前後である。断面は、底部が逆台形を呈しており、東側は湾曲して立ち上がるが西側は段になっている。

前述のとおり、調査前は畑として使用されており、地元の人によれば50年以上前に堀があったらしい。堀が機能しなくなったため、埋められたものと思われる。

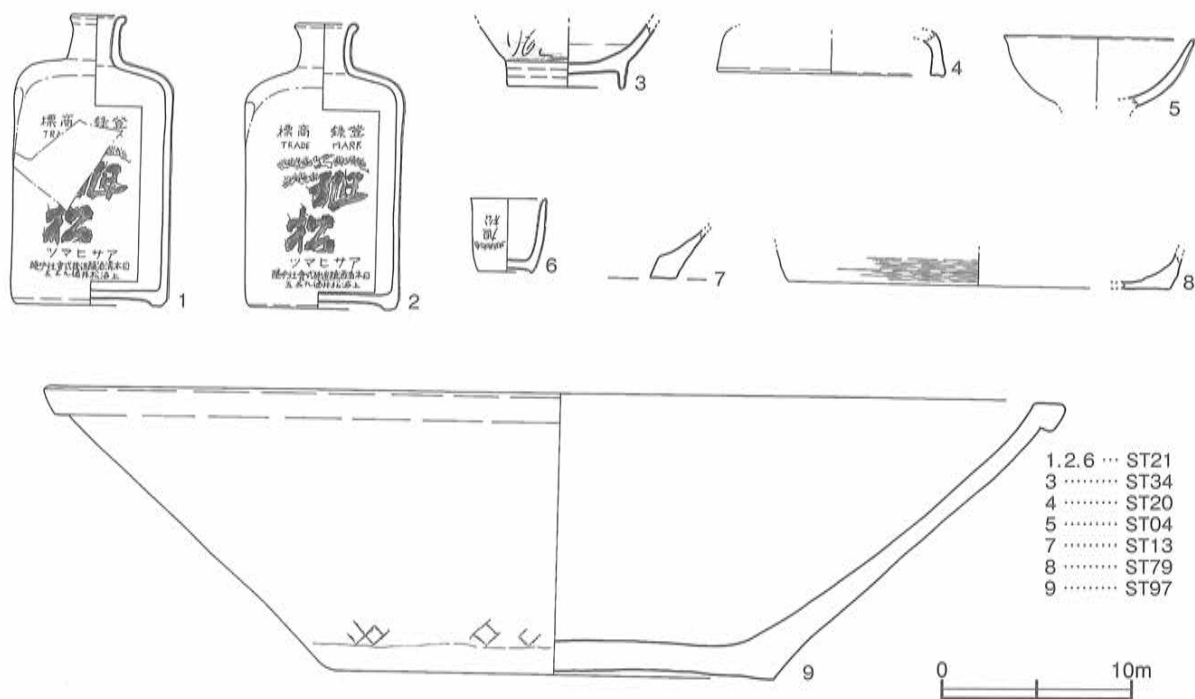
遺物は、近代の皿・茶碗・甕の破片といった日常的に使用するものが出土している。

（3）まとめ

田代遺跡2地点の周辺は、弥生時代の集落が点在しているが、本遺跡からは弥生時代の遺構や遺物は出土していない。調査区域西側の端の部分から見つかった土壙（SK01）は、出土遺物から12世紀代のものと考えられ、中世の遺跡が西側にあったかもしれない。

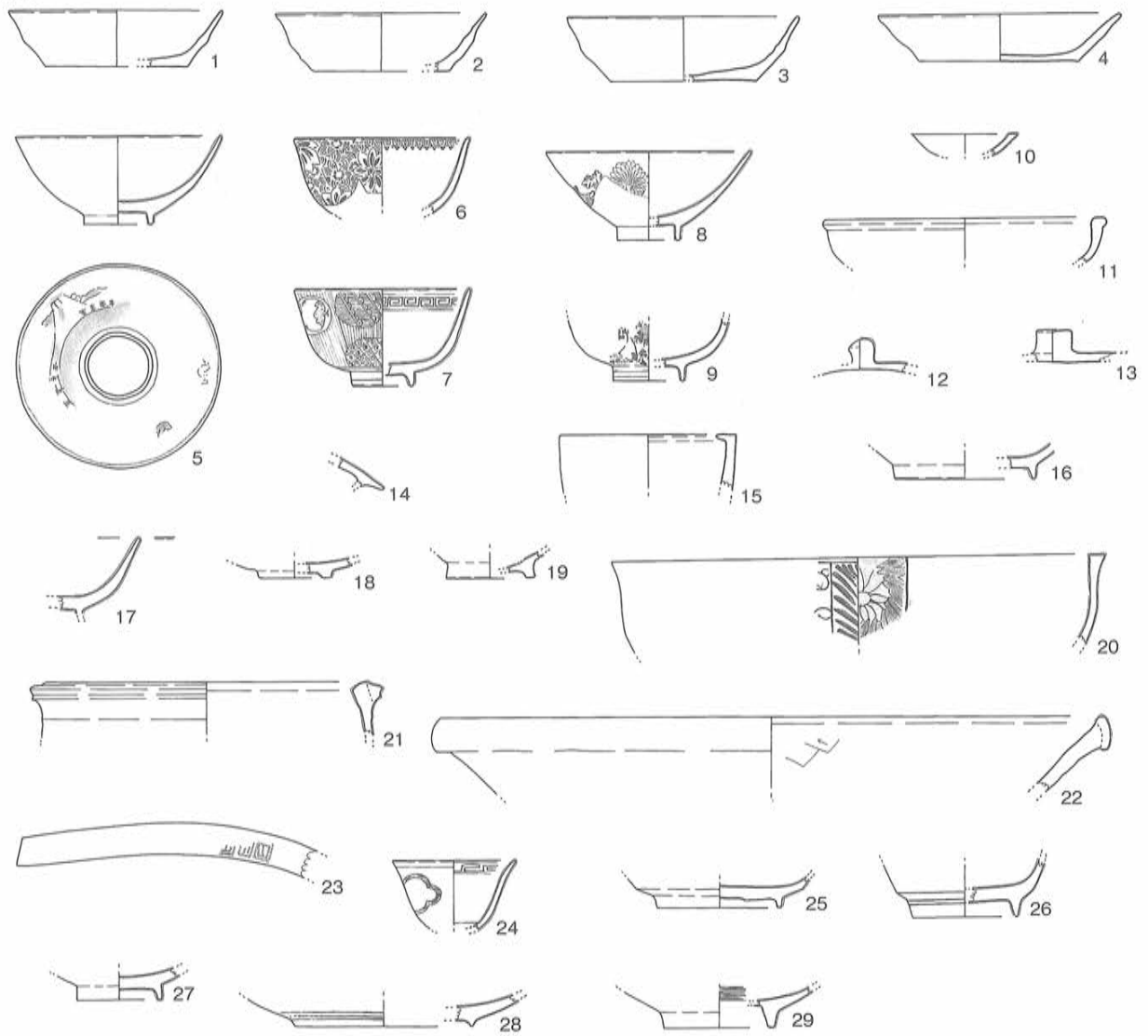


第13図 田代遺跡 2地点 土壙 (SK01) 実測図 [1/60]

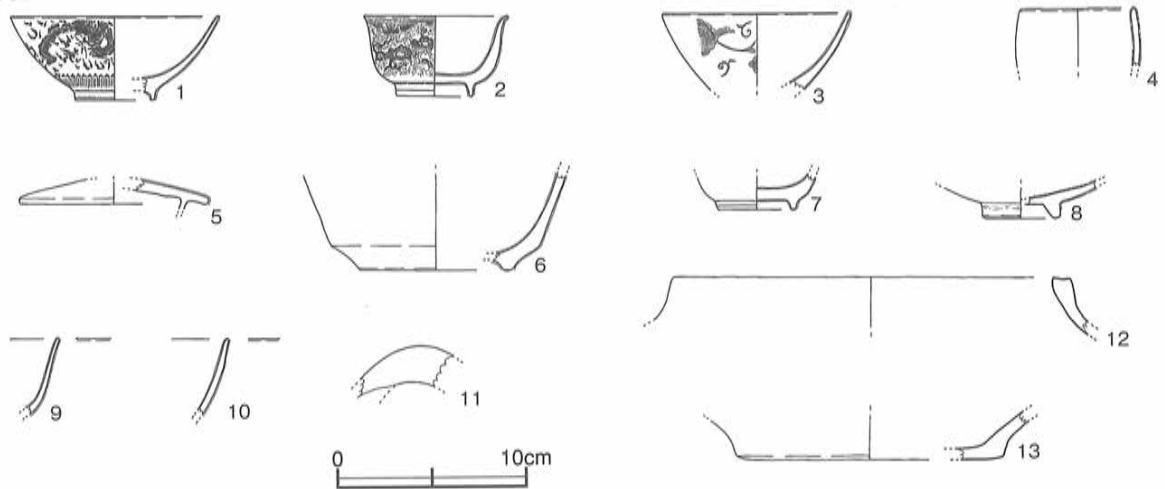


第14図 田代遺跡 1地点 近世墓 (ST) 出土土器実測図 [1/4]

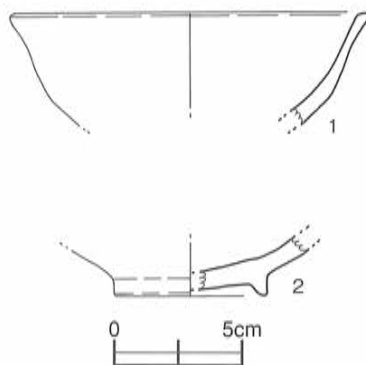
SD01



SD02



第15図 田代遺跡1地点 溝 (SD01・SD01 カクラン・SD02) 出土土器実測図 [1/4]



第 16 図 田代遺跡 2 地点
土壌 (SK01) 出土土器 [1/3]

挿入 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第14図	ST21	1	白磁 酒德利	2.7	7.6	15.7	精選されている。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	ST21	2	白磁 酒德利	3	7.6	15	精選されている。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	ST13	3	白磁 高台付埴 底部		6.1		精選されている。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉、一部無釉	施釉	
	ST20	4	陶器 蓋 口縁部片	12			細砂粒を含む。	茶褐色	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
	ST04	5	白磁 埴 口縁部片	10			精選されている。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	ST21	6	白磁 猪口	4	2.8	3.8	精選されている。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
	ST13	7	陶器片				小石が混じる。砂粒を含む。	赤茶褐色／暗赤茶褐色	普通	回転ナデ	回転ナデ	
	ST79	8	陶器 鉢 底部片		20		細砂粒を含む。	茶褐色	良好	カキ目、ナデ	回転ヨコナデ	
	ST97	9	陶器 鉢 2/3片	53.9	23.6	14.8	精選されている。	赤茶色	良好	ナデ	ナデ	
第15図	SD01	1	土師器 埴 1/8片	12	8	3.2	赤粒子が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ切り	ヨコナデ	
		2	土師器 埴 1/3片	12	7.8	3.3	赤粒子が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ切り	ナデ	
		3	土師器 埴 1/3片	13.2	8.2	3.6	砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ切り	ヨコナデ	
		4	土師器 埴 3/4片	13.8	9	2.6	小石が混じる。砂粒を含む。	茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ切り	ナデ	
		5	白磁 高台付埴 完形	11.6	3.8	5	精選されている。	白色の胎に光沢のある乳白色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		6	白磁 埴 1/3片	10			精選されている。	淡白色の胎に白灰色の鈍い釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		7	白磁 高台付埴 1/4片	10	3.2	5.5	精選されている。	白色の胎に薄青色の光沢の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	内面底部に文様有り、異須
		8	白磁 高台付埴 1/2片	11.6	3.6	5	精選されている。	白色の胎に光沢のある淡灰色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		9	白磁 高台付埴 底部片		4		精選されている。	白色の胎に薄白青色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		10	白磁 合子 1/4片	6			精選されている。	白色の胎に白青灰色の光沢の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	外面一部無釉
		11	土師器 浅鉢 口縁部	15.8			小石が混じる。砂粒を含む。	茶色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
		12	陶器 蓋 つまみ部	つまみ 径1.4			精選されている。	灰色の胎に黄白色の釉がかかる／灰茶色	良好	施釉	回転ヘラケズリ	
		13	陶器 蓋 つまみ部	つまみ 径2			小石が混じる。砂粒を含む。	茶褐色／暗茶黄褐色	普通	回転ヘラケズリ	ハケ目	
		14	陶器 蓋				精選されている。	赤茶色の胎に光沢のある緑釉がかかる。	良好	施釉	ヨコナデ	
		15	陶器 鉢 口縁部	10			細砂粒を含む。	淡茶褐色／赤茶褐色	普通	ナデ	ヨコナデ	
		16	白磁 高台付埴		8		精選されている。	白色の胎に透明の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		17	白磁 高台付埴 細片				精選されている。	白灰色の胎に鉛釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		18	陶器 埴 底部		4			黄褐色の胎に乳黄色の釉が厚めにかかる。	普通	施釉	施釉	
		19	陶器 埴 底部片		5			茶灰褐色の胎に鉛釉がかかる。	普通	施釉	施釉	二次釉がみられる
		20	白磁 鉢 口縁部	28			精選されている。	白色の胎に透明の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		21	陶器 甕 口縁部	20			精選されている。	暗茶色に鉛釉がかかり黒点が入っている。	良好	施釉	施釉	
		22	陶器 甕 口縁部	37.4			4mm大の小石が混じるが 精選されている。	暗灰黄色、口縁部黒釉	普通	施釉、ヨコナデ	ヘラ調整のちナデ	
第15図	SD01	23	平瓦				小石が混じるが 精選されている。	黒灰色	普通			
	SD01 カクラン	24	白磁 猪口 口縁部	7			精選されている。	白色の胎に青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		25	白磁 高台付皿		7		精選されている。	白色の胎に青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		26	白磁 高台付埴		6		精選されている。	白色の胎に青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		27	白磁 高台付埴		4.8		精選されている。	白色の胎に青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		28	白磁 皿		10		精選されている。	白色の胎に青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		29	陶器 高台付埴		6.2		精選されている。	茶褐色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉、カキ目	
	SD02	1	白磁 埴 1/4	11	4.2	4.4	精選されている。	白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		2	白磁 埴 2/3	7.6	4	4.2	精選されている。	白色の胎に青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		3	白磁 埴 口縁部	9.8			精選されている。	白色の胎に光沢のある透明の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	異須
		4	白磁 埴 口縁部	5.8			精選されている。	白色の胎に暗茶褐色(外面)光沢のある 薄青白(内面)の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		5	陶器 蓋	10			精選されている。	灰色の胎に黒釉がかかる。	良好	施釉	回転ヘラケズリ	
		6	白磁 鉢 底部		8.2		精選されている。	白色の胎に光沢のある透明な釉がかかる。	良好	施釉、一部無釉	施釉	
第16図		7	白磁 高台付埴 底部		4.2		精選されている。	白色の胎に光沢のある透明な釉がかかる。	良好	施釉、一部無釉	施釉	
		8	陶器 高台付埴 底部		4		精選されている。	淡茶褐色の胎に緑灰褐色の光沢の釉 がかかる。	良好	施釉、一部無釉	二次施釉、カキ目	
		9	白磁 埴 口縁部細片				精選されている。	白色の胎に光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		10	陶器 埴 口縁部細片				精選されている。	黄茶褐色の胎に鉛釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
		11	瓦				小石が混じるが 精選されている。	黒灰色	普通			
		12	陶器 無頸甕	21			砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
		13	陶器 鉢		14		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラケ ズリ	ヨコナデ	
	2地点 SK01	1	瓦器 埴	14			細砂粒を含む。	淡灰白色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
		2	瓦器 高台付埴		6		細砂粒を含む。	暗灰色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	

表 7 田代遺跡 1 地点・2 地点 出土土器観察表

4 四丁堀遺跡（2次調査）

（1）調査の概要

四丁堀遺跡は八女市室岡字四丁堀にある。2次調査1地点は、前年度に調査を実施した1次調査2地点の東側隣接地で、丘陵部の南側端部にあたる。2次調査2地点は、四丁堀遺跡1次調査2地点の西側隣接地でやや下がった台地上にあり、周辺の標高は21m前後で畑や水田として利用されている。

平成14年度には路線内で用地の取得の終了した2ヵ所を中心に発掘調査を実施した。

2次調査1地点

2次調査1地点は台地端部にあり、標高約21m、北側の台地と約7mの比高差がある。

遺構として調査区のほぼ全域から、台地の端部に沿って溝4条が発見された。調査区の東側の溝周辺からは多数のピットが発見されたがまとまるものはない。

2次調査2地点

2次調査2地点は台地端部にあり、標高約21m、1次調査1地点と4mの道路をはさんだ北側にあたる。遺構として調査区のほぼ全域から、溝3条、土壙3基が発見された。

（2）遺構と遺物

2次調査1地点

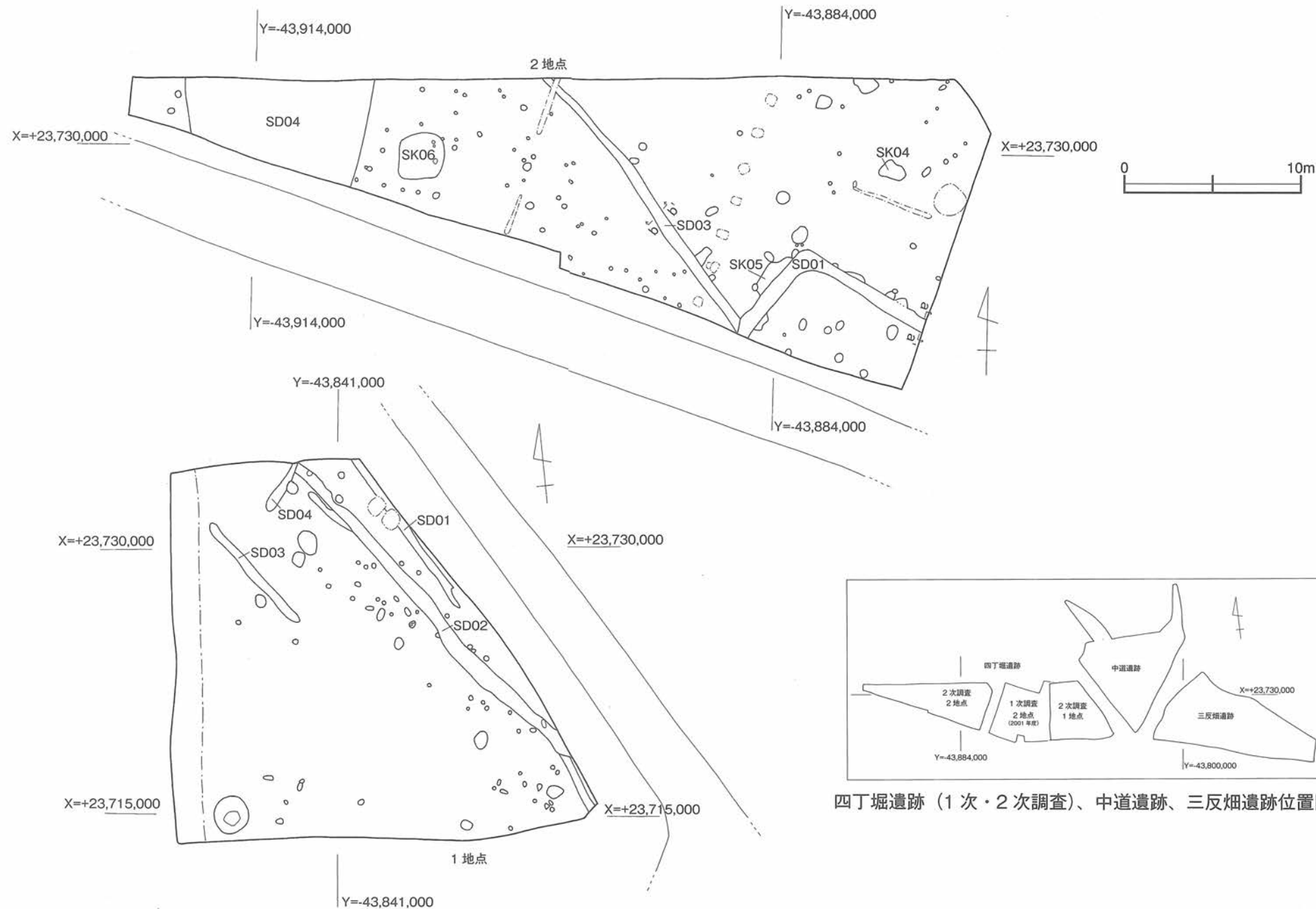
溝（SD）

SD01（図版10）

調査区の東西に延びる溝で10mを検出した。幅は50cm、深さ10～15cmで南東から北西に流れ、断面は緩やかな逆台形を呈している。遺物は出土していないが比較的あたらしいものと思われる。

SD02（第19図、図版10）

SD01と並行する溝で、直角に曲がる部分23mを検出した。幅は50～110cm、深さ



第 17 図 四丁堀遺跡 (2 次調査) 1・2 地点 遺構配置図 [1/300]

15-30cmで北西から南東に流れ、逆台形を呈している。遺物としてわずかに須恵器甕片が出土しているが、比較的あたらしいものと思われる。

SD03 (図版10)

SD02と並行する溝で調査区の北西から南東に延びる溝で7.5mを検出した。幅は40-60cm、深さ10cm前後で南東から北西に流れ途中で切れている。断面は逆台形を呈している。比較的あたらしいものと思われる。遺物出土しなかった。

SD04

大きく削平を受けていたが、3mを検出した。幅は30-60cm、深さ5cm前後で北から南に流れている。比較的あたらしいものと思われる。遺物はない。

2次調査2地点

土壇 (SK)

SK04

不整形の土壇で、130×80cm、浅い。出土遺物なし。

SK05 (第18図)

SD01によって切られている。ほぼ楕円形で、250×60+acm、深さ50cmですり鉢状の底となる。出土遺物なし。

SK06 (第18図)

ややいびつな円形で、275×260cm、深さ5cm前後で出土遺物なし。

溝 (SD)

SD01 (第18・20図、図版11)

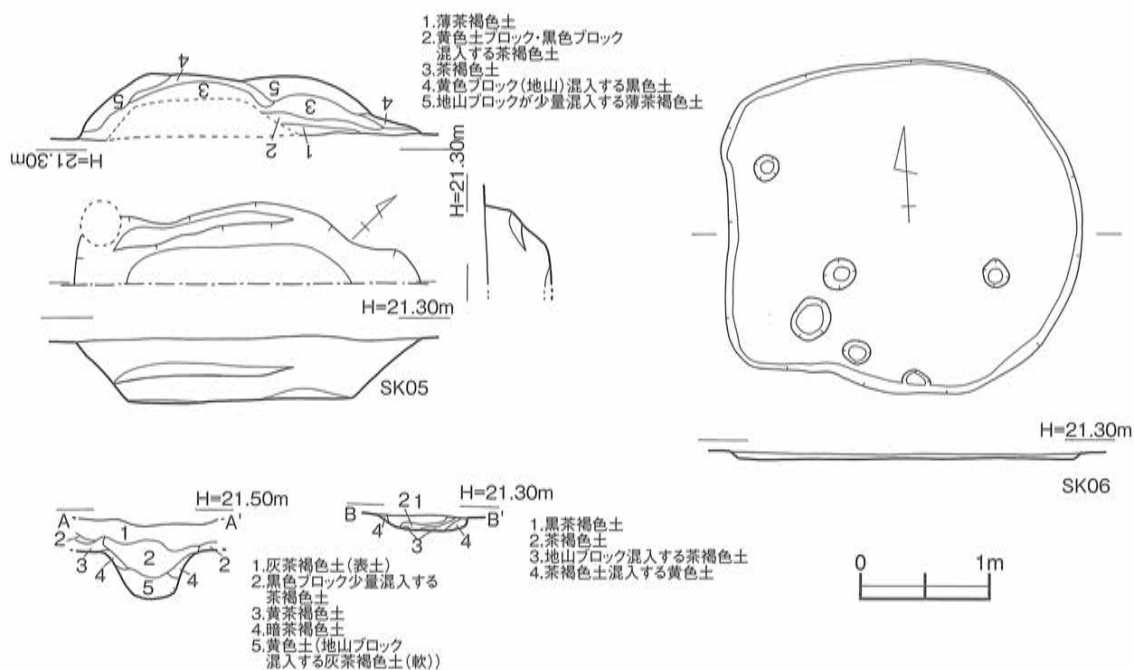
調査区の東西に延びる溝で13mを検出した。幅は100cm前後、深さ38-56cmで東から西に流れ、断面は逆台形を呈している。1次2地点から続く溝で途中直角に折れている、灌漑のための施設とも考えられる。遺物として土師器高台付埴片、陶器甕片が出土している。

SD03 (第18図)

調査区の北西から南東に延びる溝でSD01によって切られている。18mを検出した。幅は50-65cm、深さ10-15cm前後で南東から北西に流れている。断面は逆台形を呈している。遺物として土師器坏、皿、瓦器埴片が出土している。唯一中世にさかのぼる遺構である。

SD04 (第20図)

調査区の北から南に延びる大溝で、12mを検出した。幅は9.5-10.5m、深さ1.3m前後で北から南に流れる。遺物は近世の染付け磁器、陶器播鉢片、瓦片が出土しており、比較的あたらしいものと思われる。



第18図 四丁堀遺跡(2次調査)2地点 土壌(SK05・06)溝(SD01・03)実測図[1/60]

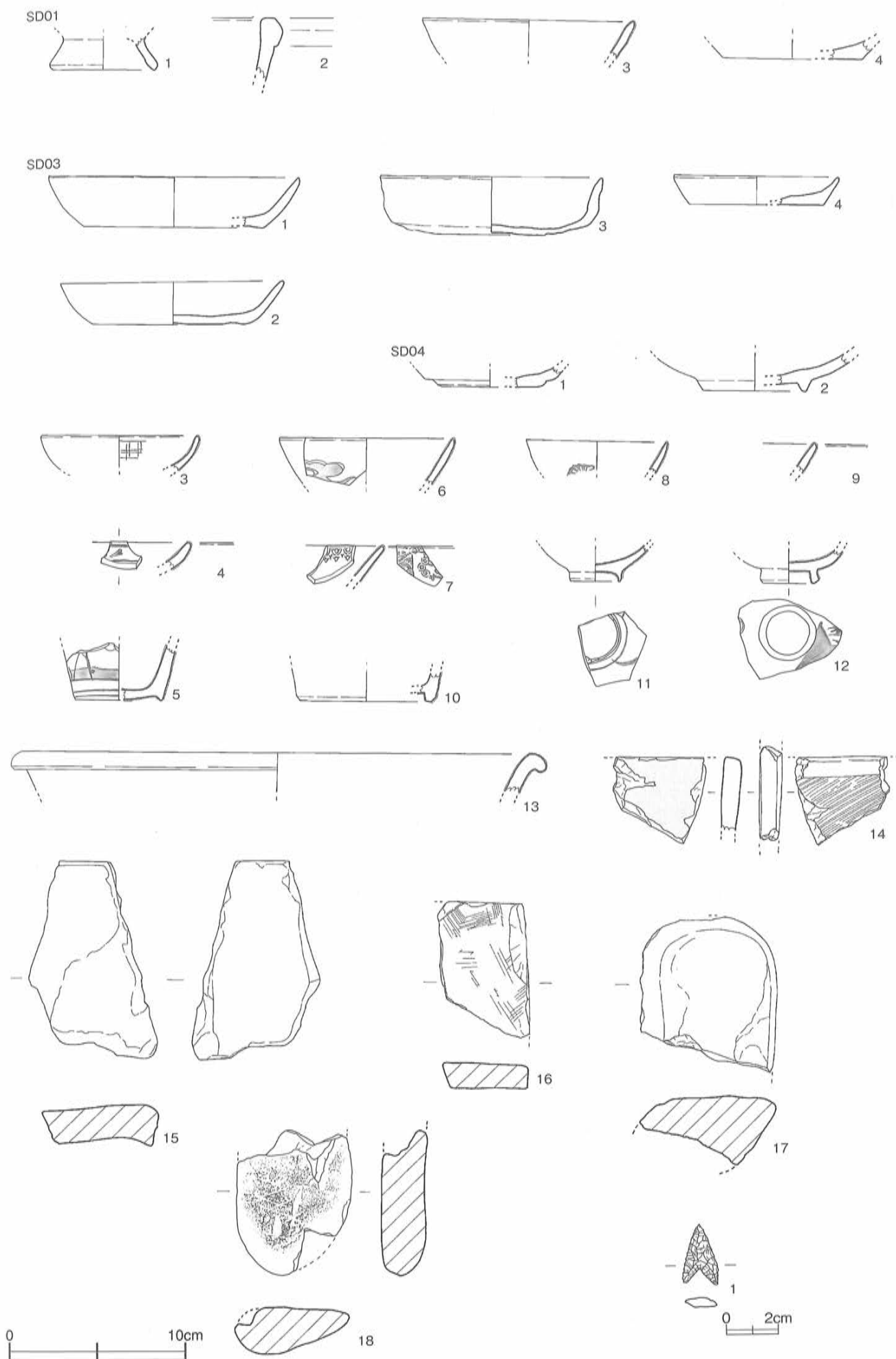
(3) まとめ

今年度の調査は平成13年度調査を実施した1地点、2地点の隣接地にあたる。

発見された遺構は土壌3基と溝7条である。その中で、13年度調査の1次調査2地点から延びたSD01のみ、直角に折れる部分が今回の調査で確認されている。わずかにSD03から土師器
 坏、皿、瓦器破片が出土しており、西山ノ上遺跡で発見された中世の居宅とほぼ同時期で、中世に
 溯る遺構である。しかし、それ以外の土壌、溝は近世の遺物を出土しており近世以降と思われる。



第19図 四丁堀遺跡(2次調査)1地点 ピット・溝(SD02)出土土器実測図[1/3]



第20図 四丁堀遺跡（2次調査）2地点
溝（SD01・03・04）出土土器・石製品実測図 [1/3]

第21図
四丁堀遺跡（2次調査）2地点
表採出土石製品実測図 [1/2]

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第19図	ビット	1	天目茶碗		5		精選されている。	暗灰色の胎に茶褐色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	SD02	2	須恵器 甕					淡灰色		格子タタキ	青海波状文	
第20図	SD02	1	土師器		5.8			暗黄褐色		ナデ	ナデ	
◇	◇	2					小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	3	青磁 碗	12			精選されている。	黄褐色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	◇	4	土師器 坏		8		小石が混じる。砂粒を含む。	茶褐色	不良	不明	不明	
◇	SD03	1	土師器 坏	14.2	10		砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	貫入
◇	◇	2	土師器 坏	12.7	8.7	2.4	砂粒を含む。	淡黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	◇	3	土師器 坏	13.6	11	3.2	砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	◇	4	土師器 皿	9.4	7.6		砂粒を含む。	暗褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	SD04	1	土師器 坏		6		赤粒子が混じる砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
◇	◇	2	土師器 碗		6		砂粒を含む。	淡黄褐色	不良	不明	不明	
◇	◇	3	白磁 碗	8.8			精選されている。	白色の胎に白灰色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	内面呉須で描く
◇	◇	4	染付 皿				精選されている。	乳白色の胎に淡青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	◇	5	染付 小鉢		5		精選されている。	淡灰色の胎に透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	外面、呉須で文様。内外とも貫入
◇	◇	6	染付 碗	10			精選されている。	乳白色の胎に淡青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	◇	7	染付 碗				精選されている。	乳白色の胎に透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	コバルトの文様有り
◇	◇	8	白磁 碗	8			精選されている。	白色の胎に淡青白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	呉須で描く
◇	◇	9	碗				精選されている。	乳白色の胎に淡青白色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	◇	10	鉢		8		精選されている。†	乳白色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	無釉	
◇	◇	11	染付 碗		2.8		精選されている。	灰色の胎に淡青白色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	◇	12	染付 碗		3.4		精選されている。	淡灰色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	良好	施釉	施釉	外面にコバルトの文様有り
◇	◇	13	陶器 鉢	29.2			細砂粒を含むが精選されている。	暗灰黒茶褐色の胎に淡緑白色の釉が、やや厚めにかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	◇	14					1～2mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	丹塗／暗黄褐色	普通	丹塗	ハケ目、ヨコナデ	
◇	◇	15	瓦				赤粒子が混じる砂粒を含む。	黒黄茶褐色／黄茶灰褐色	普通			

表 8 四丁堀遺跡 2 次 1 地点 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	備 考
第20図	SD04	16	砥石			砂岩	
◇	◇	17	磨石			安山岩	
◇	◇	18	磨石			安山岩	
第21図	表採	1	石鏃	2.3	1.2	黒曜石	

表 9 四丁堀遺跡 2 次 2 地点 出土石製品観察表

5 中道遺跡

(1) 調査の概要

中道遺跡は、洪積台地の南端と台地の斜面にあたり、最も標高の高い個所で約27m、低い部分で21.5m、西側は4mの道路を隔てて四丁堀2次1地点と接している。高い部分は斜面に中道遺跡の北側に造られていた灌漑池の掘削土を2.5m以上斜面に盛り土している。このため、調査区の最も高い部分と低い部分は3.6mの差が見られる。また、調査前には建物があり、大きく削平を受けていた。発掘調査の結果、溝3条、土壙3基、不明遺構1基と北側はピットが多く検出されたが、建物としてまとまるものはない。

(2) 遺構と遺物

土壙 (SK)

3基の土壙が発見されている。その多くは調査区の南端の最も低い部分で検出された。1基を除き遺構は道路下まで延びており、一部の調査にとどまった。

SK01 (第24図)

一部だけの調査であるが長方形と思われ、 $400 \times 50 + a$ cm、深さ90 cm。遺物として円筒埴輪片、土師器甕片、染付磁器片、陶器片が出土している。

SK02

隅丸方形と思われ、 105×90 cm、深さ20 cm。遺物は出土していない。

SK03

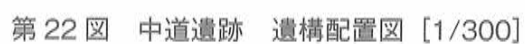
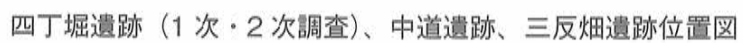
長方形と思われるが一部調査で全体は不明である。深さも30 cm前後で出土遺物はない。

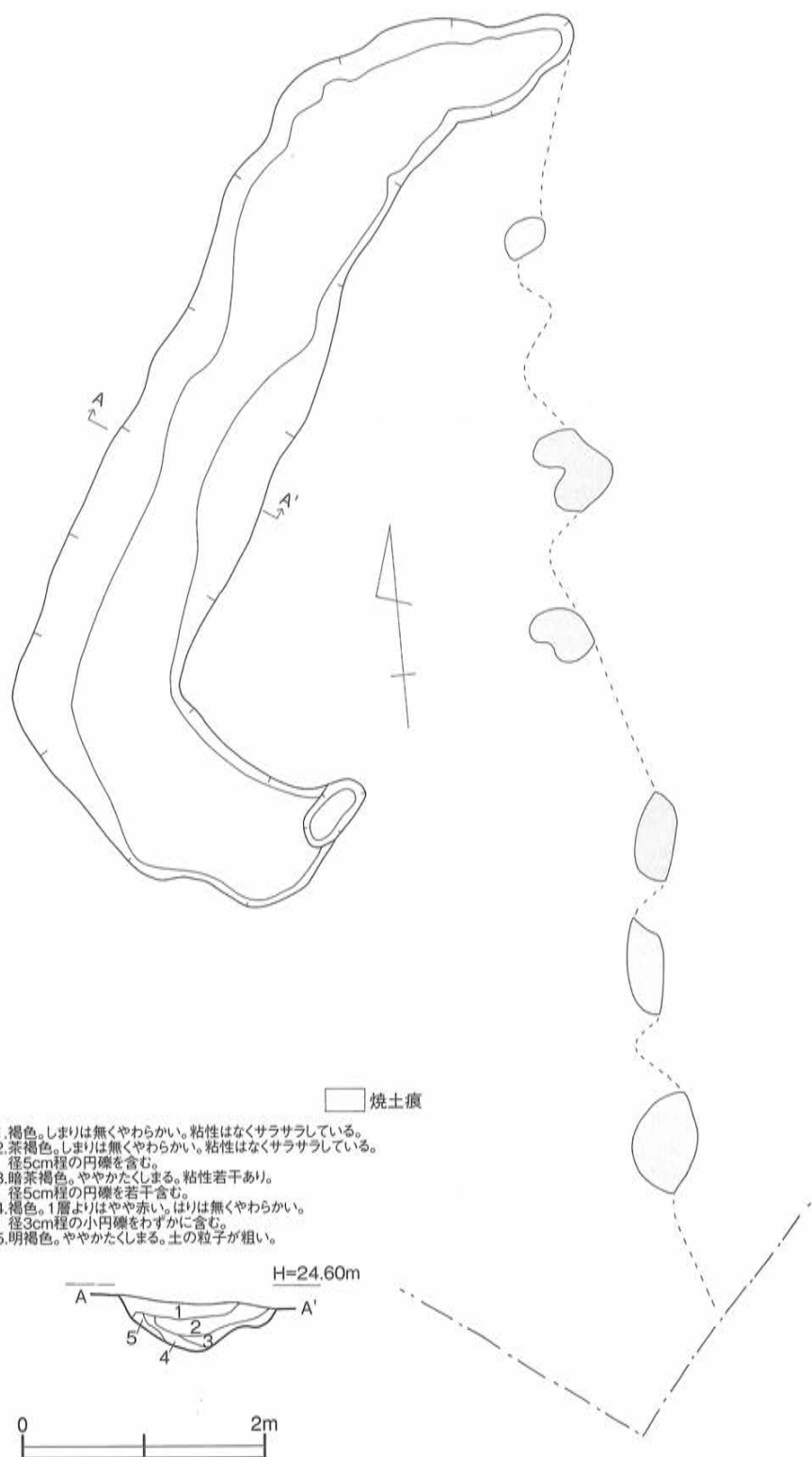
溝 (SD)

調査区内より3条の溝が発見された。ほぼ東西に掘削された溝で、SD01、02、03はいずれも併行している。

SD01 (第24図)

ほぼ東西に延びる溝で14mを検出した。幅は110-140 cm前後、二段に掘削されている。深さ25-30 cm前後で東から西に流れ、西側溝底には直径10 cm前後の小ピットが固まっている。断面は逆台形を呈している。遺物として土師器坏、近世の染付磁器碗、陶器碗、陶器片が出土している。





第 23 図 中道遺跡 不明遺構 (SX01) 実測図 [1/60]

SD02

SD01と併行する溝でSD01、03によって大きく両側を切られているが、10mを検出した。幅は50-60cm、深さ20-25cmで東から西に流れ、断面は逆台形を呈している。遺物は出土していない。

SD03

SD01とSD02のほぼ中間で東西に延びる溝で3.5mを検出した。SD02を切ってつくられている。幅は30-50cm前後、深さ15-20cm前後の小溝で東から西に流れる。遺物は出土していない。

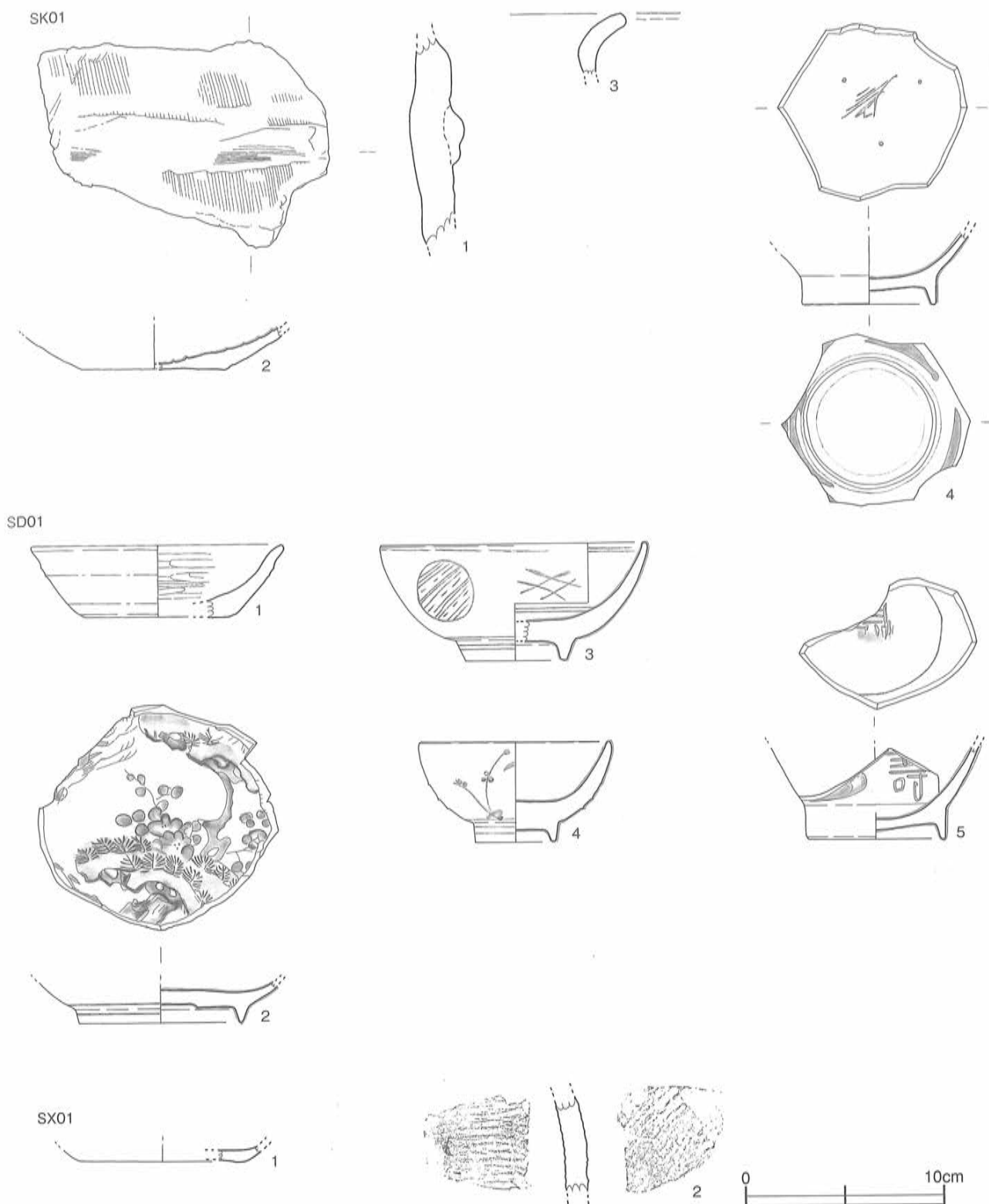
不明遺構 (SX)

SX01 (第23・24図、図版13)

調査区の北側の一段高い部分より1基発見された。溝を含めて南北約8m、溝幅ほぼ120cm前後で方形に巡る。東側三分の二は削平されており、溝は最も深いところで30cm程残っている。方形の溝に囲まれた部分には広範囲に焼土が拡がっており、焼土は長時間高温を受け変化したものと思われる。土層を観察すると最上層に褐色土が堆積し茶褐色土と続き、周辺から流れ込んだ土によって自然に堆積した状態である。出土遺物は須恵器甕片と土師器坏片が出土している。

(3) まとめ

中道遺跡は斜面部分に住宅があったため等から、削平や盛土で大きく改変されていた。発見された遺構として溝3条、土塋3基と北側はピットが多く検出されたがいずれも近世以降のものである。わずかに、SK01から円筒埴輪片が出土しているが、周辺にはまったく古墳などが存在した形跡もなく、中道遺跡から南方約300ミリの野口遺跡から古墳時代後期の集落が発見されているだけである。また、斜面上部で発見されたSX01は一辺8m程の方形の遺構と考えられ、方形区画内は高熱を受け赤色に変色している。出土遺物から中世の遺構と思われるがその性格は不明である。



第 24 図 中道遺跡 土壙 (SK01)、溝 (SD01)、不明遺構 (SX01) 出土土器実測図 [1/3]

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第24図	SK01	1	円筒埴輪				1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	茶褐色	普通	ヘラ調整	ナデ、ハケ目	
◇	◇	2	陶器 甕		7		1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色の胎に茶色の釉がかかる。	良好	ヘラ削り、ヨコナデ	施釉	内面、わずかに2次施釉残る。
◇	◇	3	土師器 甕				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	白灰色の胎に光沢のある透明釉がかかる。	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	4	染付 磁器		6.6		精選されている。	黄褐色	良好	施釉	施釉	目跡痕3ヶ所有り
◇	SD01	1	土師器 坏	12.6	8	3.6	細砂粒を含む。	白色の胎に若干空色を帯びた透明釉がかかる。	普通	磨き、回転ヘラ削り	ヘラ磨き	
◇	◇	2	染付 磁器片		8.2		精選されている。	黄茶褐色／黒色	良好	施釉	施釉	
◇	◇	3	染付 磁器碗	13.4	5	5.9	精選されている。	暗灰色の胎に灰色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◇	◇	4	染付 磁器碗	9.5	4.1	5	精選されている。	灰白色の胎に淡灰色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	内面、砂目痕わずかに付着。
◇	◇	5	染付 磁器碗		6.8		精選されている。	白灰色の胎に青灰色味を帯びた釉がかかる。	良好	施釉	施釉	内面見込み汚れ付着、 わずかに貫入有り
◇	SX01	1	土師器 坏		8		砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	糸切り	ナデ	
◇	◇	2	須恵器 甕				精選されている。	暗灰茶褐色／淡茶色	良好	格子目タタキ	タタキ	

表 10 中道遺跡 出土土器観察表

6 三反畑遺跡

(1) 調査の概要

三反畑遺跡は、八女市室岡字三反畑に所在する。遺跡は西山ノ上遺跡から続く南西端の斜面にあたり一部西山ノ上遺跡を含んでいる。斜面部分で最も標高の高い個所で約27m、低い部分で21.5mで、途中標高22-23m程の所に大きな段差があり、台地裾では唯一の湧水が見られる。

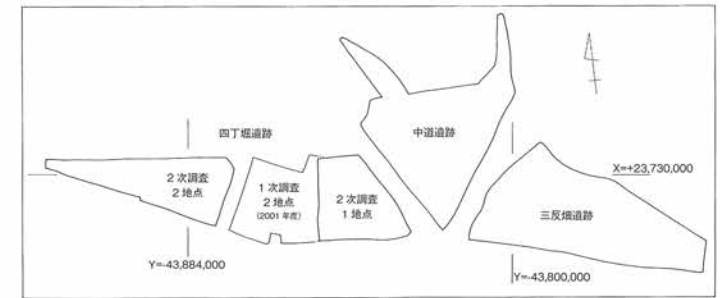
(2) 遺構と遺物

調査の結果、斜面から多くのピット状の遺構が検出されたが、建物等にまとまるものはなく、また、西山ノ上遺跡に隣接しているにもかかわらず遺物もまったく出土しなかった。

(3) まとめ

三反畑遺跡は西山ノ上遺跡からわずかに南西側に下った斜面にあたり、西山ノ上遺跡から続く遺構が検出されるものと予想していた。しかし、斜面上から多数のピット群が検出されたが、住居等にまとまるものはなく、遺物も出土しなかった。

しかし、標高22m付近の谷筋から途切れることがない湧水個所があり、近辺では唯一の湧水である。



四丁堀遺跡（1次・2次調査）、中道遺跡、三反畑遺跡位置図



第25図 三反畑遺跡 遺構配置図 [1/300]

7 西山ノ上遺跡（2次調査）

（1）調査の概要

平成13年度発掘調査を実施した西山ノ上遺跡（1次調査）の東側隣接地で、国道442号線バイパス建設によって茶製造工場等が移転したため、調査（2次調査）を実施した遺跡。遺跡のある台地の最も高い部分は南側の縁辺部で、標高33.4mを測る。この台地は緩やかに南西側に向かって下る。今回の調査区の東端で標高29.5m、西端で標高27.5mと約2mの比高差がみられる。

今回の発掘調査は西側に向かって下る緩斜面部分にあたり、路線内で工場撤去後、用地取得の終了した延長約60m、道路幅と法面の部分を入れた幅約40mの発掘調査を実施した。

発掘調査の結果、調査区の西側、南西側の緩斜面については遺構の残りは良く、北側と東側は工場建設時の造成と建物基礎によって、大きく削平されていたが、かろうじて遺構が残っていた。

（2）遺構と遺物

竪穴住居（SB）

竪穴住居は調査区のほぼ全体から円形の竪穴住居5軒、方形の竪穴住居3軒が発見された。西、南斜面部分の竪穴住居は全体に削平は余り受けていず、壁面や床面が良く残っていたが、北側の竪穴住居は削平や建物基礎による攪乱が著しい。

SB13（第27・35・59・60図、図版15）

建物基礎によってほぼ中央を壊され、削平を大きく受けているが、長径がほぼ南北で長さ6.7m、短径がほぼ東西で長さ6.1mの円形竪穴住居である。全体に床面まで壁は2-8cmと、かろうじて残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は残りが良く、主軸となる柱穴は北東から南西方向にあり、床面中央のピットは不明。また、壁面から約1.5m前後の部分に直径30-40cmのピットが規則的に円状に周っている。遺物として甕が出土している。

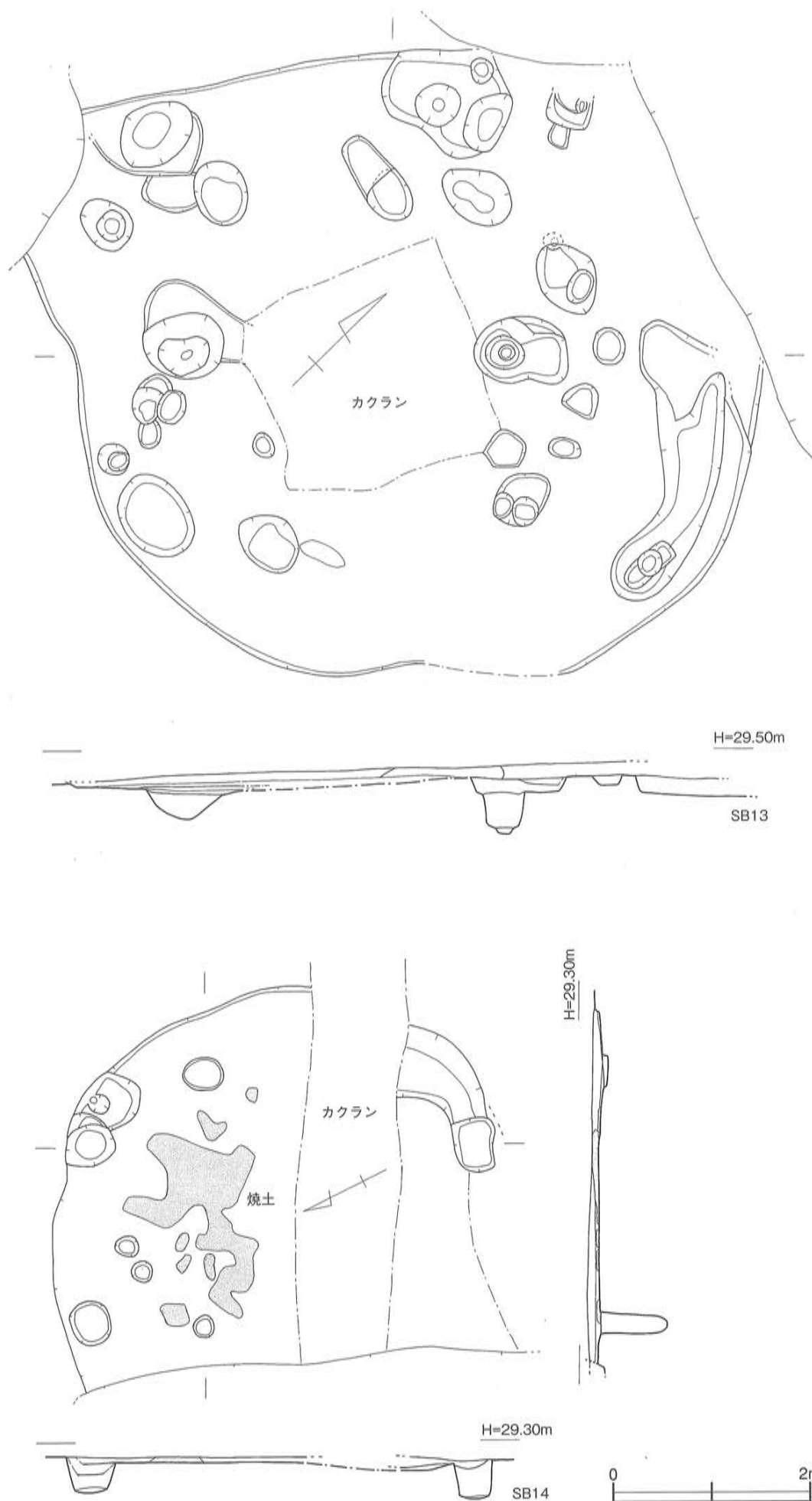
SB14（第27・35・56図、図版15）

建物基礎によってほぼ中央を壊され、削平を大きく受けている。SB13と南西で切りあっているが、前後関係は不明。西側は大きく長方形の竪穴住居SB15に切られており、かろうじて1/4程が残っている。復原すると直径4.8m円形竪穴住居である。床面はほぼ平坦で、柱穴の残りは悪い。主軸となる柱穴、床面中央のピットも不明。また、床面に接して炭化物が幅広く残っている。遺物として甕が出土している。

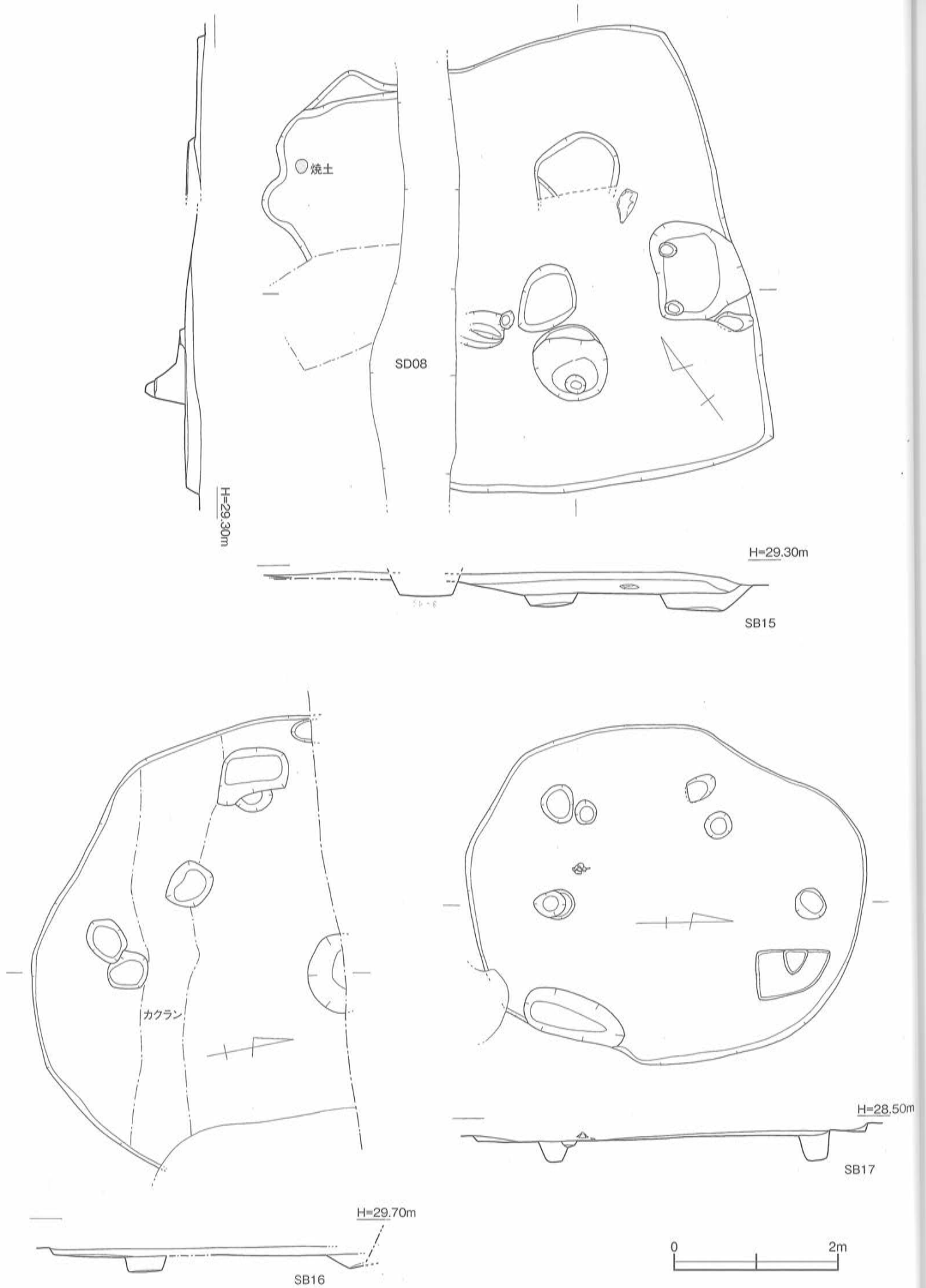
SB15（第28・35・59・60図、図版15）

SB14を切り、SD08によって切られている。調査区のほぼ中央にやや離れて発見された。南北の長さ5.5m、東西の長さ3.4+a m、長方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は10cm残っ

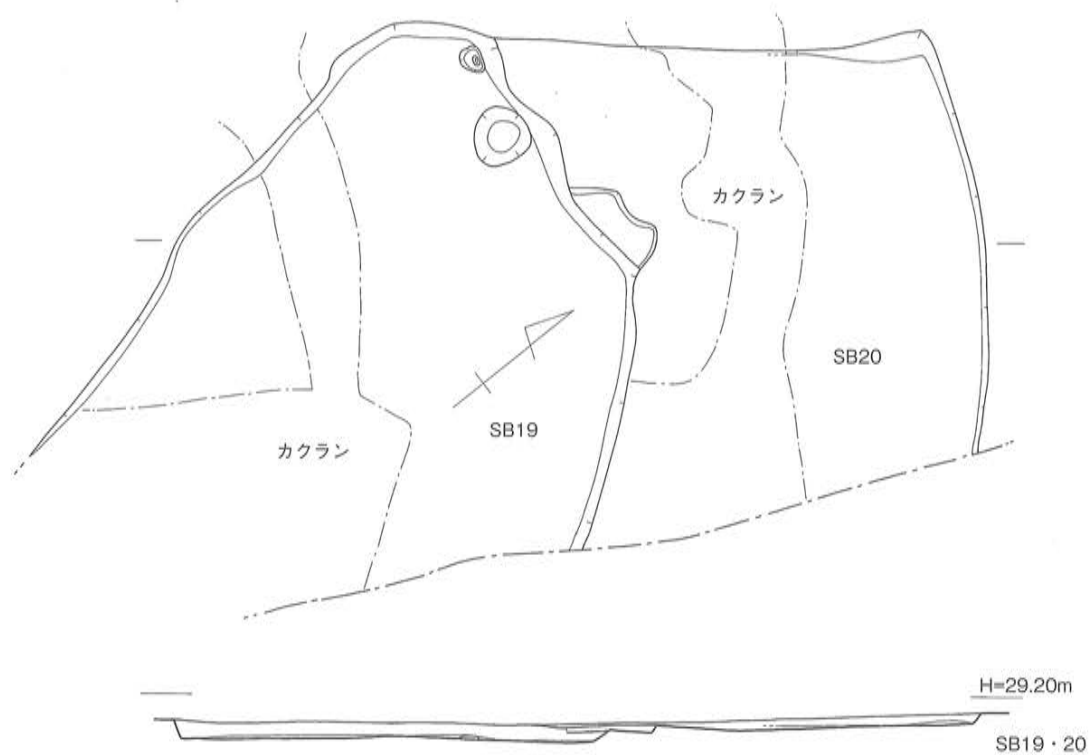
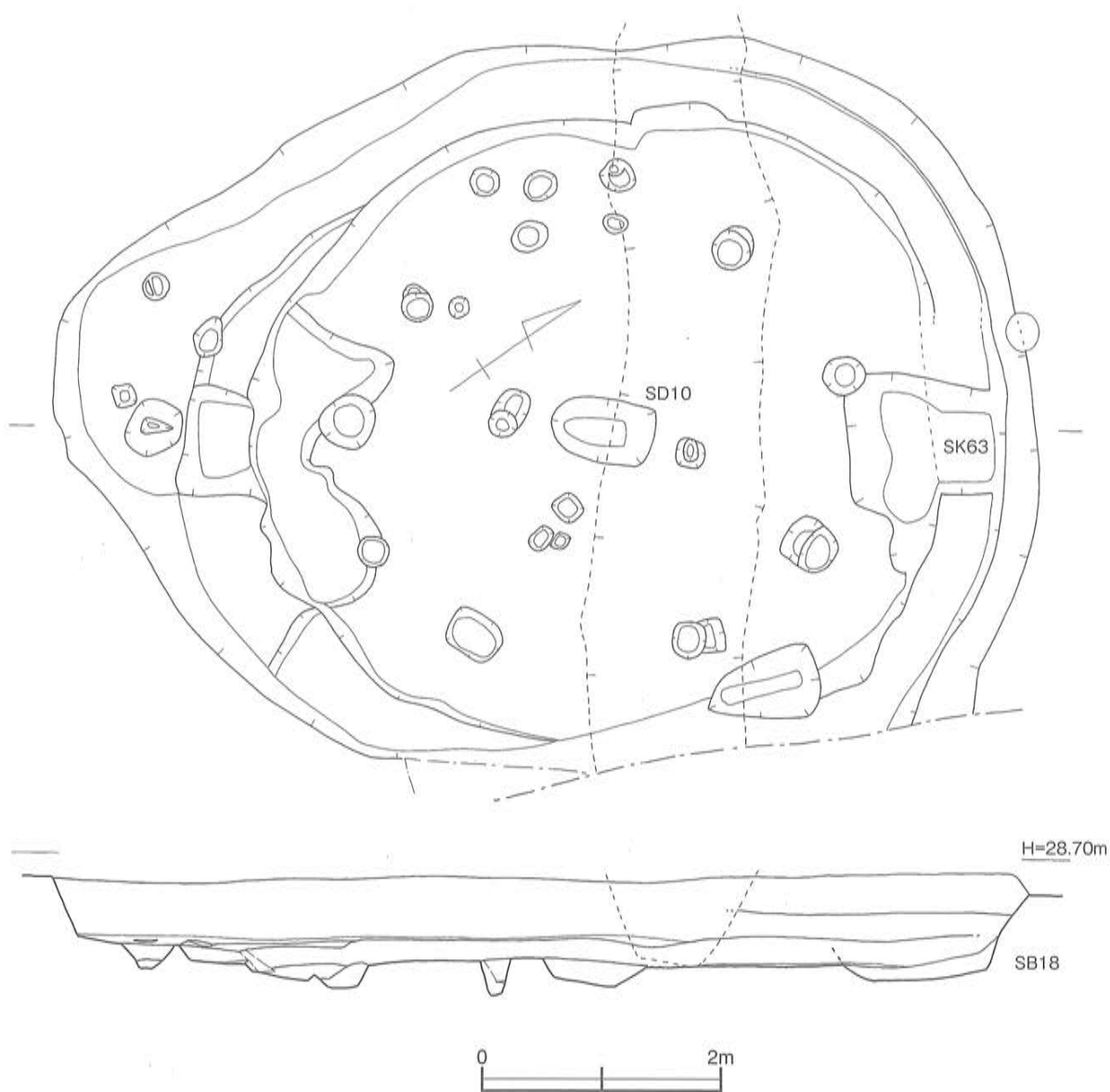
第 26 図 西山ノ上遺跡 (2 次調査) 遺構配置図 [1/300]



第 27 図 西山ノ上遺跡 2 次 竪穴住居 (SB13・14) 実測図 [1/60]



第28図 西山ノ上遺跡2次 竪穴住居 (SB15～17) 実測図 [1/60]



第29図 西山ノ上遺跡2次 竪穴住居 (SB18～20) 実測図 [1/60]

ている。床面は南側が低くなる。床面には東壁に接して一辺1 m程の土壇があり、床面に直径15 cmの小ピットが並んでいる。南壁から1.2 mのところには主柱と思われる直径70 cm、深さ50 cmのピットがあり、南北棟の建物と思われる。出土遺物として、壺、甕が出土している。

SB16 (第28・35・56・57・59図、図版15)

調査区の北端で1/2程検出された。削平を受けており、また、東側をSX08によって切られている。直径がほぼ南北で長さ5.6 m、ややいびつな円形の竪穴住居である。全体に床面まで壁は5-10 cmしか残っていない。床面はほぼ平坦で、柱穴は不明である。床面中央には約1 mの楕円形のピットがある。出土遺物として甕が多く出土している。

SB17 (第28・35図、図版15)

長径がほぼ南北で長さ4.8 m、短径がほぼ東西で長さ4.1 mの楕円形に近い竪穴住居である。全体に床面まで壁は5-15 cmと東側壁が良く残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は残りが良く、主軸となる直径35 cm、深さ30 cmの柱穴は南北壁から70-80 cmにある。また、床面中央からピットが検出できなかった。出土遺物として甕が出土している。

SB18 (第29・36・37・38・59図、図版16)

調査区の南端で発見された。SD10によって切られている。長径がほぼ南北で長さ8.2 m、短径がほぼ東西で長さ6.1 mの楕円形に近い竪穴住居である。全体に床面まで壁は70 cmと非常に良く残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は残りが良く、主軸となる直径35 cm、深さ30 cmの柱穴は南北壁から70-80 cmのところにある。また、床面中央に南北の長さ85 cm、東西の長さ55 cm、深さ15 cmの楕円形のピットが検出され、楕円形ピットの両側に直径25 cm、深さ30 cmのピットがある。また、壁面から約1.5 m前後の部分に直径30-40 cm、深さ30 cm前後のピットが規則的に円状に周っている。出土遺物として壺、甕、鉢、支脚が多量に出土している。

SB19 (第29・38図、図版16)

調査区の東側端に発見された。SB20を切っており残りは良くない。南北の長さ $4.5 + a$ m、東西の長さ $3.7 + a$ m、長方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は1-10 cmしか残っていない。床面はほぼ平坦で、床面にはピットは見られない。出土遺物として壺、埴が出土している。

SB20 (第29図、図版16)

調査区の東側端に発見されたが、中央を建物基礎によって攪乱を受けている。SB19によって切られており残りは良くない。南北の長さ $3.5 + a$ m、東西の長さ $3.8 + a$ m、長方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は1-10 cmしか残っていない。床面は南側が僅かに低くつくられている。床面にはピットは見られない。遺物は出土しなかった。

土壇 (SK)

弥生時代の土壇は調査区の中央から東よりに26基検出された。竪穴住居の周辺に集中することはなく、その多くは単独で分布している。平面形は隅丸長方形・方形、楕円形が大半を占め、わずかに円形がまじる。規模も長さ1.5-2 m前後、幅0.5-1.0 m前後が多く、比較的小形の土壇が多い。ほとんどの土壇から遺物は出土しているが、多量に遺物を出土する土壇は少ない。石製品、土製品とも少ない。土壇の性格については、不明な点が多いが、貯蔵穴や廃棄のための用途が

考えられる。

SK55 (第30図)

長方形で長さ2.25m、幅0.9mの土壇で、深さ15cm。遺物は出土しなかった。

SK56 (第30・39図、図版16)

長方形で長さ2.1m、幅0.55mの土壇で、深さ50cm。遺物として甕、支脚が少量出土している。

SK57 (第30図、図版16)

楕円形で長さ1.15m、幅0.65m小型土壇で、深さ20cm。遺物は出土しなかった。

SK58 (第30図)

楕円形で長さ1.4 + a m、幅0.85mの土壇で、深さ50cm。遺物は出土しなかった。

SK59 (第30・59図、図版17)

方形で長さ1.9m、幅1.85mの土壇で、深さ40cm。遺物として壺、甕、鉢が床面から25cm浮いた状態で、やや多く出土している。

SK60 (第30・41図、図版17)

長方形で長さ0.8m、幅0.55mの小型土壇で、深さ75cm。遺物として甕が出土している。

SK61 (第30・41・42・59図、図版17)

長方形で長さ2.0m、幅1.2mの土壇で、深さ90cm。遺物として壺、甕、甕蓋、鉢が多く出土している。

SK62 (第30図、図版17)

楕円形で長さ1.15m、幅0.55mの土壇で、深さ15cm。遺物は出土しなかった。

SK63 (第30図)

長方形で長さ1.3 + a m、幅0.95mの土壇で、深さ30cm。遺物は出土しなかった。

SK64 (第30図、図版18)

隅丸長方形で長さ1.3m、幅0.75mの土壇で、深さ55 - 60cm。遺物は出土しなかった。

SK65 (第30図)

隅丸長方形で長さ1.0m、幅0.75mの小型の土壇で、深さ5cm。遺物は出土しなかった。

SK66 (第30図、図版18)

楕円形で長さ1.2m、幅0.9mの土壇で、深さ40cm。遺物として甕が出土している。

SK67 (第30図、図版18)

隅丸長方形で長さ2.05m、幅0.65mの土壇で、深さ50cm。床面に直径25cm、深さ25cmのピットがある。遺物は出土しなかった。

SK68 (第30図)

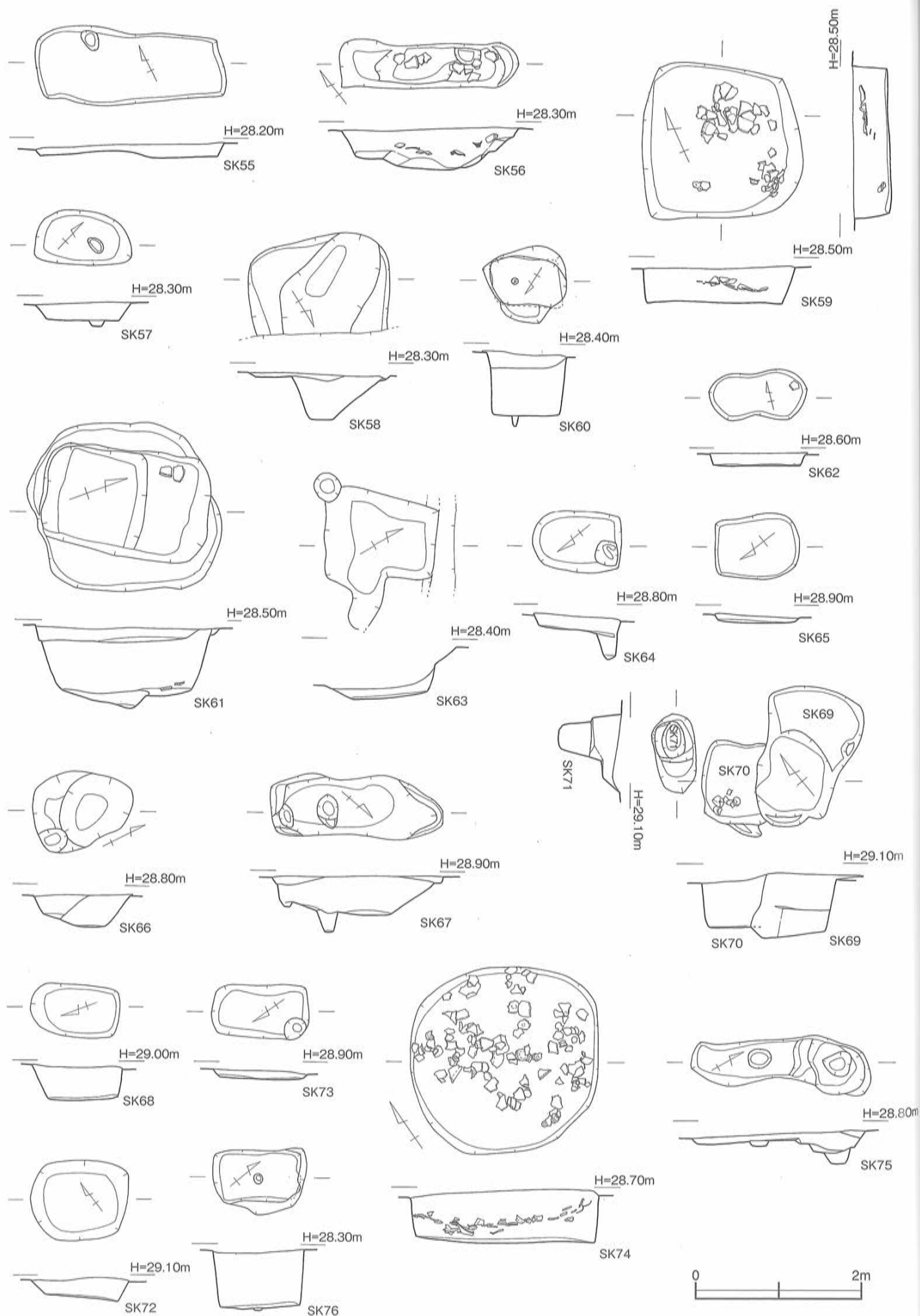
隅丸長方形で長さ1.10m、幅0.60mの小型土壇で、深さ40cm。遺物は出土しなかった。

SK69 (第30図、図版18)

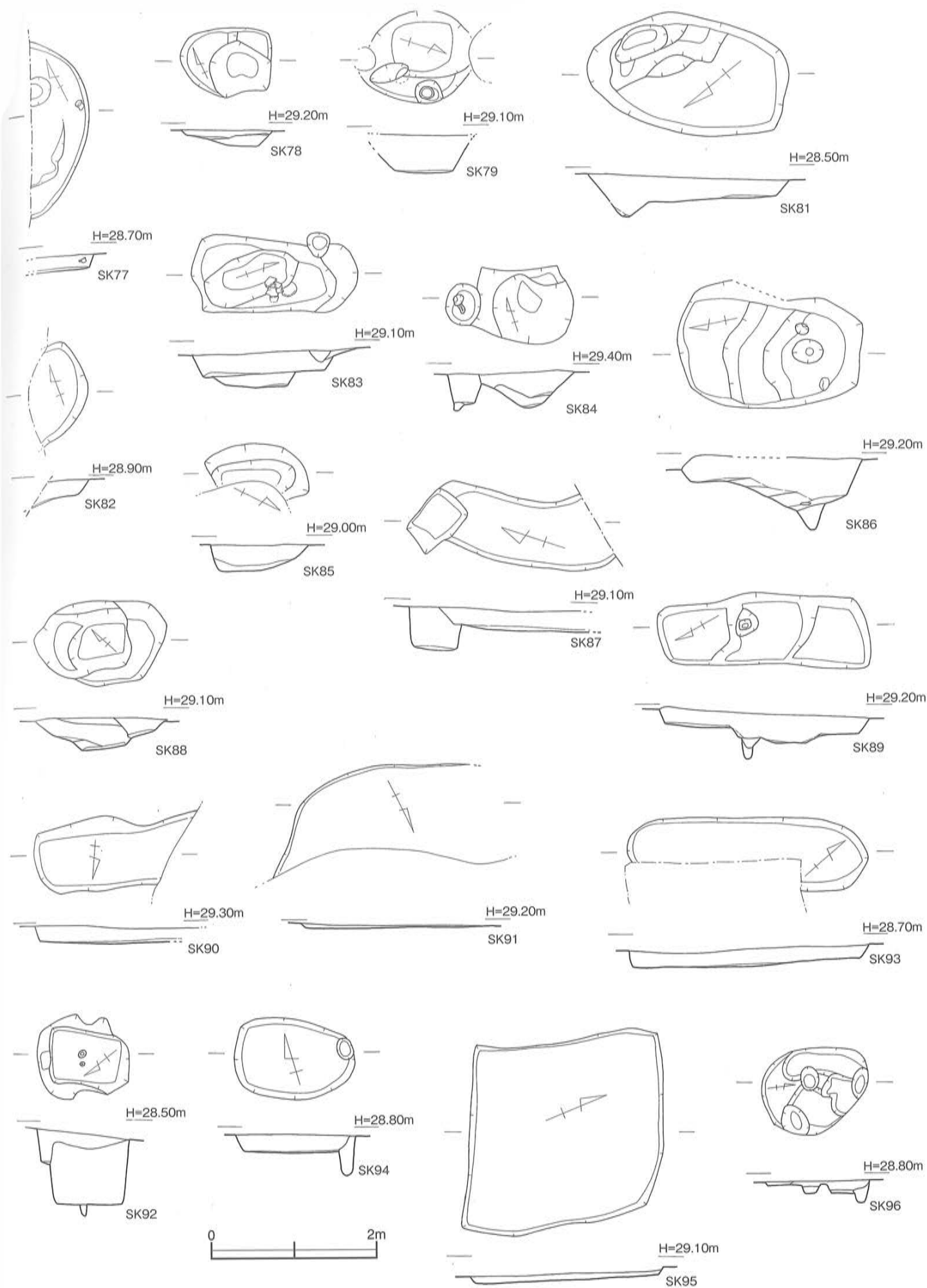
隅丸長方形で長さ1.65m、幅1.1mの土壇で、深さ40cm。遺物は出土しなかった。

SK70 (第30・42・43・59・60図、図版19)

隅丸長方形でSK69と切り合う。長さ1.6m、幅1.00mの土壇で、深さ70cm。遺物と



第30図 西山ノ上遺跡2次 土坑 (SK55~76) 実測図 [1/60]



第 31 図 西山ノ上遺跡 2 次 土壌 (SK77 ~ 79・81 ~ 96) 実測図 [1/60]

して壺、甕、甕蓋、支脚が多量に出土している。

SK71 (第30・43・59図)

楕円形で長さ0.90m、幅0.5mの小型土壙で、深さ70cm。遺物として埴、甕が出土している。

SK72 (第30・43図、図版19)

隅丸長方形で長さ1.20m、幅0.9mの小型土壙で、深さ25cm。遺物として甕が出土している。

SK73 (第30図)

長方形で長さ1.15m、幅0.65mの小型土壙で、深さ10cm。遺物は出土しなかった。

SK74 (第30・44・45・46図、図版19)

円形で直径2.25mの土壙で、深さ55cm。遺物は床面より15cm程浮いた状態で壺、大型壺、甕、甕蓋が多量に出土している。

SK75 (第30図)

長方形で長さ2.1m、幅0.5mの土壙で、深さ10cm。遺物は出土しなかった。

SK76 (第30図)

楕円形でカクランによって、大半は壊されている。長さ $0.7 + a$ m、幅 $2.1 + a$ mの土壙で、深さ20cm。遺物は出土していない。

SK77 (第31・46・59図、図版19)

楕円形で長さ1.1m、幅0.8mの小型土壙で、深さ20cm。遺物として甕が出土している。

SK78 (第31図)

隅丸長方形で長さ1.1m、幅0.8mの小型土壙で、深さ20cm。遺物は出土しなかった。

SK79 (第31・47・59図)

隅丸長方形で長さ1.15m、幅0.8mの土壙で、深さ45cm。遺物として甕がやや多く出土している。

SK80 (第47図)

隅丸長方形と思われ溝状に残っている。長さ1.8m、幅1.5mで、深さはなく、わずかに土色の変化が見られた。遺物は出土していない。

SK81 (第31図、図版20)

楕円形で長さ2.4m、幅1.4mの土壙で、深さ25cm。遺物は出土しなかった。

SK82 (第31図、図版20)

楕円形でSD10によって切られる。長さ1.2m、幅 $0.7 + a$ mの土壙で、深さ30cm。遺物は出土しなかった。

SK83 (第31・47図)

隅丸長方形で長さ2.0m、幅0.9mの土壙で、深さ40cm。遺物として床面から20cm浮いた状態で、壺、甕が出土している。

SK84 (第31・47図、図版20)

隅丸方形で長さ1.0m、幅0.9mの小型土壙で、深さ40cm。遺物として甕が出土している。

SK85 (第31・47図)

隅丸長方形で形長さ1.15m、幅0.7mの小型土壇で、深さ30cm。遺物として甕が出土している。

SK86 (第31・48図)

隅丸長方形で長さ2.2m、幅1.3mの土壇で、深さ65cm。遺物として甕がやや多く出土している。

SK87 (第31図)

長方形で長さ2.2m、幅0.8mの土壇で、深さ25cm。遺物は出土しなかった。

SK88 (第31・48図、図版20)

隅丸長方形で長さ1.6m、幅1.0mの土壇で、深さ40cm。遺物として甕が出土している。

SK89 (第31図、図版21)

長方形で長さ2.55m、幅0.75mの土壇で、深さ20cm。遺物は出土しなかった。

SK90 (第31・48図、図版21)

長方形で長さ1.5+a m、幅0.85mの土壇で、深さ20cm。遺物として甕が出土している。

SK91 (第31図)

隅丸長方形で長さ2.2+a m、幅0.7+a mの土壇で、深さ5cm。遺物は出土しなかった。

SK92 (第31図、図版21)

長方形で長さ0.85m、幅0.6mの小型土壇で、深さ85cm。遺物は出土しなかった。

SK93 (第31・48図)

隅丸長方形で長さ2.9m、幅0.85mの土壇で、深さ20cm。遺物として壺、甕、器台、支脚が出土している。

SK94 (第31図)

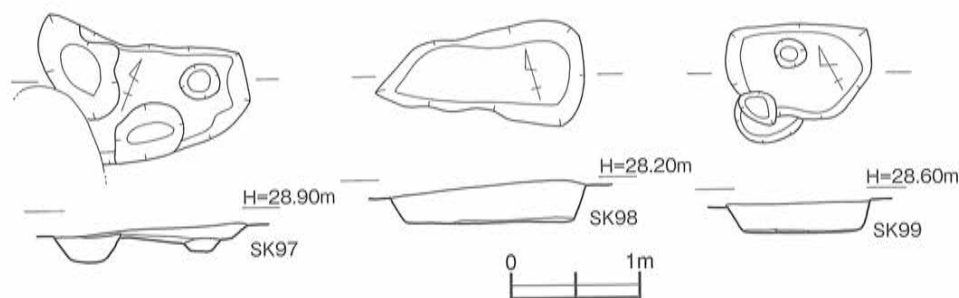
隅丸長方形で長さ1.35m、幅0.95mの小型土壇で、深さ20cm。遺物は出土しなかった。

SK95 (第31・48図、図版21)

ややいびつな方形で長さ2.35m、幅2.25mの土壇で、深さ5cm。遺物として甕が出土している。

SK96 (第31図)

楕円形で長さ1.3m、幅1.0mの小型土壇で、深さ1-2cm。遺物は出土しなかった。



第32図 西山ノ上遺跡2次 土壇 (SK97～99) 実測図 [1/60]

SK97 (第32図)

隅丸長方形で長さ1.5m、幅0.8mの小型土壇で、深さ10cm前後。遺物は出土しなかった。

SK98 (第32図)

隅丸長方形で長さ1.1m、幅0.75mの土壇で、深さ25cm。遺物は出土しなかった。

SK99 (第32図)

隅丸長方形で長さ1.4 + a m、幅0.6mの土壇で、深さ30cm。遺物は出土しなかった。

長方形遺構 (SX)

SX06 (第33・49図、図版22)

調査区の中央で検出された。建物基礎等によって攪乱や削平を受けていず、良く残っていた。ほぼ南北で長さ3.0m、東西で長さ2.1m、わずかに隅が丸いが長方形である。深さは30-35cm前後で、床面には直径25cm、深さ10cm程のピットがある。出土遺物として甕がやや多く出土しているが、竪穴住居とは考え難い。

周溝状遺構 (SX)

弥生時代の周溝状遺構は調査区のほぼ全域中央から5基検出された。その多くは単独で分布している。平面形は円形又は楕円形で大半を占め、規模も直径6-8m前後、溝幅も1.0-1.5m前後が多く、比較的大型の周溝状遺構が多い。ほとんどの周溝状遺構土から遺物は出土しているが、多量に遺物を出土する周溝状遺構は少ない。しかし、SX09から比較的多くの遺物が出土している。周溝状遺構の性格については、不明な点が多く現在でも用途は不明である。

SX07 (第33・49図)

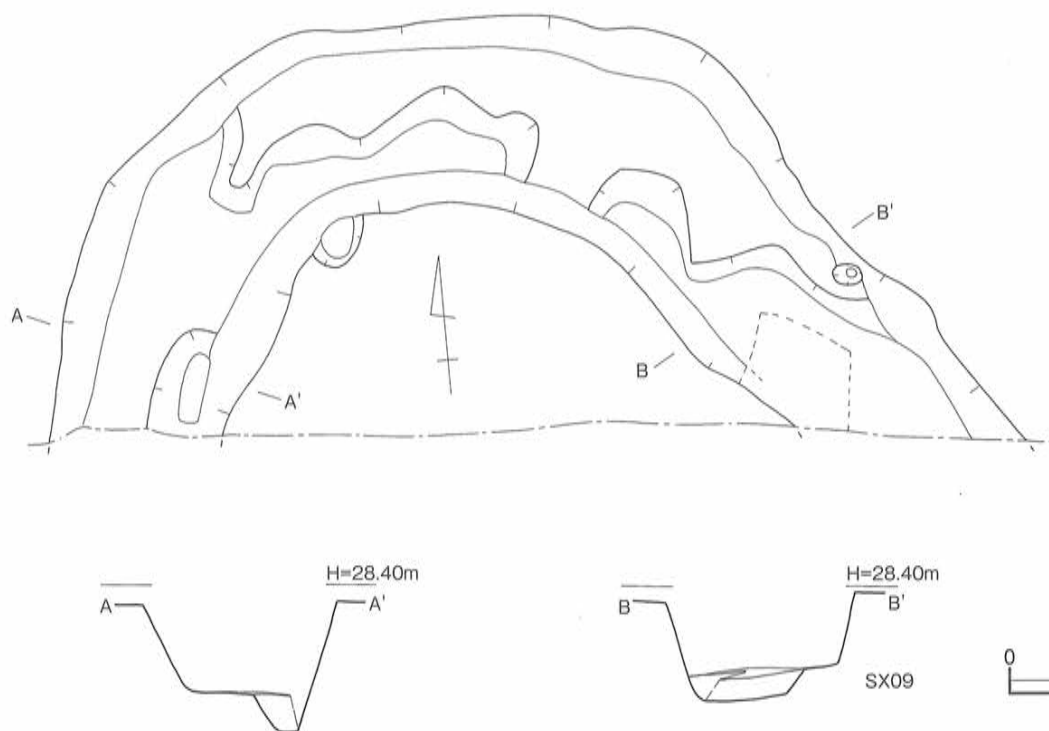
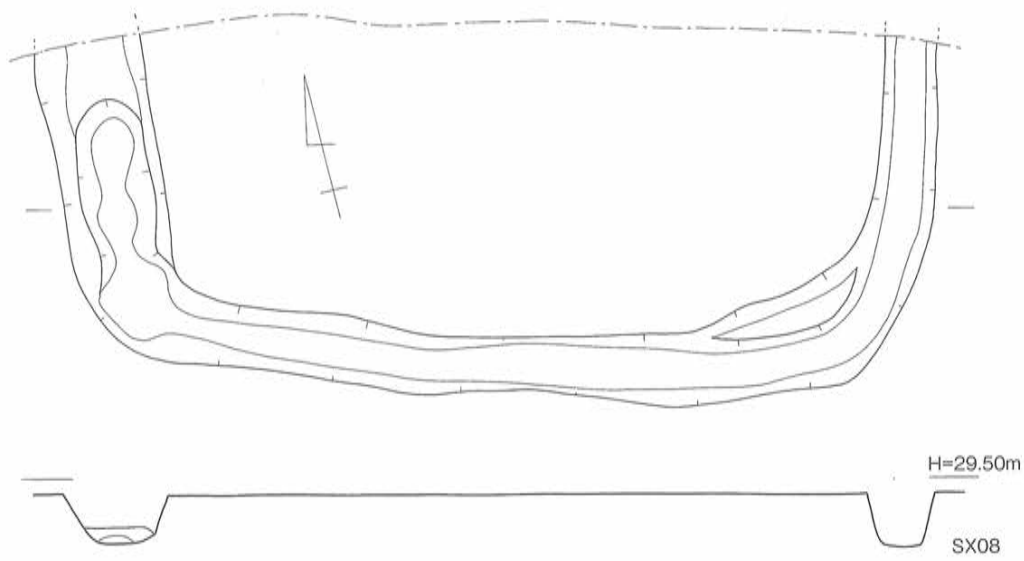
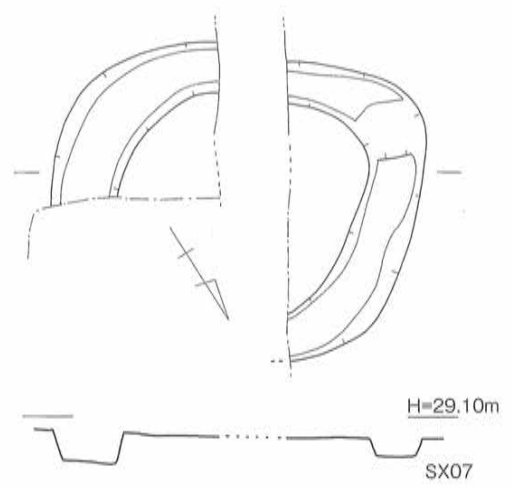
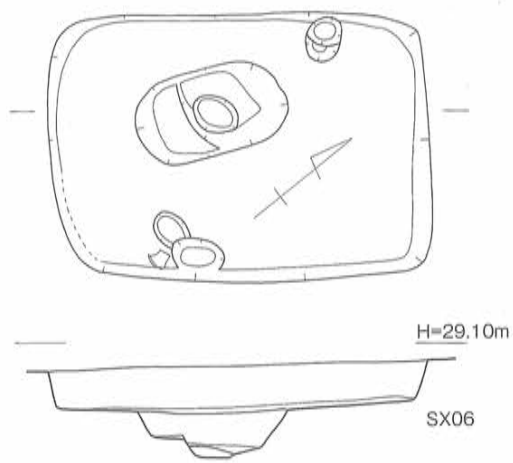
調査区の中央で検出された。SD08や建物基礎によって攪乱や削平を受けていたが、かろうじて全容が伺われる。直径がほぼ東西で長さ2.85m、南北で長さ2.45m、小型で楕円形に近い形である。溝幅は東側55cm、西側40cm、南側45cmで逆台形を呈しており、深さは15-30cm前後である。周溝状遺構内部は攪乱が大きく遺構等は不明である。出土遺物として、わずかに甕が出土しているが、前時期の流れ込みと思われる。

SX08 (第33・49・60図)

調査区の北端で1/2程検出された。削平を受けており、また、南側でSB16、西側でSB13を切っている。直径がほぼ東西で長さ7.0m、隅丸方形に近い形である。溝幅は東側45cm、西側40cm、南側40cmで逆台形を呈しており、深さは40-45cm前後である。周溝状遺構内部にはピットが存在するがいずれも浅い。出土遺物として、わずかに甕の底部が出土しているが、前時期の流れ込みと思われる。

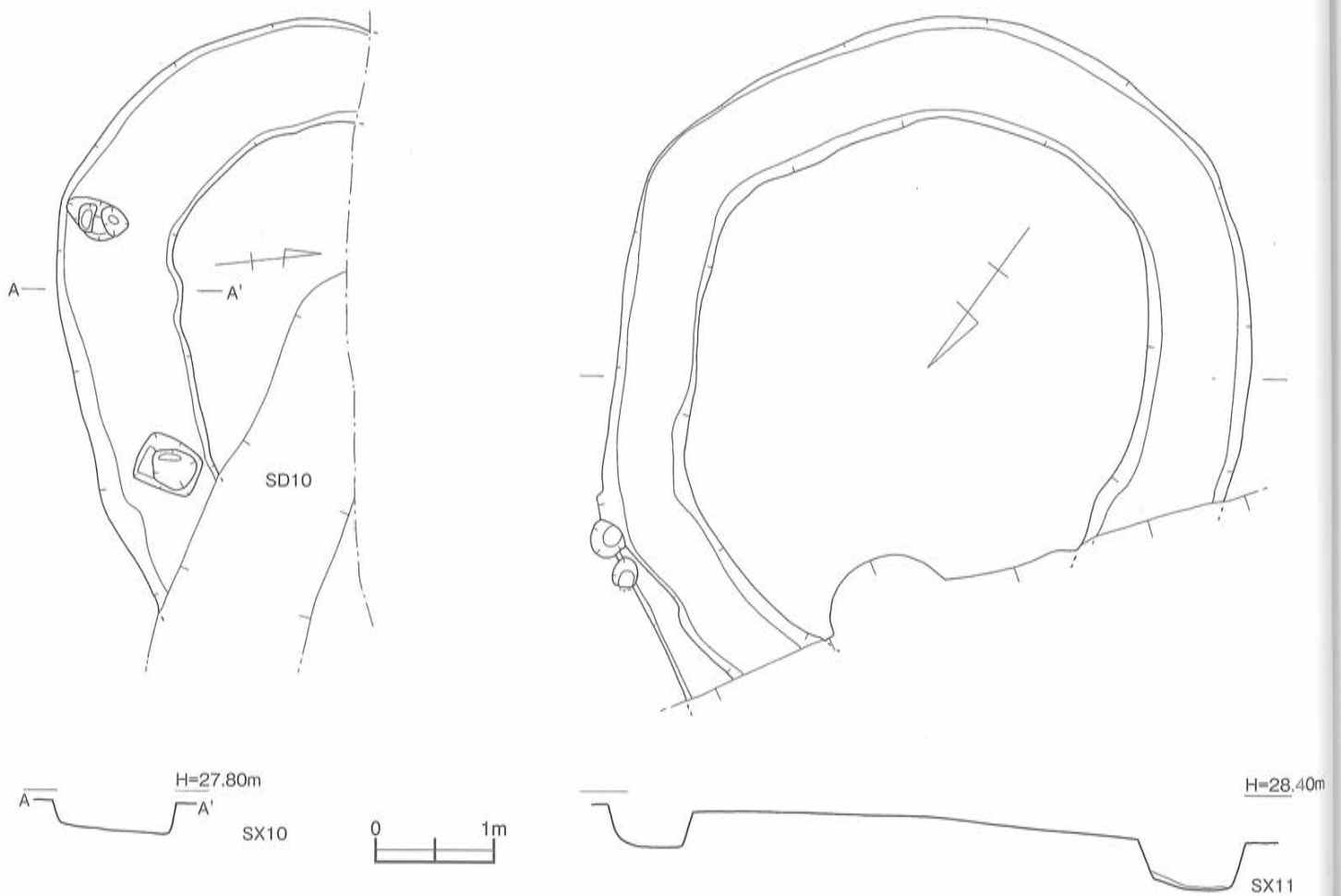
SX09 (第33・49・50・58・59・60図、図版22)

調査区の南端で1/2程検出された。斜面にあったためかまったく削平を受けていなかった。直径がほぼ東西で長さ7.6m、ほぼ円形に近い形と思われる。溝幅は東側1.35m、西側1.35mで溝の断面は逆台形を呈しており、深さは65-85cm前後で、溝底の内側がやや深くなる。周溝状遺構内部には直接周溝状遺構と関係がある遺構はない。土層の状況から斜面上部(北側)か



第 33 図 西山ノ上遺跡 2 次 長形状遺構 (SX06) 周溝状遺構 (SX07 ~ 09) 実測図 [1/60]

ら自然に堆積した様子が伺われる。出土遺物として、壺、脚付壺、甕、鉢、器台、支脚、手捏土器が多量に出土しているが、前時期の流れ込みと思われる遺物も多い。



第34図 西山ノ上遺跡2次 周溝状遺構(SX10・11)実測図[1/60]

SX10 (第34・51図、図版22)

調査区の北端で1/2程検出された。削平を受けており、また、ほぼ中央をSD10によって切られている。直径がほぼ東西で長さ6.5m、楕円形に近い形と思われる。溝幅は東側85cm、西側80cm、南側1mで溝の断面は逆台形を呈しており、深さは25-35cm前後である。周溝状遺構底部には小ピットが存在するがいずれも浅い。出土遺物として、わずかに手捏土器の鉢、壺の底部が出土している。

SX11 (第34・51図、図版22)

調査区の中央で検出されたが、攪乱や削平をあまり受けていなかったが、西側をSD01によって切られている。直径がほぼ東西で長さ5.35m、南北で長さ5.9m、ほぼ円形に近い形と思われる。溝幅は東側75cm、西側0.9m、南側75cmで溝の断面は逆台形を呈しており、深さは35cm前後で、溝底の南側がやや深くなる。周溝状遺構内部にはピットが存在するが、直接関係がある遺構かどうかは不明。土層の状況から自然に堆積した様子が伺われる。出土遺物として壺、器台が出土しているが、前時期の流れ込みと思われる遺物もある。

溝 (SD)

1次調査で検出された溝のほか、今回の調査で新たに3条の溝が発見された。

SD01 (第52図)

1次調査で検出された溝の一部で、10m分の調査を行った。SD01は途中SD10によって切られている。出土遺物として、須恵器甕、瓦器碗のほか、流れ込みの弥生式土器の甕、甑もある。

SD08 (第52図)

調査区の北西から南側に延びる溝で25m検出したが、途中の斜面で消滅する。溝の幅は50cm - 80cmで、深さも10cm前後、溝内から遺物はわずかで、須恵器鉢と流れ込みの弥生式土器片のみ出土している。

SD09 (第58・60図)

調査区の北西側から南東側に延び、途中SD10によって切られているが南側に直角に曲がり、途中の斜面で消滅する。溝の幅は50cm - 70cmで、溝内から遺物はわずかで陶器と流れ込みの弥生式土器片のみ出土している。

SD10 (第53・60図)

調査区の北西側から南東側に延び、途中南西側に18m直角に折れ、再び南東側に直角に折れる溝である。溝の幅は1.3 - 1.8mで、深さも70 - 80cm前後と深い。溝内から遺物は多く出土しており、磁器片、陶器片、瓦片と流れ込みの弥生式土器片が出土している。

(3) まとめ

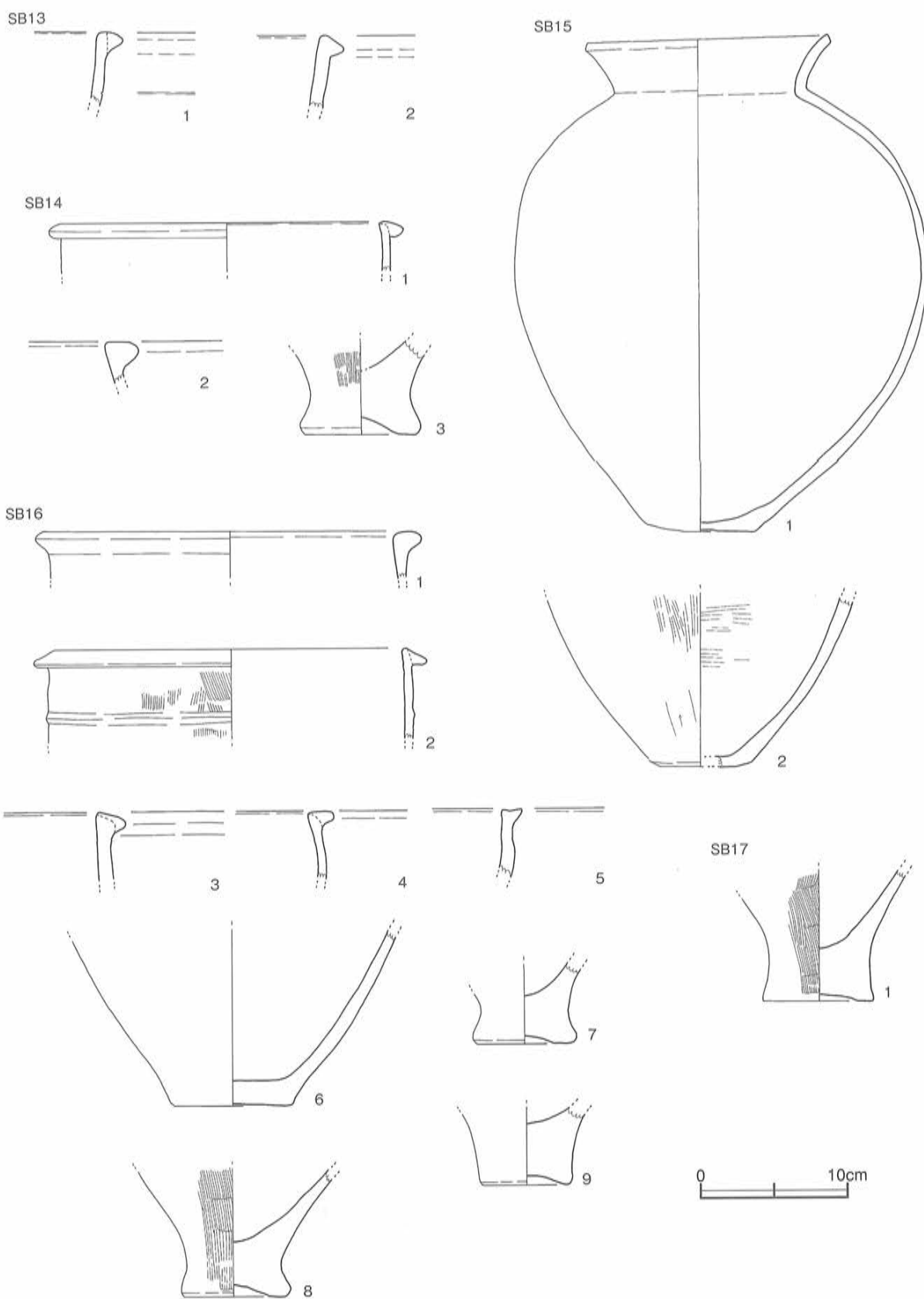
今回調査で発見された遺構は、前期後半から中期初めの竪穴住居5軒、土壙26基、後期前半に属する竪穴住居3軒、周溝状遺構5基、長形状遺構1基、中世溝2条、近世 - 近代の溝2条と多数の柱穴がある。

前期後半から中期初めの遺構の大半は調査区のほぼ全域で検出されている。竪穴住居は5基がすべて円形で、そのうち2軒の住居は単独で存在し、SB14、16は隣接して存在した可能性がある。最も大型の竪穴住居はSB18で、1次調査で発見されたSB03に規模や構造的にも近似しており、同時に存在した可能性が強い。土壙はほぼ単独で分布し、形も長方形、隅丸長方形、楕円形を呈しており比較的小型の土壙が多い。竪穴住居と同時期で土壙同士の切り合いも少ない所から、ほぼ同時に存在していた可能性が強い。

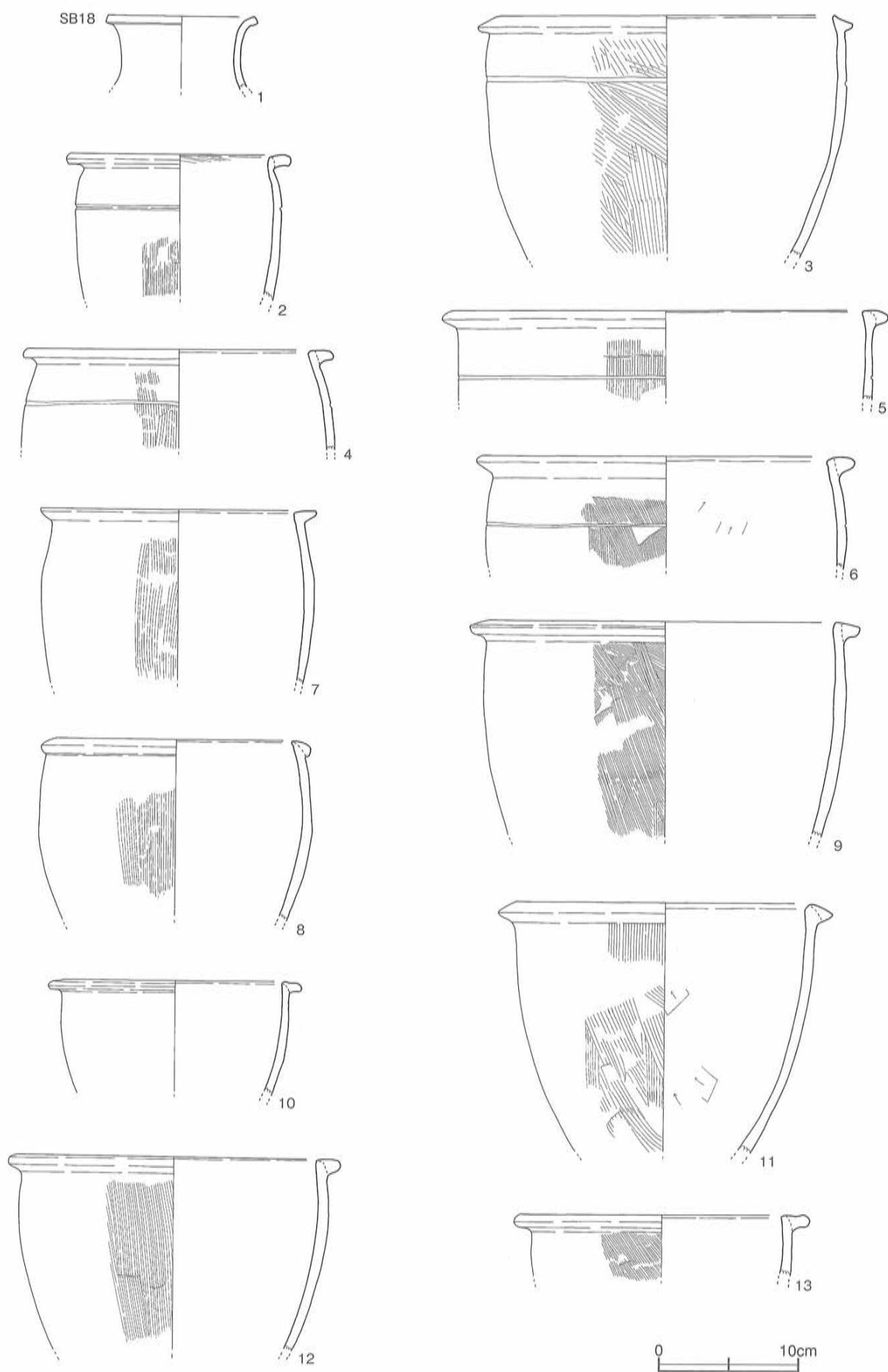
後期前半の遺構として竪穴住居3軒、周溝状遺構5基、長形状遺構1基があり、竪穴住居は調査区の北東に集中している。3基とも攪乱を受けていたため不明であるが5.5×4.5mの規模と思われる。床面の構造で柱穴はSB15だけ確認されたが、南北棟の建物で東壁下に土壙を有している。周溝状遺構は比較的大型の遺構が多く、竪穴住居から離れて単独で分布している。SX09は残りも良く多量の遺物を出土している。後期の遺構として、SX10から西側には西山ノ上遺跡(1・2次調査)から続く環濠と、主に環濠内外で発見された墳墓があるのみで、集落に関する遺構は西側には存在していない。

中世の溝はSD01、08と2条確認された。SD01は1次調査で発見された、中世居宅を取り囲む溝の一部である。いずれも北東方向から南西方向に延びており、ほぼ25m間隔に併行している点から居宅に関連する溝とも考えられる。

近世-近代の溝はSD09、10の2条がいずれも斜面と併行につくられており、SD10は途中直角に二度折れている。溝内より陶器片や瓦片が出土しているが、どのような用途で掘削された溝か不明である。

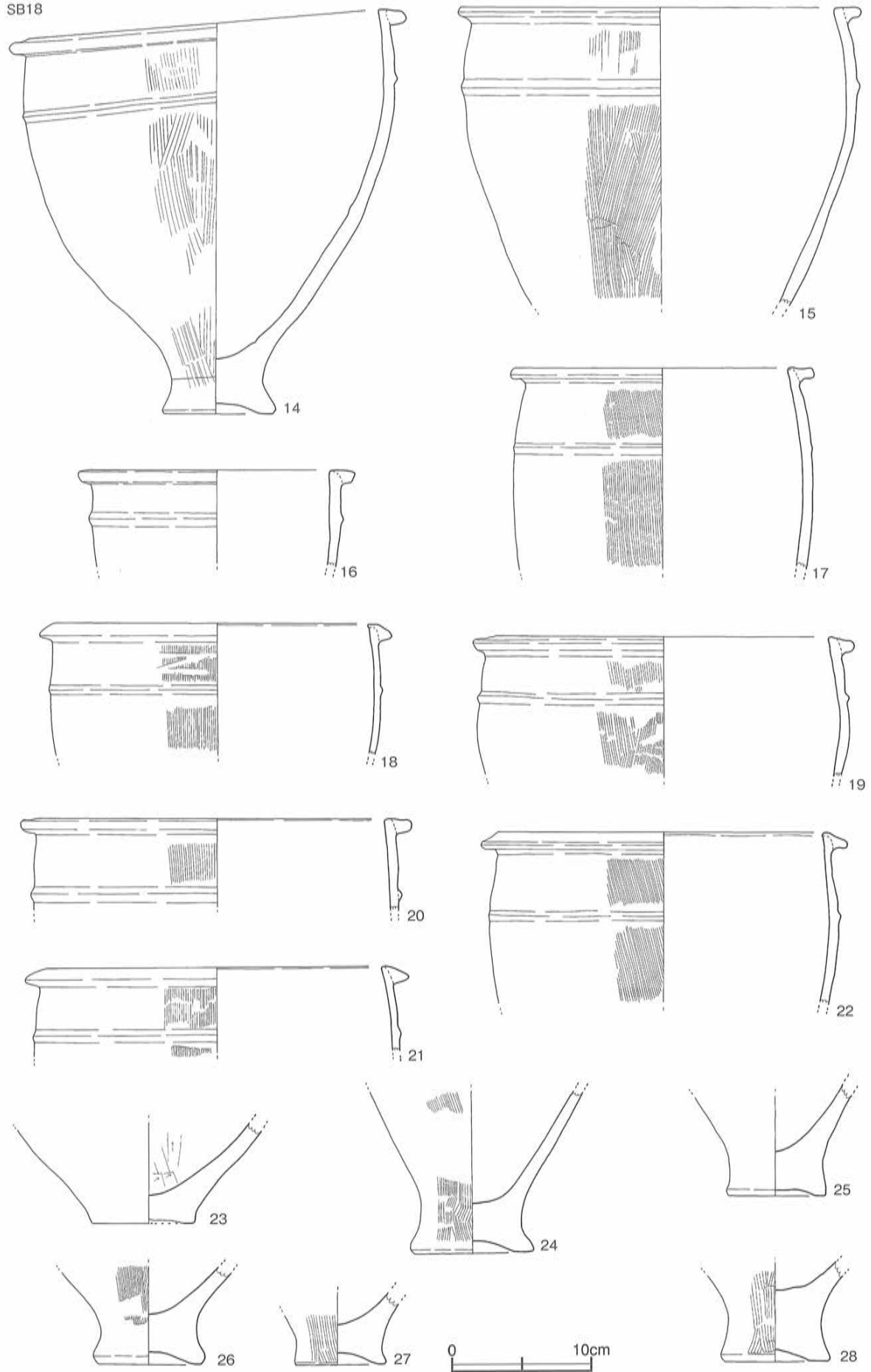


第 35 図 西山ノ上遺跡 2 次 竪穴住居 (SB13 ~ 17) 出土土器実測図 [1/4]



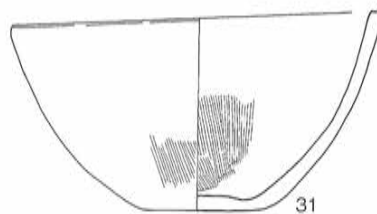
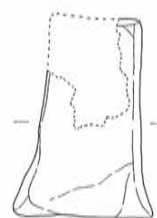
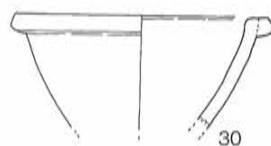
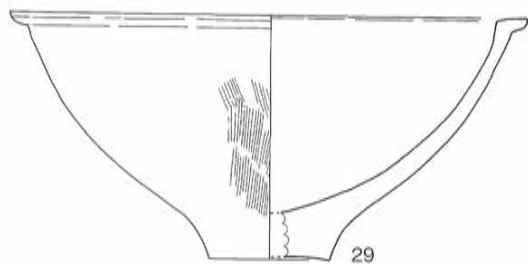
第 36 図 西山ノ上遺跡 2 次 竪穴住居 (SB18 ①) 出土土器実測図 [1/4]

SB18

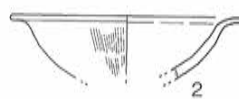


第 37 図 西山ノ上遺跡 2 次 竪穴住居 (SB18 ②) 出土土器実測図 [1/4]

SB18

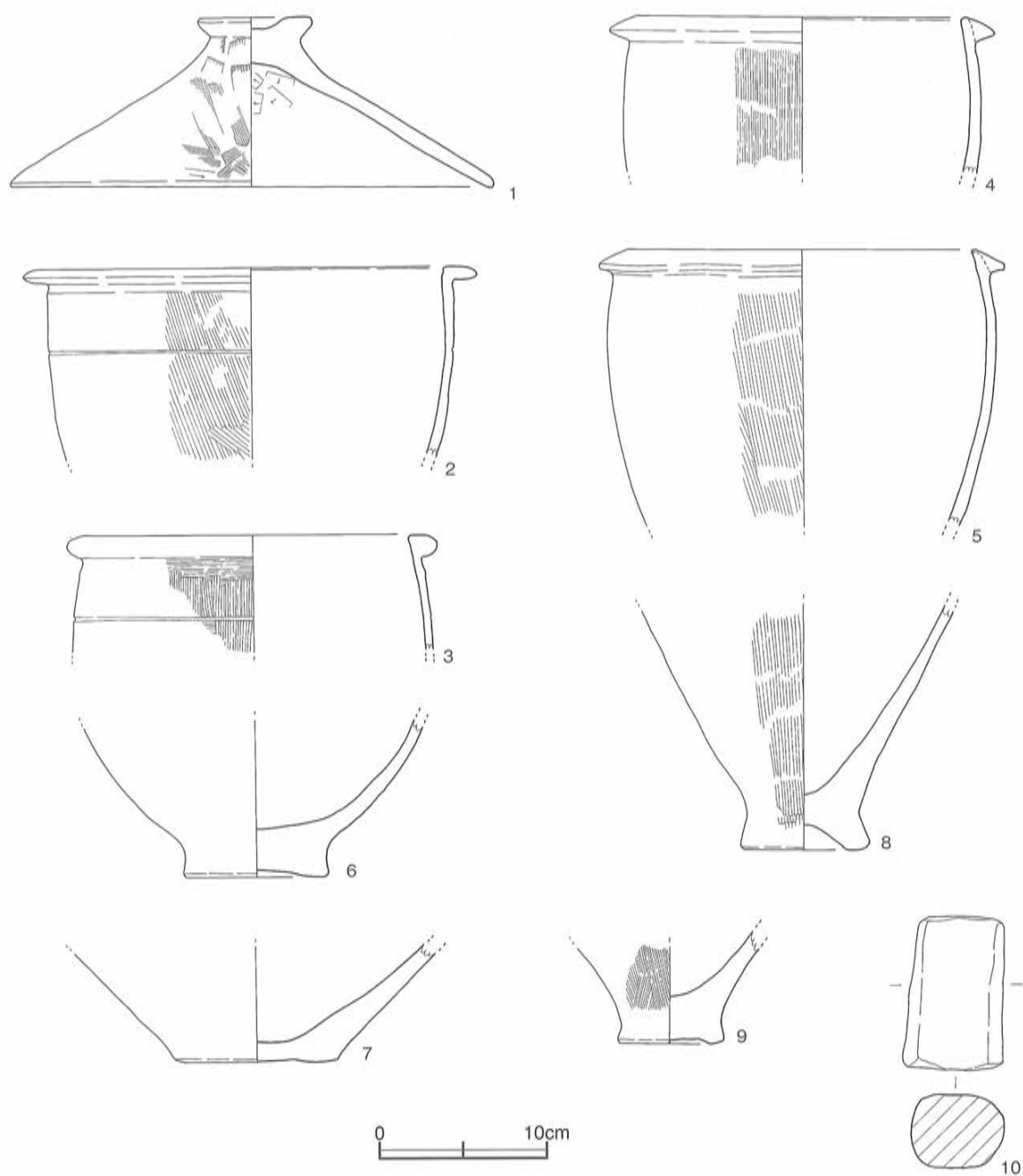


SB19



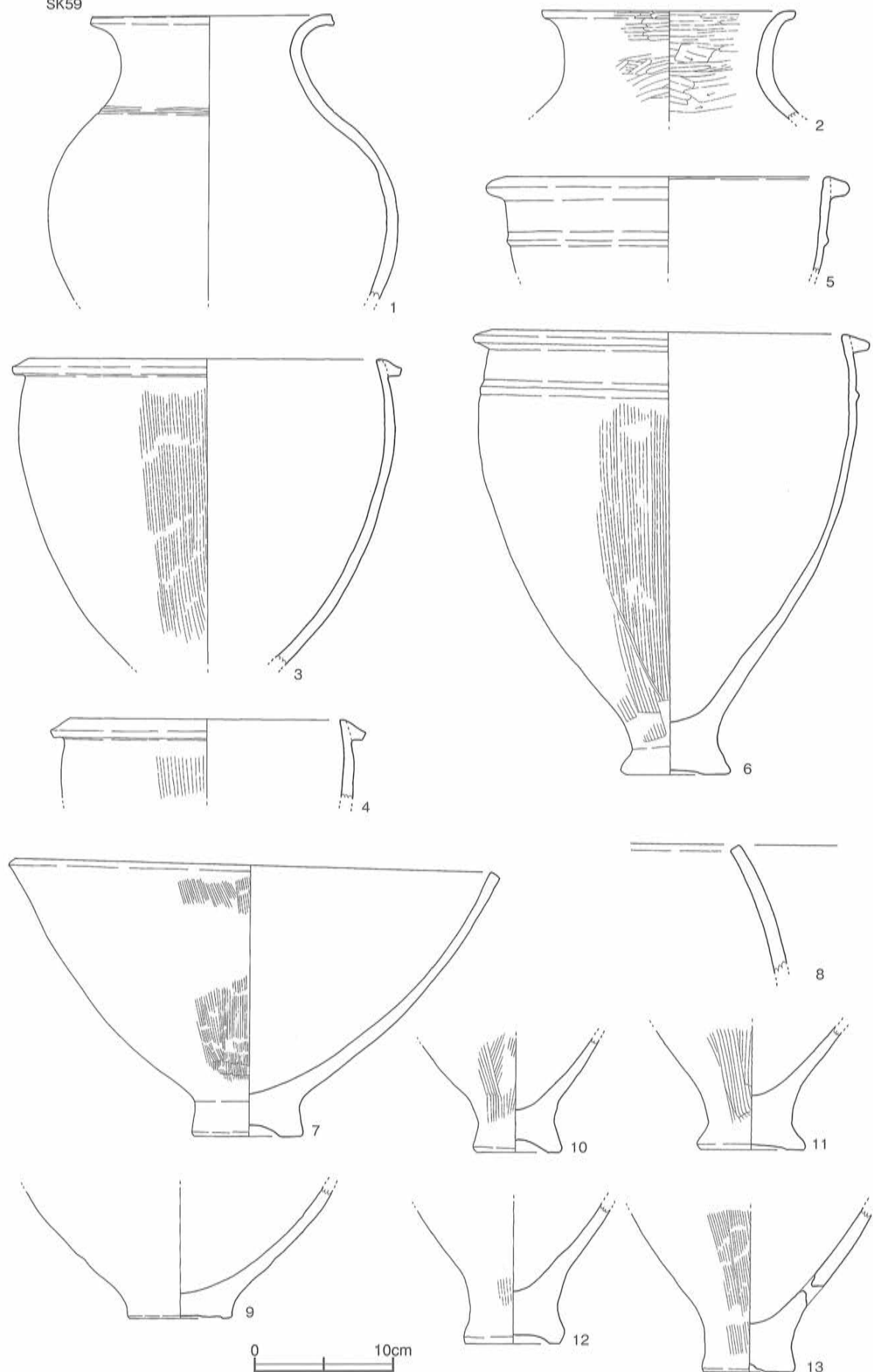
第 38 図 西山ノ上遺跡 2 次 竪穴住居 (SB18 ③・19) 出土土器実測図 [1/4]

SK56

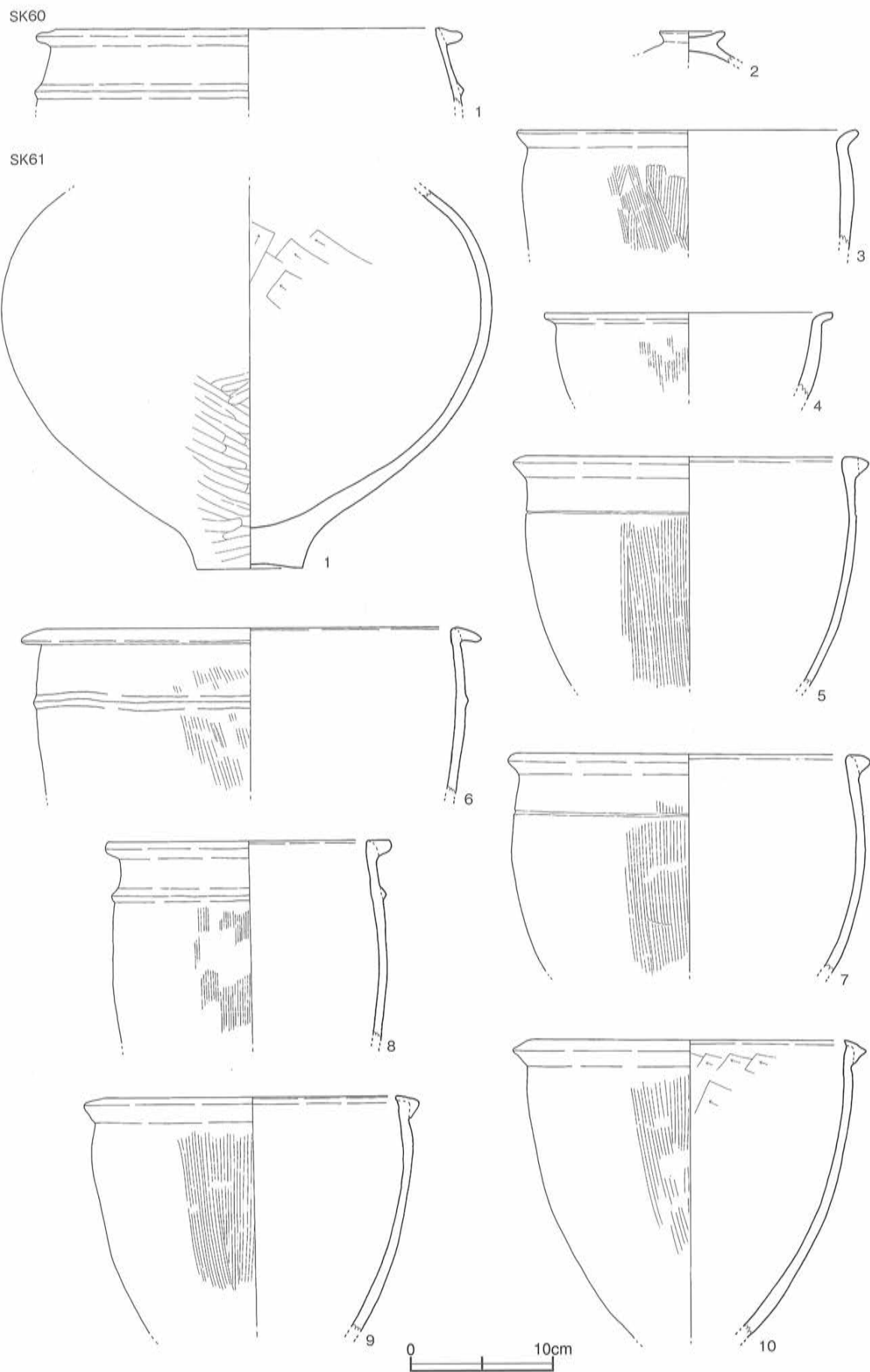


第 39 図 西山ノ上遺跡 2 次 土壙 (SK56) 出土土器実測図 [1/4]

SK59

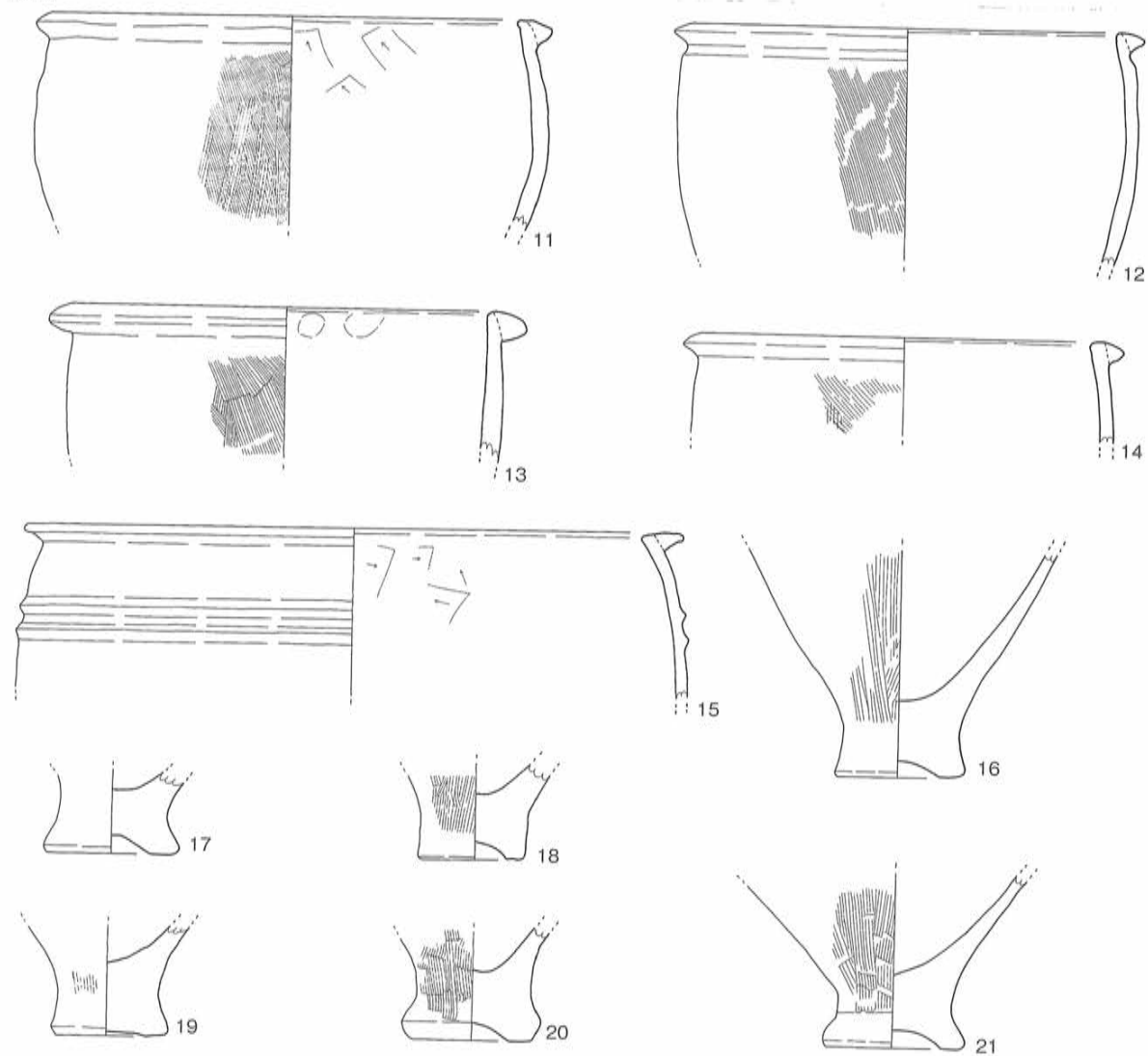


第 40 図 西山ノ上遺跡 2 次 土壙 (SK59) 出土土器実測図 [1/4]

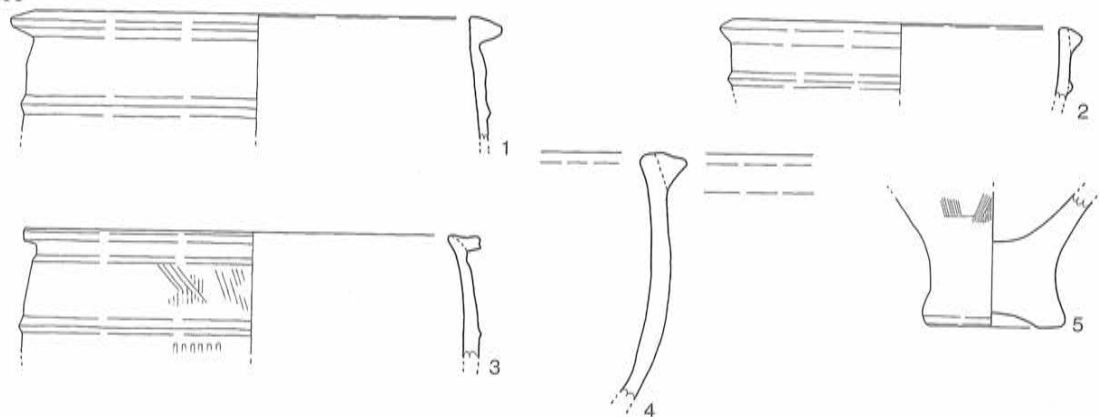


第41図 西山ノ上遺跡2次 土壙 (SK60・61) 出土土器実測図 [1/4]

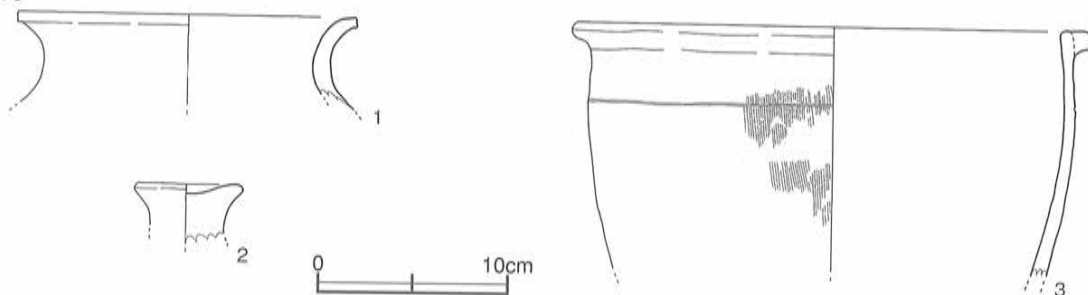
SK61



SK66

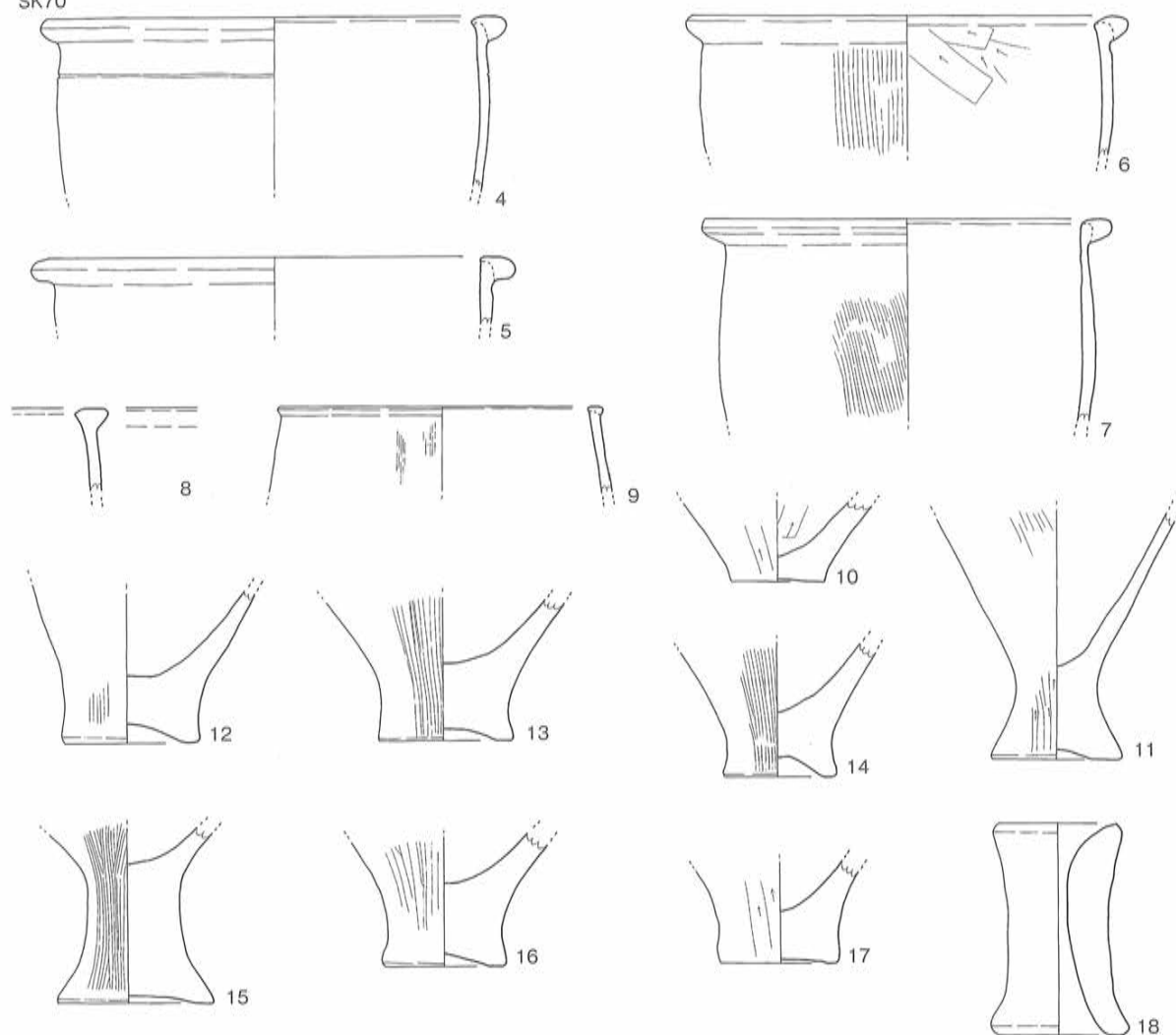


SK70

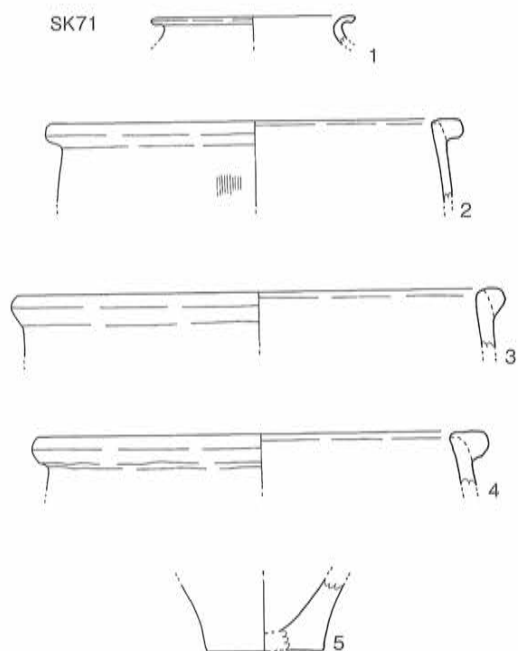


第 42 図 西山ノ上遺跡 2 次 土墳 (SK61・66・70 ①) 出土土器実測図 [1/4]

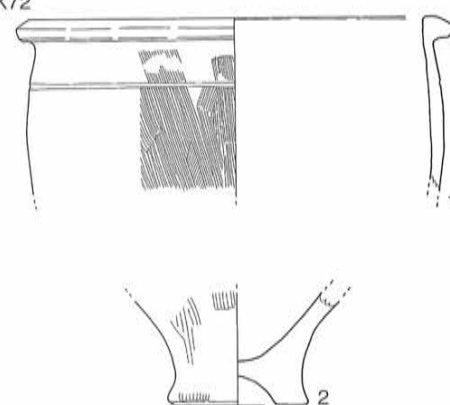
SK70



SK71



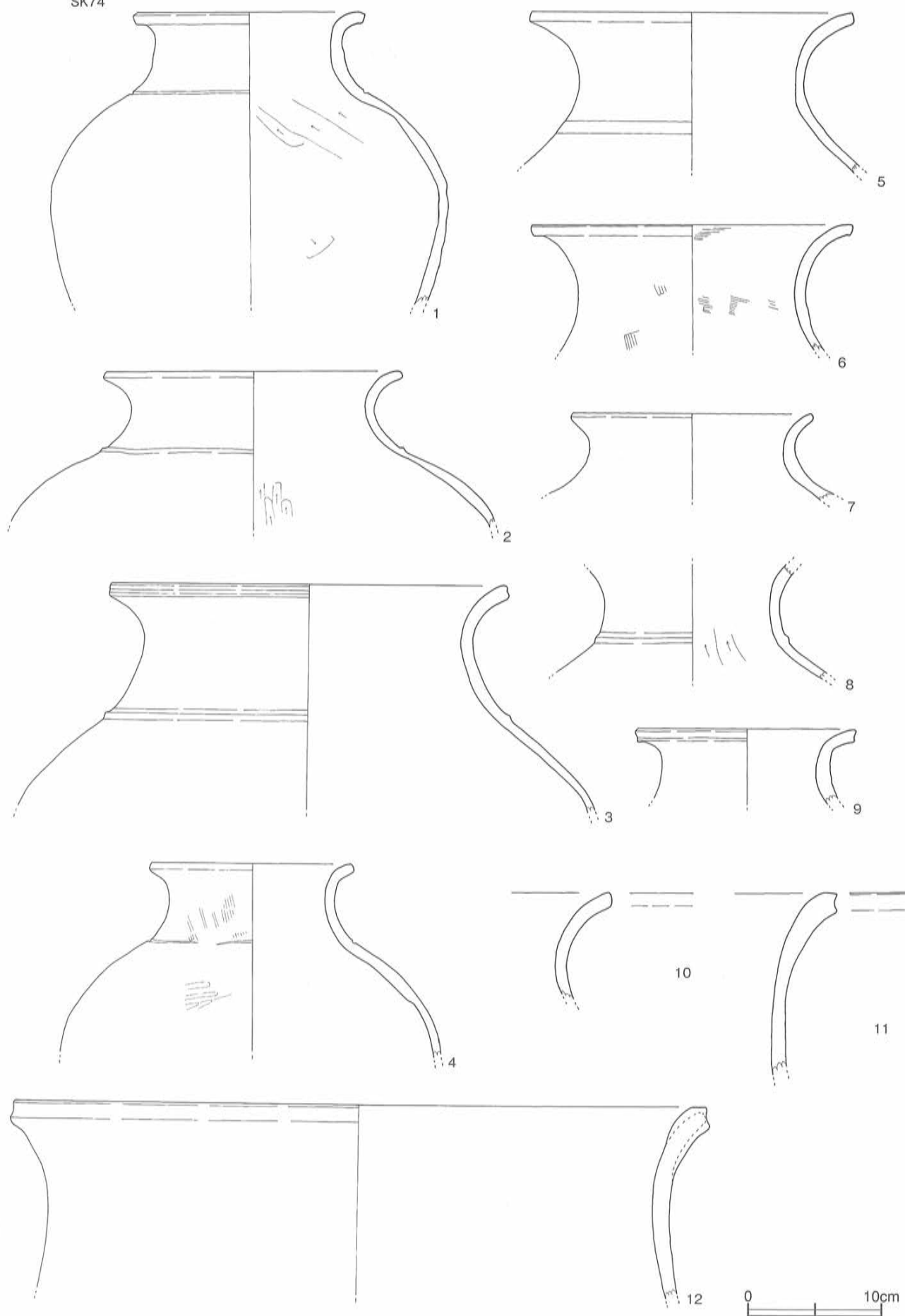
SK72



0 10cm

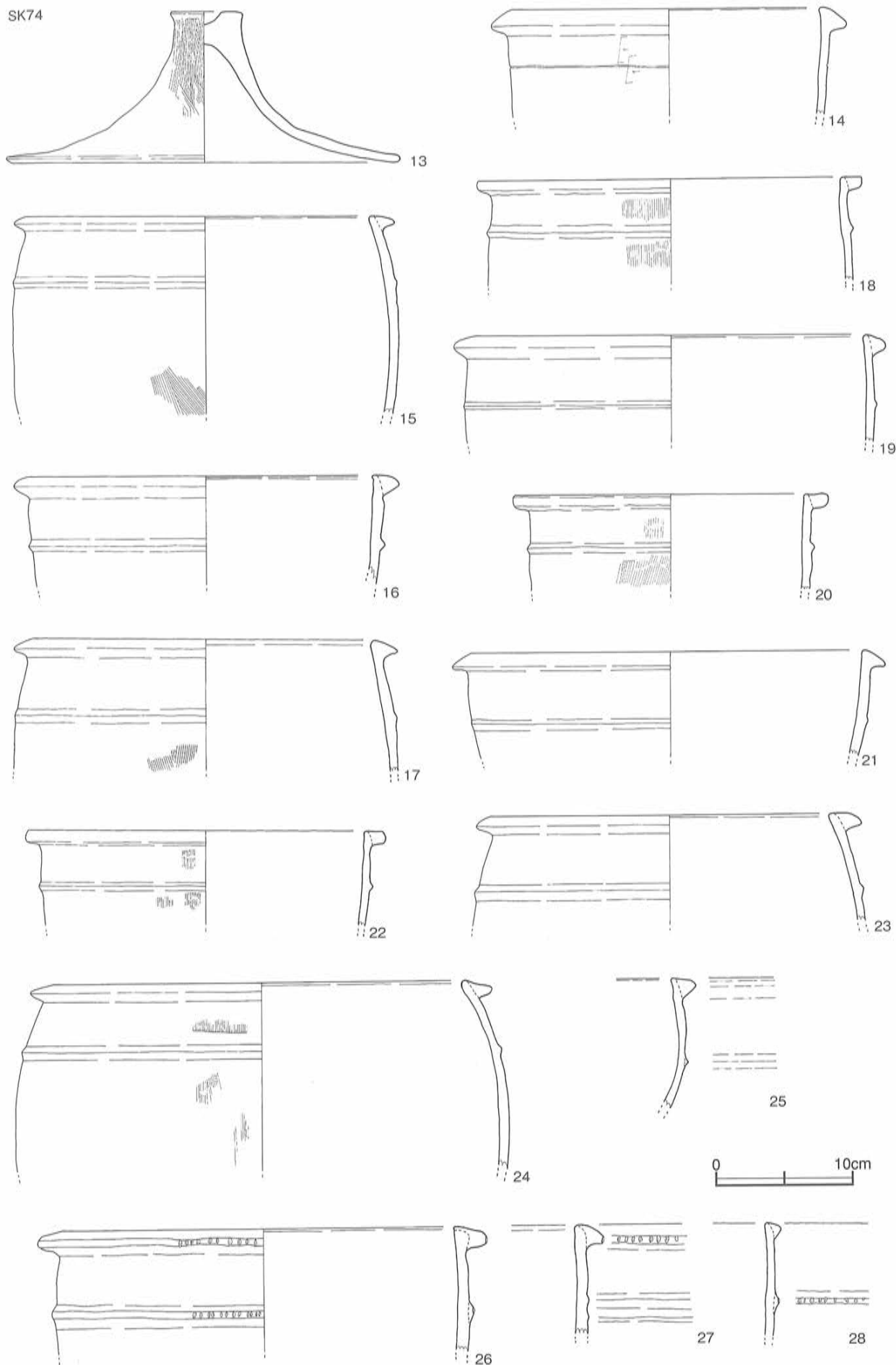
第 43 図 西山ノ上遺跡 2 次 土壙 (SK70 ②~72) 出土土器実測図 [1/4]

SK74



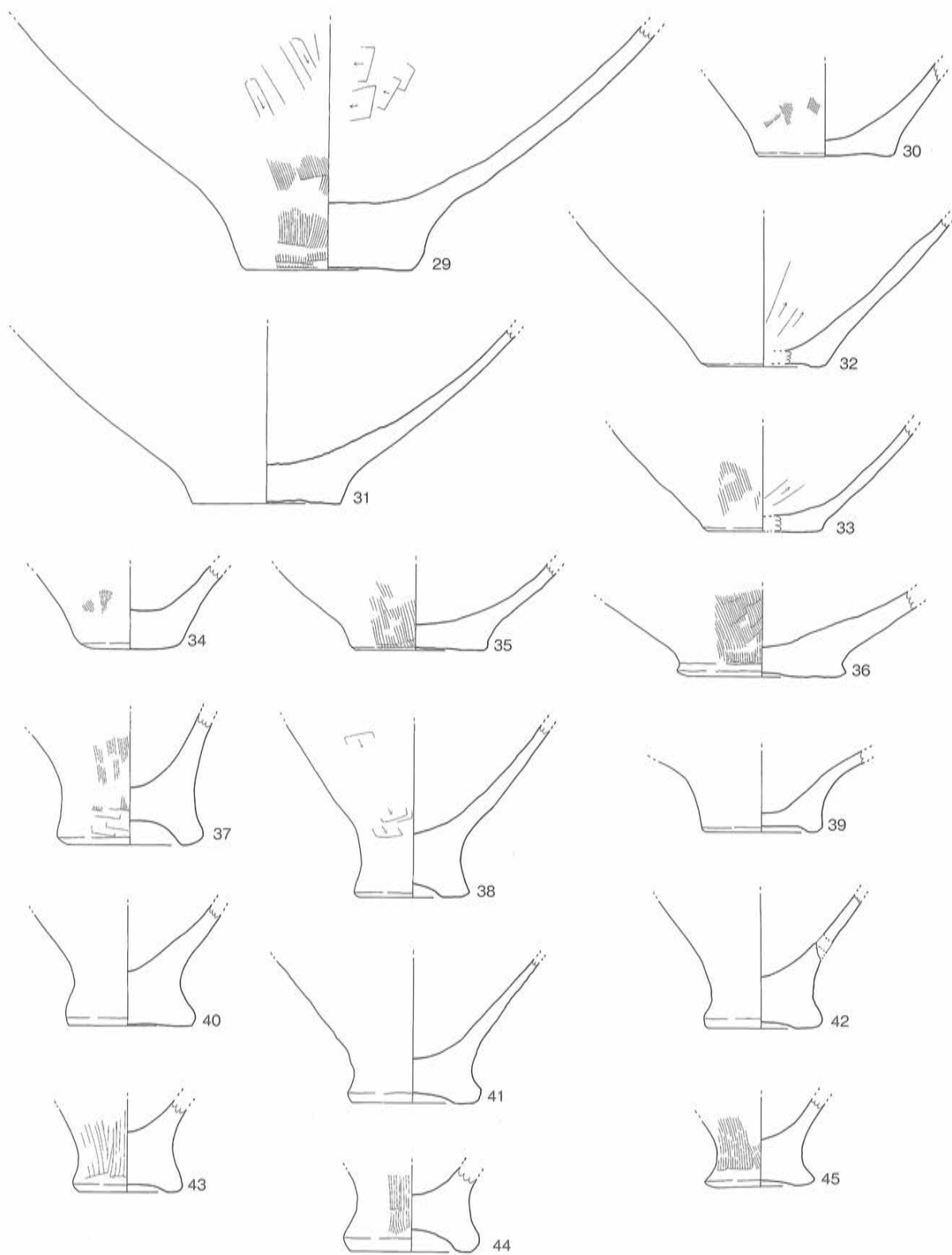
第 44 図 西山ノ上遺跡 2 次 土壙 (SK74 ①) 出土土器実測図 [1/4]

SK74

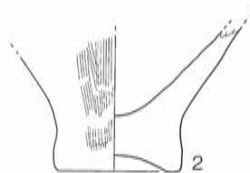
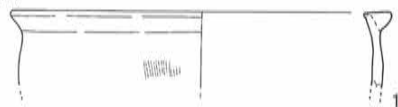


第 45 図 西山ノ上遺跡 2 次 土壙 (SK74 ②) 出土土器実測図 [1/4]

SK74

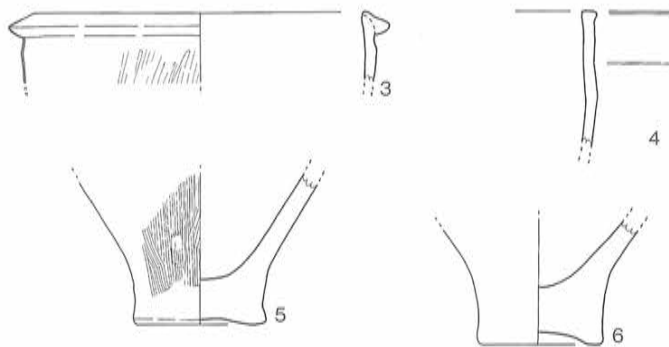
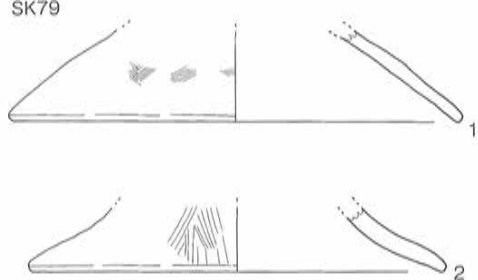


SK77

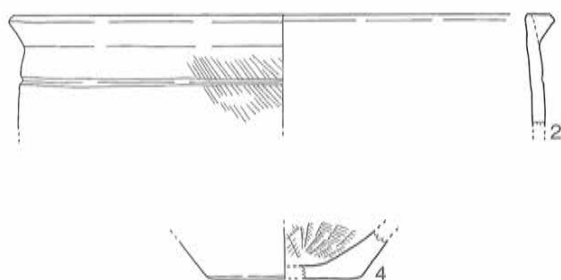
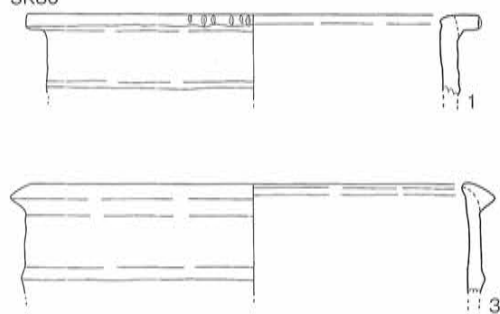


第46図 西山ノ上遺跡2次 土壙 (SK74 ③・77) 出土土器実測図 [1/4]

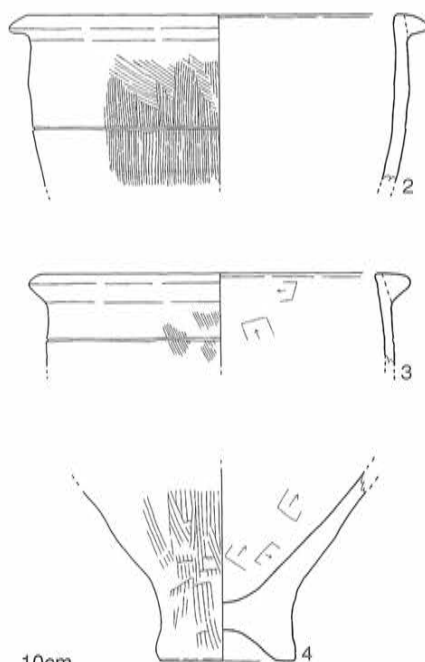
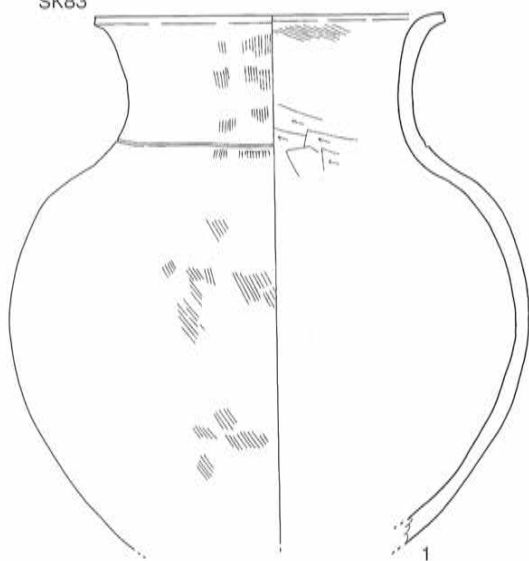
SK79



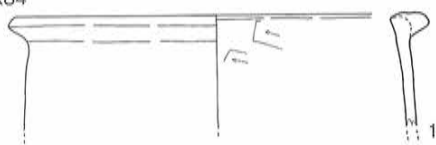
SK80



SK83



SK84



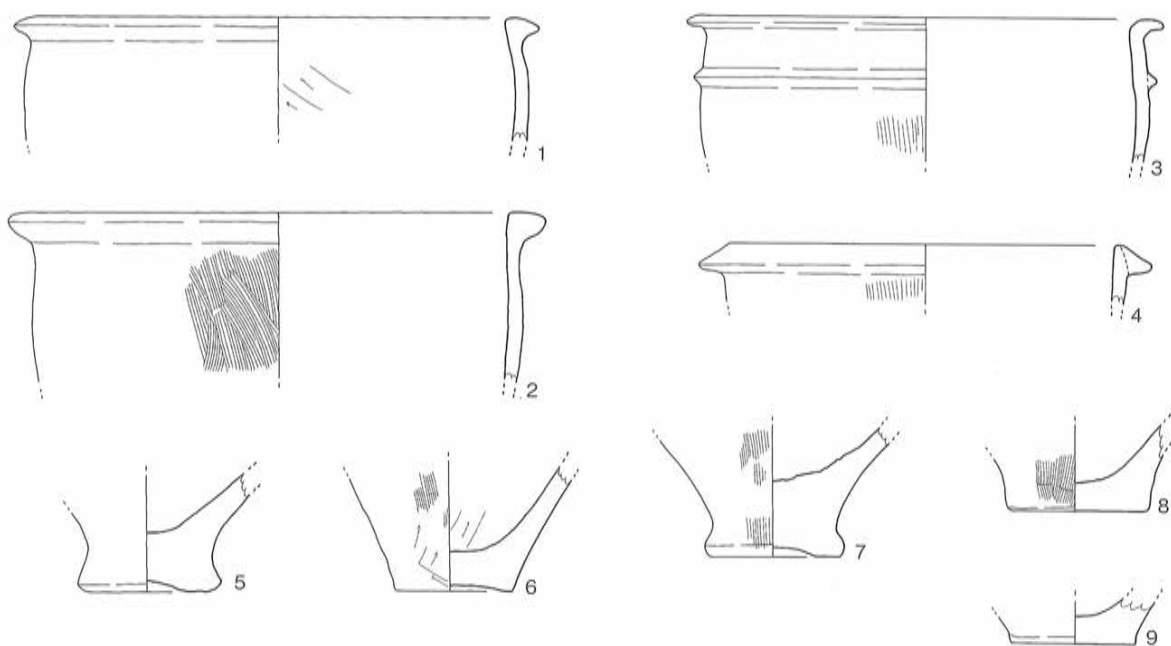
0 10cm

SK85

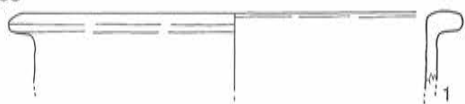


第 47 図 西山ノ上遺跡 2 次 土壙 (SK79・80・83・84) 出土土器実測図 [1/4]

SK86



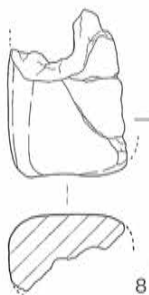
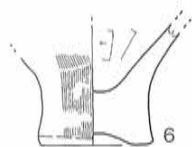
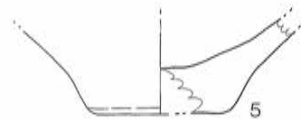
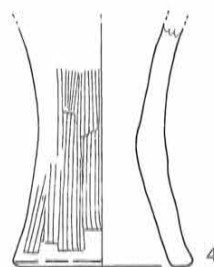
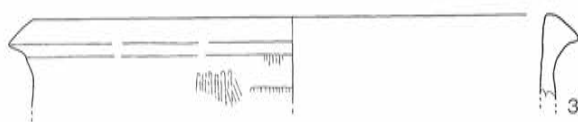
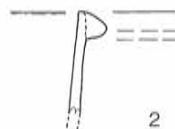
SK88



SK90



SK93



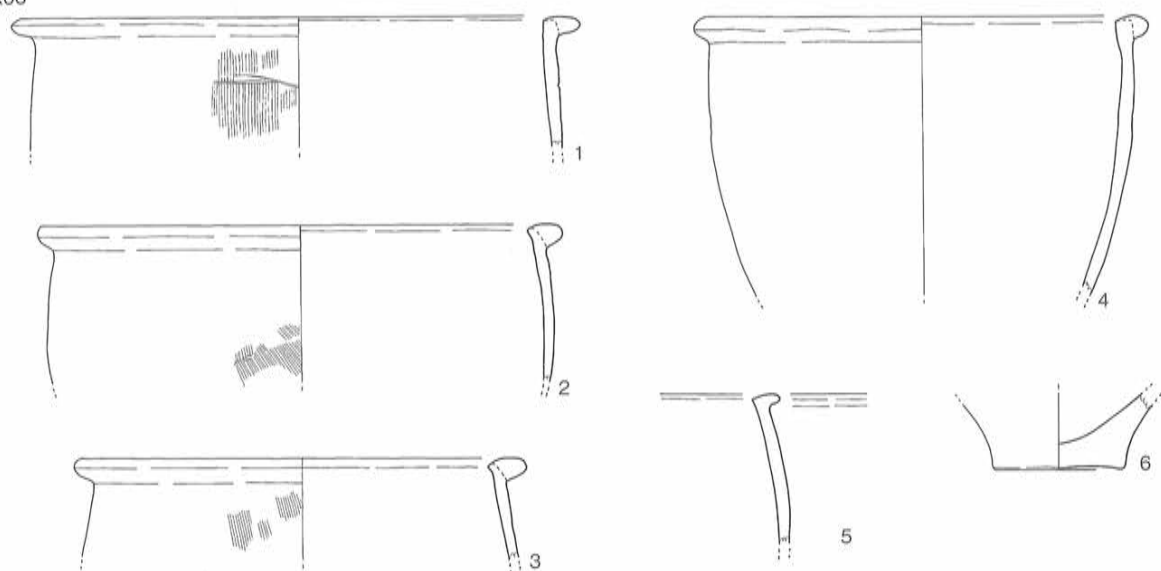
SK95



0 10cm

第 48 図 西山ノ上遺跡 2 次 土壙 (SK86・88・90・93・95) 出土土器実測図 [1/4]

SX06



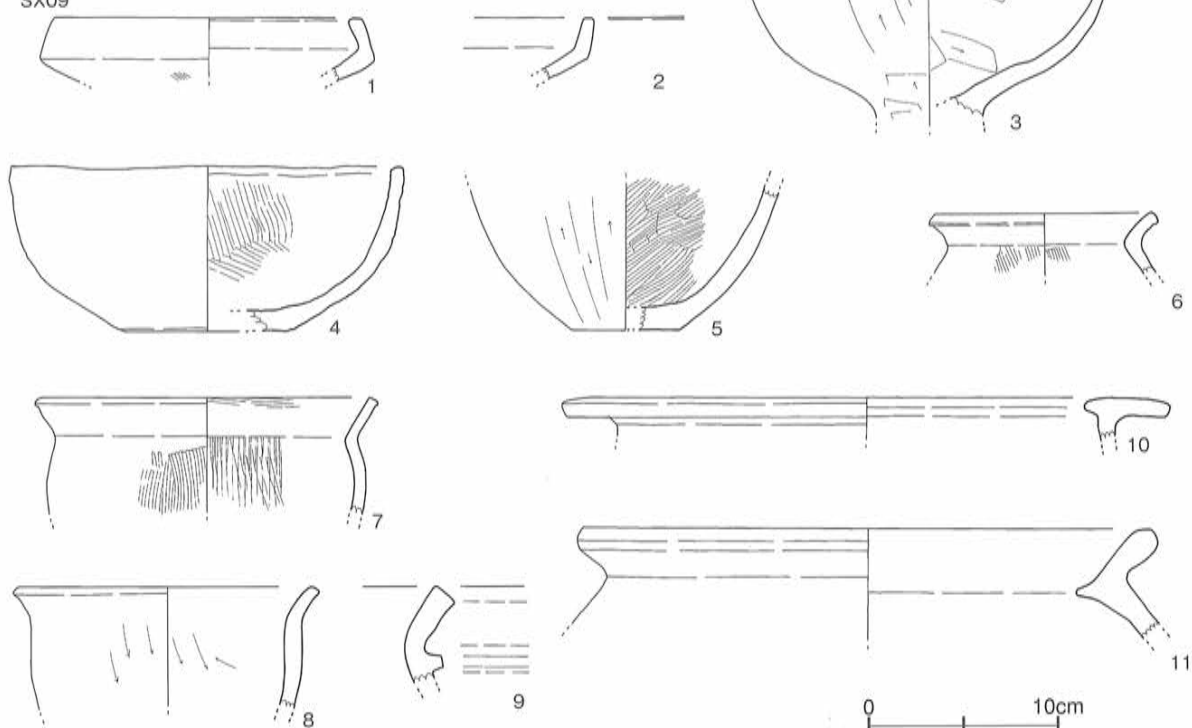
SX07



SX08

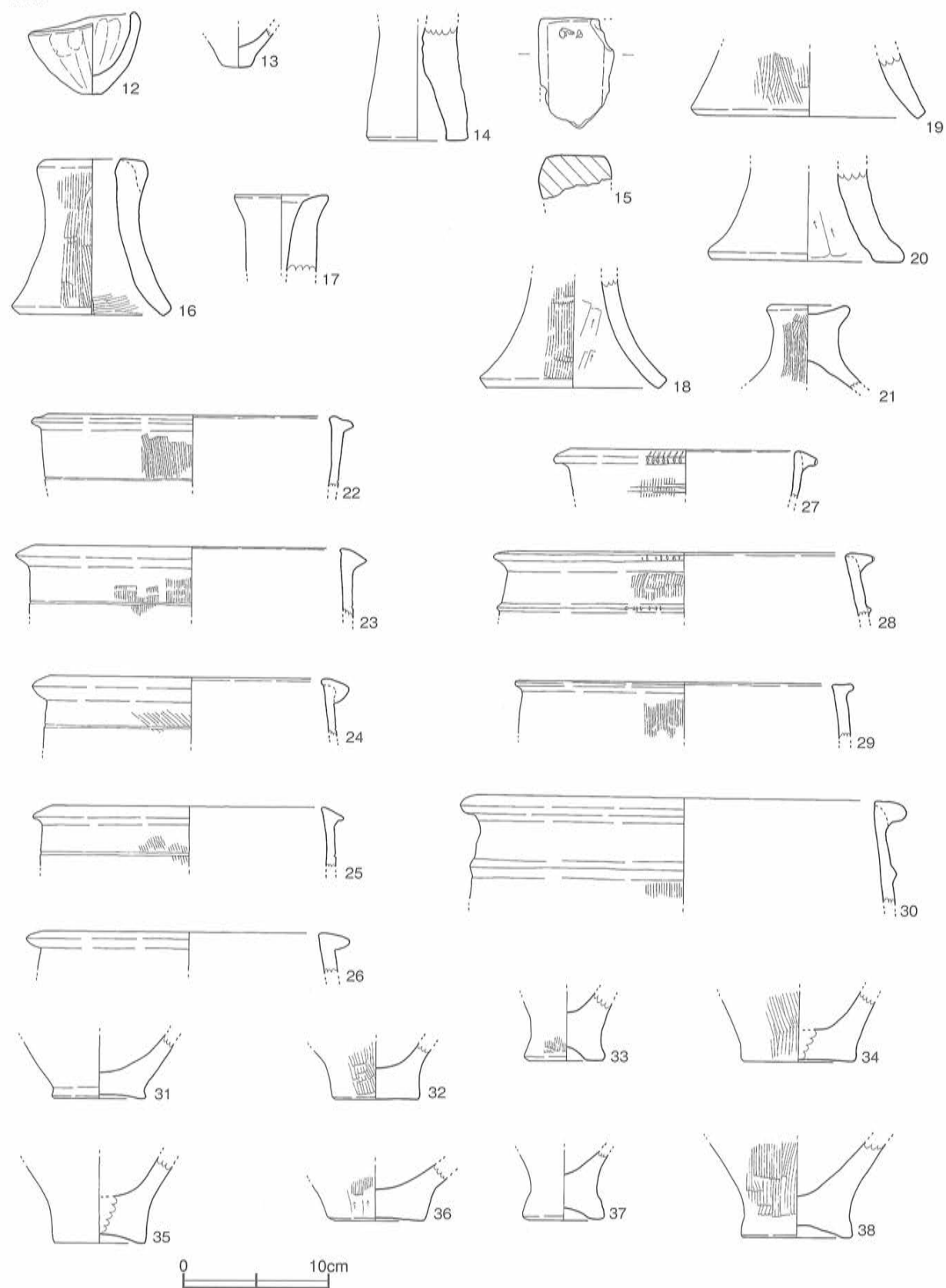


SX09

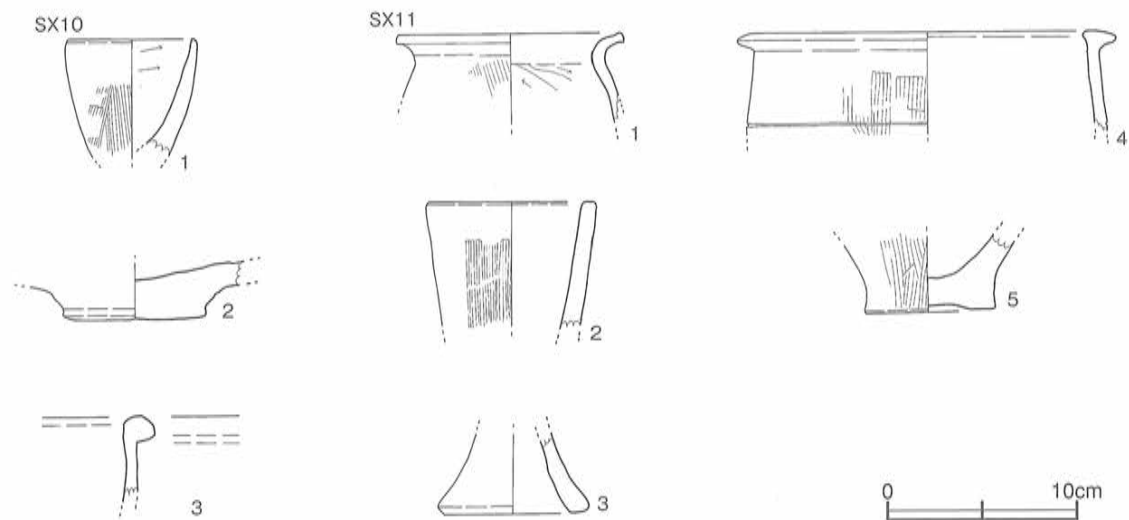


第 49 図 西山ノ上遺跡 2 次 長方形遺構 (SX06)・周溝状遺構 (SX07 ~ 09 ①) 出土土器実測図 [1/4]

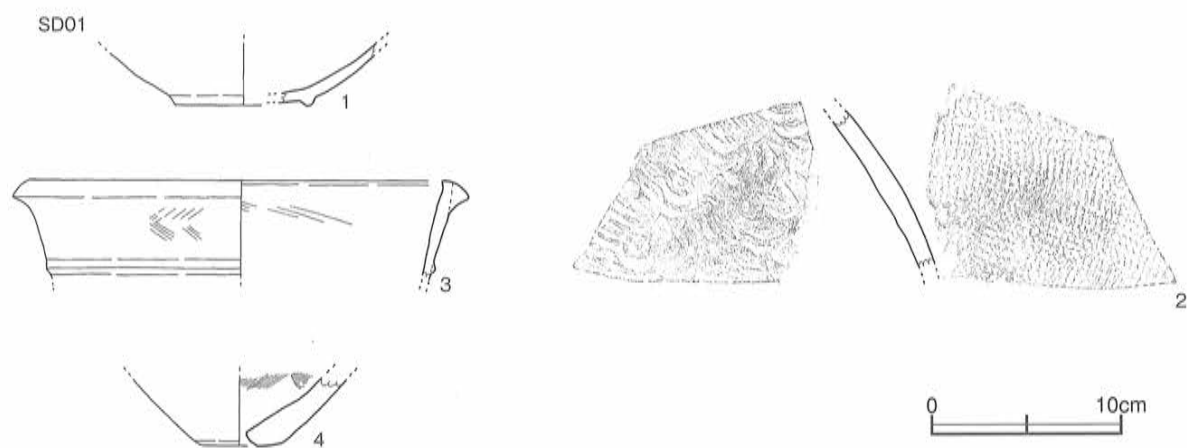
SX09



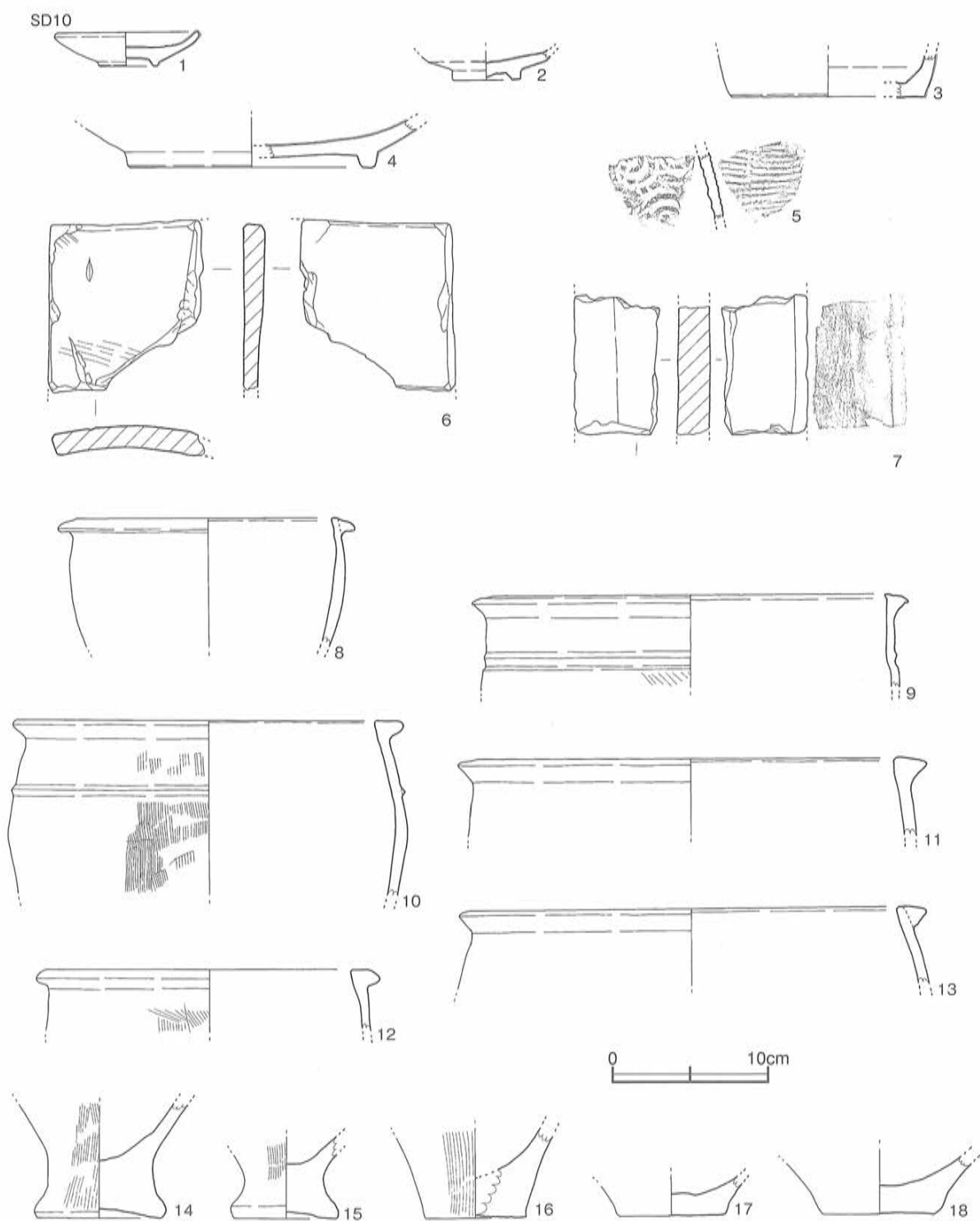
第 50 図 西山ノ上遺跡 2 次 周溝状遺構 (SX09 ②) 出土土器実測図 [1/4]



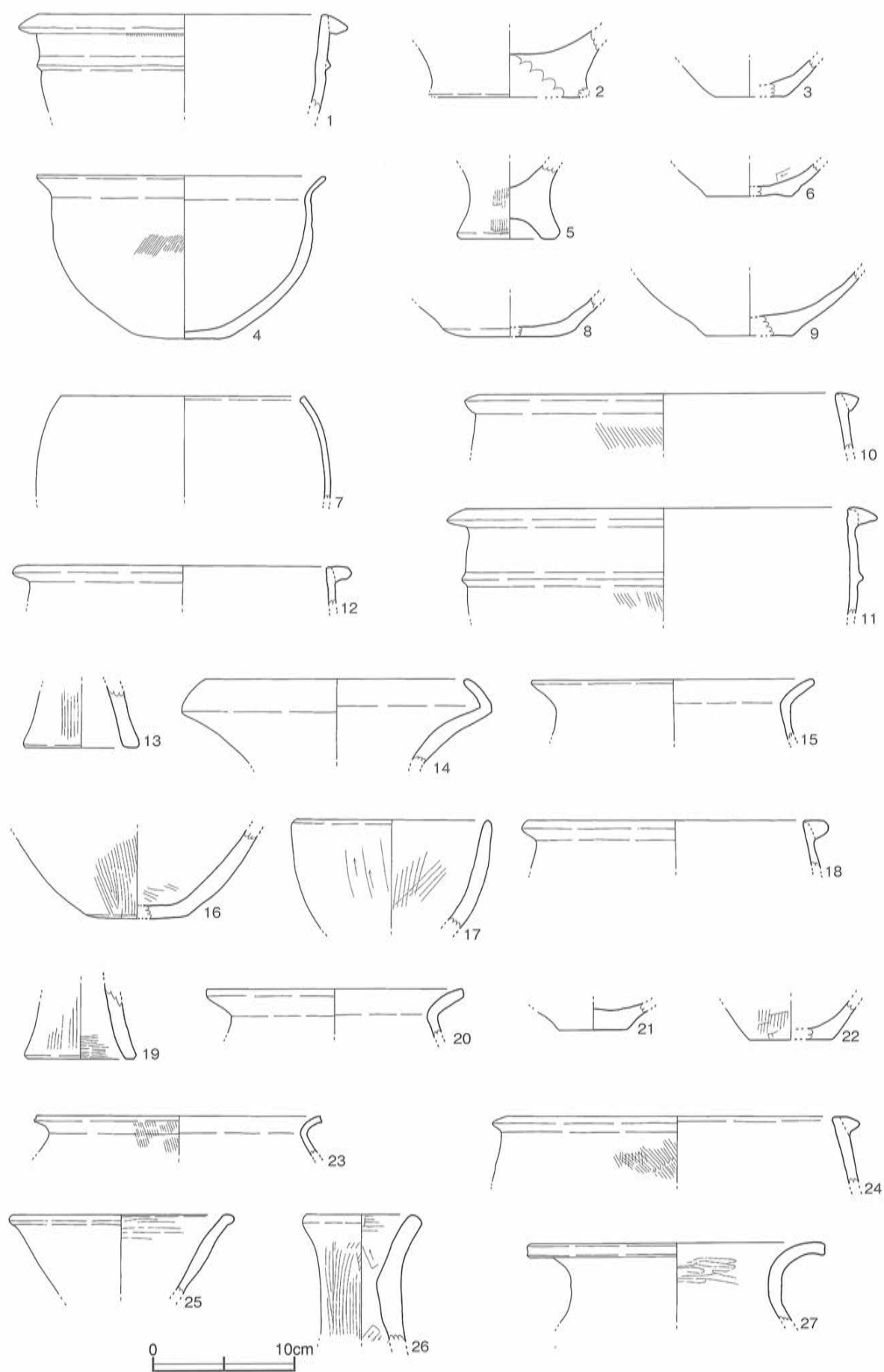
第 51 図 西山ノ上遺跡 2 次 周溝状遺構 (SX10・11) 出土土器実測図 [1/4]



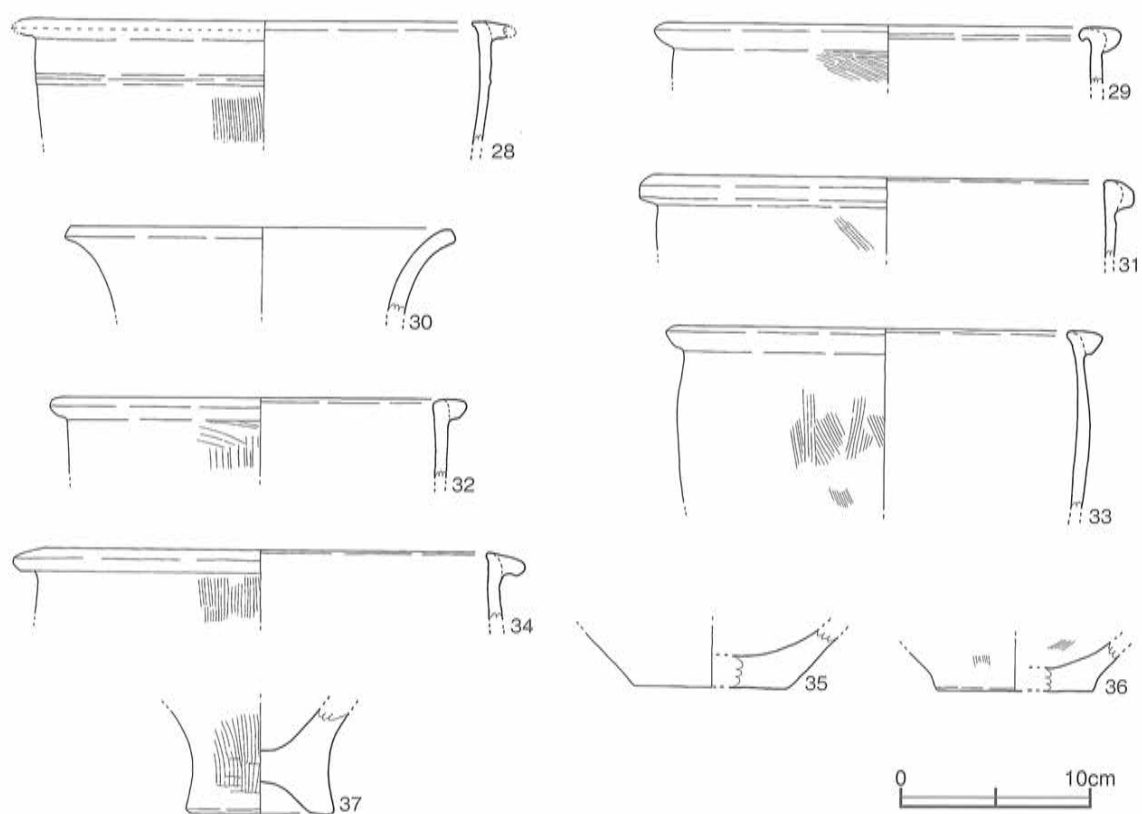
第 52 図 西山ノ上遺跡 2 次 溝 (SD01・08・09) 出土土器実測図 [1/4]



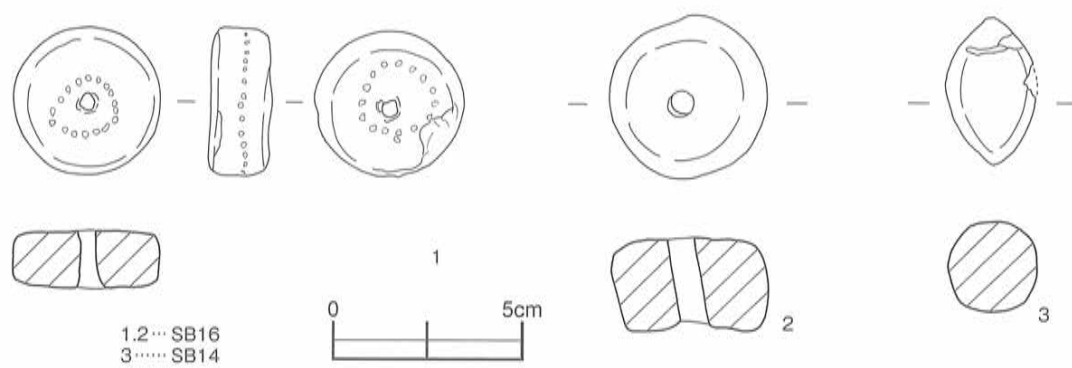
第 53 図 西山ノ上遺跡 2 次 溝 (SD10) 出土土器実測図 [1/4]



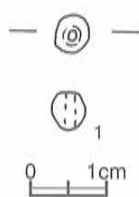
第 54 図 西山ノ上遺跡 2 次 ピット出土土器実測図 [1/4]



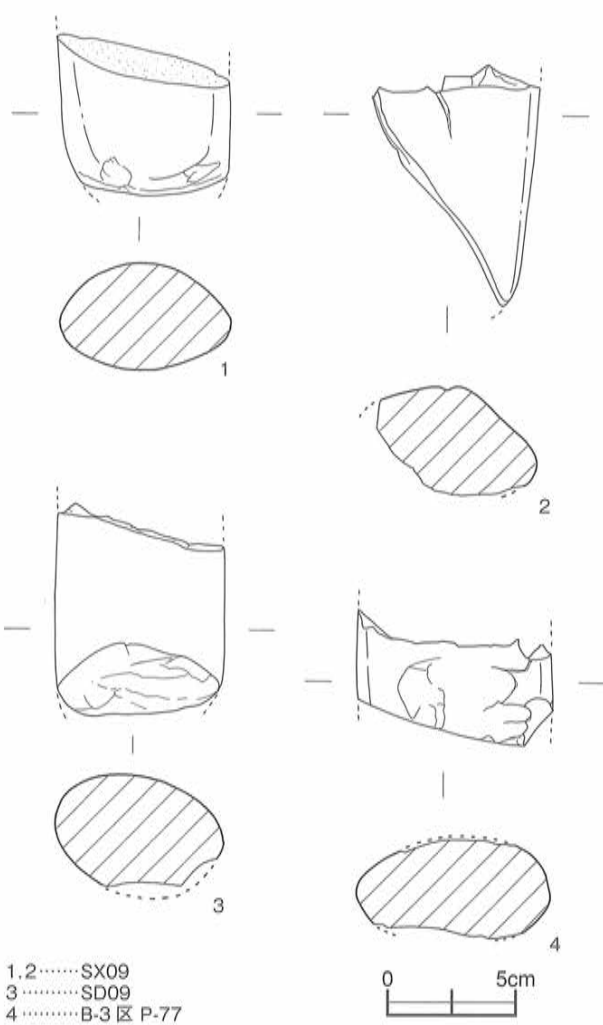
第 55 図 西山ノ上遺跡 2 次 ピット出土土器実測図 [1/4]



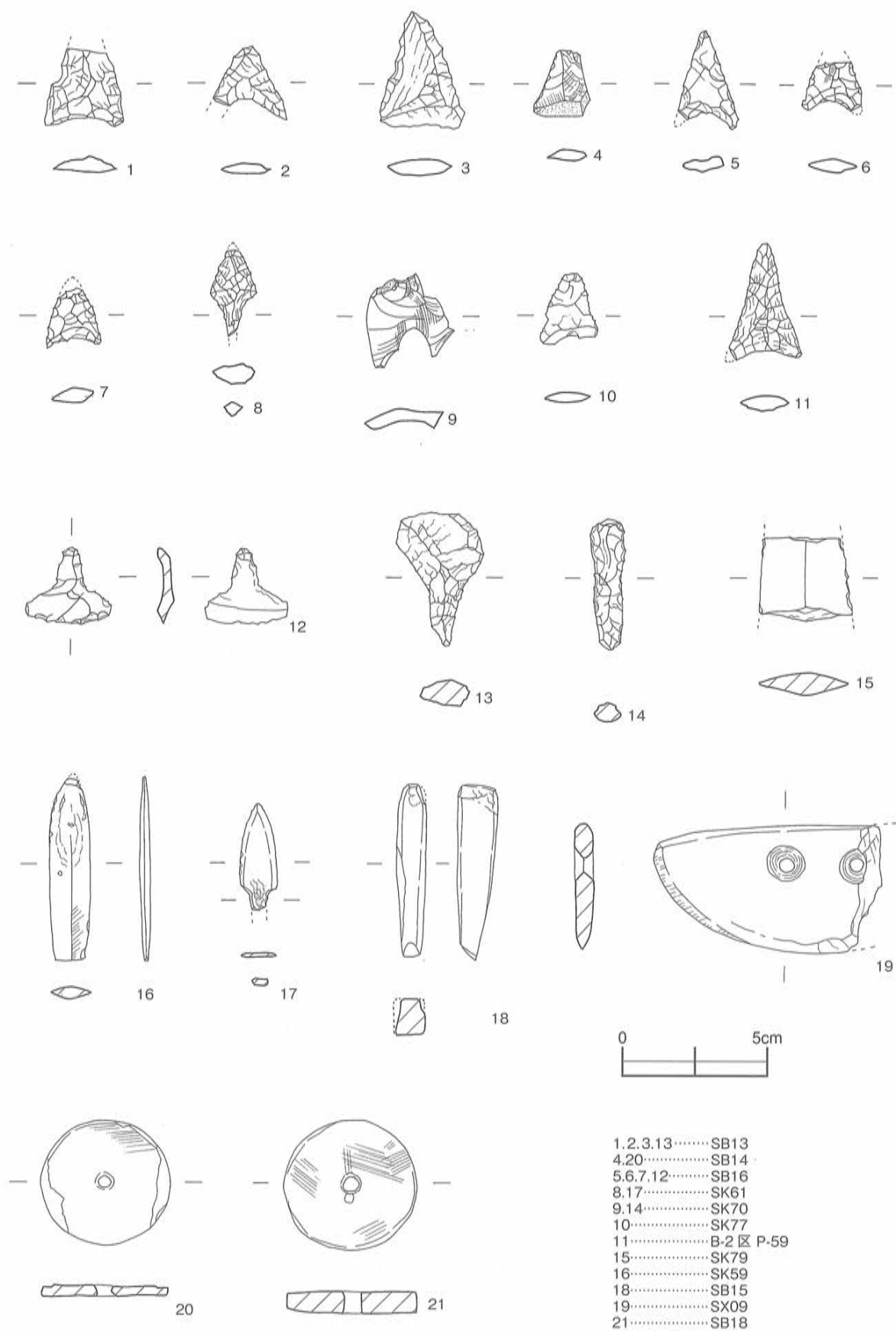
第 56 図 西山ノ上遺跡 2 次 竪穴住居 出土土製品実測図 [1/2]



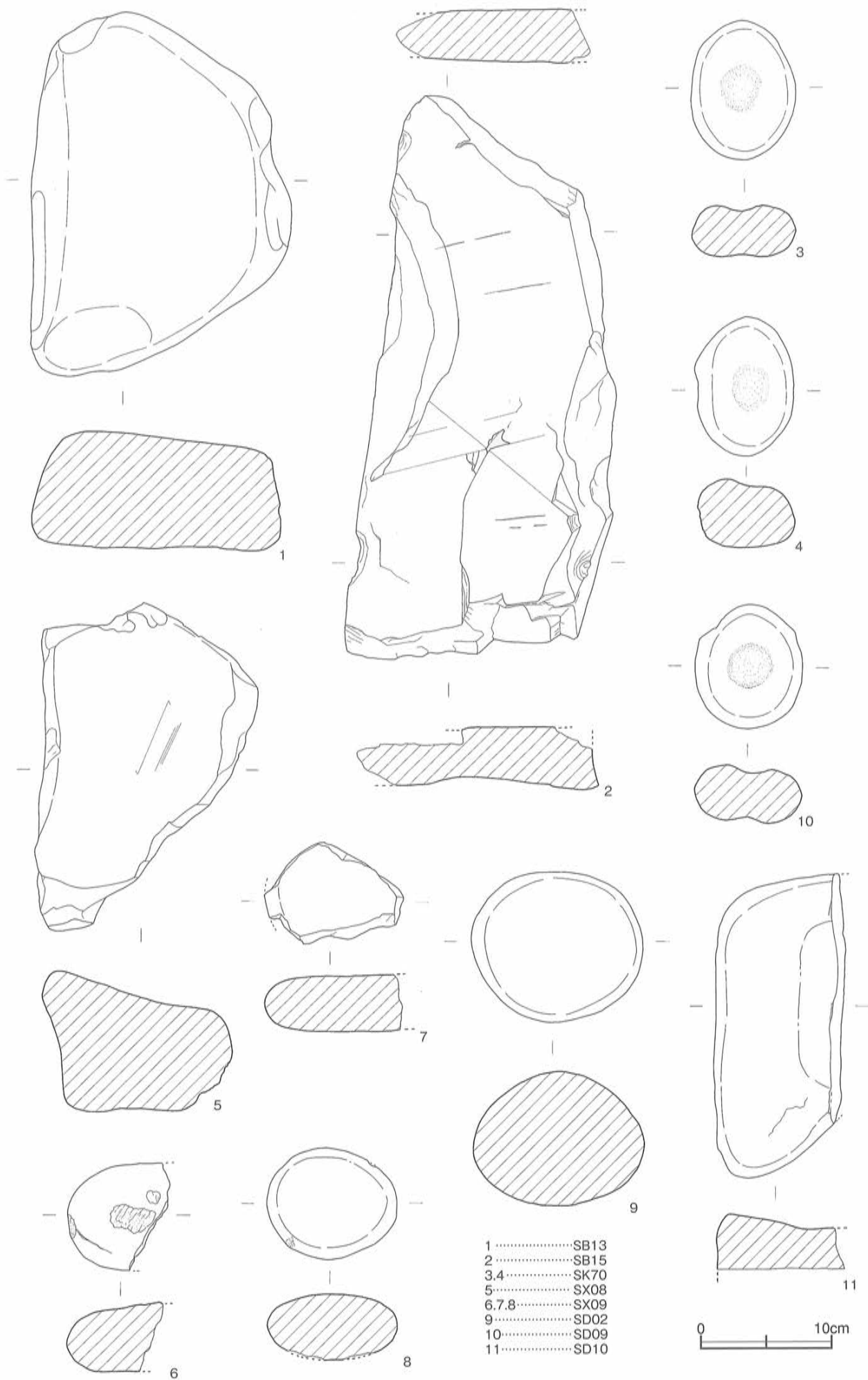
第 57 図 西山ノ上遺跡 2 次竪穴住居 (SB16) 出土ガラス製品実測図 [1/1]



第 58 図 西山ノ上遺跡 2 次 出土石製品実測図 [1/3]



第 59 図 西山ノ上遺跡 2 次 出土石製品実測図 1 [1/2]



第 60 図 西山ノ上遺跡 2 次 出土石製品実測図 [1/4]

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第35図	SB13	1	甕 口縁部細片				1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	不明	ナデ	沈線
◇	◇	2	甕 口縁部細片				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	ナデ	不明	黒斑有り
◇	SB14	1	甕 口縁部	24 (20.8)			砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	2	甕 口縁部細片				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	3	甕 底部		7.6		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色/暗黄褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	
◇	SB15	1	壺	16.4	7.2	33.6	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色/暗灰茶褐色	不良	不明	不明	黒斑有り
◇	◇	2	甕 底部		7		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	黄褐色	やや不良	ハケ目、ヘラ削り	横方向ハケ目	
◇	SB16	1	甕 口縁部	26 (22.2)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	不明(磨耗)	不明	
◇	◇	2	甕 口縁部	23.8			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
◇	◇	3	甕 口縁部細片				1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	淡黄褐色	やや不良	ナデ	ナデ	
◇	◇	4	甕 口縁部細片				砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	◇	5	甕 口縁部細片				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	スス付着
◇	◇	6	甕 胴下部		8		1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色/暗黄茶褐色	やや不良	不明(磨耗)	不明(磨耗)	
◇	◇	7	甕 底部		7		1~9mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	やや不良	ヘラ調整	ナデ	
◇	◇	8	甕 底部		7		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ハケ目、ヨコナデ	不明(磨耗)	
◇	◇	9	甕 底部		6.2		1~3mm大の小石が多く混じる。 砂粒を含む。	明黄茶褐色	普通	不明	不明	
◇	SB17	1	甕 底部		7.5		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	
第36図	SB18	1	壺 口縁部	10.6			小石が混じる。砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	磨き	磨き	
◇	◇	2	甕 胴上部	15.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ、ヨコナデ	沈線
◇	◇	3	甕 胴上部	24			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	不定方向のハケ目	ナデ	ヘラ描きの浅い沈線
◇	◇	4	甕 口縁部	21.4			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰茶褐色/暗茶黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	沈線
◇	◇	5	甕 口縁部	28.4			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	沈線、スス付着
◇	◇	6	甕 口縁部	26.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色/黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヘラ調整	沈線
◇	◇	7	甕 口縁部	19.8 (16.6)			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色/淡黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	スス付着
◇	◇	8	壺 口縁部	17			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	スス付着、黒斑有り
◇	◇	9	甕 口縁部	25.2			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目	ナデ	スス付着、黒斑有り
◇	◇	10	甕 口縁部	17.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄黒褐色/暗褐色	やや不良	不明(磨耗)	ナデ(やや磨耗)	
◇	◇	11	甕 口縁部	21.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	ハケ目	ヘラ調整	スス付着
◇	◇	12	甕 口縁部	20.4			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	細かいハケ目	ナデ	黒斑有り
◇	◇	13	甕 口縁部	21.4 (17.2)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	やや不良	ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
第37図	◇	14	甕	25.5	7.6	28.2	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	ハケ目、ハケ目後 ヨコナデ	ナデ	スス付着
◇	◇	15	甕 口縁部	28.4			1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色/暗黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	スス付着
◇	◇	16	甕 口縁部	19.8 (16.4)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ	ナデ(やや磨耗)	
◇	◇	17	甕 口縁部	18			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶灰褐色	普通	細かいハケ目、 ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	18	甕 口縁部	21.6			砂粒を含む。	暗黄茶褐色/暗黄褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	スス付着
◇	◇	19	甕 口縁部	23.4			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ハケ目後ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	20	甕 口縁部	24.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色/暗黄褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	21	甕 口縁部	24			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄黒褐色/暗黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	22	甕 口縁部	23.8			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	細かいハケ目、 ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り
◇	◇	23	甕 底部		7.4		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ナデ(磨耗)	ヘラ調整	黒斑有り
◇	◇	24	甕 底部		8.8		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶茶褐色	やや不良	ハケ目(磨耗)	不明	
◇	◇	25	甕 底部		6.8		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色/暗褐色	やや不良	ナデ	ナデ	
◇	◇	26	甕 底部		7.2		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	27	甕 底部		6.4		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	ハケ目、ヨコナデ	不明	
◇	◇	28	甕 底部		7.7		1~2mm大の小石が多く混 じる。砂粒を含む。	暗茶褐色	やや不良	ハケ目	不明(磨耗)	
第38図	◇	29	鉢 口縁部	27.2 (24)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ハケ目後ヨコナデ	ヘラ調整一部押 圧痕有り	黒斑有り
◇	◇	30	鉢 口縁部	13.4			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶灰褐色	やや不良	不明	ナデ	

表 11 西山ノ上遺跡 2 次 SB・SK・SX・SD・ピット 出土土器観察表

検出 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◇	◇	31	鉢	18.1	6.4	10.2	1~5mm大の小石が多く混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	やや不良	ハケ目、ヨコナデ	ハケ目	
◇	◇	32	支脚				砂粒を含む。	淡黄褐色	普通			
◇	SB19	1	壺 口縁部	16.7			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色／暗褐色	やや不良	ハケ目(磨耗)	ヨコナデ、ハケ目 (磨耗)	
◇	◇	2	壺 口縁部	12			砂粒を含む。	黄茶褐色／茶褐色	やや不良	ハケ目後ヨコナデ	ナデ	
第39図	SK56	1	甕蓋 つまみ部	28.8	つまみ 6.4	10.2	1~9mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ハケ調整	ヘラ調整	内面にスス付着
◇	◇	2	甕 口縁部	25.4			1~9mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ハケ目	ナデ	沈線
◇	◇	3	甕 口縁部	20			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	ハケ目	ナデ	沈線
◇	◇	4	甕 口縁部	19.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	スス付着
◇	◇	5	甕 口縁部	20.8			1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ナデ	
◇	◇	6	壺 底部		8.6		1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色／淡黄褐色	やや不良	不明	ナデ	黒斑有り
◇	◇	7	壺 底部		9.6		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗黄茶褐色／暗黄褐色	やや不良	磨き	ナデ	黒斑有り
◇	◇	8	甕 底部		7.3		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目(やや磨耗)	ナデ	
◇	◇	9	甕 底部		6.2		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色／暗褐色	普通	ハケ目、ヘラ状工 具によるナデ	ナデ	
◇	◇	10	支脚	5.8		9.2	砂粒を含む。	暗黄褐色	普通		ナデ	
第40図	SK59	1	壺 口縁部	17			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰茶褐色	やや不良	ヨコナデ ハケ目	ナデ	沈線
◇	◇	2	壺 口縁部	18			砂粒を含む。	暗褐色	普通	ヘラ磨き、ヘラ調整	ナデ	
◇	◇	3	甕 口縁部	27.8 (24.4)			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗黄茶褐色／淡黄灰黒褐色	やや不良	ヘラ磨き調整	ヘラ磨き調整	黒斑有り、スス付着
◇	◇	4	甕 口縁部	19			砂粒を含む。	暗黒灰褐色／淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
◇	◇	5	甕 口縁部	23.2			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色／淡黄茶褐色	不良	不明	不明	スス付着
◇	◇	6	甕	25	7.8	32	1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	黒斑有り、スス付着
◇	◇	7	鉢	33.6	7.6	19.4	1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色／暗黄褐色(一部茶褐色)	やや不良	ハケ目	磨き、一部ナデ	黒斑有り
◇	◇	8	壺 口縁部				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	磨き	不明	
◇	◇	9	甕 底部		7.4		1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰茶褐色	やや不良	不明	ナデ	
◇	◇	10	甕 底部		5.9		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◇	◇	11	甕 底部		7.6		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色／暗褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	12	甕 底部		6.9		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色／淡褐色	やや不良	ハケ目、ハケ目後 ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	13	甕 底部		6.5		1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色／暗黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	孔有り
第41図	SK60	1	甕 口縁部	27.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
◇	SK61	1	壺 口縁部		7.4		1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色／淡黄灰褐色	普通	ヘラ磨き	ヘラ調整、ナデ	黒斑有り、スス付着
◇	◇	2	甕蓋		つまみ 4.5		小石が混じる。砂粒を含む。	暗褐色	普通	ナデ	ナデ	スス付着
◇	◇	3	甕 口縁部	24			1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◇	◇	4	鉢	20			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶灰褐色	やや不良	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	スス付着
◇	◇	5	甕 口縁部	23			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色／淡茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	沈線、スス付着
◇	◇	6	甕 口縁部	28.8			砂粒を含む。	暗黄黒褐色／淡褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ナデ	スス付着
◇	◇	7	甕 口縁部	22.6			砂粒を含む。	暗茶黒褐色／明黄褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ナデ	浅い沈線、スス付着
◇	◇	8	甕 口縁部	17			1~10mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色／淡褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	黒斑有り
◇	◇	9	甕 口縁部	20.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黒褐色／暗黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	スス付着
◇	◇	10	甕 口縁部	21.8			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗黄茶褐色	やや不良	ハケ目	ヘラ調整後ナデ	黒斑有り
第42図	◇	11	甕 口縁部	24.6			砂粒を含む。	淡黄茶褐色／淡茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ一部ヘラ調整	スス付着
◇	◇	12	甕 口縁部	23			砂粒を含む。	暗褐色／暗茶褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	スス付着
◇	◇	13	甕 口縁部	22.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶黒褐色／淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ後指頭 痕、ナデ	
◇	◇	14	甕 口縁部	21.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
◇	◇	15	甕 口縁部	35.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、ハケ目後 ヨコナデ	ヘラ調整	
◇	◇	16	甕 底部		7.2		1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄赤褐色／茶褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◇	◇	17	甕 底部		7		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	18	甕		5.8		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶赤褐色／暗黄褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	
◇	◇	19	甕 底部		5.5		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色／黄灰褐色	やや不良	ハケ目	不明	
◇	◇	20	甕 底部		6.4		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色／黒褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	スス付着
◇	◇	21	甕 底部		7.4		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通		ナデ	

表 11 西山ノ上遺跡 2 次 SB・SK・SX・SD・ピット 出土土器観察表

押図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◇	SK66	1	甕 口縁部	23.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	不良	不明	不明	
◇	◇	2	甕 口縁部	17.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ(磨耗)	ナデ	
◇	◇	3	甕 口縁部	24			小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	4	甕 口縁部				1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	ハケ目	ヘラ調整	
◇	◇	5	甕 底部		6.4		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色/暗褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	
◇	SK70	1	壺 口縁部	29.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	口縁部ヨコナデ	口縁部磨き	
◇	◇	2	甕蓋 つまみ		つまみ 5.8		砂粒を含む。	淡黒褐色	普通	磨き	磨き	
◇	◇	3	甕 口縁部	27.4 (24)			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色/暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	浅い沈線、黒斑有り
第43図	◇	4	甕 口縁部	25 (21.2)			砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅い沈線
◇	◇	5	甕 口縁部	20			砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	不明	ナデ	
◇	◇	6	甕 口縁部	23.6 (20)			砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ハケ目	ナデ後ヘラ調整	
◇	◇	7	甕 口縁部	21.6 (18.6)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色/暗茶褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	
◇	◇	8	甕 口縁部				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	灰褐色/淡黄褐色	普通	ヨコナデ、タタキ	ナデ	
◇	◇	9	甕 口縁部	17.2			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤茶褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	
◇	◇	10	壺 底部		5		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黒灰褐色/淡褐色	やや不良	ヘラ調整	ヘラ調整後ナデ	
◇	◇	11	甕 底部		7		砂粒を含む。赤粒子が混じる	淡黄灰褐色	普通	ハケ目	ナデ	黒斑有り
◇	◇	12	甕 底部		7.5		1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤黄褐色	やや不良	ハケ目	不明	
◇	◇	13	甕 底部		7		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◇	◇	14	甕 底部		6.1		砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◇	◇	15	甕 脚部		8.3		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◇	◇	16	甕 底部		6.3		小石が混じる。砂粒を含む。	灰黄褐色/暗灰褐色	普通	ハケ目	ナデ	スス付着
◇	◇	17	甕 底部		6.2		1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色/淡褐色	普通	ヘラ調整	ナデ	
◇	◇	18	支脚	6.2	6.4	11.4	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヘラ調整	ナデ	
◇	SK71	1	壺 口縁部	10.8			砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	◇	2	甕 口縁部	22 (18.8)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色/淡黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
◇	◇	3	甕 口縁部	35.2 (23)			砂粒を含む。	黄茶灰褐色/黄茶褐色	普通			
◇	◇	4	甕 口縁部	23.4 (20.4)			砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	◇	5	甕 底部		6		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	明黄褐色/暗黄褐色	やや不良	ナデ	不明	
◇	SK72	1	甕 口縁部	21.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	茶灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	沈線
◇	◇	2	甕 底部		7.5		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶黄褐色/暗褐色	普通	ハケ目	ナデ	
第44図	SK74	1	壺 口縁部	17.4			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	ナデ(磨耗)	ヘラ調整	沈線
◇	◇	2	壺 口縁部	21.8			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤茶褐色 口縁部黄褐色	やや不良	ヨコナデ、磨き	ヨコナデ、一部工 具による削痕	
◇	◇	3	壺 口縁部	29.2			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	4	壺 口縁部	15			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、磨き	ナデ	黒斑有り
◇	◇	5	壺 口縁部	23.8			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、磨き	ヨコナデ	浅い沈線
◇	◇	6	壺 口縁部	24			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	茶褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ハケ目後ナデ	
◇	◇	7	壺 口縁部	17.6			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色/黄灰褐色	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	8	壺 口頸部				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	磨き	ナデ、ヘラ調整後 ナデ	
◇	◇	9	壺 口縁部	16			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色/淡褐色	やや不良	不明	ヨコナデ	
◇	◇	10	壺 口縁部				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	ナデ	不明	
◇	◇	11	甕 口縁部				1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	12	大型壺 口縁部	51.4			1~12mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ調 整後ナデ	ヨコナデ、一部磨き	
第45図	◇	13	甕蓋	28.7	つまみ部 5.2	11.2	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰赤褐色	やや不良	ハケ目、ナデ	、一部磨き	スス付着
◇	◇	14	甕 口縁部	22.8			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色/茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ナデ	沈線
◇	◇	15	甕 口縁部	25.8			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	茶黄褐色/黄赤褐色	普通	ナデ	ナデ	黒斑有り
◇	◇	16	甕 口縁部	25			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
◇	◇	17	甕 口縁部	24.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	やや不良	不明(磨耗)	不明(磨耗)	

表 11 西山ノ上遺跡2次 SB・SK・SX・SD・ピット 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺物	通物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◆	◆	18	甕 口縁部	25			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	
◆	◆	19	甕 口縁部	28.4			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	20	甕 口縁部	19.6			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	
◆	◆	21	甕 口縁部	28.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色／黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	22	甕 口縁部	23.2			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	不明	ナデ	
◆	◆	23	甕 口縁部	25.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ナデ	ナデ	スス付着
◆	◆	24	甕 口縁部	30.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
◆	◆	25	甕 口縁部				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	26	甕 口縁部	28			砂粒を含む。	淡褐色	普通	刻み目、ハケ目、 ヨコナデ	ナデ	黒斑有り
◆	◆	27	甕 口縁部細片				1~8mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	刻み目、ヨコナデ	ヨコナデ	
◆	◆	28	甕 口縁部細片				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	刻み目、ヨコナデ	ナデ	
第46図	◆	29	壺 底部		11		1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	灰黄褐色	普通	ヘラ調整後ナデ	ヘラ調整	
	◆	30	甕 底部		8.6		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤茶褐色	普通	ハケ目後ナデ	ナデ	
	◆	31	壺 底部		9.8		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ナデ一部磨き	不明	
	◆	32	壺 底部		8.2		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通	磨き	ナデ	
	◆	33	壺 底部		7.8		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ハケ目後ナデ	ナデ	
	◆	34	壺 底部		6.6		149mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	
	◆	35	壺 底部		8.8		砂粒を含む。	明黄茶褐色	やや不良	ハケ目後ナデ	不明	
	◆	36	壺 底部		11		1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色／淡黄灰褐色	やや不良	ハケ目	不明	
	◆	37	甕 底部		9.7		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	
	◆	38	甕 底部		7.7		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色／黄褐色	やや不良	不明	ヘラ調整	
	◆	39	壺 底部		8		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ナデ	ナデ	
	◆	40	甕 底部		8.1		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
	◆	41	甕 底部		8.4		1~8mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	不明	ナデ	
	◆	42	甕 底部		7.4		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ナデ、ヨコナデ	ナデ	孔有り
	◆	43	甕 底部		6.4		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色／暗灰褐色	やや不良	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	
	◆	44	甕 底部		8		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色／淡褐色	普通	ハケ目	ナデ	
	◆	45	甕 底部		7.2		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	ハケ目	不明	
	◆	SK77	1 甕 口縁部	17.4			砂粒を含む。赤粒子が混じる	淡黄灰褐色	やや不良	ハケ目	不明	
	◆	2	甕 底部		6.5		砂粒を含む。赤粒子が混じる	淡黄灰褐色	やや不良	ハケ目	不明	
第47図	SK79	1	甕蓋		24		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ハケ目後ナデ	ナデ、ヨコナデ	
	◆	2	甕蓋		22		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	内面にスス付着
	◆	3	甕 口縁部	17.6			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
	◆	4	甕 口縁部細片				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色／黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	沈線
	◆	5	甕 底部		7		小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目	ナデ	
	◆	6	甕 底部		6.3		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
	◆	SK80	1 甕 口縁部	24 (19.8)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	不明	ナデ	
	◆	2	甕 口縁部	28.8 (25.8)			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ハケ目		沈線
	◆	3	甕 口縁部	22.4			砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	不明	ヨコナデ、ナデ	
	◆	4	甕 底部		8.2		1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	やや不良	不明	ハケ目	
第48図	SK83	1	壺	18.3			1~10mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色にわずかに茶褐色／淡褐色	普通	ハケ目後磨き	ハケ目後磨き 一部ヘラ調整	浅い沈線、黒斑有り
	◆	2	甕 口縁部	20			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色／淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	沈線
	◆	3	甕 口縁部	18			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色／茶灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヘラ調整	沈線
	◆	4	甕 底部		7		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰茶褐色	普通	ハケ目	ヘラ調整	
	◆	SK84	1 甕 口縁部	21.2			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	茶黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヘラ調整	
	◆	SK85	1 甕 口縁部	15.5			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
	◆	2	甕 口縁部				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	茶褐色	やや不良	不明	ナデ	
	◆	SK86	1 甕 口縁部	24.8			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	スス付着

表 11 西山ノ上遺跡 2 次 SB・SK・SX・SD・ピット 出土土器観察表

押図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◇	◇	2	甕 口縁部	28.2 (24.6)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	スス付着
◇	◇	3	甕 口縁部	23			1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
◇	◇	4	甕 口縁部	20.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	5	甕 底部		7.7		1~3mm大の小石が多く混じる。 砂粒を含む。	灰黄褐色	やや不良	不明	ナデ	
◇	◇	6	甕 底部		6		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	灰茶褐色	普通	ハケ目後ヘラ調整	ナデ	
◇	◇	7	甕 底部		7.1		1~8mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	黄茶褐色	やや不良	ハケ目(磨耗)	不明	
◇	◇	8	甕 底部		7.5		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	淡黄褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	
◇	◇	9	甕 底部		6.5		砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	磨き	ナデ	
◇	SK88	1	甕 口縁部	22.4			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ	ナデ	
◇	SK90	1	甕 底部		6.4		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色/淡黄灰褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	孔をあけようとした痕跡有
◇	SK93	1	甕 口縁部	18			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、磨き	ナデ	
◇	◇	2	甕 口縁部				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	不明	ナデ	
◇	◇	3	甕 口縁部	27.4			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
◇	◇	4	器台	9.5			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色/淡黄灰黒褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	5	壺 底部		6.6		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	不明	ナデ	
◇	◇	6	甕 底部		5.9		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶灰褐色	やや不良	ハケ目(磨耗)	ナデ	
◇	◇	7	支脚		6.6	13.5	砂粒を含む。	暗黄茶褐色	やや不良			
◇	◇	8	支脚									
◇	SK95	1	甕 底部		6.3		小石が混じる。砂粒を含む。	暗灰黄赤褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	
第49図	SX06	1	甕 口縁部	29.8			砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目(やや磨耗)	ナデ	浅い沈線
◇	◇	2	甕 口縁部	27.4			砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目 (やや磨耗)	ナデ	
◇	◇	3	甕 口縁部	23.8			砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目 (やや磨耗)	ナデ	
◇	◇	4	甕 口縁部	22.4			砂粒を含む。赤粒子が混じる。	淡黄褐色	やや不良	不明(磨耗)	ナデ(磨耗)	浅い沈線
◇	◇	5	甕 口縁部				砂粒を含む。	暗褐色	やや不良	ヨコナデ ハケ目	ナデ	スス付着
◇	◇	6	壺 底部		7		砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	磨き	磨き	黒斑有り
◇	SX07	1	甕 口縁部	25			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	刻目、ハケ目、ナデ	ヘラ調整	
◇	◇	2	甕 底部		7.2		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤茶黄褐色/黄灰褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ナデ(磨耗)	
◇	SX08	1	甕 底部		4.5		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	不良	ハケ目(やや磨耗)	不明	
◇	◇	2	甕 底部		6.2		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色	やや不良	ハケ目(やや磨耗)	不明	
◇	SX09	1	壺	14.8			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄橙褐色	やや不良	ハケ目(やや磨 耗)、ナデ	ヨコナデ	
◇	◇	2	壺 口縁部				砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ハケ目後ナデ	ヨコナデ、ヨコハケ	
◇	◇	3	脚付壺	18			1~5mm大の小石が多く混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	黄灰褐色/黄茶褐色	やや不良	ヘラ調整後ナデ	ヘラ調整	黒斑有り
◇	◇	4	鉢	20.6			1~5mm大の小石が多く混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色/黄茶褐色	やや不良	不明	ハケ目	黒斑有り
◇	◇	5	鉢 底部		5.6		1~5mm大の小石が多く混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヘラ調整	ハケ目	
◇	◇	6	甕 口縁部	11.4			小石が多く混じる。砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目	ハケ目後ナデ	
◇	◇	7	甕	17.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ハケ目後ナデ	スス付着
◇	◇	8	甕	15.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色/茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ヨコナデ、ヘラ調整	
◇	◇	9	甕 口縁部				1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	茶灰褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラ調整	
◇	◇	10	甕 口縁部	29			小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色に丹塗	普通	丹塗、ヨコナデ	丹塗、ヨコナデ	薄く暗文有り
◇	◇	11	甕 口縁部	29.8			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
第50図	◇	12	手捏土器	7	1.6	5.3	砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	指ナデ	指ナデ	黒斑有り
◇	◇	13	手捏土器		2.2		砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	14	支脚		7		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	15	支脚				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通			
◇	◇	16	支脚	7	11	10.5	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色/暗茶褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◇	◇	17	支脚	6.4			1~10mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ナデ	ヨコナデ	
◇	◇	18	器台		12		1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ハケ目	ヘラ調整後ナデ	
◇	◇	19	器台		15		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色/暗灰褐色	普通	ナデ、ハケ目	ナデ	
◇	◇	20	器台		13		砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	不明	ナデ	
◇	◇	21	蓋 つまみ片		つまみ 径5.8		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	22	甕 口縁部	19.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	沈線
◇	◇	23	甕 口縁部	21.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色/黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	沈線

表 11 西山ノ上遺跡 2 次 SB・SK・SX・SD・ピット 出土土器観察表

採図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◆	◆	24	甕 口縁部	18.2			砂粒を含む。	淡黄茶褐色／淡黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	浅い沈線
◆	◆	25	甕 口縁部	18.4			砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	浅い沈線
◆	◆	26	甕 口縁部	22 (18)			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	27	甕 口縁部	15.6			小石が混じる。砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ後ヘラ文 様、ハケ目、刻目	ナデ	
◆	◆	28	甕 口縁部	22.6			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	刻目ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
◆	◆	29	甕 口縁部	20.4			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◆	◆	30	甕 口縁部	26.2			1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	明茶灰褐色	やや不良	ハケ目	ヨコナデ	
◆	◆	31	甕 底部		6.5		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ナデ	ヘラ調整	黒斑有り
◆	◆	32	甕 底部		6		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◆	◆	33	甕 底部		5.6		1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	黄灰褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	
◆	◆	34	甕 底部		7.8		砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目、ヘラ調整	ナデ	
◆	◆	35	甕 底部		6.2		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ ハケ目	不明	
◆	◆	36	甕 底部		6.6		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄橙褐色	普通	ハケ目後ヘラ調整	ナデ	
◆	◆	37	甕 底部		5.6		1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	不明	ナデ	
◆	◆	38	甕 底部		7.6		1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色／暗灰褐色	普通	ハケ目	ナデ	
第51図	SX10	1	鉢 口縁部	6.6			1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ヘラ調整	
◆	◆	2	甕 底部		7.6		1～6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色／黒褐色	普通	ナデ	ヘラ調整	
◆	◆	3	甕 口縁部細片				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤茶褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ナデ	
◆	SX11	1	甕 口縁部	11.6			小石が混じる。砂粒を含む。	暗褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ヘラ調整	スス付着
◆	◆	2	鉢	8.6			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◆	◆	3	器台		8		小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
◆	◆	4	甕 口縁部	18.2			1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ナデ	
◆	◆	5	甕 底部		6.8		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色／淡茶褐色	やや不良	ハケ目	不明	
第52図	SD01	1	瓦器 埴 底部		7.2		砂粒を含む。	淡灰黒褐色	不良	不明	ナデ	
◆	◆	2	須恵器 甕				砂粒を含むが精選されている。	淡黄灰褐色	良好	格目タタキ	青海波状文、タタキ	
◆	◆	3	甕 口縁部	22			小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目後ナデ	
◆	◆	4	甕 底部片		4.8		小石が混じる。砂粒を含む。 赤粒子が混じる。	赤茶褐色	やや不良	不明	ハケ目後、ナデ	
◆	SD08	1	須恵器 鉢 口 縁部	28			砂粒を含むが精選されている。	暗灰褐色	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	
◆	◆	2	甕 底部		7.2		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗茶灰褐色	やや不良	ハケ目		
◆	SD09	1	陶器 埴	10			精選されている。	暗黄茶褐色／暗黄褐色	良好	施釉	施釉	貫入有り
◆	◆	2	土師器甕 口縁 部	24			砂粒を含む。	灰白色の胎に透明な淡緑色の釉がかかる。	やや不良	不明	不明	
◆	◆	3	弥生器台 底部 細片				砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	ハケ目	ヨコ方向のハケ目	
第53図	SD10	1	白磁 皿	9	3.8	2.2	精選されている。	白灰色の胎に灰白色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◆	◆	2	白磁 皿	4.3			精選されている。	淡灰色の胎に灰色の光沢のある釉がかかる。	良好	施釉	施釉	貫入有り、内面見込みに 目跡、3ヶ所有
◆	◆	3	陶器 甕		12.2		砂粒を含むが精選されている。	黄褐色の胎に(外)黒褐色、(内)白褐色、 (底)茶褐色の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◆	◆	4	陶器 甕		15.8		砂粒を含むが精選されている。	暗灰色の胎に緑灰色(一部緑色)の釉がかかる。	良好	施釉	施釉	
◆	◆	5	須恵器 甕				砂粒を含むが精選されている。	灰色	良好	タタキ目	青海波状文	
◆	◆	6	瓦				小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通			
◆	◆	7	瓦									布目痕有り
◆	◆	8	弥生甕 口縁部	16.8			1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	やや不良	不明	ナデ	
◆	◆	9	弥生甕 口縁部	25			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
◆	◆	10	弥生甕 口縁部	24.6			1～6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通	ハケ目後ヨコナ デ	ナデ	
◆	◆	11	弥生甕 口縁部	27			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	12	弥生甕 口縁部	20.6			1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	13	弥生甕 口縁部	28.6			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	14	弥生甕 底部片		8		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◆	◆	15	弥生甕 底部片		6.6		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤茶暗褐色	やや不良	ハケ目、ナデ	不明	
◆	◆	16	弥生甕 底部片		6.6		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	ハケ目	ナデ	
◆	◆	17	弥生甕 底部片		7		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ナデ	不明	
◆	◆	18	弥生甕 底部片		7		小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰褐色	不良	不明	不明	
第54図	A2-P14	1	甕 口縁部	20.4			1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色／黄灰褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ナデ	
◆	A2-P14	2	甕 底部		11.4		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ナデ	ナデ	
◆	A2-P23	3	壺 底部		4.8		砂粒を含む。	黄褐色	不良	不明	不明	
◆	A3-P25	4	鉢	20.2	11.6	6.1	砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	ナデ	ハケ目後ナデ	黒斑有り

表 11 西山ノ上遺跡 2次 SB・SK・SX・SD・ピット 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◇	A2-P32	5	甕 底部		7.3		砂粒を含む。	淡黄褐色／暗灰褐色	普通	ハケ目後ナデ	ナデ	
◇	A2-P21	6	壺 底部		6		砂粒を含む。	灰黄褐色／黄褐色	普通	ナデ	ヘラ調整	
◇	A3-P27	7	鉢 口縁部	17			砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗茶褐色	やや不良	不明(磨耗)	ナデ	
◇	A3-P27	8	壺 底部		9.2		砂粒を含む。	黒灰褐色／暗茶黒褐色	普通	磨き	ヘラ調整	
◇	A3-P27	9	壺 底部		6		砂粒を含む。	黒灰褐色	普通	磨き	磨き後ヘラナデ	
◇	A3-P27	10	甕 口縁部	27.8 (24.6)			1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ヨコナデ	
◇	A3-P27	11	甕 口縁部	30.6 (26.2)			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ヨコナデ	ナデ	
◇	A3-P31	12	甕 口縁部	24 (20.4)			砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	A3-P31	13	器台		7.8		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通	ハケ目後ナデ、ヨ コナデ	ヨコナデ	
◇	A3-P33	14	壺 口縁部	18.6			砂粒を含む。赤粒子が混じる。	淡黄褐色	やや不良	不明(磨耗)	不明	
◇	A3-P33	15	甕 口縁部	19.8			砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	A3-P33	16	甕 底部				1～6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目後ナデ	
◇	A3-P33	17	鉢	13.4			1～8mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰褐色	やや不良	ヘラ調整	ハケ目後ナデ	
◇	A3-P34	18	甕 口縁部	21.6 (18.2)			1～8mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ナデ、ハケ目	ナデ	黒斑有り
◇	A3-P34	19	器台 底部		7.8		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	淡黄褐色	普通	ハケ目(磨耗)	ナデ、ヨコハケ目	
◇	A3-P37	20	甕 口縁部	18			砂粒を含む。	淡黄茶褐色	やや不良	不明	不明	
◇	A3-P44	21	壺 底部		4.6		1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黒褐色	普通	ナデ	ハケ目	
◇	A3-P48	22	甕 底部		5.6		1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ハケ目(磨耗)	ナデ	
◇	B2-P30	23	甕 口縁部	20			砂粒を含む。	淡黄褐色／黄茶褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ナデ	
◇	B2-P41	24	甕 口縁部	24			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ナデ	
◇	B2-P57	25	鉢 口縁部	15.4			1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色／黄赤褐色	やや不良	ヨコナデ	ハケ目、ナデ	
◇	B2-P60	26	器台	7.4			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目、ヘラ調整	
◇	B3-P64	27	壺 口縁部	20.4			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ	磨き、磨き後ヨコナデ	
第55図	B3-P72	28	甕 口縁部	24.4			1～9mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色／淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ ハケ目	ヨコナデ、ナデ	スス付着
◇	B3-P88	29	甕 口縁部	24.6 (20.29)			砂粒を含む。	黄茶灰褐色	やや不良	ヨコナデ ハケ目	ナデ	
◇	B3-P103	30	壺 口縁部	20			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	B3-P109	31	甕 口縁部	23			砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ ハケ目 (磨耗)	ナデ	
◇	B3-P118	32	甕 口縁部	21.6 (20.4)			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄明褐色	普通	ヨコナデ ハケ目	ナデ	
◇	B3-P118	33	甕 口縁部	19.4			砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ ハケ目 (磨耗)	ナデ	
◇	B3-P119	34	甕 口縁部	24			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ ハケ目 (磨耗)	ナデ	
◇	B3-P121	35	壺 底部		8		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色／黒褐色	普通	不明	磨き	
◇	B3-P121	36	壺 底部		8		1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄赤褐色／暗褐色	普通	ハケ目、ナデ	ハケ目後ナデ	
◇	B3-P124	37	甕 底部		7.8		1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ハケ目	不明	

表 11 西山ノ上遺跡 2 次 SB・SK・SX・SD・ピット 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	備 考
第56図	SB-16	1	紡錘車	径3.9	1.7	完形品
◇	SB-16	2	紡錘車	径4.1	2.4	孔径0.4
◇	SB-14	3	投弾	長さ3.8 径2.4		

表 12 西山ノ上遺跡 2 次 出土土製品観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	色 調	備 考
第57図	SB-16	1	ガラス玉	径0.47	0.47	コバルトブルー	孔径0.15

表 13 西山ノ上遺跡 2 次 出土ガラス製品観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	備 考
第58図	SX-09	1	太型蛤刃石斧		4.2	安山岩	
◇	SX-09	2	石斧		4.1	安山岩	
◇	SD-09	1	石斧未製品			安山岩	
◇	B-3区 P-77	1	石斧			安山岩	細片
第59図	SB-13	1	石鏃		0.6	サヌカイト	未製品
◇	SB-13	2	石鏃		0.3	サヌカイト	未製品
◇	SB-13	3	石鏃	3.9	0.6	サヌカイト	
◇	SB-14	4	剥片		0.4	黒曜石	
◇	SB-16	5	石鏃		0.4	サヌカイト	
◇	SB-16	6	石鏃		0.5	サヌカイト	
◇	SB-16	7	石鏃		0.5	サヌカイト	
◇	SK-61	8	石鏃		0.7	粘板岩	
◇	SK-70	9	剥片		0.4	黒曜石	
◇	SK77	10	石鏃	2.1	0.4	サヌカイト	
◇	B-2区 Pit-59	11	石鏃	3.8	0.5	サヌカイト	
◇	SB-16	12	石匙		0.5	サヌカイト	
◇	SB-13	13	石鏃			サヌカイト	
◇	SK-70	14	石錐	4.5	0.7	サヌカイト	
◇	SK-79	15	剣(細片)		0.7	粘板岩	
◇	SK-59	16	磨製石鏃	長さ6.4 幅1.45	0.4	頁岩	
◇	SK-61	17	磨製石鏃	長さ3.6 幅1.3	0.2	粘板岩	
◇	SB-15	18	石錐	6	1.3	粘板岩	
◇	SX-09	19	石庖丁		0.6	頁岩	
◇	SB-14	20	紡錘車	直径4.4	0.4	砂岩	孔径0.4
◇	SB-18	21	紡錘車	直径4.6	0.8	滑石	孔径0.6
第60図	SB-13	1	台石	27.3	8.9	安山岩	
◇	SB-15	2	台石		4.5	石英長石斑岩	
◇	SK-70	3	くぼみ石	10.6	4	安山岩	
◇	SK-70	4	くぼみ石	10.6	5.2	安山岩	
◇	SX-08	5	砥石	23.2	10.2	石英長石斑岩	
◇	SX-09	6	磨石		5	安山岩	
◇	SX-09	7	磨石	7.1	4.2	安山岩	
◇	SX-09	8	磨石		5	安山岩	
◇	SD-09	9	磨石		10.1	安山岩	
◇	SD-09	10	くぼみ石		4.1	安山岩	
◇	SD-10	11	台石		4.1	安山岩	

表 14 西山ノ上遺跡 2 次 出土石製品観察表

8 室岡山ノ上遺跡

(1) 調査の概要

室岡山ノ上遺跡は八女市室岡字山ノ上に所在する。西山ノ上遺跡（1・2次調査）の東側にある市道岡山40号線の東側隣接地である。遺跡の存在する台地の最も高い部分は南側の縁辺部で、標高33.4mを測る。この台地は緩やかに南西側に向かって下る。今回の調査区の東端で標高31.5m、西端で標高28.5mを測り、約3mの比高差がみられる。

今回の発掘調査は西側に向かって下る緩斜面部分にあたり、調査前は一面の茶畑であった。調査は用地取得の終了した部分の延長約70m、道路幅と法面の部分を入れた幅約40m、約2600㎡の発掘調査を実施した。

発掘調査の結果、調査区の西側緩斜面については遺構の残りは非常に良く、北側は茶畑造成時に一部掘削を受けていた。

(2) 遺構と遺物

今回発見され遺構は、竪穴住居16軒、土壇67基、環濠3条、溝7条、円形周溝状遺構1基、多数の柱穴がある。遺構はほぼ全域で検出され、環濠のみ中央から東側で発見されている。

竪穴住居（SB）

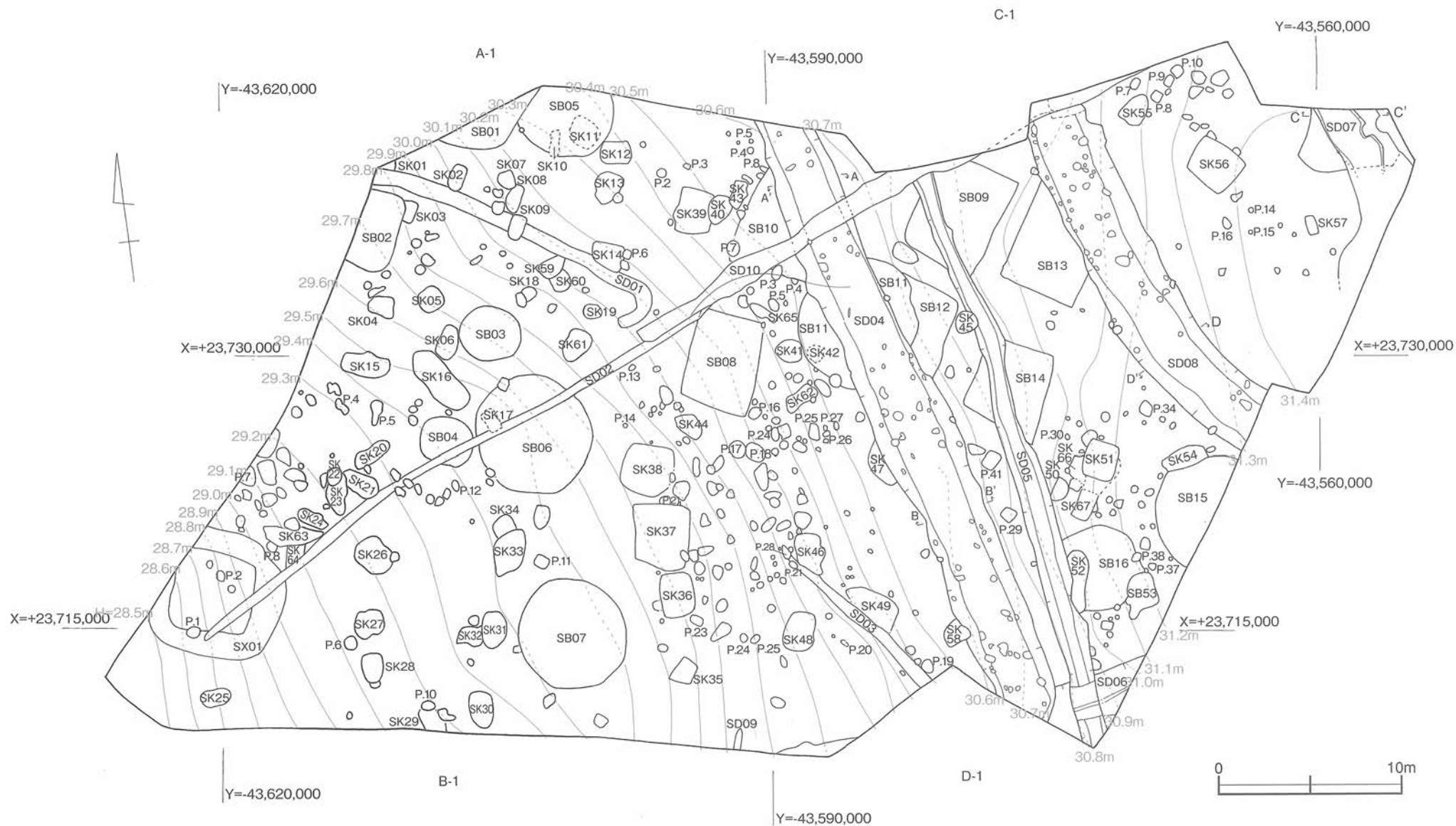
竪穴住居は調査区のほぼ全体から円形の竪穴住居8軒、方形の竪穴住居8軒が発見された。円形の竪穴住居は調査区のほぼ全域にあり2軒程がグループを形成するような様子であり、全体に削平は余り受けていず、壁面や床面が良く残っていた。長方形の竪穴住居は調査区の中央北側に集中する。長方形の竪穴住居同士の切り合いはなく、ほぼ同じ時期に存在したものと思われる。

SB01（第62・76・107図、図版24）

SB05を切っているがよく残っている。ややいびつな円形竪穴住居で、規模を復原すると直径約8mとなる。全体に床面まで壁は20-25cmよく残っている。床面はほぼ平坦で、1本のみ柱穴が検出された。主軸となる柱穴及び、床面中央のピットは不明。また、壁面下に幅10-15cmの周溝が廻っている。遺物として壺、甕、砂岩製砥石、サヌカイト製石鏃、黒曜石製石鏃が出土している。

SB02（第62・76・101図、図版24）

調査区の西端で1/3程検出された。南北の長さ4.2m、東西の長さ1.7+a m、方形の竪穴住居で、全体に床面まで壁は40-50cm程と良く残っている。床面は南側が低くなる。北壁側に接して床面より10cm程部分があり、ベット状の遺構とも考えられる。南側壁に沿って床面よ



第 61 図 室岡山ノ上遺跡 遺構配置図 [1/300]

り10cm程低い部分がある。床面に直径15cmの小ピットがあるが、浅く柱穴とは考え難い。出土遺物として、高坏、甕、土製紡錘車が出土している。

SB03 (第62・77図)

SB06、SD04に接して発見された。南北の長さ2.9m、東西の長さ3.3m、ほぼ円形の小型竪穴住居で、全体に床面まで壁は40-50cmと良く残っている。床面は平坦で東壁に接して40-60cm、深さ55cmの土壇があり、床面中央には直径25cm、深さ45cmの小ピットがある。その他のピットはいずれも浅い。出土遺物として、高坏、甕が出土している。

SB04 (第63・77・104図)

SB03、SB06に接して発見されたが、SD02によって切られている。南北の長さ2.8m、東西の長さ2.55m、わずかに楕円形の小型竪穴住居で、全体に床面まで壁は10-15cm残っている。床面は平坦で中央には直径20cm、深さ25cmの小ピットがある。その他のピットはいずれも浅い。出土遺物として、高坏、甕、片岩製紡錘車が出土している。

SB05 (第62・77・101・102・107図、図版24)

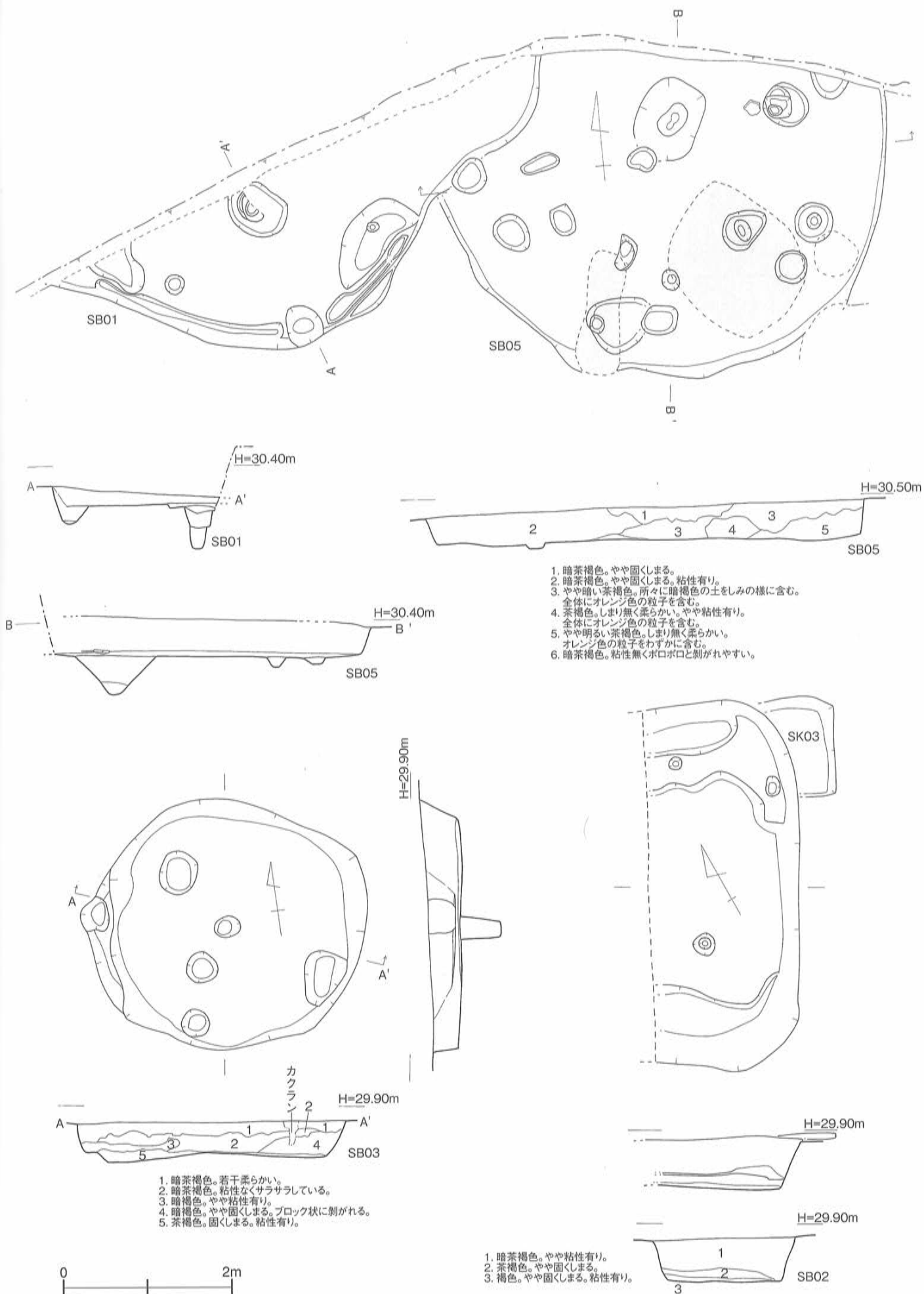
調査区の北端で2/3程検出された。SB01によって切られているが、東西で長さ5.4mの円形に近い竪穴住居である。全体に床面まで壁は30-40cmと壁が良く残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は残りが良く、主軸となる直径35cm、深さ40cmの柱穴は南壁から1.3mのところにある。また、床面中央に南北の長さ100cm、東西の長さ75cm、深さ45cmの楕円形のピットが検出され、楕円形ピットの南側に直径40cmのピットがあるが北側は壁際のため検出できなかった。また、壁面から約1.3m前後の部分に直径30-40cm、深さ50cm前後のピットが規則的に円状に周っている。出土遺物として壺、甕、土製投弾1、黒曜石製石鏃2、サヌカイト製石鏃3、サヌカイト製ナイフ、台石、磨石、片岩製石庖丁未製品。

SB06 (第63・77・78・101・102・107・108・109図、図版24)

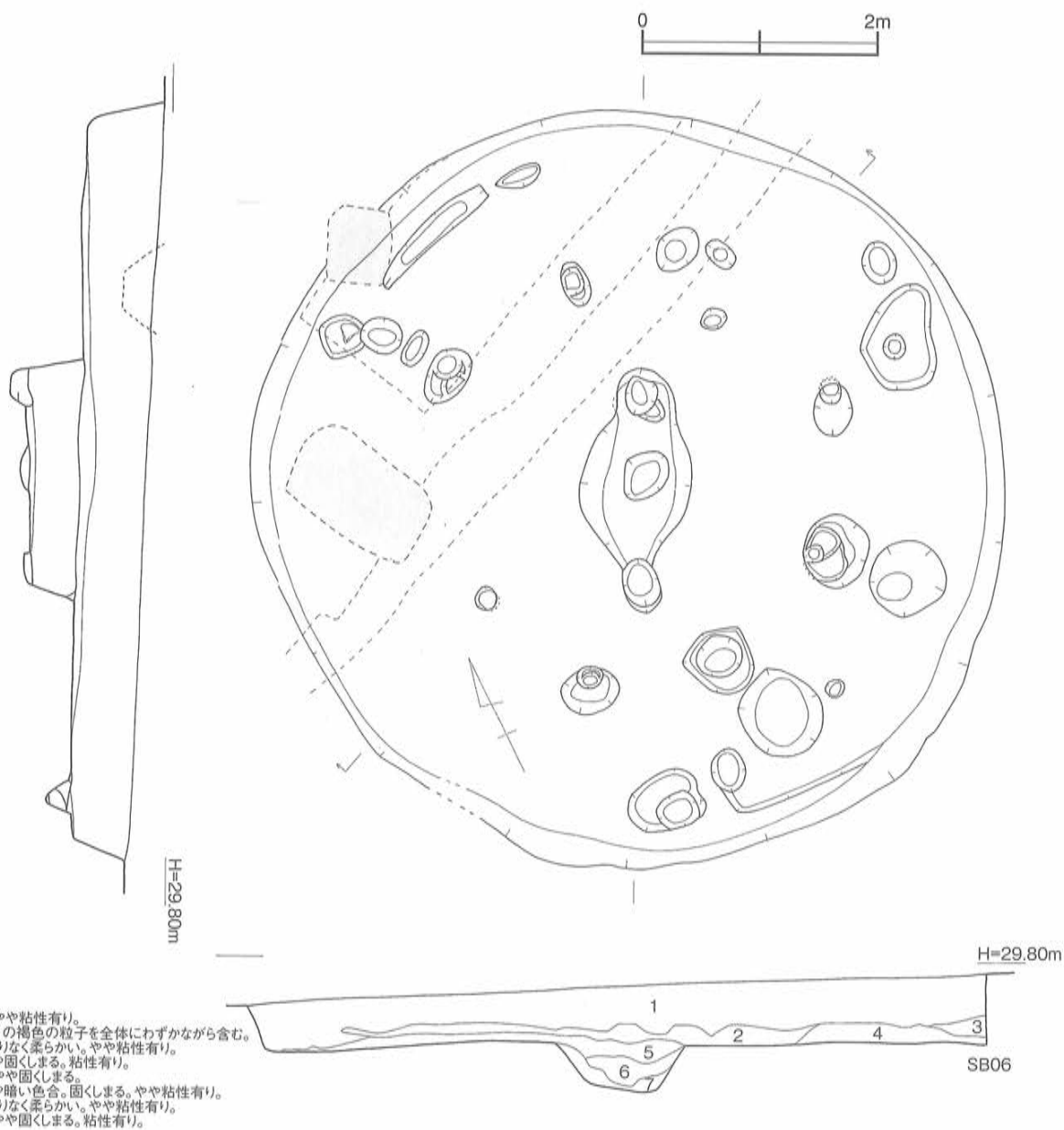
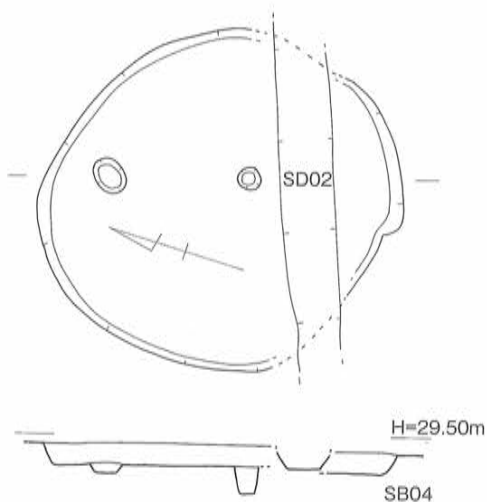
SB03、04の小型竪穴住居と近接して発見された。SD02によって切られている。南北で長さ6.5m、東西で長さ6.3mの正円形に近い竪穴住居である。全体に床面まで壁は45-70cmと非常に良く残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は残りが良く、主軸となる直径35cm、深さ55cmの柱穴は南北壁から1.2-1.5mのところにある。また、床面中央に南北の長さ1.5m、東西の長さ1.0cm、深さ50cmの楕円形のピットが検出され、楕円形ピットの両側に直径25-30cm、深さ45cmのピットがある。また、壁面から約1.5m前後の部分に直径30-40cm、深さ30cm前後のピットが規則的に円状に周っている。出土遺物として壺、甕、土製投弾13、砂岩製石剣片1、砂石製砥石2、黒曜石製石鏃1、サヌカイト製石鏃4、大型石鏃1、サヌカイト製ナイフ、台石、凹石が出土している。

SB07 (第64・78・79・104・107・108図、図版25)

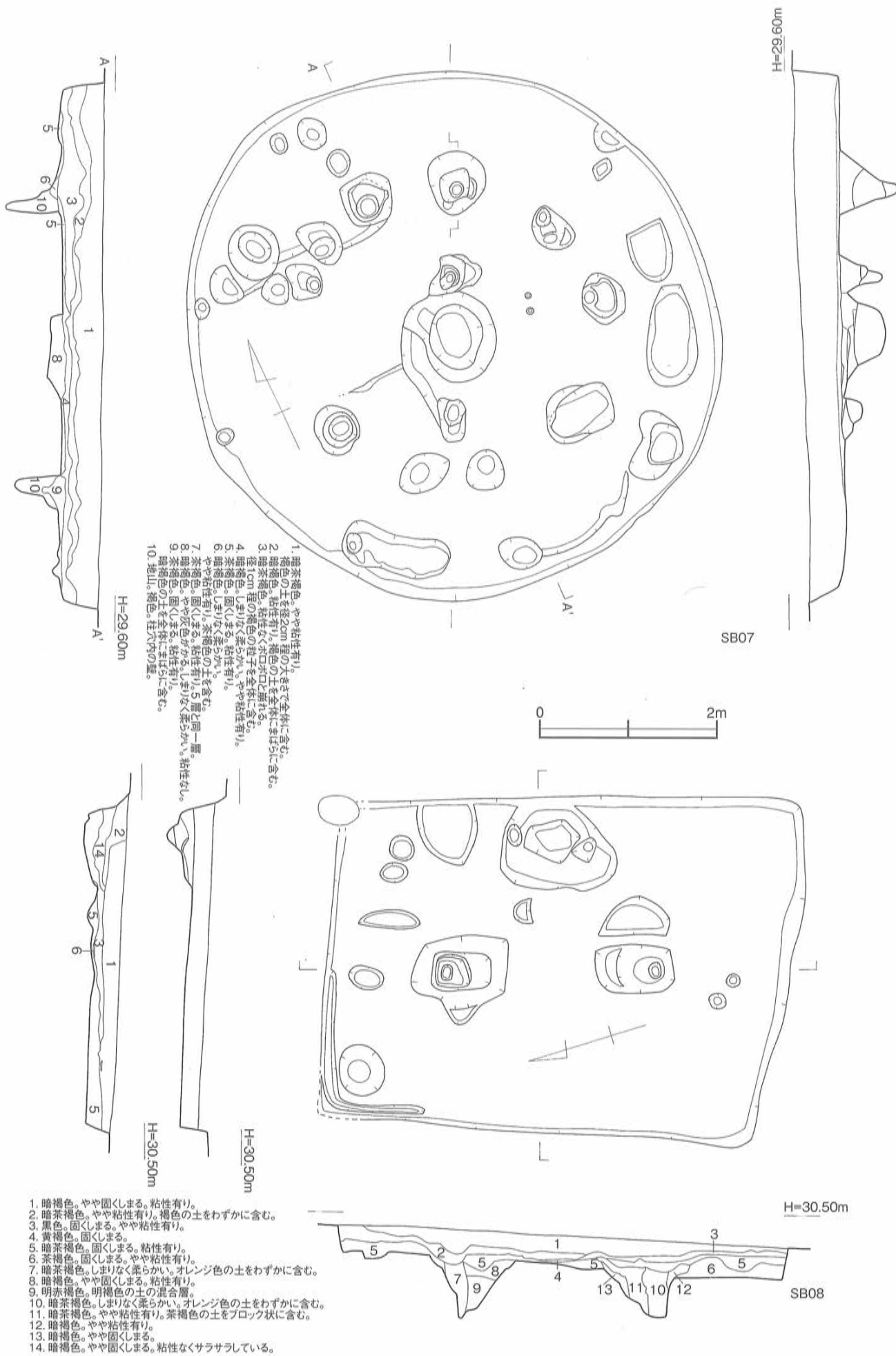
調査区の南端で発見された。斜面にあったためか削平を受けず良く残っている。南北で長さ6.0m、東西で長さ6.05mの正円形に近い竪穴住居である。全体に床面まで壁は35-55cmと非常に良く残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は残りが良く、主軸となる直径35cm、深さ50-60cmの柱穴は南北壁から1.5mのところにある。また、床面中央に南北の長さ1.0m、東西の長さ80cm、深さ50cmの楕円形のピットが検出され、楕円形ピットの両側に直径30cm、深さ20cmのピットがある。また、壁面から約1.5m前後の部分に直径40-50cm、



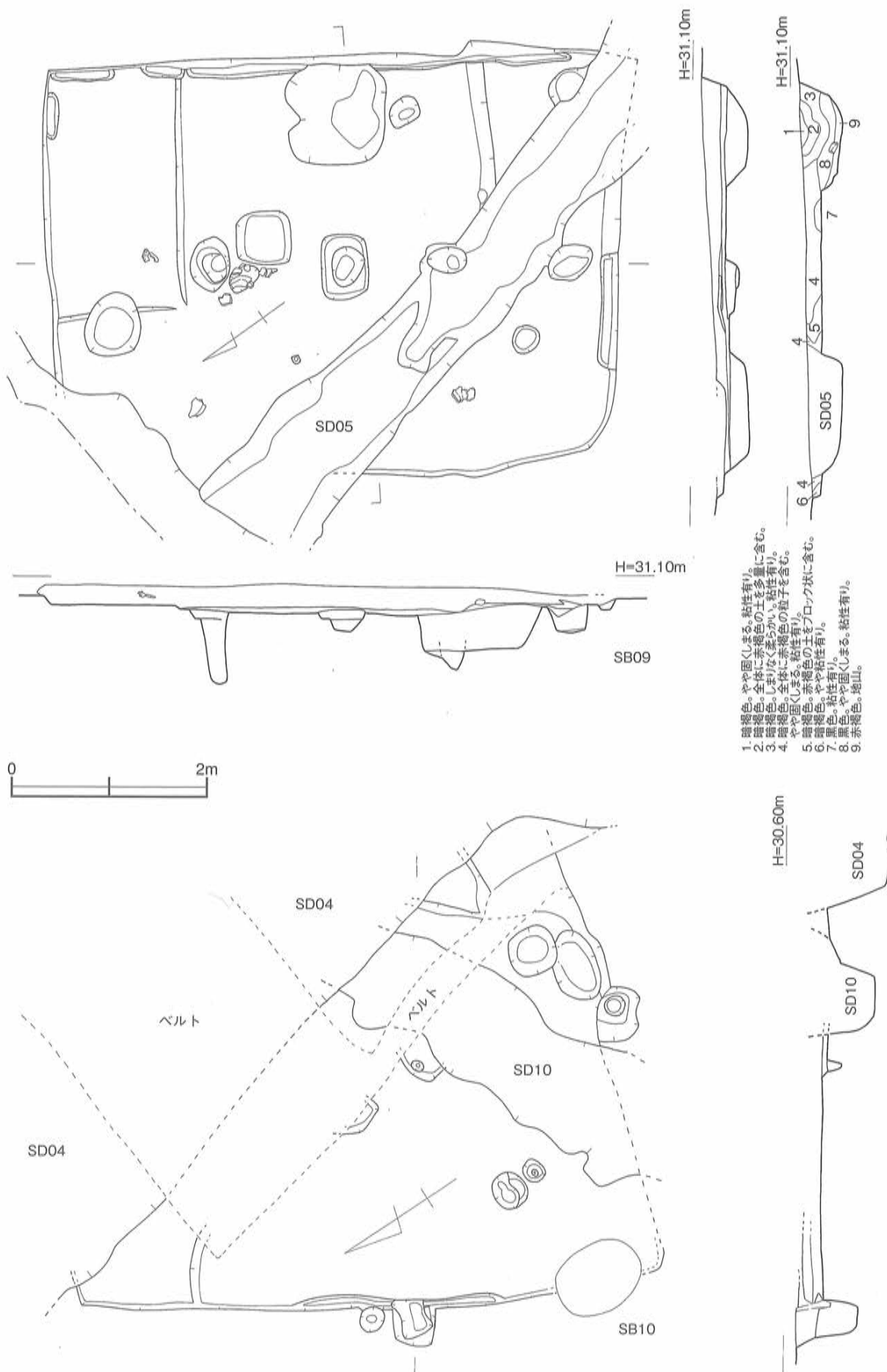
第 62 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB01・02・03・05) 土壌 (SK03) 実測図 [1/60]



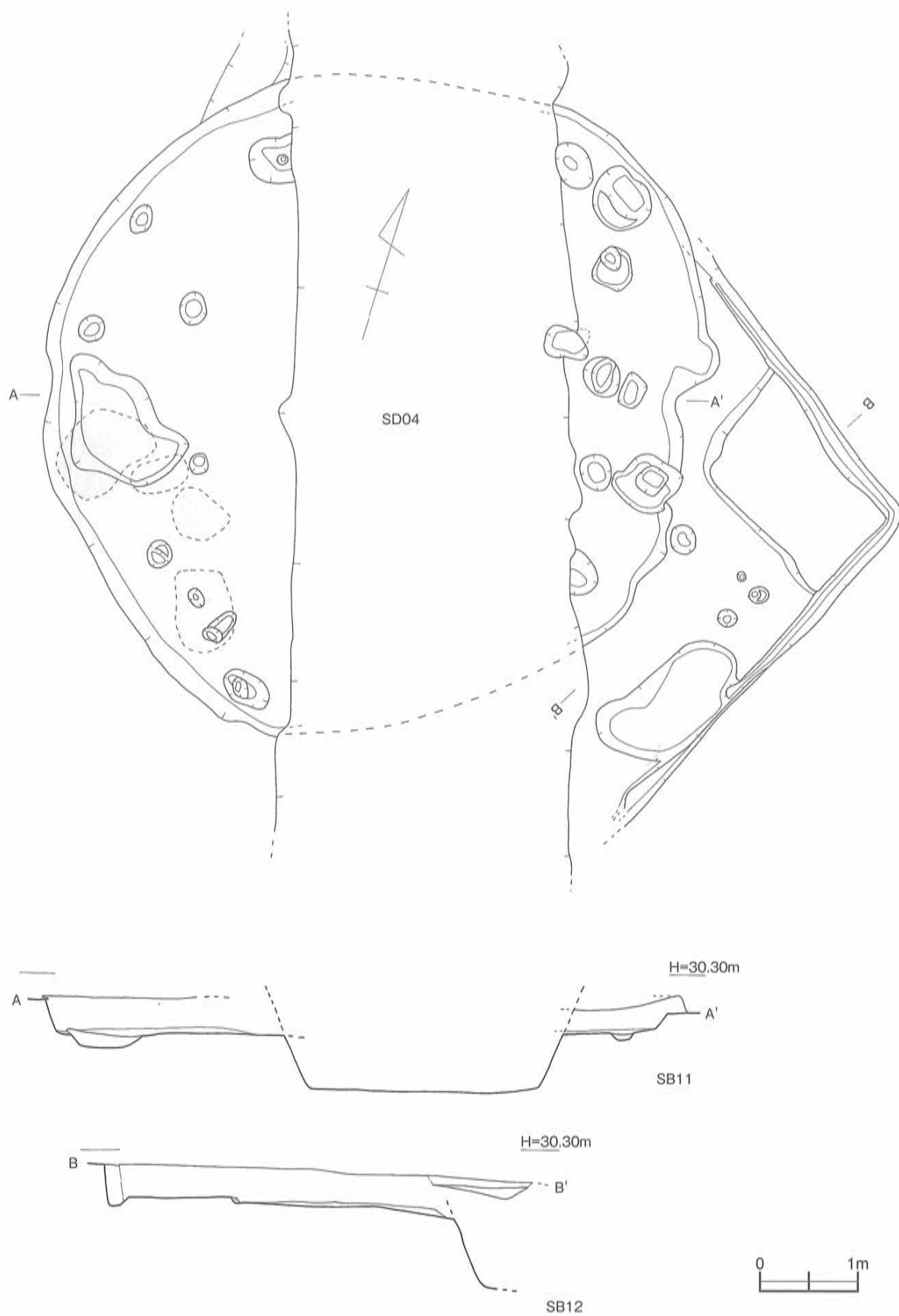
第 63 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB04・06) 実測図 [1/60]



第 64 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB07・08) 実測図 [1/60]



第 65 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB09・10) 実測図 [1/60]



第 66 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB11・12) 実測図 [1/60]

深さ50-60cm前後のピットが規則的に円状に周っている。出土遺物として壺、甕、長石斑岩製砥石2、黒曜石製石鏃1、サヌカイト製石鏃4、大型石鏃1、片岩製紡錘車未製品が出土している。SB08（第64・79・105図、図版25）

調査区のほぼ中央に発見されたが、SD02とSD10によって切られている。南北の長さ5.2m、東西の長さ3.75m、長方形の竪穴住居で全体に良く残っている。床面まで壁は30-40cmと良く残っている。床面は南側が低くつくられており、25cm程の差がある。床面には東壁に接して一辺1m、深さ30cm程の土壇があり、床面には南北壁から1.3m離れて主柱と思われる南北70-80cm東西40-50cm、深さ70cmで長方形のピットが2個あり、南北棟の建物と思われる。出土遺物として、高坏、甕、砥石、片岩製石庖丁未製品が出土している。

SB09（第65・80・81・102・105・107・108・109図）

調査区北側にSB13とほぼ並んで発見されたが、SD05によって切られている。南北の長さ5.85m、東西の長さ4.30m、長方形の竪穴住居で攪乱を受けているが良く残っている。床面まで壁は10-15cm残っている。床面はほぼ平坦で床面には東壁に接して一辺1m、深さ25cm程の土壇があり、床面には南北壁から1.5m離れて主柱と思われる直径40cm、深さ50-70cmのピットが2個あり、南北棟の建物と思われ、中央にも50×65cm、方形のピットが存在する。また、北と南壁に接して2.0m×1.4mのベット状遺構が造り出されており、東壁下と北壁の一部に周溝が廻らされている。出土遺物として、床面からやや浮き上がった状態で高坏、甕が、サヌカイト製石鏃3、サヌカイト製石錐、砂岩製砥石、片岩製石庖丁、磨石が出土している。SB10（第65・81図）

SD04、SD10によって切られており、わずかに西側の壁の一部が残っているにすぎない。南北の長さ6.0m、東西の長さは不明である。長方形の竪穴住居で全体に攪乱を受けており、床面まで壁は25cm残っている。床面はほぼ平坦で西壁下に周溝が廻る。主柱となるピット等は不明である。

SB11（第66・82・107図）

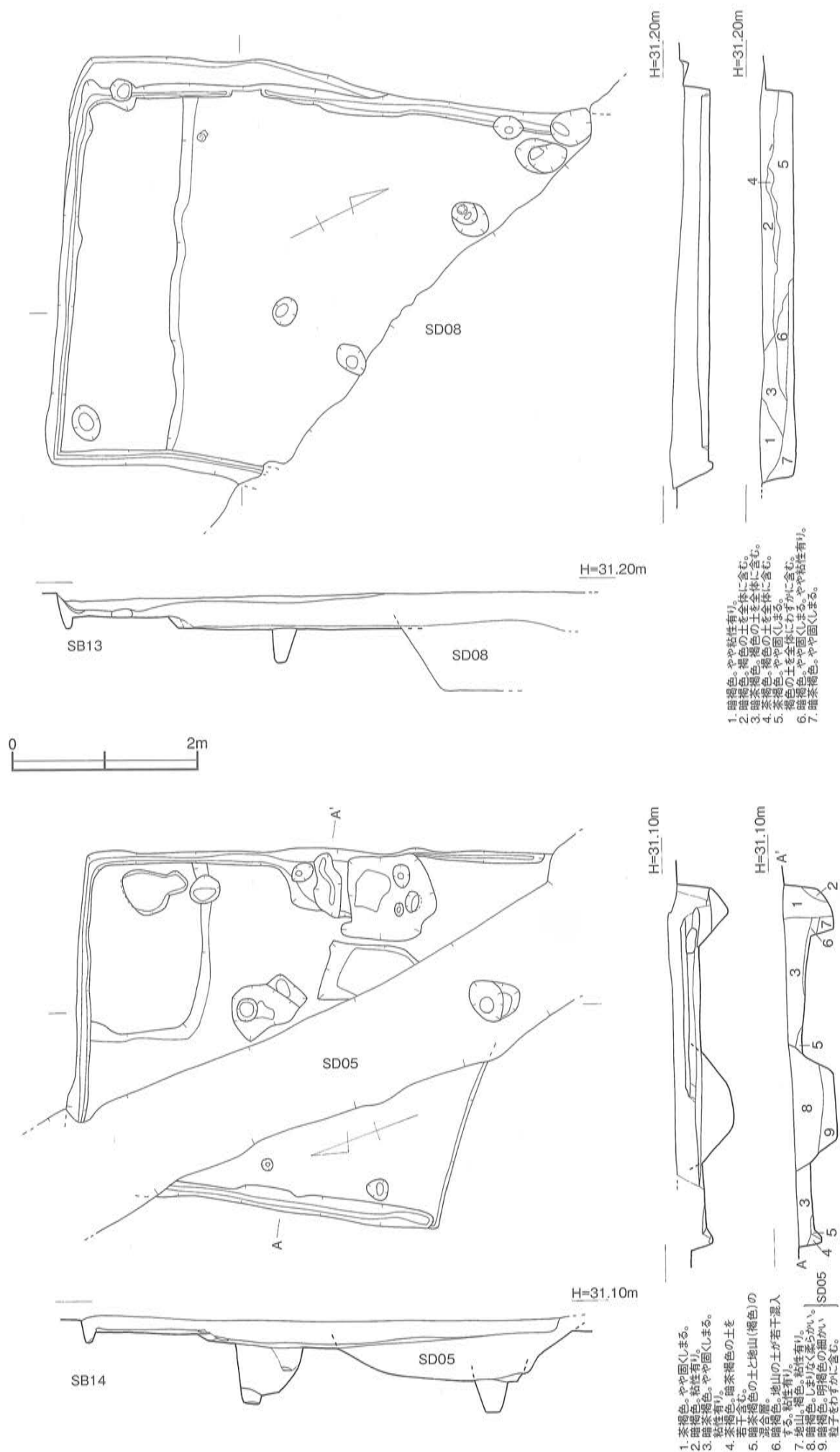
SD04によって大きく中央部を切られ、さらにSB12を上部に造られている。長径がほぼ南北で長さ7.1m、短径がほぼ東西で長さ6.6mの楕円形に近い竪穴住居である。全体に床面まで壁は30cmと良く残っている。床面はほぼ平坦で、主な柱穴部分はSD04によって壊されている。出土遺物としてサヌカイト製石鏃未製品が出土している。

SB12（第66・82・105図）

1/4程検出された。削平を受けており、また、東側をSD04によって切られている。北西-南東の長さ4+a m、北東-南西の長さ4.5+a mである。長方形の竪穴住居で北西-南西棟の建物である。床面まで壁は30cm残っている。床面はほぼ平坦で壁下に周溝が廻る。南東壁に接して2.0m×1.2mのベット状遺構が造り出されており、壁から2mの所に直径50cm、深さ50cmのピットがあり、主柱と思われる。出土遺物として高坏、甕、サヌカイト製石鏃、片岩製石庖丁3、片岩製石庖丁未製品、磨石が出土している。

SB13（第67・82図）

調査区北側にSB09とほぼ並んで発見されたが、北側をSD08によって切られている。南北の長さ5.5+a m、東西の長さ4.50m、床面まで壁は30-40cmある長方形の竪穴住居で

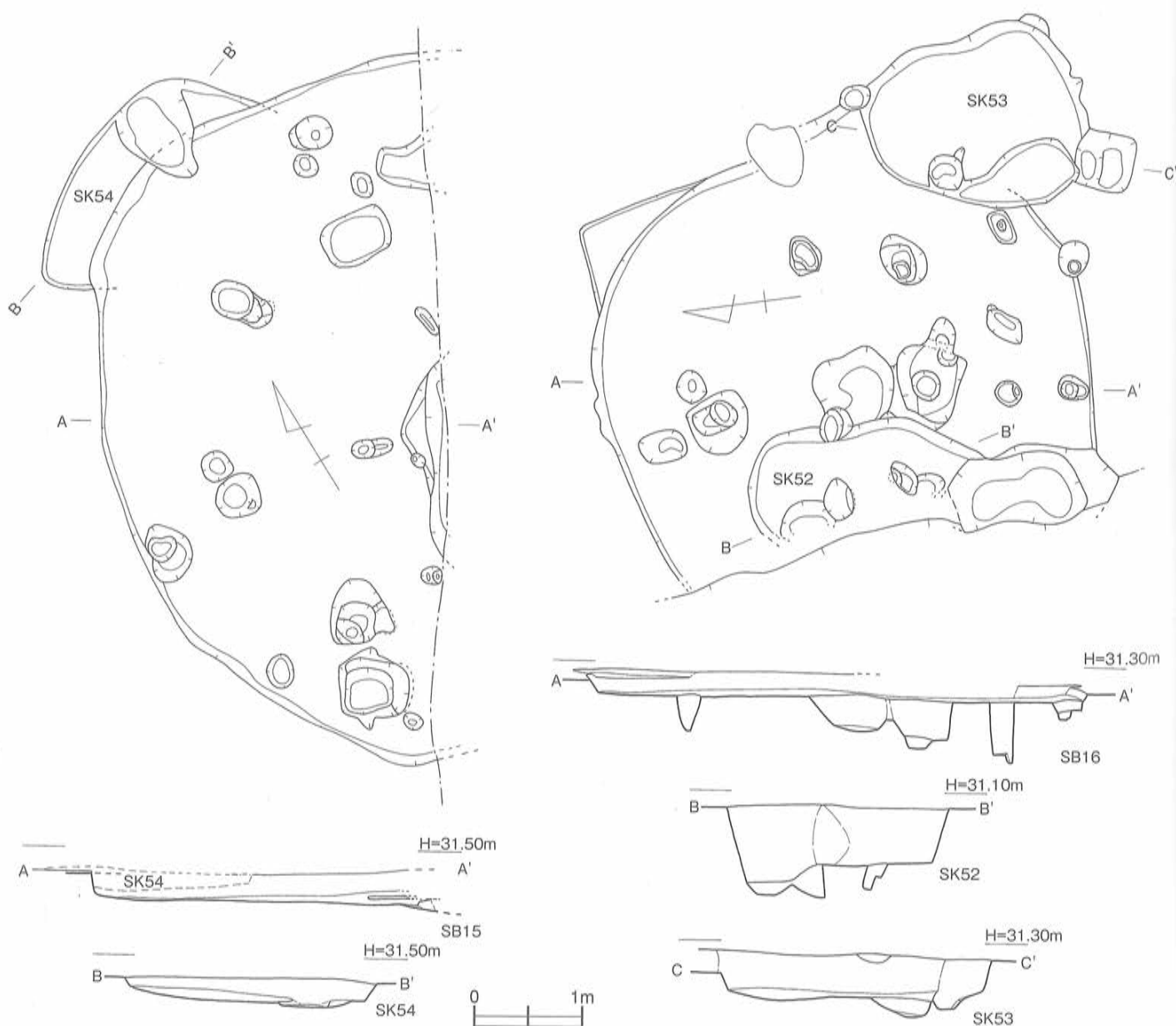


第 67 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB13・14) 実測図 [1/60]

良く残っている。床面はほぼ平坦で床面には南北壁から2.5m離れて主柱と思われる直径35cm、深さ20cmのピットがあり、南北棟の建物と思われる。南壁全体に接して幅1.3m、高さ10cmのベット状遺構が造り出されており、全壁下とに周溝が廻らされている。遺物として磨石が出土している。

SB14 (第67・82・102・105・107・108図)

SB13の南側にほぼ並んで発見されたが、SD05によって中央を切られている。南北の長さ4.3m、東西の長さ3.7-4.0m、やや歪な長方形の竪穴住居で攪乱を受けているが良く残っている。床面まで壁は20cm残っている。床面はほぼ平坦で床面には東壁に接して一辺約1m、深さ40cm程の土壇があり、床面には南北壁から1.8m離れて主柱と思われる直径25cm、深さ50-60cmのピットが2個あり、南北棟の建物と思われる。また、北東壁に接して1.9m×1.3mのベット状遺構が造り出されており、全壁下に周溝が廻らされている。遺物として長石斑岩製石鏝、サヌカイト製石鏝、片岩製石庖丁未製品、砂岩製砥石が出土している。



第68図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB15・16) 土壇 (SK52・53・54) 実測図 [1/60]

SB15 (第68・82図)

調査区の南東端で発見された。斜面にあったためか削平を受けず良く残っている。南北で長さ6.6m、東西で長さ $3.2 + a$ mの正円形に近い竪穴住居である。全体に床面まで壁は20cmと良く残っている。床面はほぼ平坦で、柱穴は残りが良く、床面中央に南北の楕円形のピットが一部検出されたが、主軸となる柱穴は調査区外のため不明。また、壁面から約1.2m前後の部分に直径30-40cm、深さ60cm前後のピットが規則的に円状に周っている。

SB16 (第68・82図)

調査区の東端で発見された。SK52、53、SD05によって切られ削平を受けている。南北で長さ4.5m、東西で長さ $3.4 + a$ mで、正円形に近い竪穴住居である。全体に床面まで壁は5cmと削平を大きく受けている。床面はほぼ平坦で、柱穴は残りが良く、主軸となる直径25cm、深さ50-70cmの柱穴は南北壁から80-90cmのところにある。また、床面中央に南北の長さ70cm、東西の長さ80cm、深さ30cmの楕円形のピットが検出されている。また、壁面から約1m前後の部分に直径30-40cm、深さ60-70cm前後のピットが規則的に円状に周っている。出土遺物として凹石、磨石が出土している。

土壌 (SK)

弥生時代の土壌は調査区の全域から67基検出された。竪穴住居の周辺に集中することではなく、その多くは数基ずつ分布している。切り合いもあり、数時期にわたって作られている。平面形は隅丸長方形、方形、楕円形が大半を占め、わずかに円形がまじる。規模も長さ1.5-2m前後、幅0.5-1.0m前後が多く、比較的小形の土壌が多い。約7割の土壌から遺物は出土しているが、多量に遺物を出土する土壌は少ない。特にSK24、30、39、47から太型蛤刃石斧が出土しており、石庖丁未製品を出土する土壌も多い。土壌の性格については、不明な点が多いが、貯蔵穴や廃棄のための用途が考えられている。

SK01

SD01によって切られている。形は不明。長さ $0.95 + a$ m、幅 $0.6 + a$ mの土壌で、深さ30cm。遺物は出土していない。

SK02 (第69・83図)

隅丸長方形で長さ1.5m、幅0.95mの土壌で、深さ35-50cm。遺物として甕が出土している。

SK03 (第83図)

SB02に切られわずかに残っている。方形で長さ1.2m、幅 $0.5 + a$ m土壌で、深さ20cm。遺物として壺、甕が出土している。

SK04 (第69・83図)

隅丸方形で長さ1.4m、幅1.2mの土壌で、深さ20cm。遺物として甕が出土している。

SK05 (第69図)

楕円形で長さ1.4m、幅1.35mの土壌で、深さ10cm。遺物は出土していない。

SK06 (第69図)

隅丸長方形で長さ1.9m、幅1.0mの土壇で、深さ30cm。遺物は出土していない。

SK07 (第69図)

隅丸方形で長さ0.95m、幅0.8mの小型土壇で、深さ10cm。遺物は出土していない。

SK08 (第69図)

隅丸長方形で長さ1.7m、幅0.7mの土壇で、深さ10cm。遺物は出土していない。

SK09 (第69図)

隅丸長方形で長さ1.25m、幅0.8mの土壇で、深さ30cm。遺物は出土していない。

SK10 (第69・83図)

隅丸長方形で長さ1.5m、幅0.5mの土壇で、深さ10cm。遺物として壺・甕が出土している。

SK11 (第69図、図版26)

隅丸方形で長さ1.7m、幅1.45mの土壇で、深さ45cm。遺物は出土していない。

SK12 (第69図)

隅丸方形で長さ1.65m、幅1.2mの土壇で、深さ20cm。遺物は出土していない。

SK13 (第69・83図)

不整形で長さ1.75m、幅1.5mの土壇で、深さ50cm。遺物として甕蓋、手捏鉢が出土している。

SK14 (第69・84・85・86・105図)

楕円形で長さ1.75 + a m、幅1.3mの土壇で、深さ1.2m。遺物として完形の壺、完形の甕、甕蓋、鉢、器台、石庖丁未製品等や多くの遺物が出土している。

SK15 (第69・86・107図)

楕円形で長さ2.8m、幅1.9mの土壇で、深さ90cm。遺物として甕、手捏土器、黒曜石製石鏃が出土している。

SK16 (第70・86・87・88・108・109図、図版26)

隅丸長方形で長さ3.9m、幅1.4mの土壇で、深さ80cm。遺物として床面からやや浮いた状態で壺、甕、甕蓋、鉢、器台、砂岩製砥石、鉄片等の遺物が多量に出土している。

SK17 (第69図)

隅丸長方形でSB16と切り合う。長さ1.3m、幅0.75mの土壇で、深さ95cm。遺物は出土していない。

SK18 (第69図)

円形で長さ0.8m、幅0.7 + a mの小型土壇で、深さ70cm。中央に直径15cm、深さ10cmピットがある。遺物は出土していない。

SK19 (第69・88図、図版26)

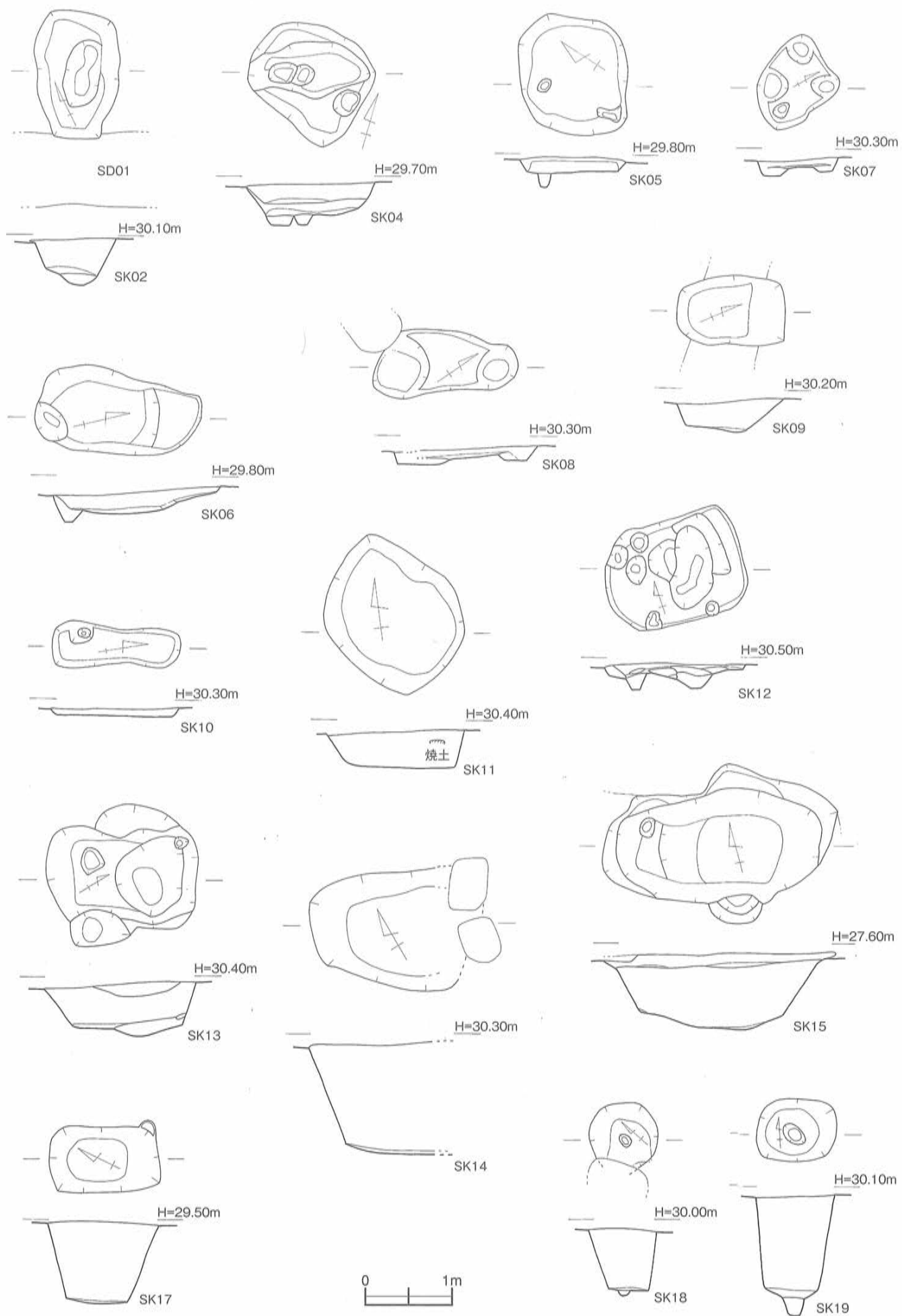
楕円形で長さ0.95m、幅0.75mの小型土壇で、深さ1.1m。中央に直径20cm、深さ20cmピットがある。遺物は甕が出土している。

SK20 (第70図)

隅丸長方形で長さ2.1m、幅0.7mの土壇で、深さ20cm。遺物は出土していない。

SK21 (第70・88図)

SK23と切り合っている。隅丸長方形で長さ1.8 + a m、幅1.2mの土壇で、中央部の最も



第 69 図 室岡山ノ上遺跡 土坑 (SK02・04～15・17～19) 実測図 [1/60]

深い所で1.1m。遺物として甕が出土している。

SK22 (第70・88図)

SK23と切り合う、隅丸方形で長さ0.9m、幅0.8mの土壇で、深さ10cm。遺物として甕が出土している。

SK23 (第70・88図)

隅丸長方形で長さ $2.15 + a$ m、幅1.0mの土壇で、深さ20cm。遺物として甕が出土している。

SK24 (第72・89・103図)

隅丸長方形で長さ1.53m、幅0.75mの土壇で、深さ30cm。遺物として器台、安山岩製の太型蛤刃石斧片が出土している。

SK25 (第70・89・109図、図版26)

横に長い楕円形で長さ1.6m、幅0.9mの土壇で、深さ30cm。遺物として壺、甕、台石、磨石が出土している。

SK26 (第70・89図)

隅丸方形で長さ2.2m、幅1.8mの土壇で、深さ20cm。遺物として甕が出土している。

SK27 (第70図)

隅丸方形で長さ1.7m、幅1.4mの土壇で、深さ25cm。遺物は出土していない。

SK28 (第70図)

楕円形で長さ1.7m、幅1.2mの土壇で、深さ25cm。遺物は出土していない。

SK29 (第70・90図)

不整形で長さ $1.2 + a$ m、幅 $1.0 + a$ mの土壇で、深さ65cm。遺物として甕が出土している。

SK30 (第70・90・103図)

隅丸長方形で長さ2.1m、幅1.2mの土壇で、深さ30cm。遺物は甕、支脚、安山岩製の太型蛤刃石斧が出土している。

SK31 (第70・105図)

楕円形で長さ1.95m、幅1.3mの土壇で、深さ30cm。遺物として片岩製の石庖丁未製品が出土している。

SK32 (第70・90・109図)

楕円形で長さ $1.4 + a$ m、幅1.0mの小型土壇で、深さ25cm。遺物として壺、甕、凹石が出土している。

SK33 (第70図)

SK44と切り合っている。隅丸長方形で長さ $2.2 + a$ m、幅1.6mの土壇で、深さ30cm。遺物は出土していない。

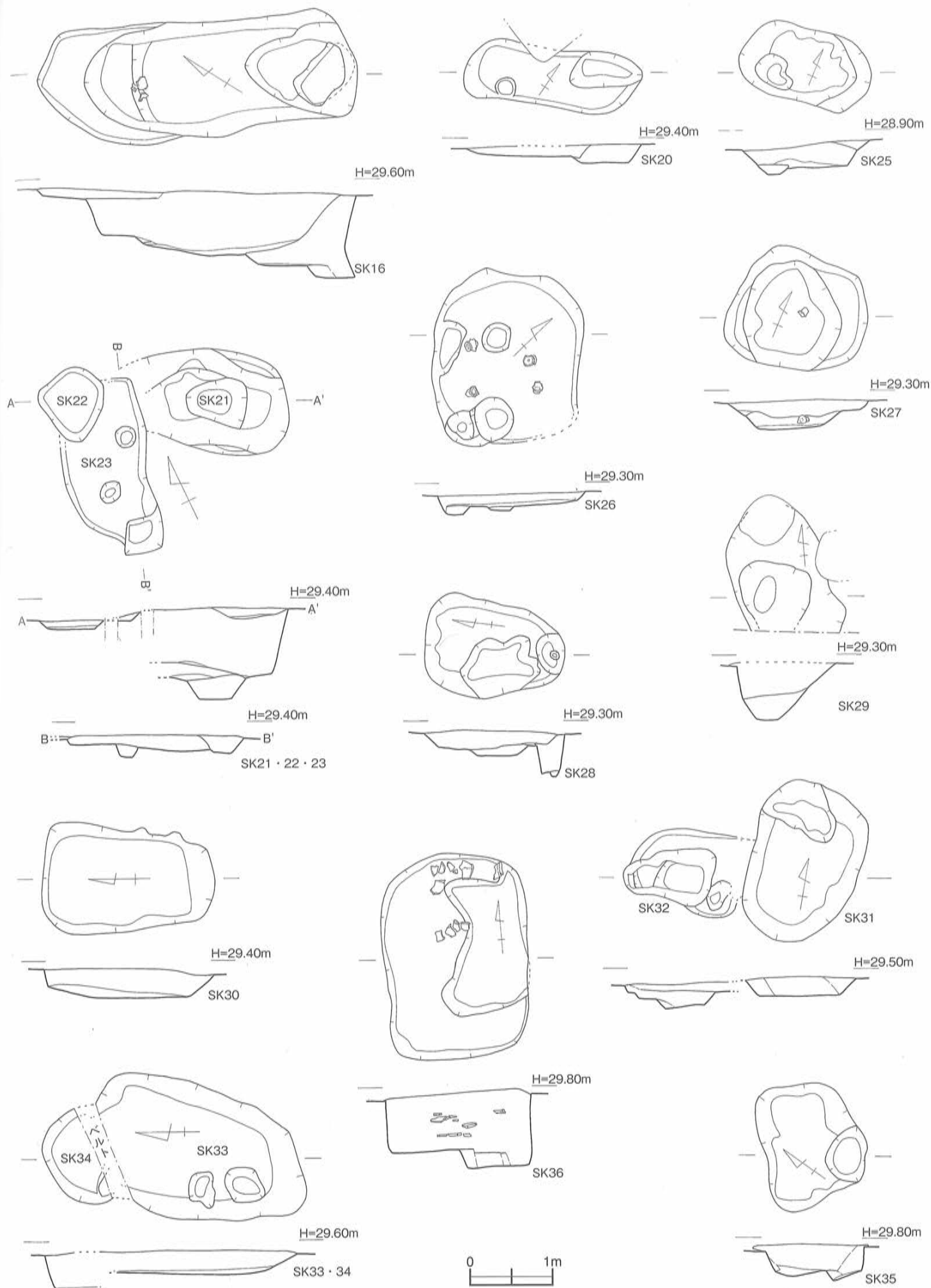
SK34 (第70図)

円形で長径1.2m、短径 $0.6 + a$ mの土壇で、深さ45cm。遺物は出土していない。

SK35 (第70・90図)

隅丸方形で長さ1.5m、幅1.2mの土壇で、深さ40cm。遺物として壺、甕が出土している。

SK36 (第70・90・108・109図、図版27)



第70図 室岡山ノ上遺跡 土坑 (SK16・20～23・25～36) 実測図 [1/60]

隅丸長方形で長さ2.5m、幅1.8mの土壇で、深さ60cmで、東側は20cm一段さらに深い。遺物として床面より20-40cm浮いた状態で甕、砂岩製砥石、凹石、磨石が出土している。
SK37 (第71・90図、図版27)

方形で長さ3.2m、幅2.9mとやや大型の土壇で、深さ10cm。遺物は床面に接して壺、甕が出土している。

SK38 (第71図)

隅丸方形で長さ2.75m、幅2.5の土壇で、深さ35cm。遺物は出土していない。

SK39 (第71・91・103図)

SK40と切り合っており、長方形で長さ2.5m、幅 $1.5 + a$ mの土壇で、深さ70cm。遺物として壺、甕、器台、支脚等土器は多量に出土し、安山岩製の太型蛤刃石斧片も出土している。

SK40 (第71・92図)

隅丸長方形で長さ1.6m、幅1.15mの土壇で、深さ90cm。遺物として壺、大型壺、甕、鉢、器台等土器は多量に出土している。

SK41 (第71・92図)

隅丸方形で長さ1.3m、幅1.15mの小型土壇で、深さ10cm。遺物として甕が出土している。

SK42 (第71図)

ややいびつな楕円形で長さ1.0m、幅0.7mの小型の土壇で、深さ45cm。遺物は出土していない。

SK43 (第71図)

長方形で長さ1.45m、幅0.85mの土壇で、深さ5cm。遺物は出土していない。

SK44 (第71・108図)

隅丸方形で長さ1.85m、幅1.05mの土壇で、深さ35cm前後。遺物として砂岩製砥石が少量出土している。

SK45 (第71図)

隅丸長方形で長さ1.2m、幅1.1mの土壇で、深さ110cm前後。床面中央に直径20cm、深さ25cmのピットがある。遺物は出土していない。

SK46 (第71図、図版27)

隅丸長方形で長さ2.0m、幅1.45mの土壇で、深さ25cm。遺物は出土していない。

SK47 (第71・92・103図)

SD04によって切られている。楕円形で長さ2.4m、幅 $1.0 + a$ mの土壇で、深さ20cm。遺物として甕、安山岩製の太型蛤刃石斧が少出土している。

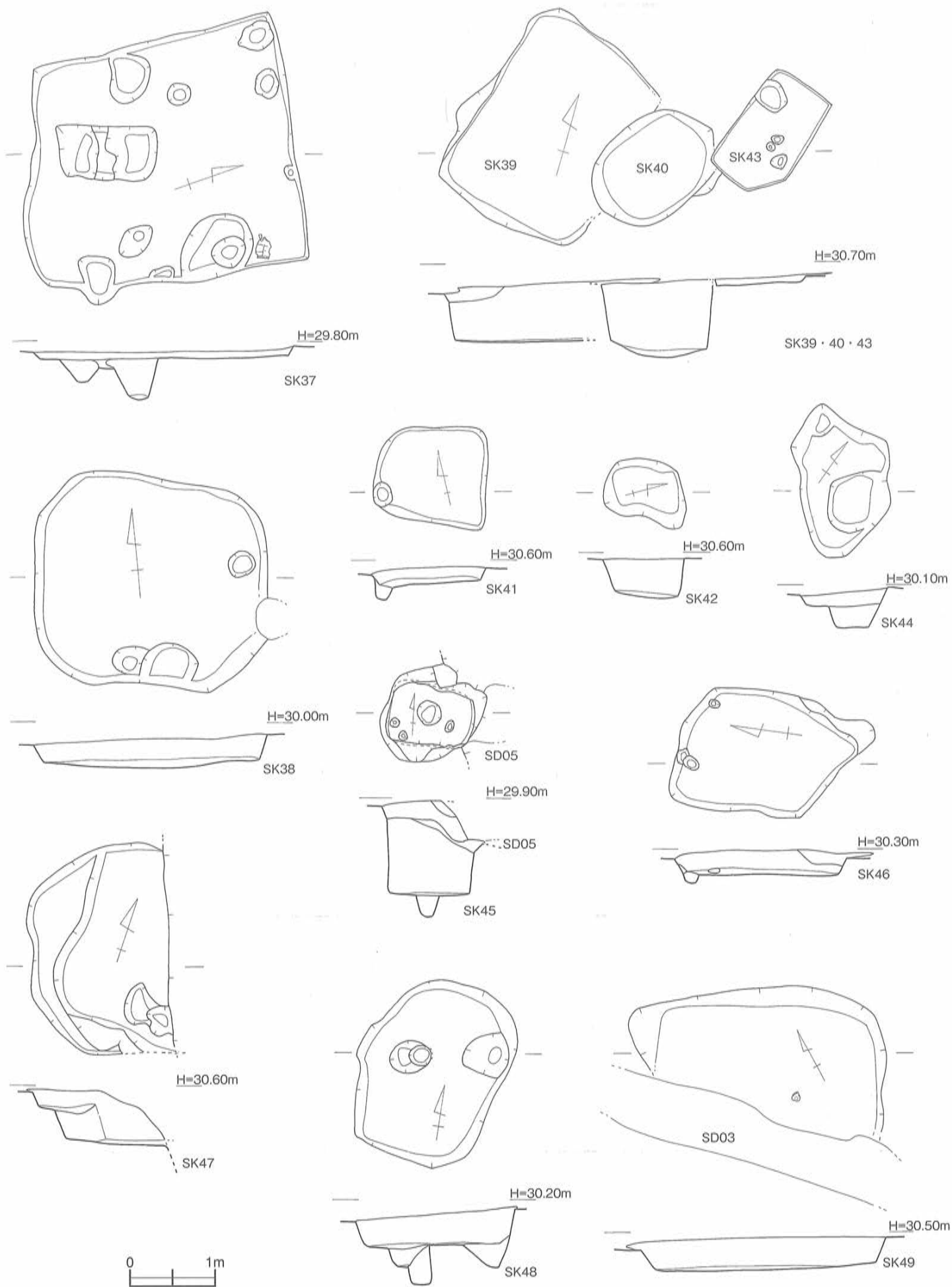
SK48 (第71図)

隅丸長方形で長さ2.2m、幅1.7mの土壇で、深さ40cm。床面中央に直径40cm、深さ50cmのピットがある。遺物は出土していない。

SK49 (第71図)

SD03によって切られている。隅丸長方形で長さ $2.7 + a$ m、幅 $1.5 + a$ mの土壇で、深さ40cm。遺物は出土していない。

SK50 (第72図)



第 71 図 室岡山ノ上遺跡 土壇 (SK37 ~ 49) 実測図 [1/60]

隅丸長方形で長さ1.3m、幅0.7mの小型土壇で、深さ60cm。遺物は出土していない。

SK51 (第72・92・104・107・108図)

隅丸方形で長さ2.1m、幅1.7mの土壇で、深さ80cm。遺物として壺、甕、片岩製紡錘車、砂岩製砥石、片岩製石庖丁未製品、サヌカイト製石鏃、台石、磨石が出土している。

SK52 (第68・93図)

SD05に切られ、また、削平によって形は不明で長さ3.45m、幅 $1.0 + a$ mの土壇で、深さ40cm。遺物として壺が出土している。

SK53 (第68図)

隅丸長方形で長さ2.0m、幅1.7mの土壇で、深さ50cm。遺物は出土していない。

SK54

削平によって形は不明で長さ2.2m、幅 $0.5 + a$ mの土壇で、深さ20cm。遺物は出土していない。

SK55 (第72図)

楕円形で長さ1.7m、幅1.2mの土壇で、深さ10cm。遺物は出土していない。

SK56 (第72・107図)

方形で長さ2.7m、幅2.45mの土壇で、深さ15cm。遺物としてサヌカイト製石鏃が出土している。

SK57 (第72図)

隅丸長方形で長さ1.6m、幅0.8mの土壇で、深さ15cm。遺物は出土していない。

SK58 (第72・93図)

隅丸長方形で長さ1.45m、幅1.1mの土壇で、深さ45cm。遺物として甕が出土している。

SK59 (第72・93・108図)

不整形で長さ $0.75 + a$ m、幅0.95mの小型土壇で、深さ110cm。遺物として甕、砂岩製砥石が出土している。

SK60 (第72図)

隅丸長方形で長さ $1.0 + a$ m、幅1.0mの土壇で、深さ90cm。遺物は出土していない。

SK61 (第72・93図)

隅丸長方形と思われ長さ $1.8 + a$ m、幅1.2mの土壇で、深さ50cm。遺物として壺、甕、器台が出土している。

SK62 (第72・93図)

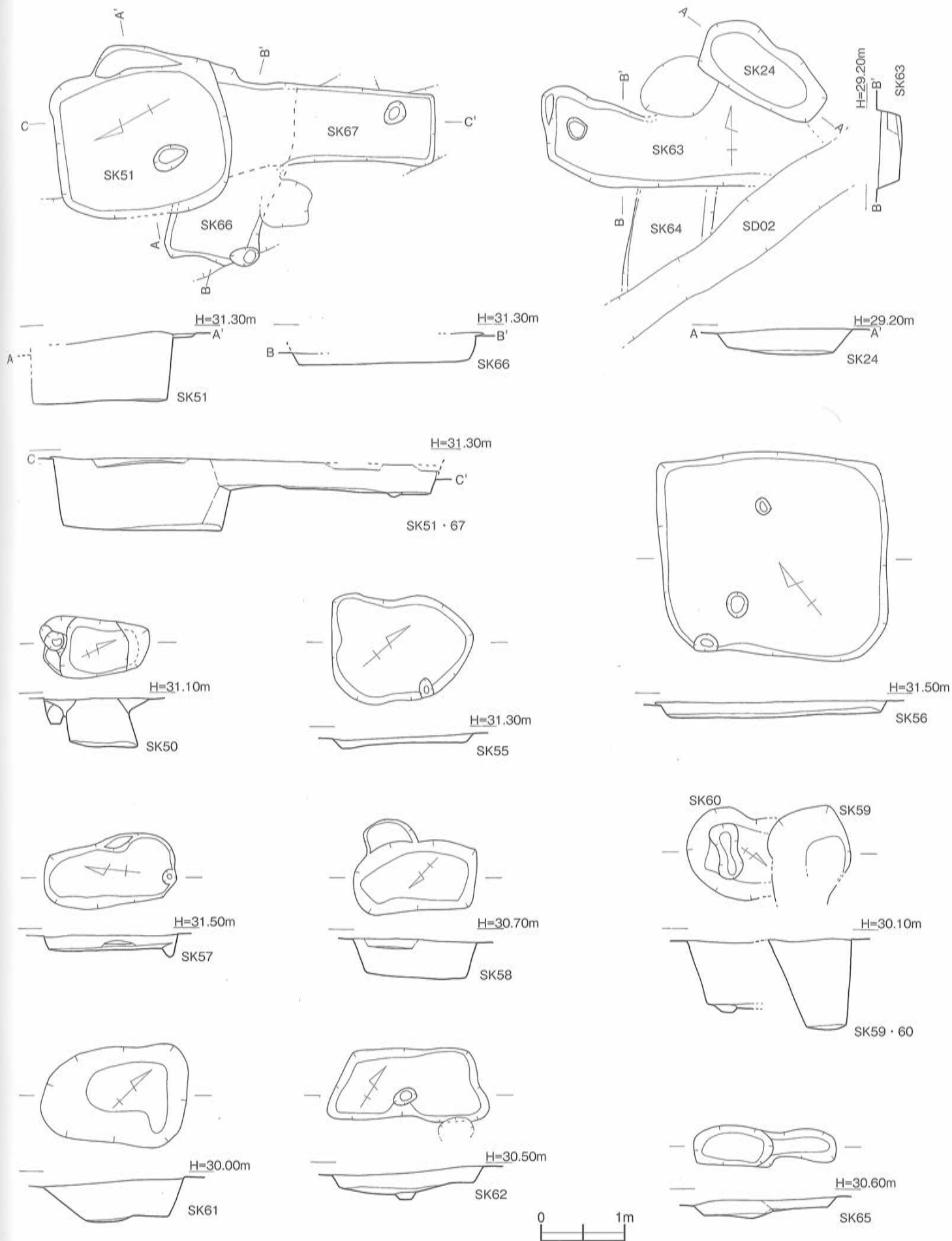
ややいびつな長方形で長さ1.9m、幅0.8mの土壇で、深さ20cm。遺物として壺、甕が出土している。

SK63 (第72・93図)

ややいびつな長方形で長さ $3.1 + a$ m、幅 $0.9 + a$ mの土壇で、深さ30cm。遺物として甕が出土している。

SK64 (第72・94図)

隅丸長方形と思われ長さ $1.2 + a$ m、幅0.95mの土壇で、深さ50cm。遺物として甕が出土している。



第 72 図 室岡山ノ上遺跡 土坑 (SK24・50・51・55～67) 実測図 [1/60]

SK65 (第72図)

隅丸長方形で長さ1.7m、幅0.5mの土壇で、深さ20cm。遺物は出土していない。

SK66 (第72・94図)

切り合いのため大きく削平されているが、長方形と思われ長さ1.3 + α m、幅1.05mの土壇で、深さ30cm。遺物として甕が出土している。

SK67 (第72・94図)

長方形で長さ4.0 + α m、幅0.9mの大型土壇で、深さ30cm。遺物として壺、甕が少量出土している。

周溝状遺構 (SX)

弥生時代の周溝状遺構は調査区の西端でわずかに1基検出された。西山ノ上遺跡から続く周溝状遺構の東端と思われる。平面形は隅丸方形に近い形をしているが、規模も直径6-7m前後とほぼ同一規模である。周溝状遺構の性格については、不明な点が多く現在でも用途は不明である。

SX01 (第73・95・102・104・107図)

調査区の西端で検出された。SD02によって一部切られているが、斜面にあったためか全体に良く残っている。東西で長さ6.6m、南北で長さ6.9m、円形よりも隅丸方形に近い形である。溝幅は東側1.5m、北側1.3m、南側1.25mで溝の断面は逆台形を呈しており、北側の深さは40cm前後、南側の深さ50cmで、南側に向かって深く造られている。溝内の堆積は斜面上部から自然に堆積してきた状態を呈している。周溝状遺構内部には直径40cmのピットがあるが性格は不明である。出土遺物として、わずかに甕、支脚、長石斑岩製石鑿、片岩製石庖丁、片岩製紡錘車未製品、サヌカイト製石鏃が出土している。

溝 (SD)

今回の調査で10条の溝が発見された。弥生時代前期後半から中期初めのSD06、後期のSD04、07、08、近世-近代の溝6条で、等高線に沿ってつくられた溝と直角に造られた溝がある。弥生時代の溝はいずれも台地を巡る環濠であるが、幅約35mを検出したにすぎず、全体の姿は不明である。

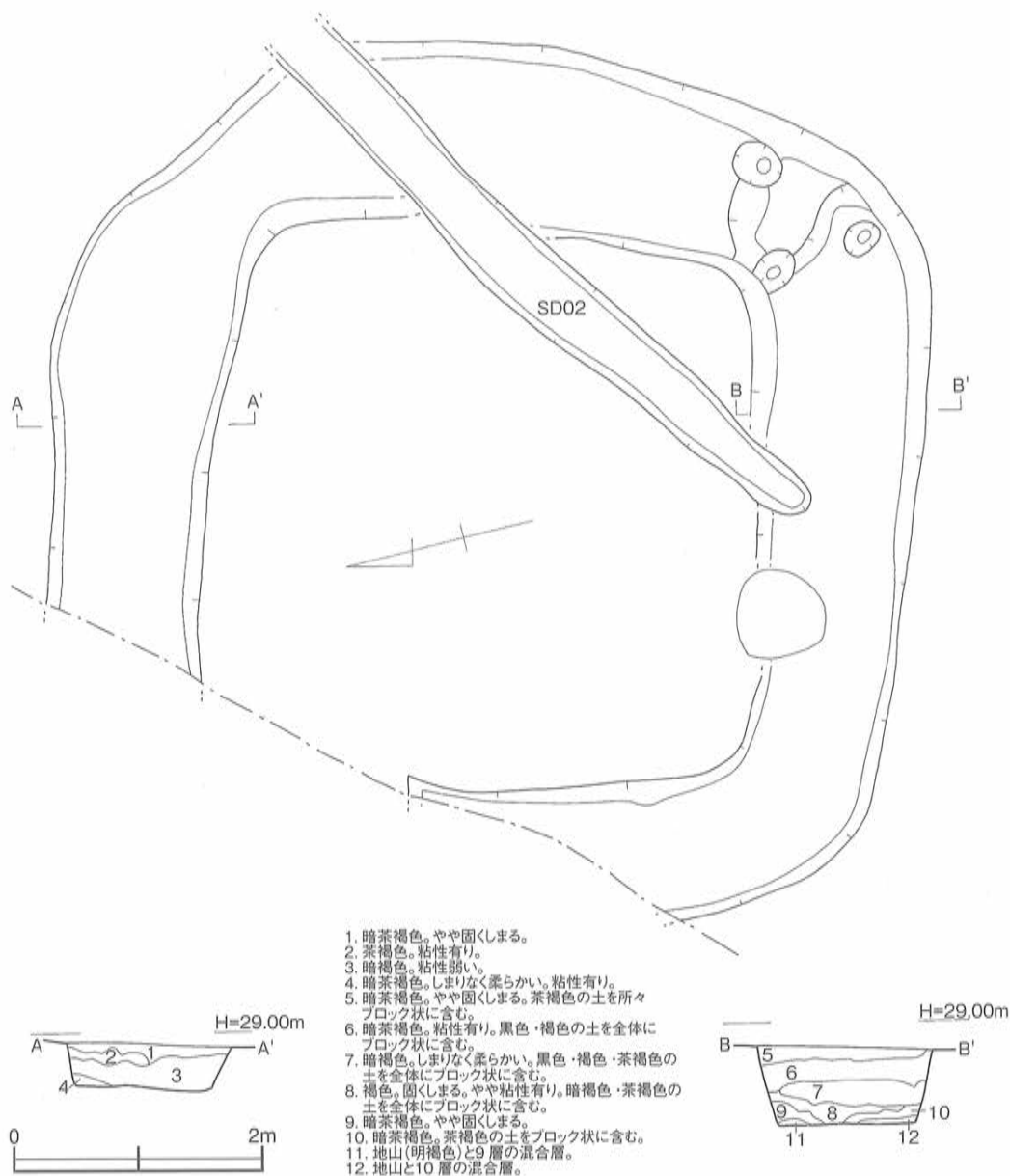
SD01

調査区の北西から南東側に延びる溝で約18m検出したが、途中の斜面で鉤の手状に曲がり消滅する。溝の幅は60cm-90cmで、深さも30cm前後、溝内から遺物はわずかで、流れ込みの弥生式土器片のみ出土している。

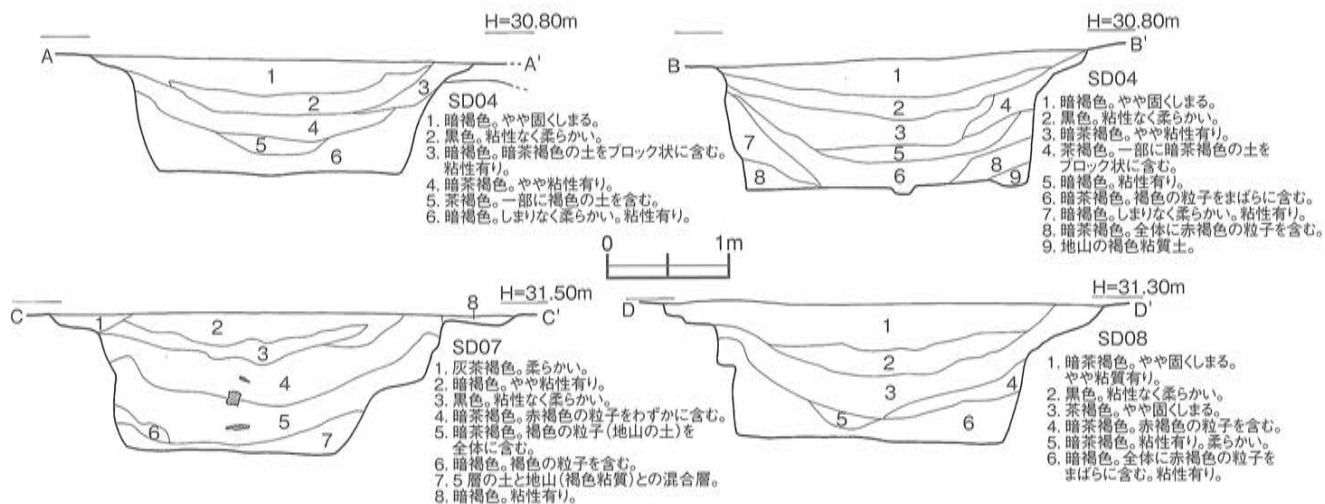
SD02

調査区の北東から南西側に延びる溝で約33m検出したが、途中SD10に切られる。西端の斜面で消滅する。溝の幅は50cmで、深さも20cm前後、溝内から遺物はわずかで、流れ込みの弥生式土器片のみ出土している。

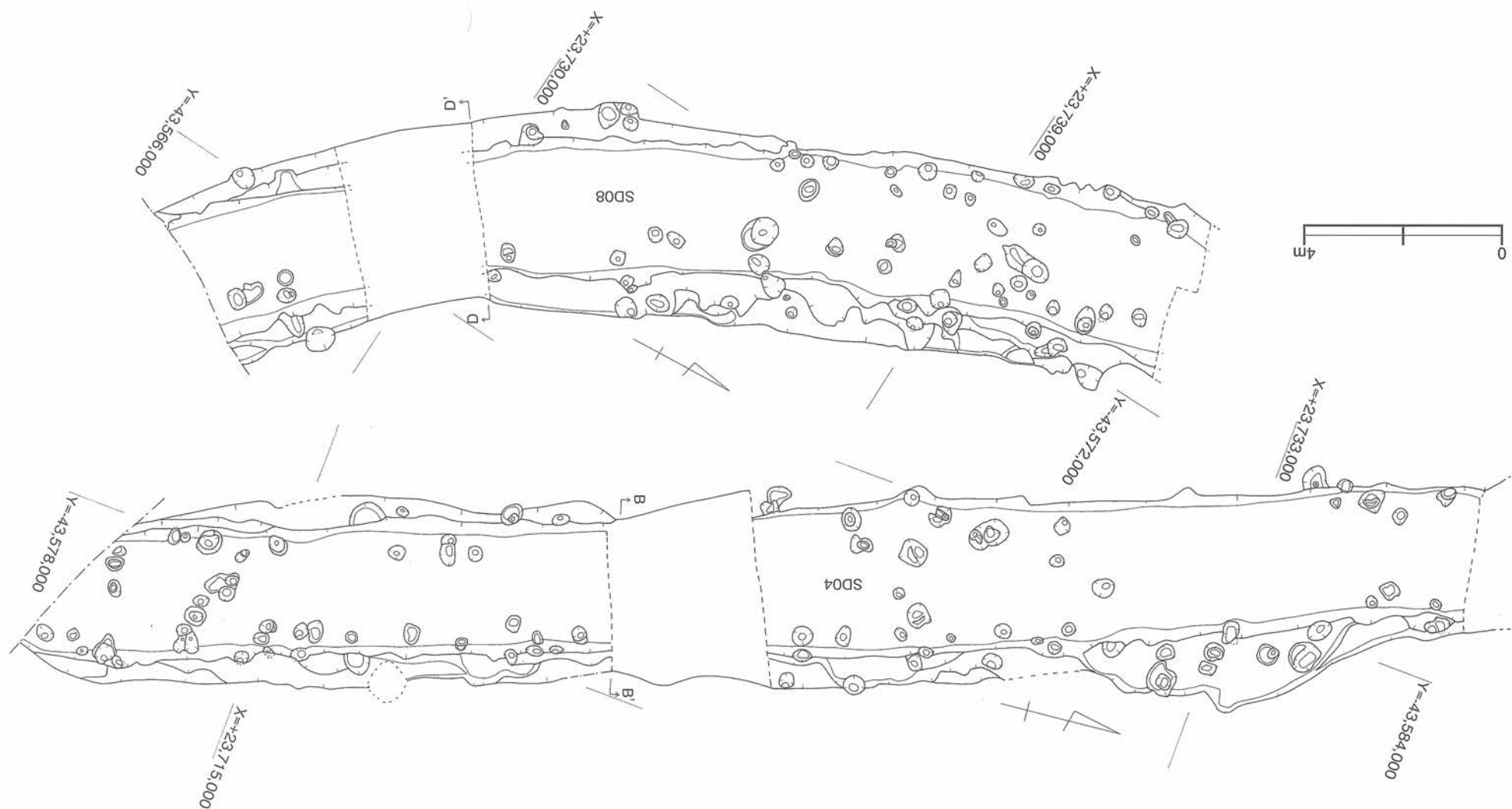
SD03



第73図 室岡山ノ上遺跡 周溝状遺構(SX01)実測図[1/60]



第74図 室岡山ノ上遺跡 溝(SD04・07・08)土層実測図[1/60]



第75図 室岡山ノ上遺跡 溝 (SD04・08) 実測図 [1/120]

調査区の南東側から北西側に延びる溝で約11m検出したが、途中の斜面で消滅する。溝の幅は40cm-70cmで、深さ15cm前後、溝内から遺物はわずかで陶器と流れ込みの弥生式土器片のみ出土している。

SD04 (第74・75・96・97・105・107図、図版28)

調査区の南北をほぼ一直線に横断する大溝で、標高30.7mの線に沿って掘削され、約36m検出した。溝の幅は北側で幅3.1m、深さ105cm、中程で幅3.0mで、深さ110cm、南側で3.1mで、深さも105cm前後と規模はほとんど変わらない。床面の高さは北側で標高29.66m。中程で標高29.57m、南側で標高29.49mとわずかに南側が低くなる。床面には数多くのピットが存在している。特に中程から南側には溝底の両壁際に沿って1-1.5m間隔で直径30cm前後、深さ30cm前後のピットが存在し、また、溝上部や溝壁中にもピットが多く存在しており、柵列等の施設が造られていた可能性が強い。溝の断面は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。土層の堆積は壁際より埋没が始まり、自然に堆積した様子が伺われる。深い溝内から遺物は多く出土しており壺、甕、サヌカイト製石匙、石鏃3、片岩製石庖丁1、未製品7、紡錘車未製品1、砥石、台石、磨石が出土している。

SD05 (第105図)

調査区の南北をほぼ一直線に横断する溝で、SB09、SD06を切り、SD010によって切られている。標高30.8mの線に沿って掘削され、約32m検出した。溝の幅は北側で幅1.2m、深さ38cm、中程で幅1.6mで、深さ40cm、南側で1.5mで、深さも45cm前後と規模はほとんど変わらない。床面の高さは北側で標高30.46m。中程で標高30.47m、南側で標高30.26mとわずかに南側が低くなる。溝の断面は逆台形で、床面にピット等は存在しない。遺物として片岩製石庖丁未製品と流れ込みの弥生式土器が出土している。

SD06 (第105・109図)

調査区の南端に一部のみ検出され、SD04、05によって切られている。ほぼ東から西側に延びる溝で約7mのみ検出した。溝の幅は2.5+a mで、深さは155-180cm前後、溝底幅は50cm前後と断面はV字形となる。溝内から遺物はわずかで、陶器片と流れ込みの弥生式土器片、石庖丁未製品、黒曜石製石鏃、サヌカイト製石鏃が出土している。

SD07 (第74・98・102・105・107図)

調査区の東端で検出された。北側の一部のみ掘り下げたが、溝の大半は調査区外である。北から南側に延びる。溝の幅は約3m、深さ115cm前後で、断面は逆台形となる。溝内から甕、壺、器台、高坏、石庖丁片、台石が出土している。

SD08 (第74・75・98・99・100・106・108図、図版28)

調査区の北側から南側に延び、SD04、07の中間の標高31.3mの線に沿って掘削されている。わずかに東側にカーブしており、約22m検出した。溝の幅は北側で幅3.7m、深さ110cm、中程で幅3.8mで、深さ120cm、南側で3.5mで、深さも115cm前後と規模はほとんど変わらない。床面の高さは北側で標高30.10m、中程で標高30.05m、南側で標高30.10mとほとんど高さは変わらない。床面には数多くのピットが存在している。溝底の両壁際に沿って1-1.5m間隔で直径30cm前後、深さ30cm前後のピットが存在し、また、溝上部や溝壁中にもピットが多く存在しており、SD04同様、柵列等の施設が造られていた可能

性が強い。溝の断面は床面からほぼ垂直に立ち上がっている。土層の堆積は壁際より埋没が始まり、自然に堆積した様子が伺われる。深い溝底付近から遺物は多く出土しており、壺、甕、大型甕、鉢、手捏鉢、器台、片岩製石庖丁1、未製品9、長石斑岩製砥石、磨石が出土している。

SD09 (第107図)

調査区南端で北から南側に延びる溝で約1.2m検出した。溝の幅は30cm-40cmで、深さも20cm前後、溝内から遺物はわずかで、近世陶器片、土師器片と流れ込みの弥生式土器片のみ出土している。

SD10

調査区の北東から南西側に延びる溝で約3.2m検出したが、南西側端部をSD02を切るが、切り合い部分の斜面で立ち上がり消滅する。溝は南西端で幅約1.0m、深さ50cm前後、北東端で幅1.2m、深さ1.05m前後で、北東端と、南西端の比高差は20cmである。溝内から遺物はわずかで、近世陶器片、須恵器甕片と流れ込みの弥生式土器片のみ出土している。

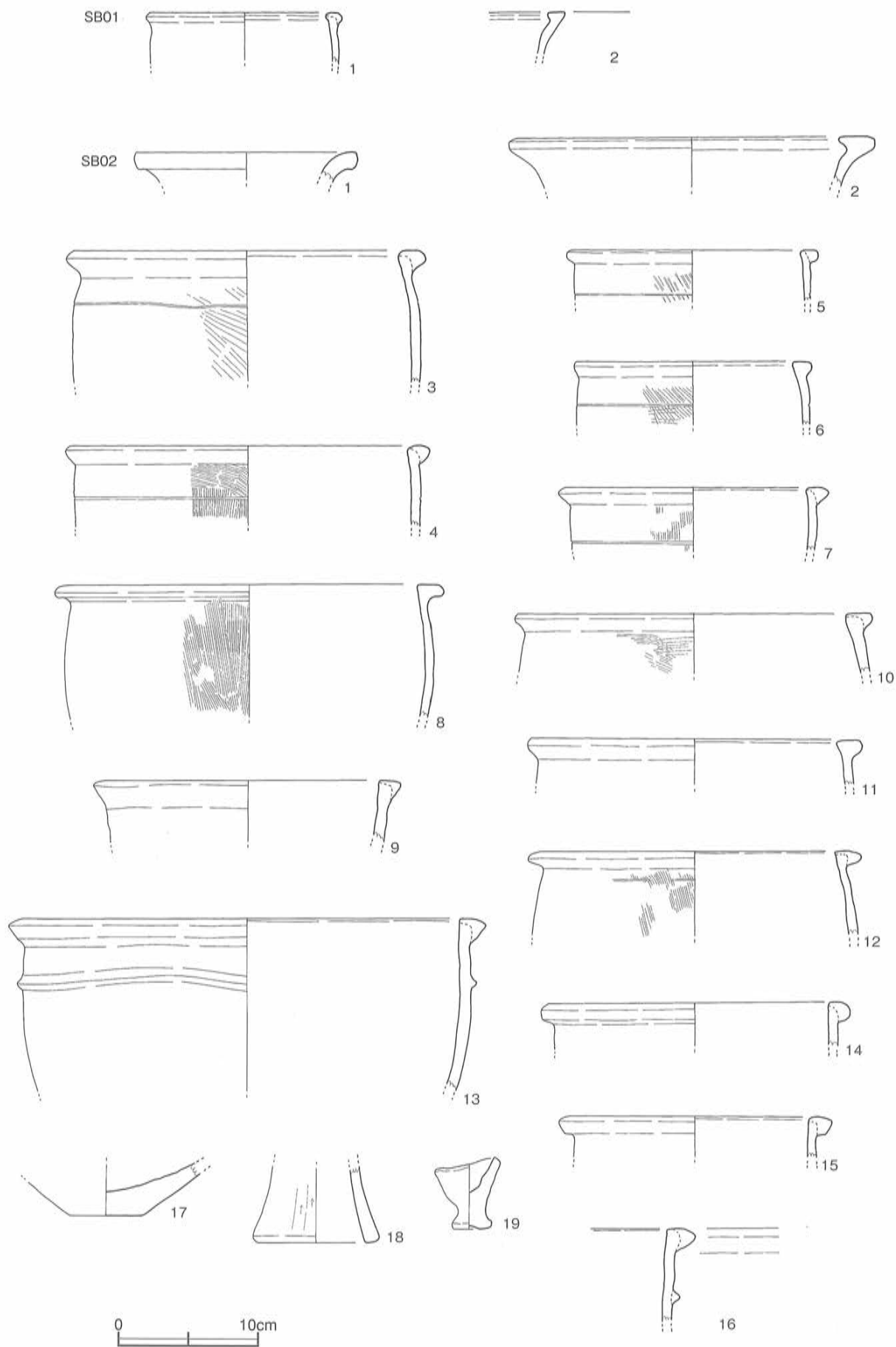
(3) まとめ

今回調査で発見された遺構は、前期後半から中期初めの竪穴住居10軒、土壇67基、溝1条、後期前半に属する竪穴住居6軒、周溝状遺構1基、溝3条、近世-近代の溝6条と多数の柱穴がある。

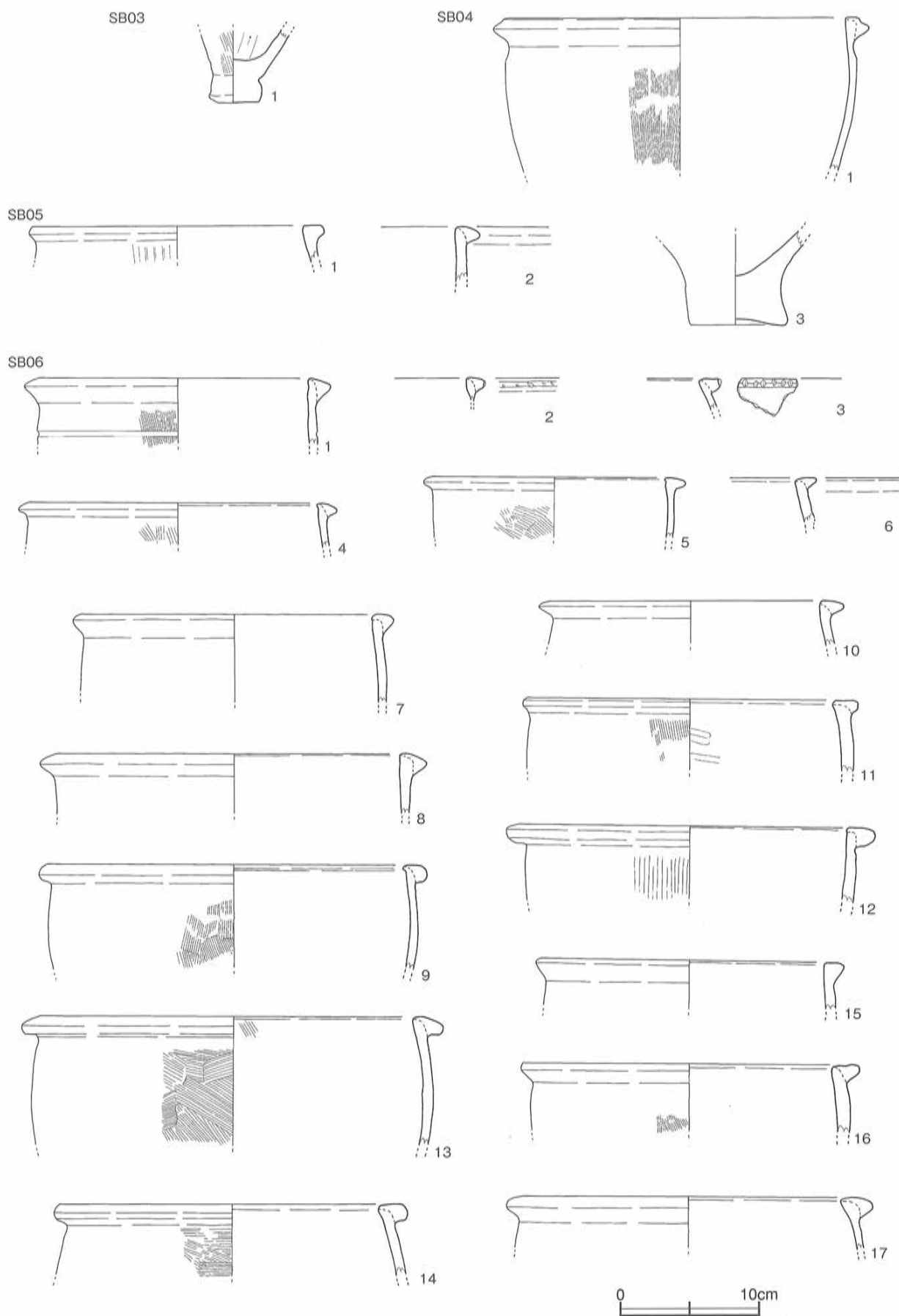
前期後半から中期初めの遺構の大半は調査区のほぼ全域で検出されている。最も先行する遺構は南端で検出されたV字溝(SD06)で、一部のみの調査であるが円形の竪穴住居とほぼ同時期か先行する。昭和61年調査を実施した室岡山ノ上3次調査で検出されたV字溝の延長とも考えられ、また、調査ではV字溝の埋没後、円形の竪穴住居がつくられていることも判明している。竪穴住居は10基がすべて円形で、そのうちSB03、06、07の住居は近接しており、ほぼ同時期に存在していた可能性がある。その他は単独で存在し、切り合いも少ない。円形の竪穴住居はほぼ二種類存在し、直径6m前後のやや大型(SB05、06、07、11、15)と直径3-4m前後のやや小型(SB01、02、03、04、16)があるが、構造的にはほとんど変化は見られない。土壇はほぼ単独で分布し比較的円形の竪穴住居周辺に多く見られる。形も方形、長方形、隅丸長方形、楕円形を呈しており比較的小型の土壇が多い。わずかではあるが方形土壇の中には一辺3m前後の大型土壇も存在する。ほぼ竪穴住居と同時期で土壇同士の切り合いも少ない所から、ほぼ同時に存在していた可能性が強い。

後期前半の遺構として竪穴住居6軒、周溝状遺構1基、溝(環濠)3条を検出した。竪穴住居は調査区の北東に6棟とも集中している。いずれも長方形で規模も5-6m×4-4.5m前後で、長軸の方向も北東から南西方向である。SB13、14、SB08、10は竪穴同士の間隔ややあいており、長軸方向も一致している点などから同時期に存在していた可能性もある。床面の構造で柱穴は長軸方向に2本確認されており、東側壁下に方形土壇を持っている。SB09、12、13、14にベット状の遺構が、SB09、12、13、14に壁際に周溝が存在している。周溝状遺構は西端に一基のみ竪穴住居から離れて単独で検出された。西山ノ上遺跡で発見された周溝状遺構と同規模で、同遺構の東端と考えられる。後期の溝としてSD04、07、08と3条検出された。

いずれも調査区を南北に横断する大溝で、規模も幅3-3.8m、深さ105-120cmとほぼ同規模である。SD04は等高線に沿ってほぼ一直線に掘削されているが、SD08はわずかに東側にカーブしている。SD07は全体がつかめなかった。SD04、08の底面と壁面には数多くのピットが存在しており、底面から建てた柵列や橋状の遺構が存在していた可能性が強い。近世から近代の溝はSD02、10の2条がいずれも斜面と直角につくられており、さらに東側に伸びているがその用途は不明である。SD01、03、05、09はほぼ斜面に沿ってつくられているが、SD05以外はすべて途中で消滅している。溝内より陶器片や須恵器、流れ込みの弥生式土器片が出土しているが、どのような用途で掘削された溝か不明である。

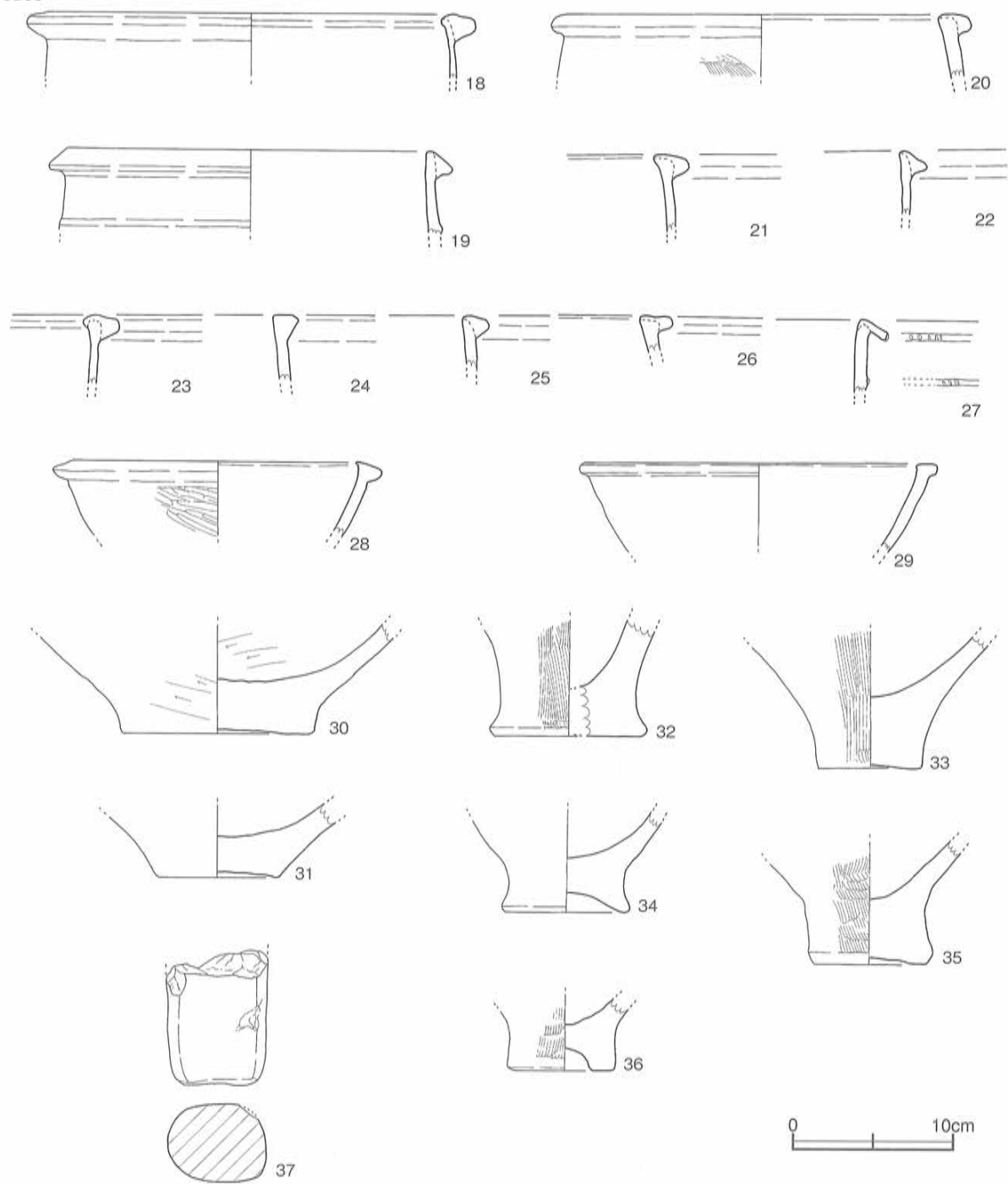


第 76 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB01・02) 出土土器実測図 [1/4]

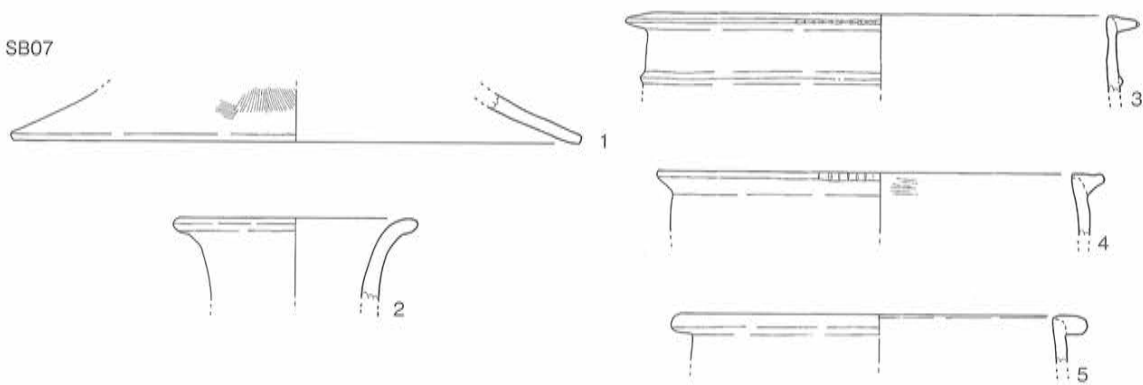


第 77 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB03 ~ 06 ①) 出土土器実測図 [1/4]

SB06

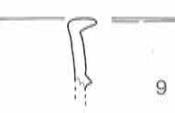
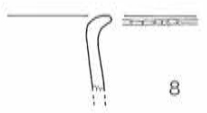
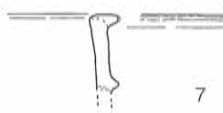
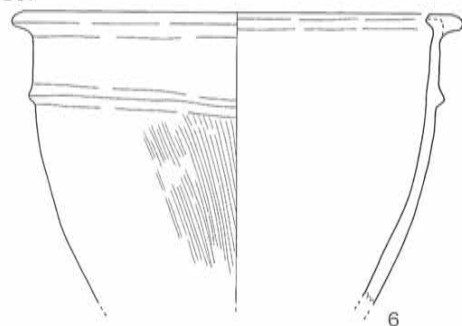


SB07

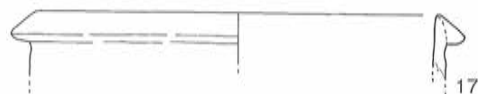
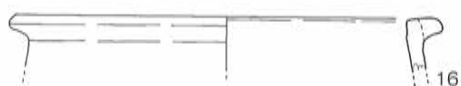
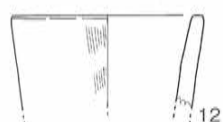
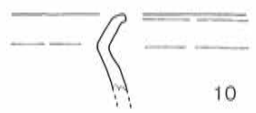
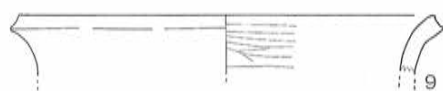
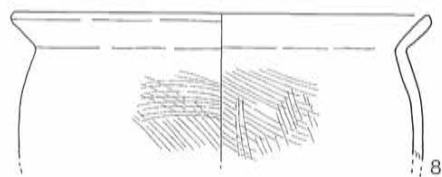
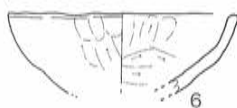
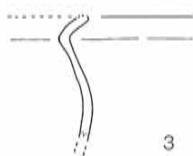
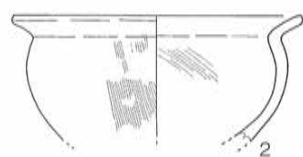
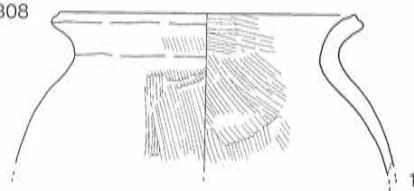


第 78 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB06 ②・07 ①) 出土土器実測図 [1/4]

SB07

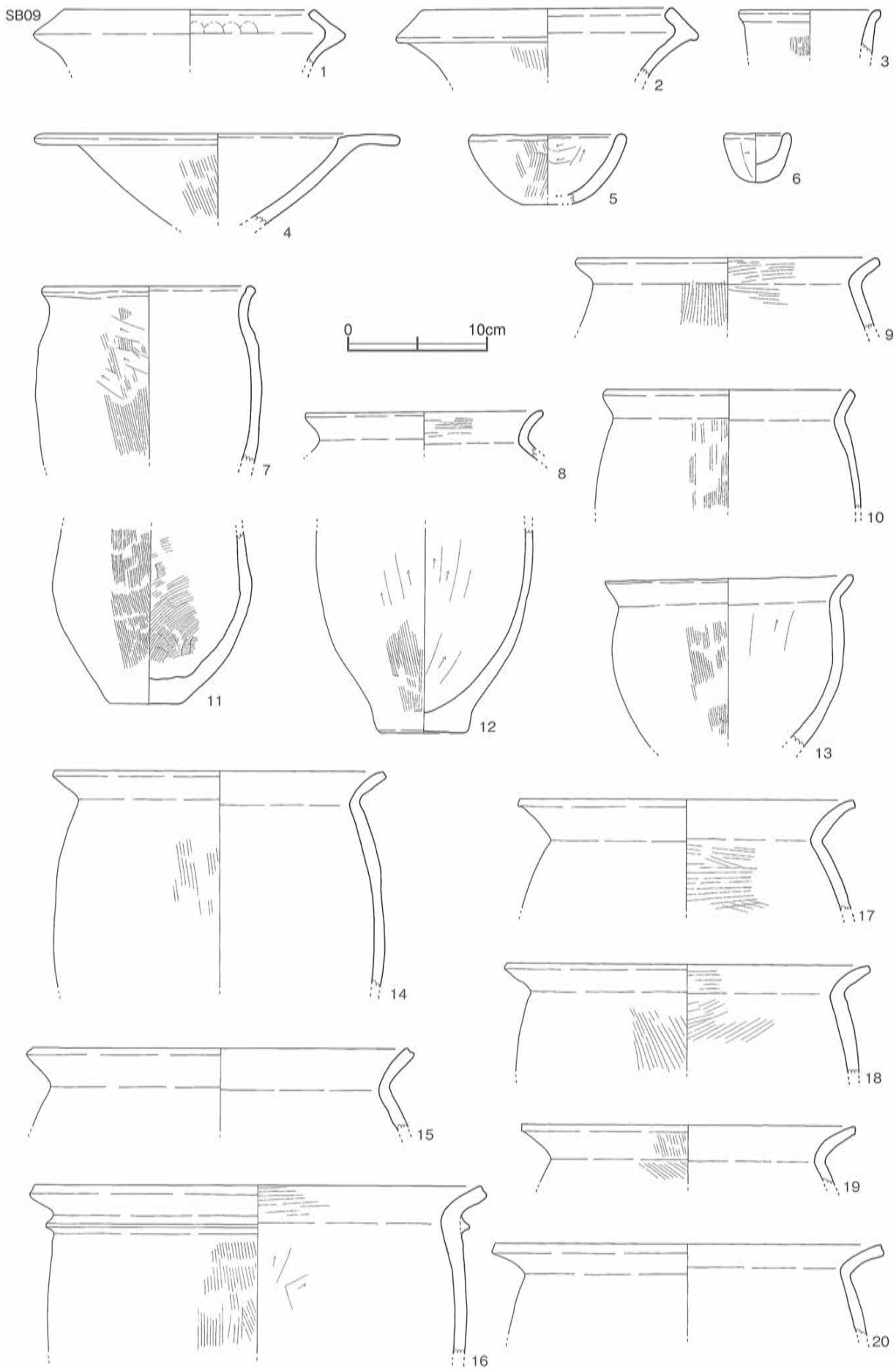


SB08



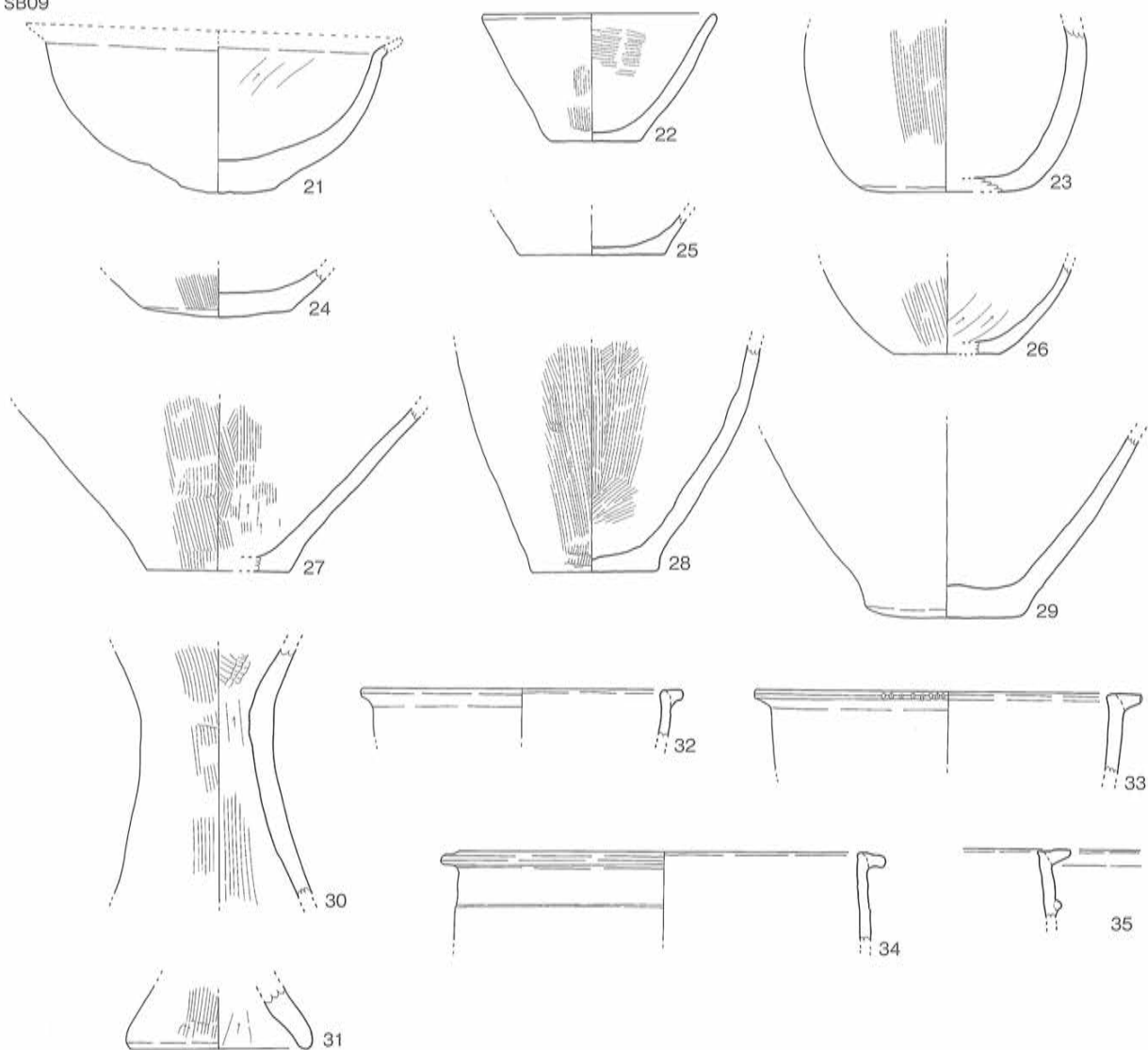
0 10cm

第79図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB07 ②・08) 出土土器実測図 [1/4]

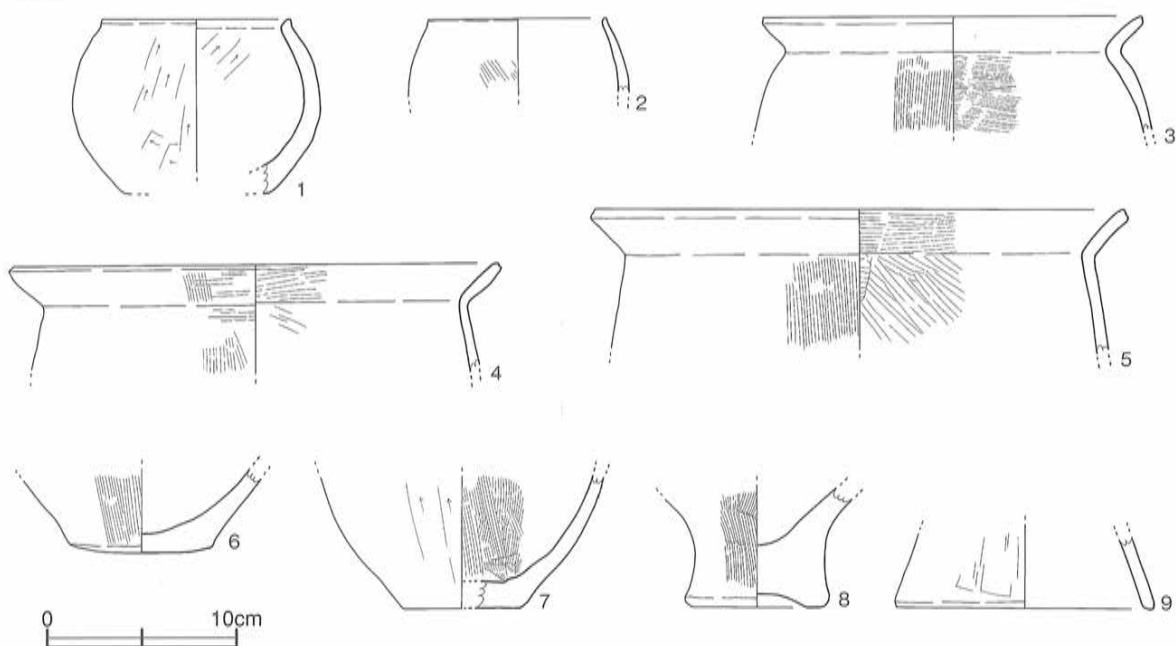


第 80 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB09 ①) 出土土器実測図 [1/4]

SB09

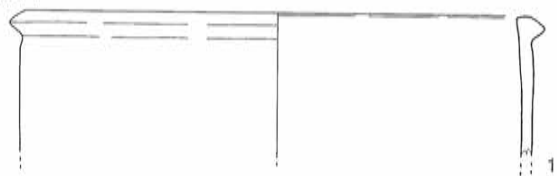


SB10

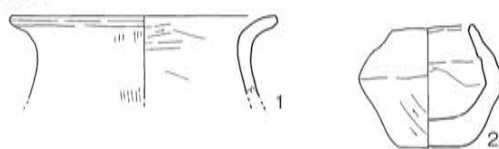


第 81 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB09 ②・10) 出土土器実測図 [1/4]

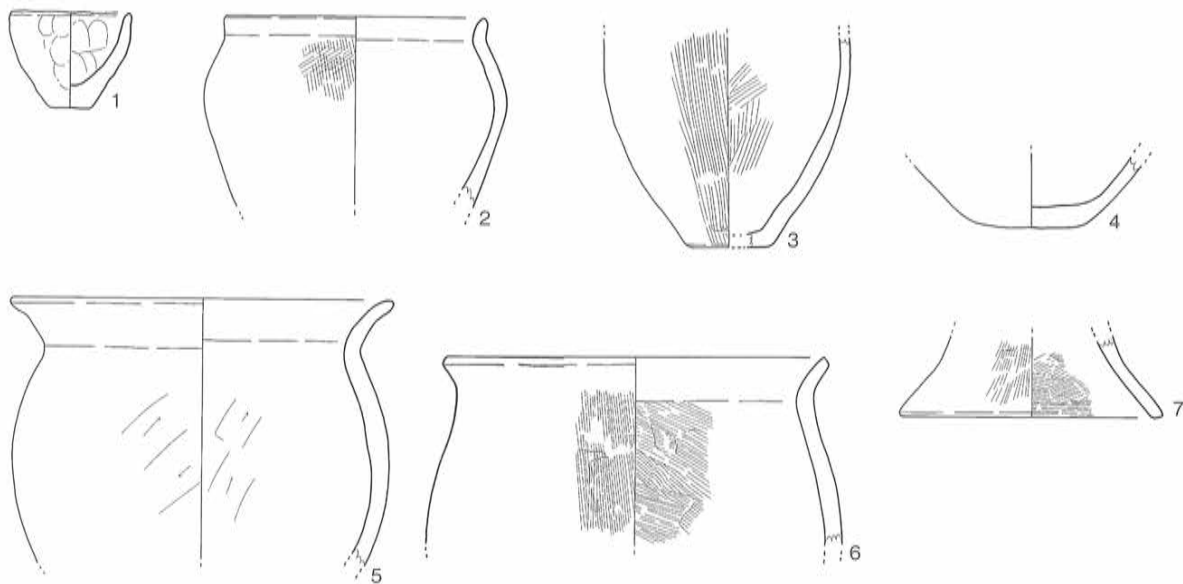
SB11



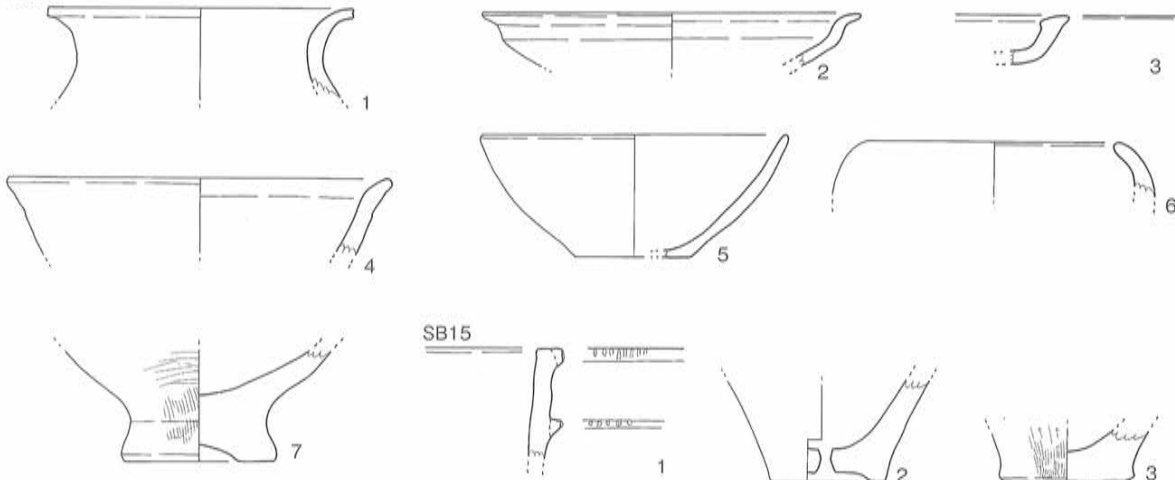
SB12



SB13



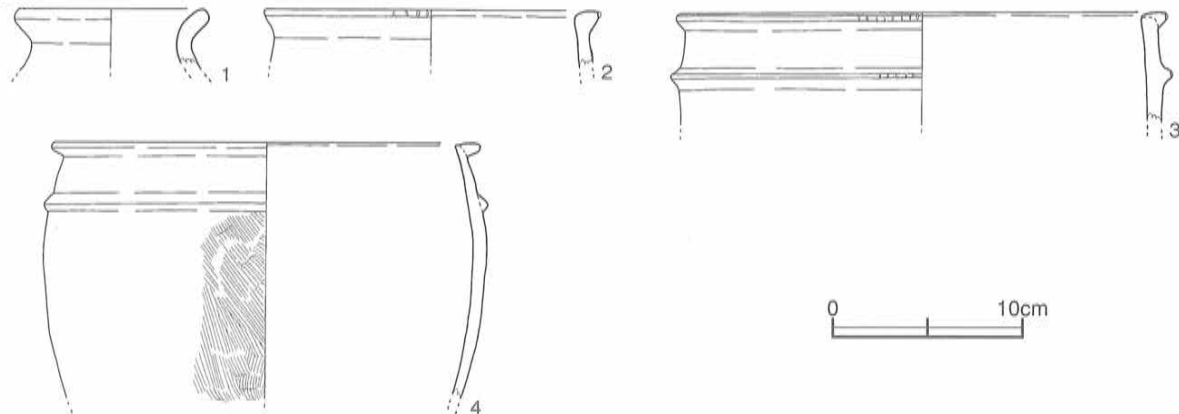
SB14



SB15



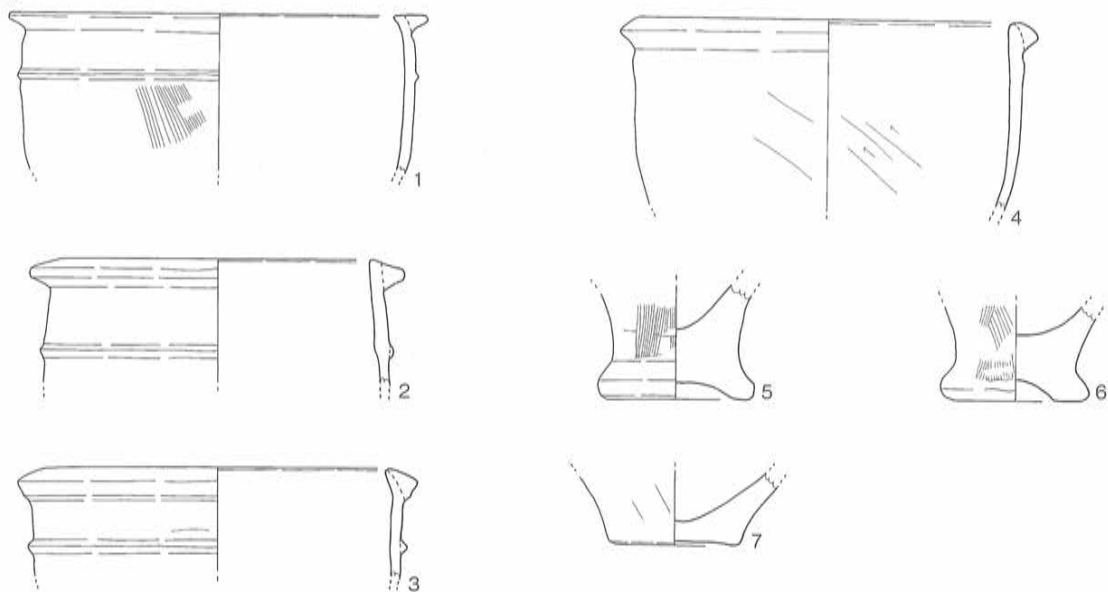
SB16



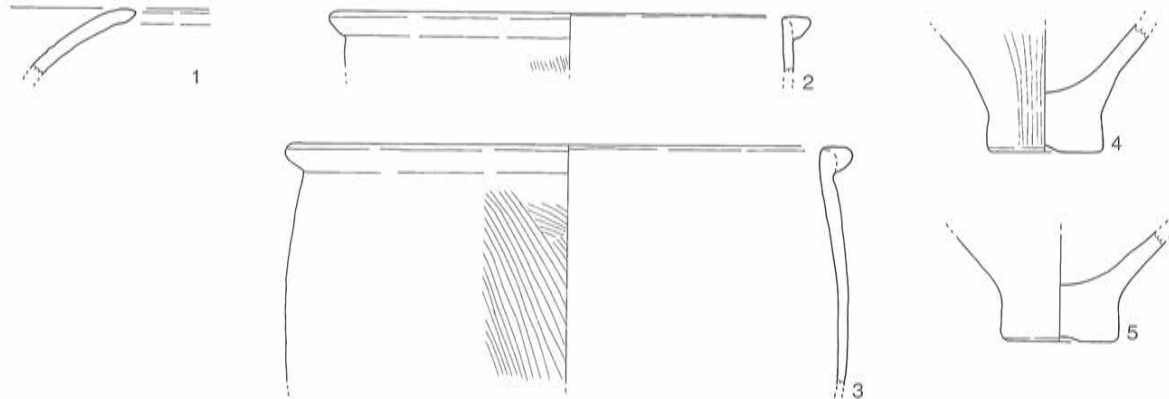
0 10cm

第 82 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居 (SB11 ~ 16) 出土土器実測図 [1/4]

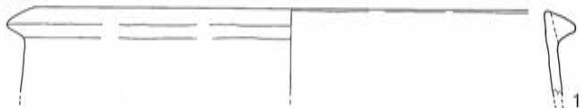
SK02



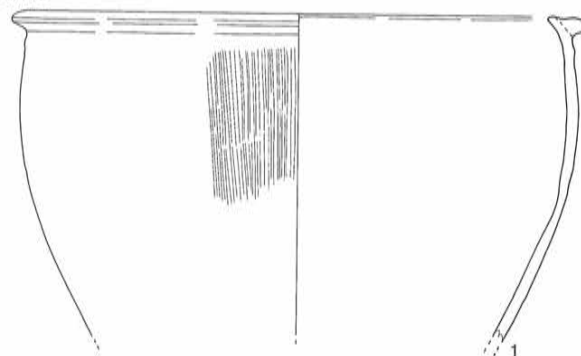
SK03



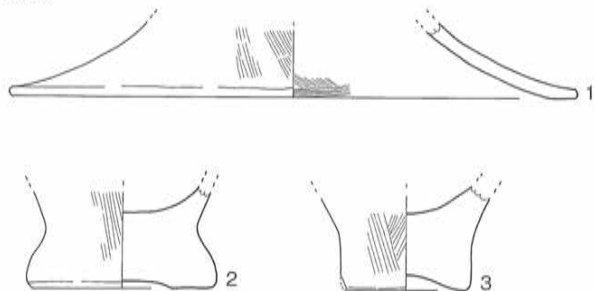
SK04



SK10



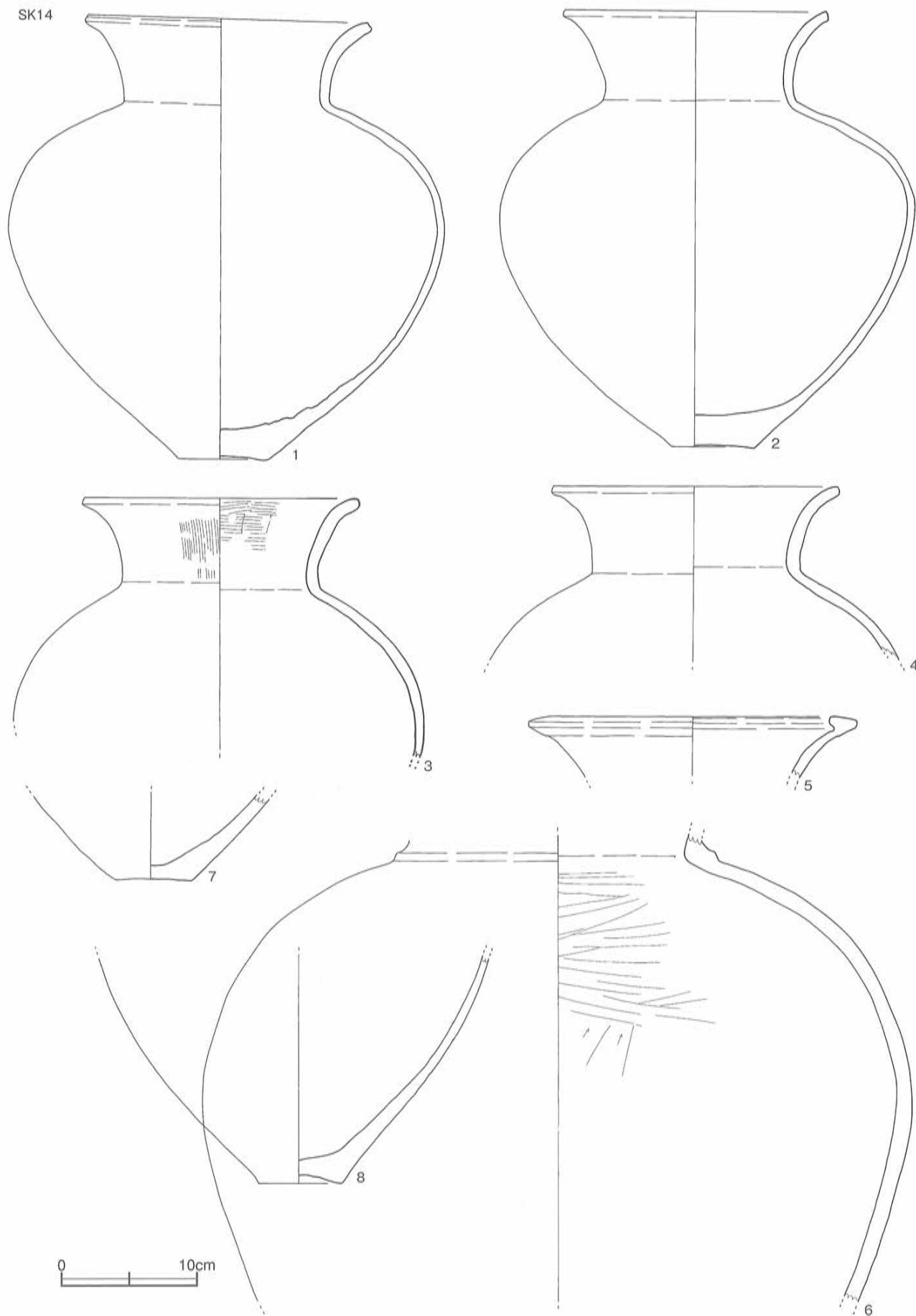
SK13



0 10cm

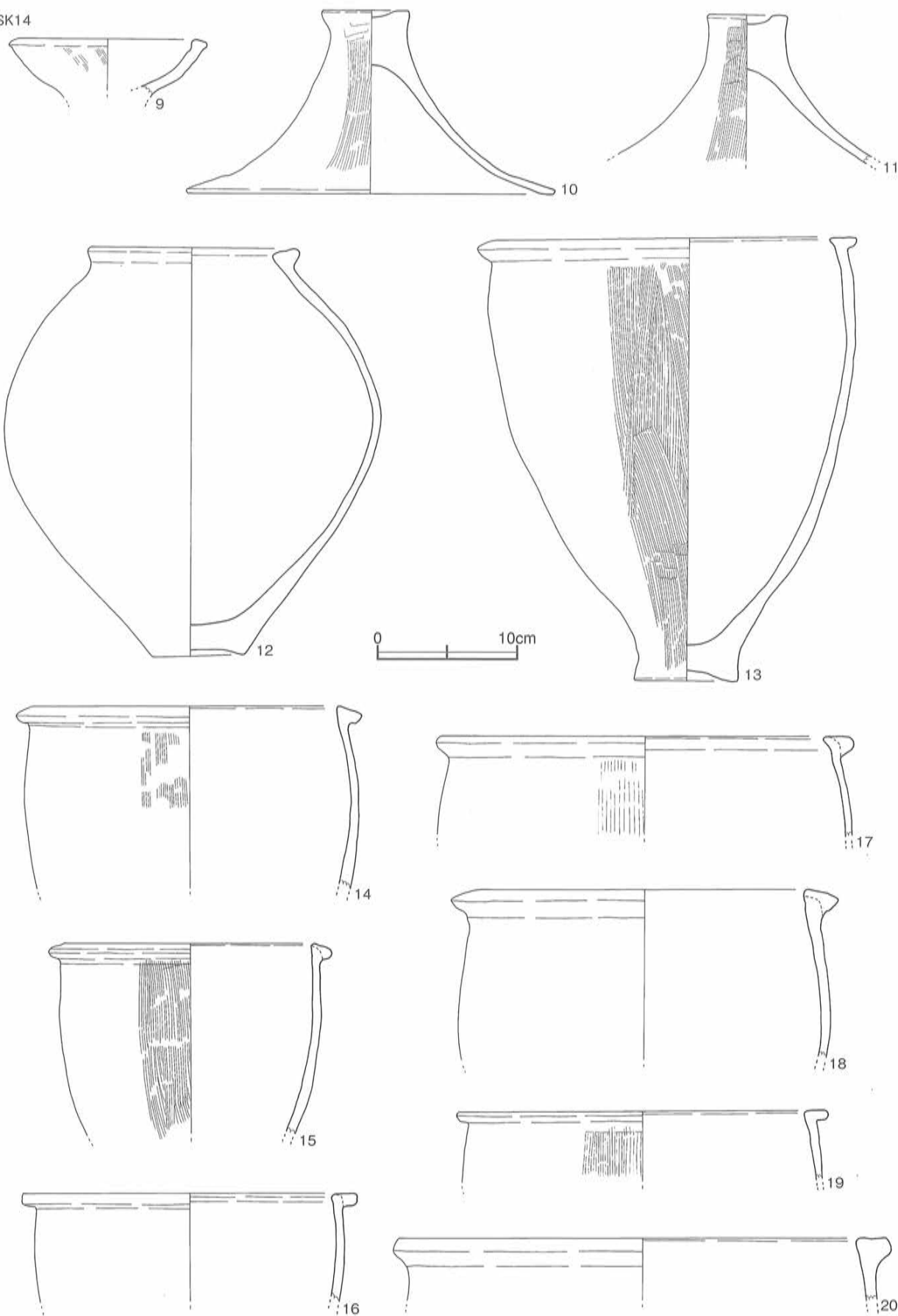
第 83 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK02 ~ 04・10・13) 出土土器実測図 [1/4]

SK14



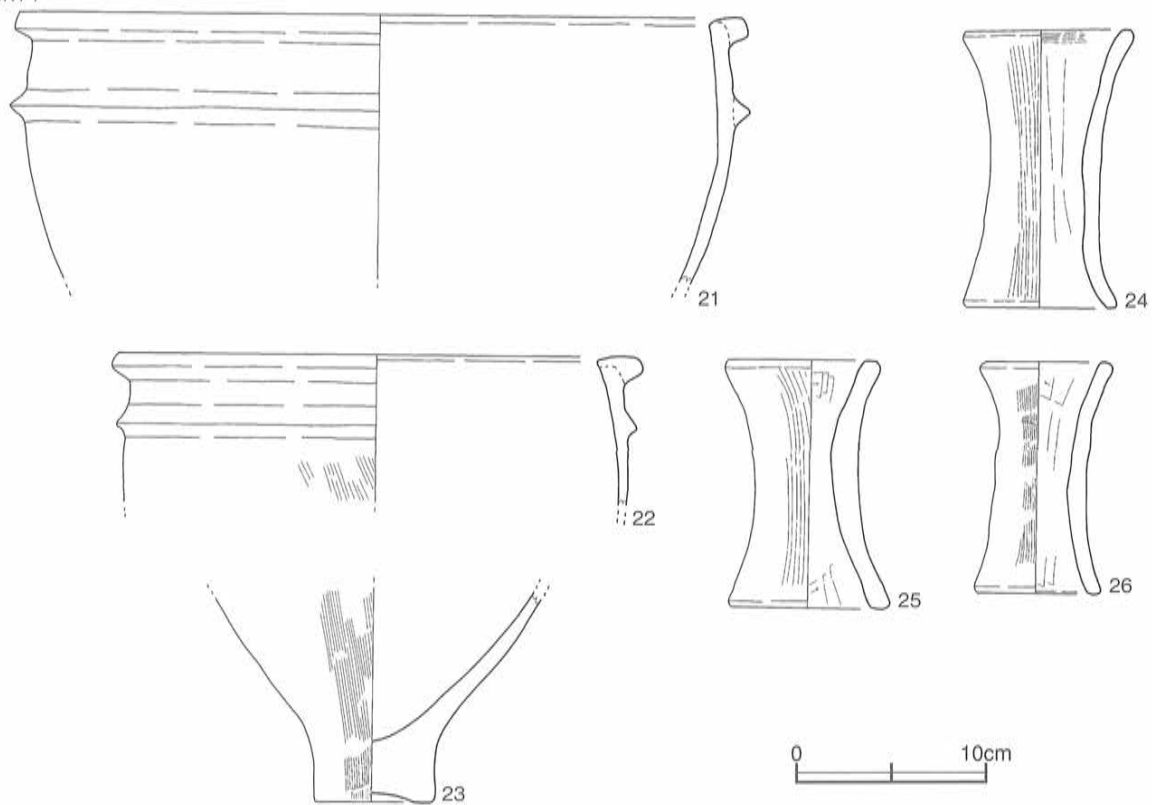
第 84 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK14 ①) 出土土器実測図 [1/4]

SK14

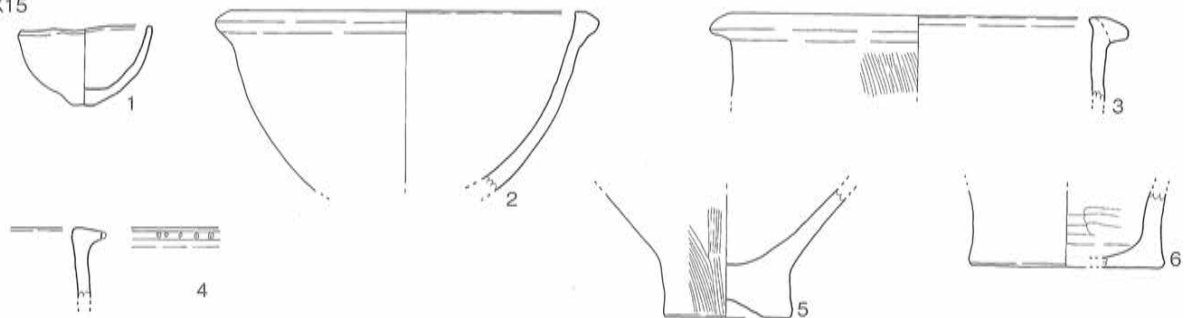


第 85 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK14 ②) 出土土器実測図 [1/4]

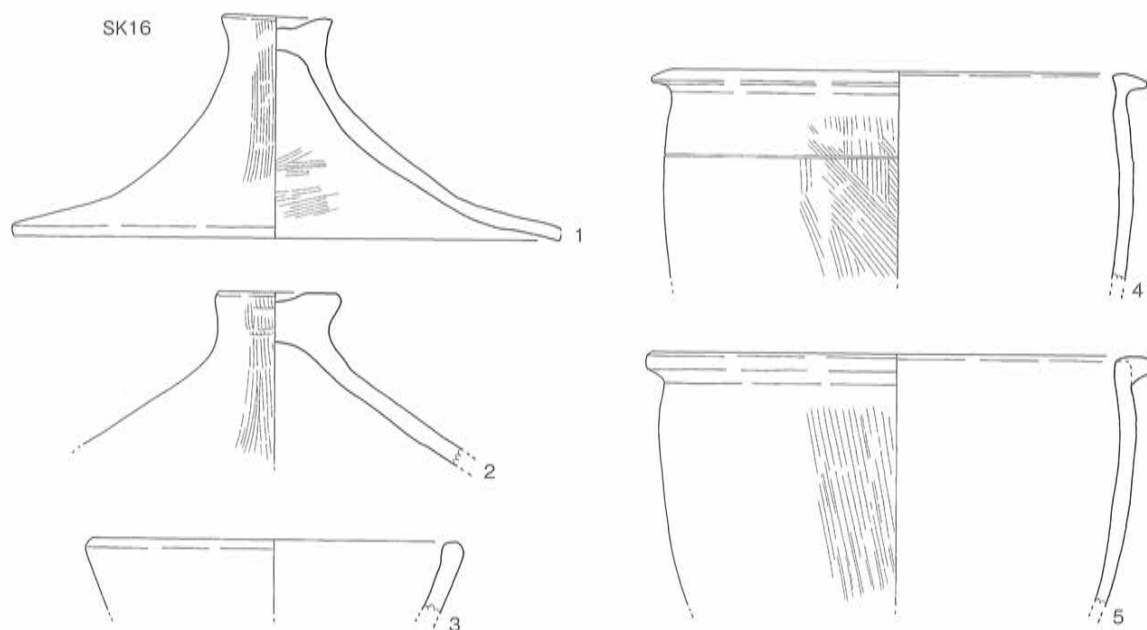
SK14



SK15

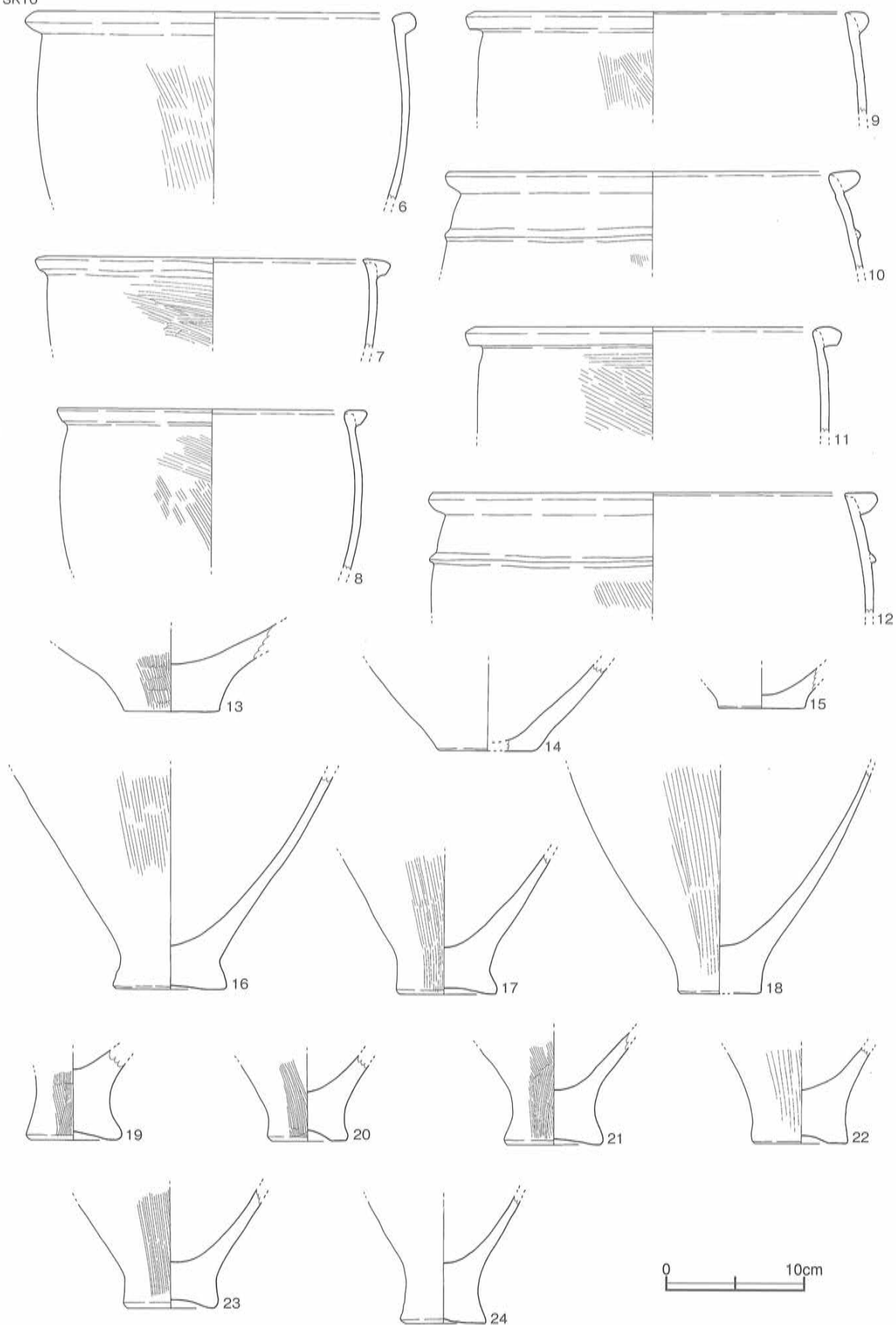


SK16



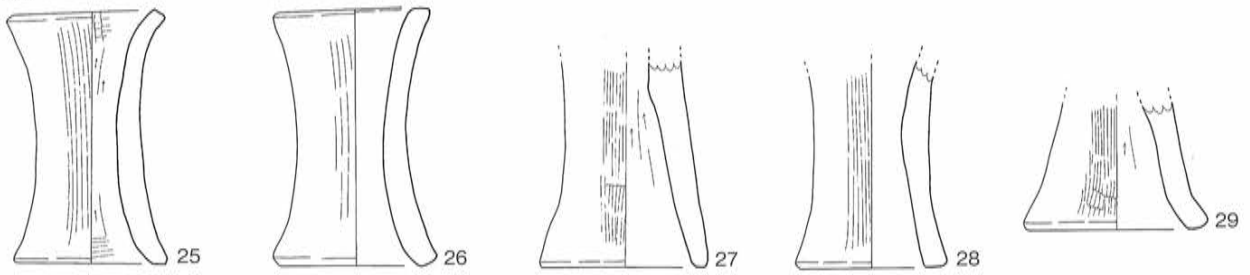
第 86 図 室岡山ノ上遺跡 土墳 (SK14 ③・15・16 ①) 出土土器実測図 [1/4]

SK16

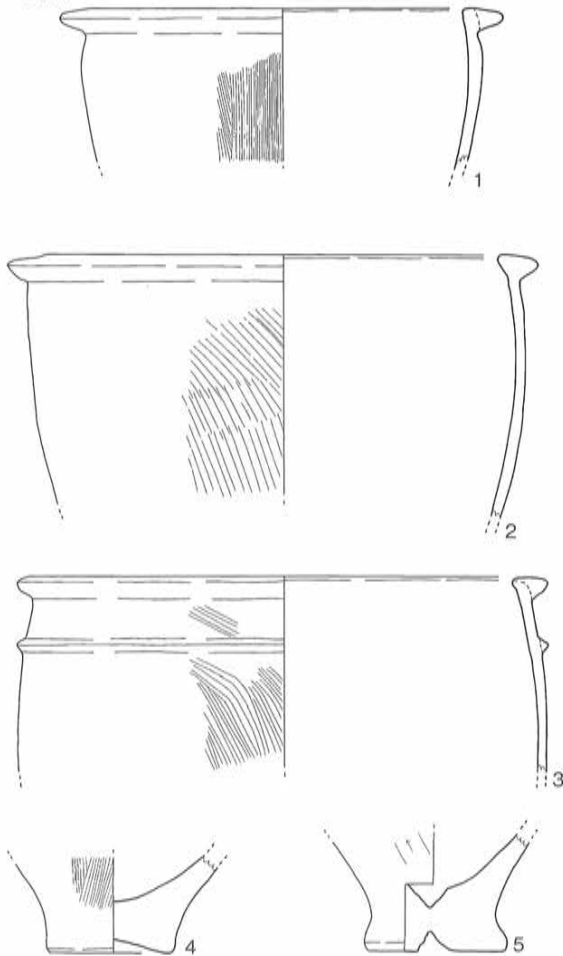


第 87 図 室岡山ノ上遺跡 土壇 (SK16 ②) 出土土器実測図 [1/4]

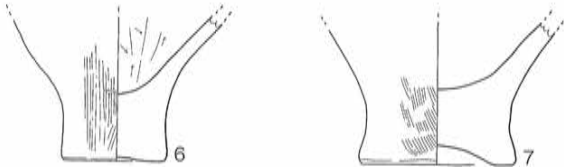
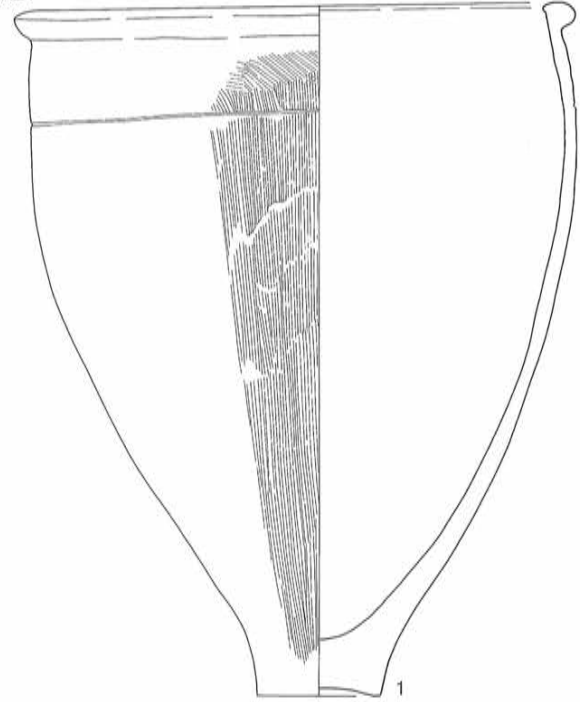
SK16



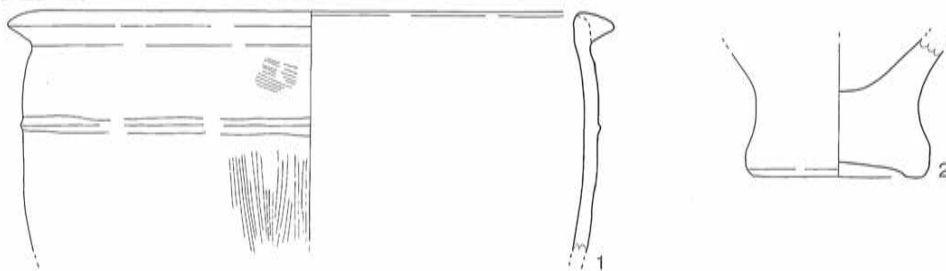
SK19



SK21



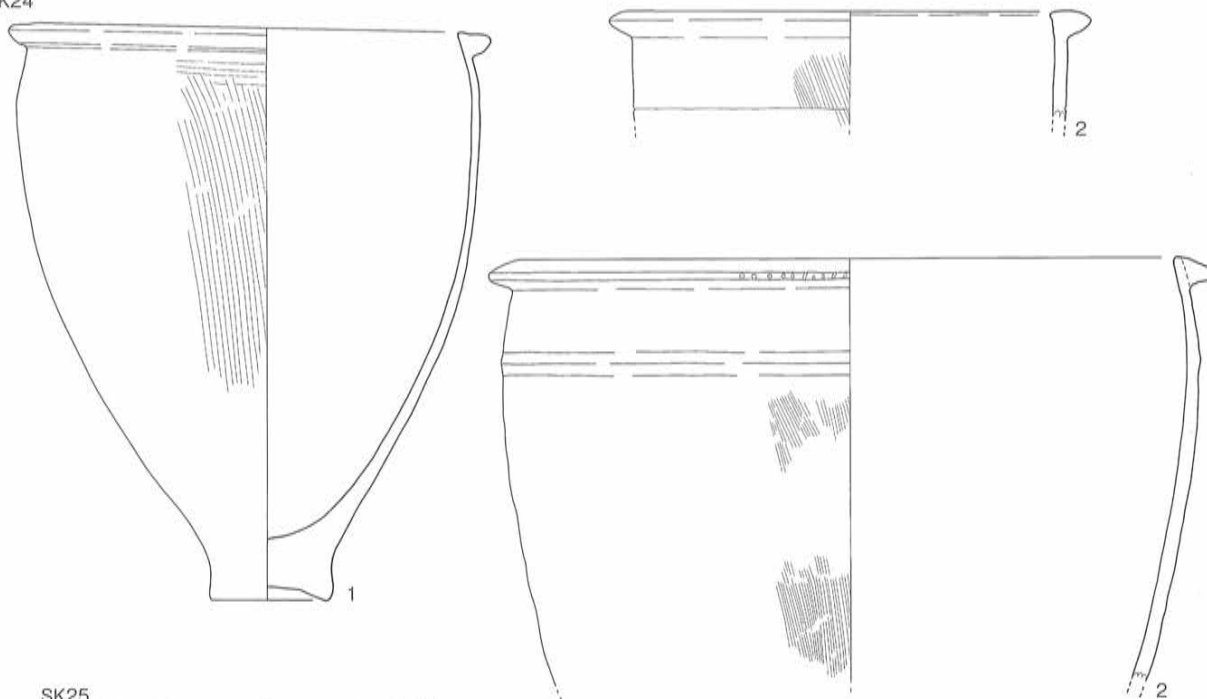
SK22・23



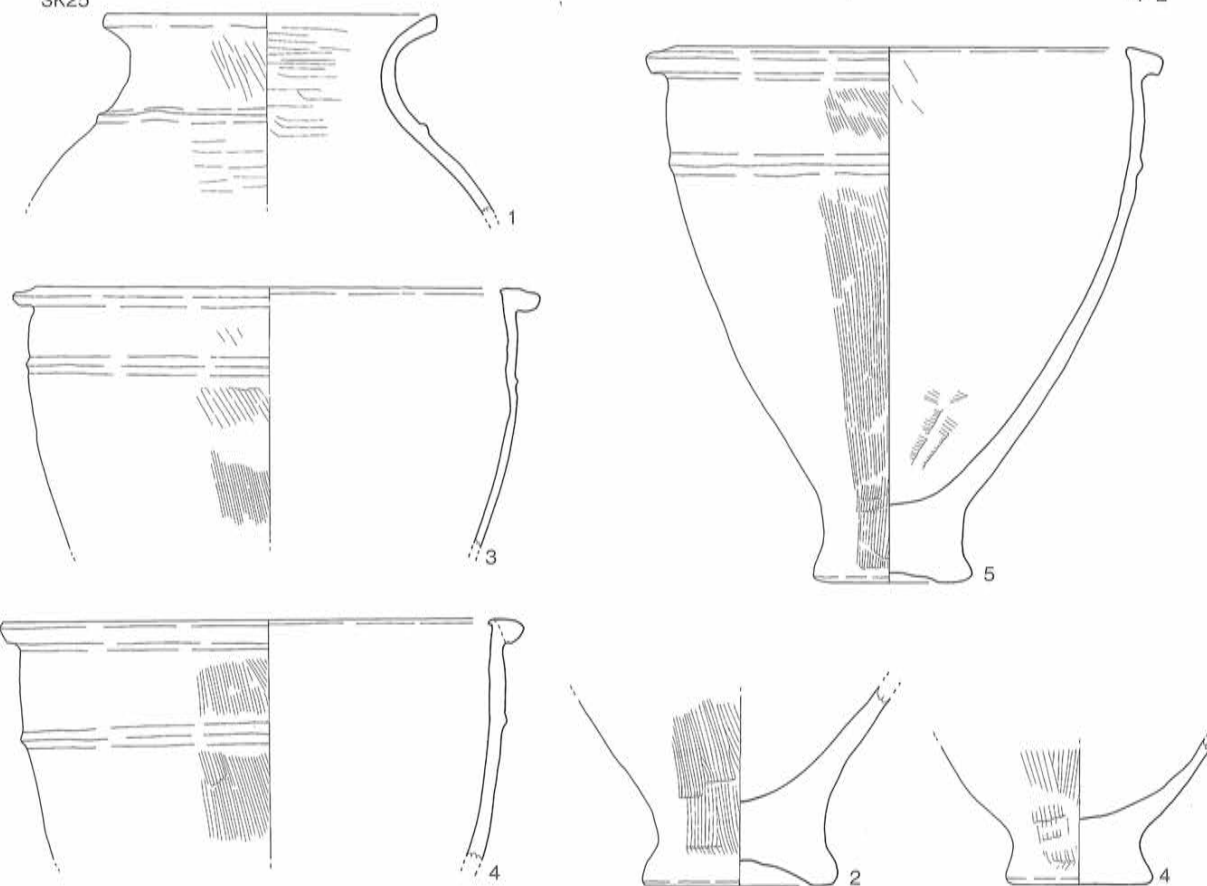
0 10cm

第 88 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK16 ③・19・21～23) 出土土器実測図 [1/4]

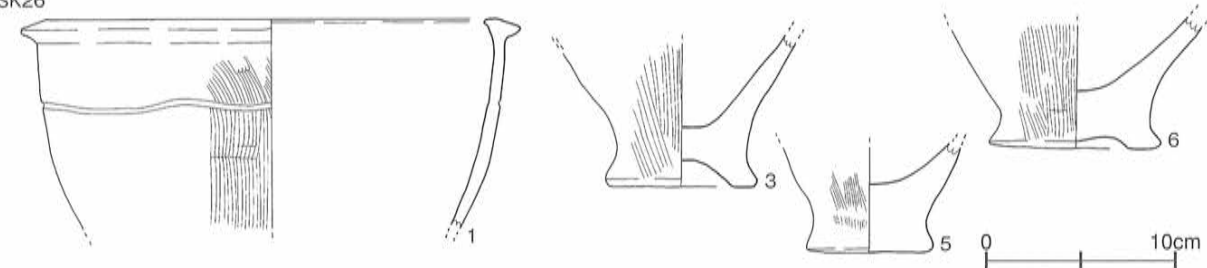
SK24



SK25

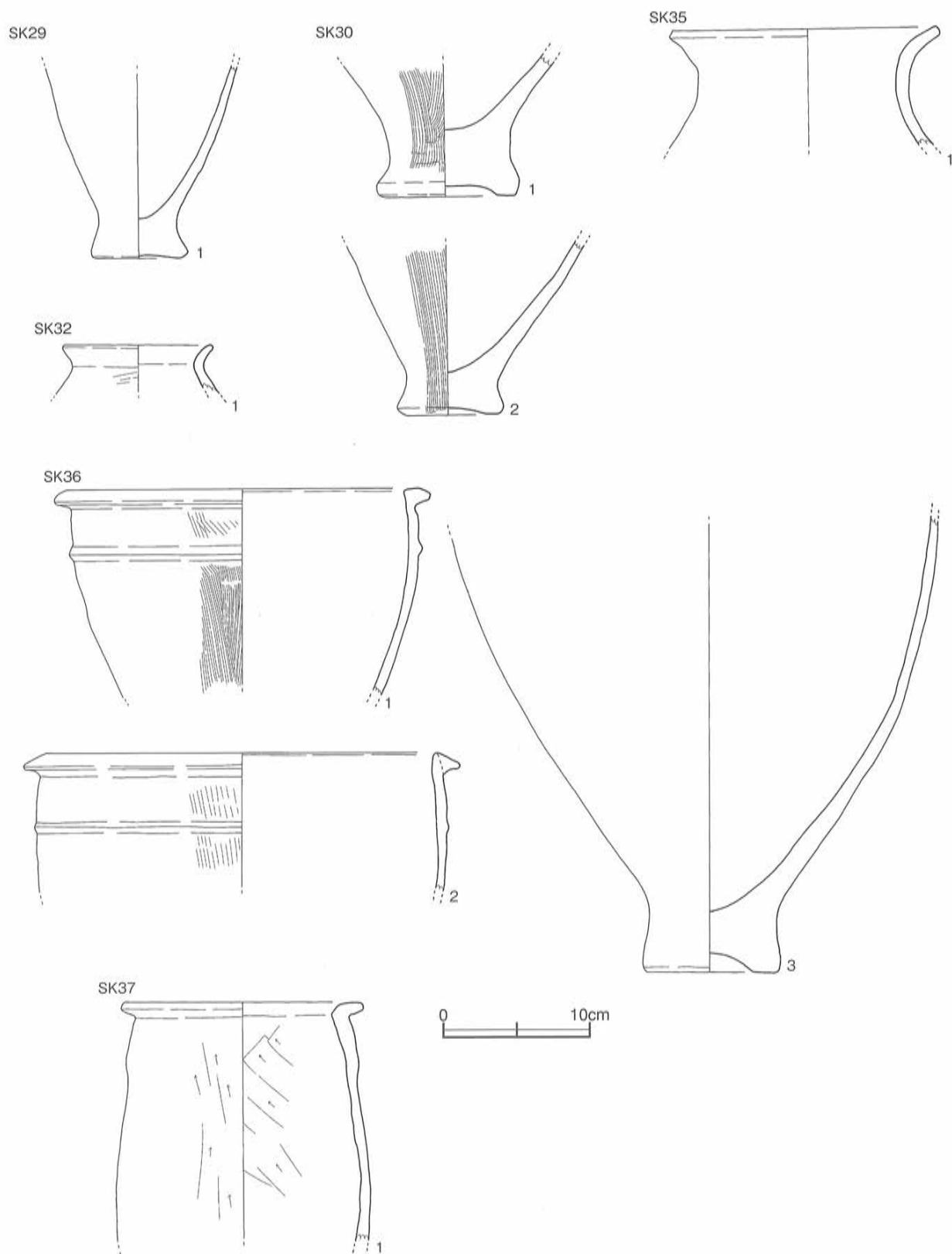


SK26

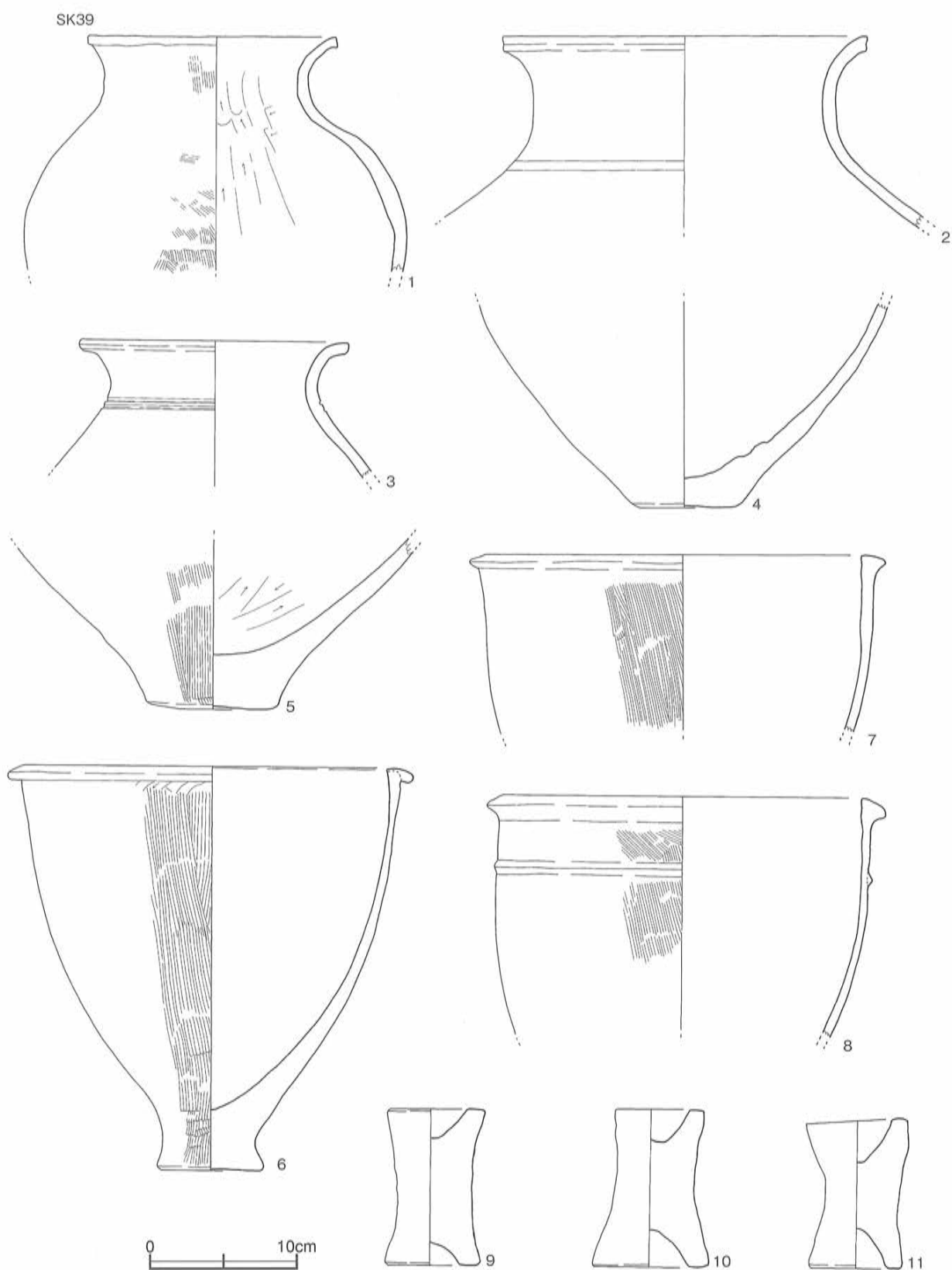


0 10cm

第 89 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK24 ~ 26) 出土土器実測図 [1/4]

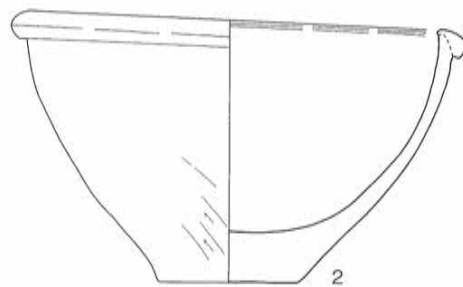
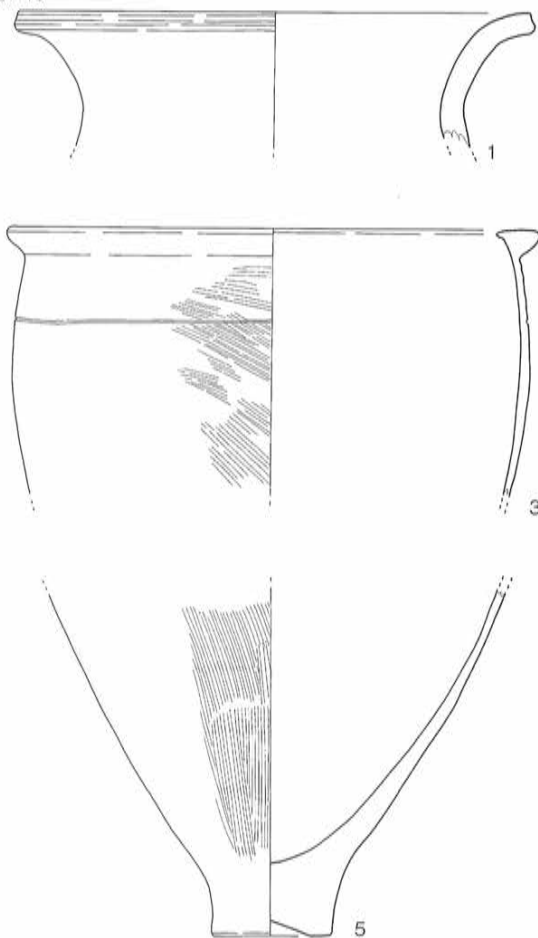


第 90 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK29・30・32・35～37) 出土土器実測図 [1/4]

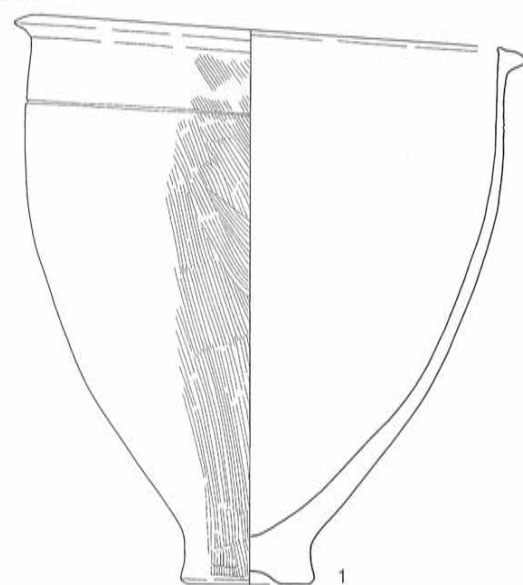


第 91 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK39) 出土土器実測図 [1/4]

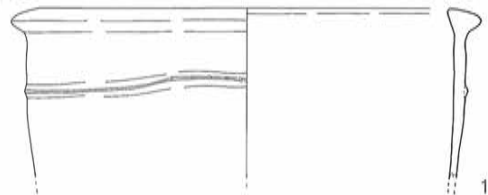
SK40



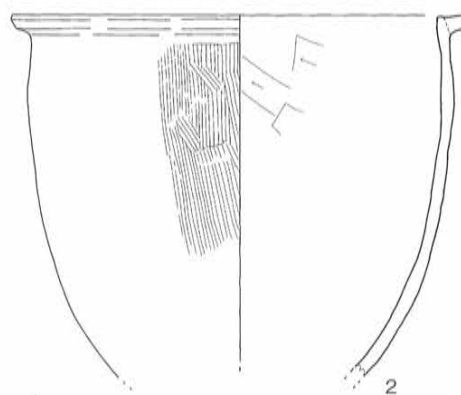
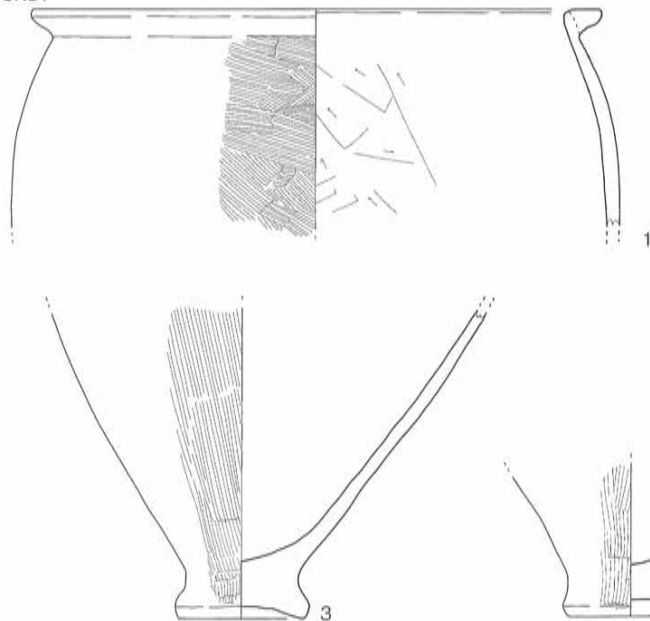
SK41



SK47

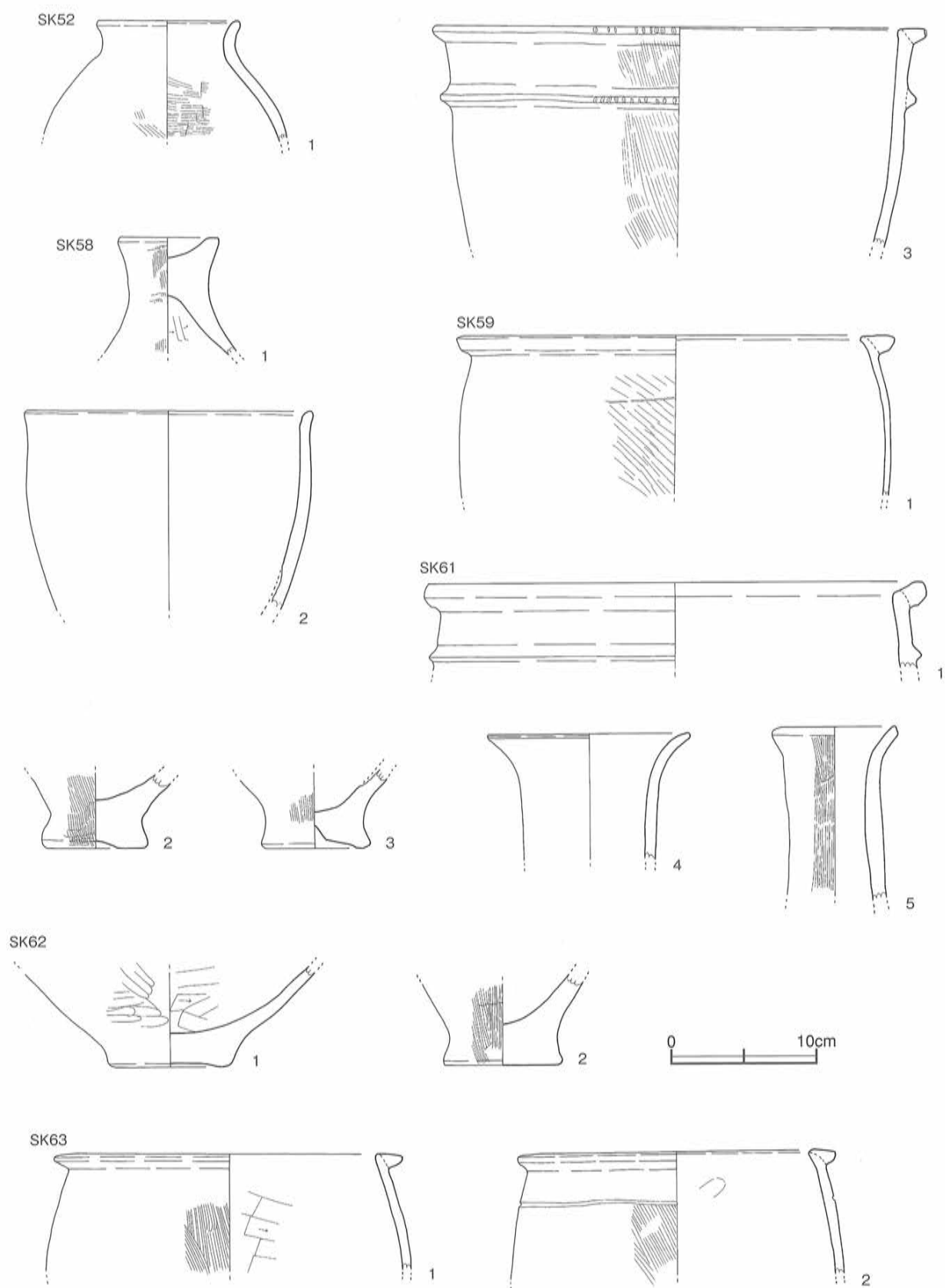


SK51

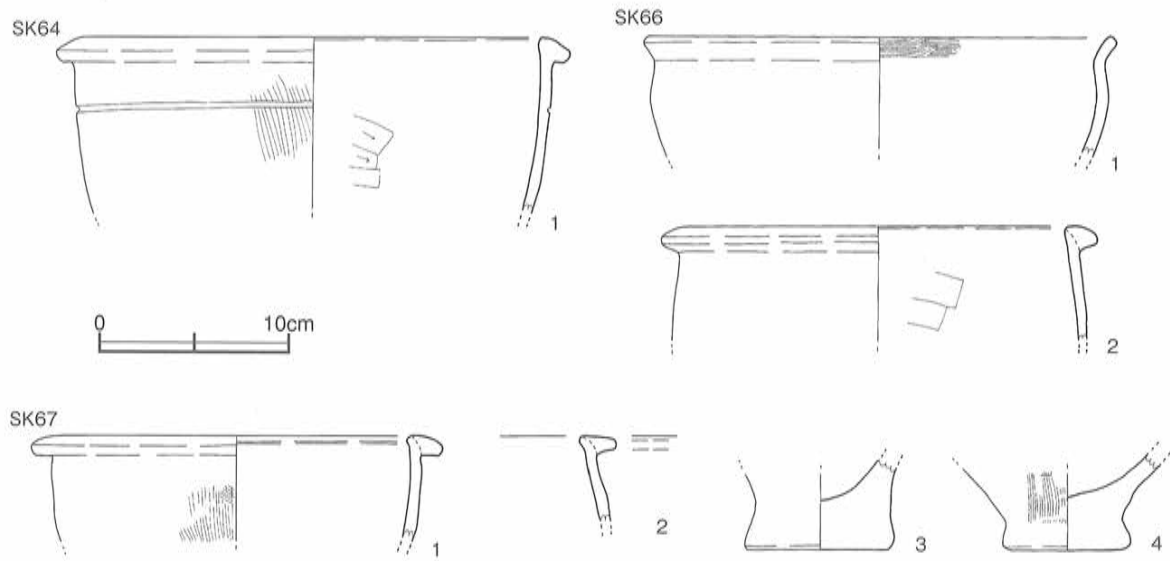


0 10cm

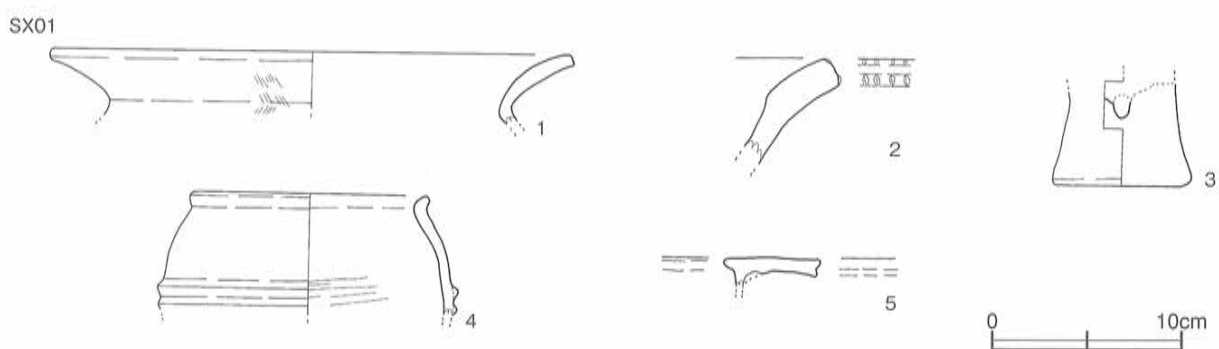
第 92 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK40・41・47・51) 出土土器実測図 [1/4]



第 93 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK52・58・59・61～63) 出土土器実測図 [1/4]

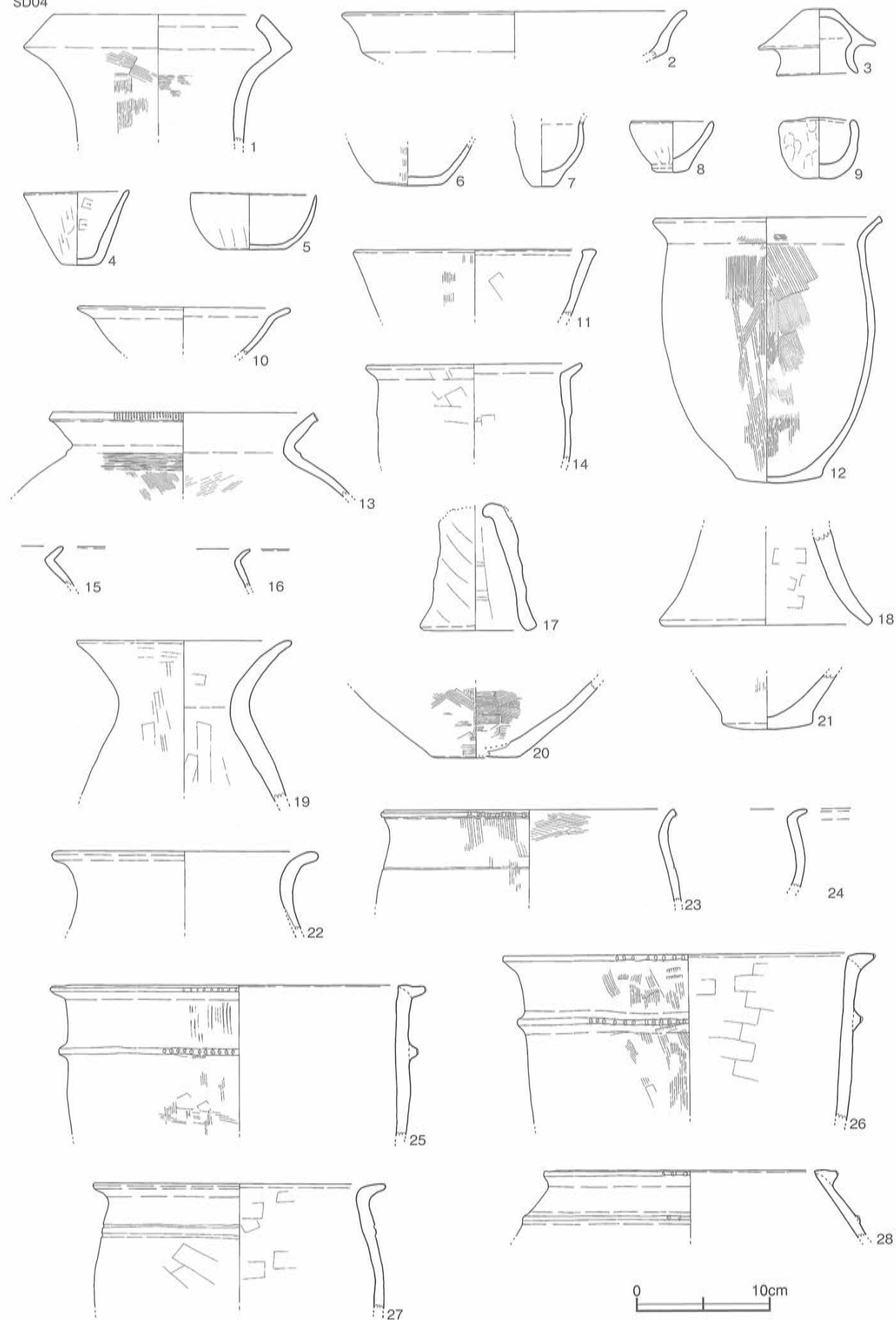


第 94 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 (SK64・66・67) 出土土器実測図 [1/4]

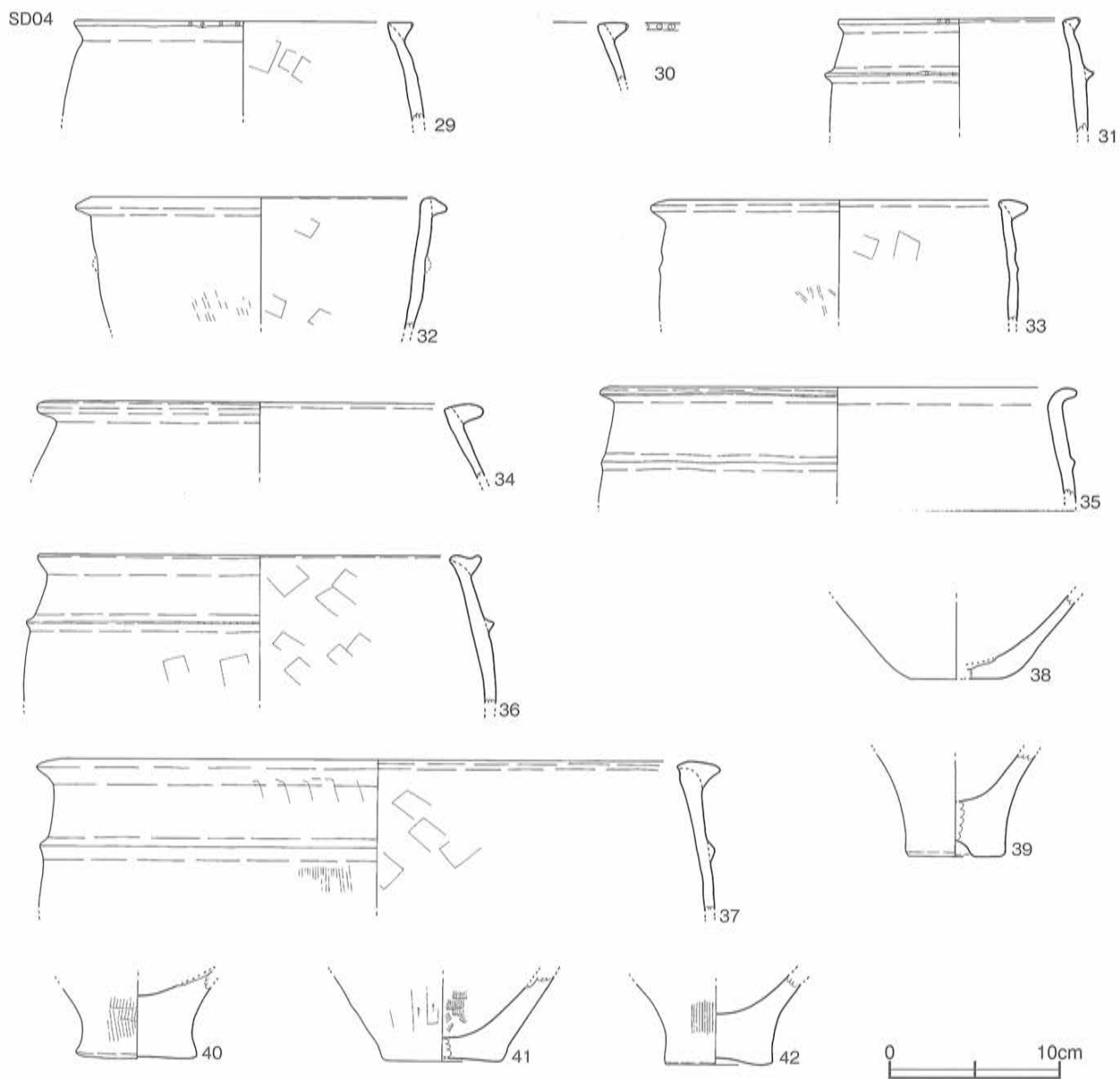


第 95 図 室岡山ノ上遺跡 周溝状遺構 (SX01) 出土土器実測図 [1/4]

SD04

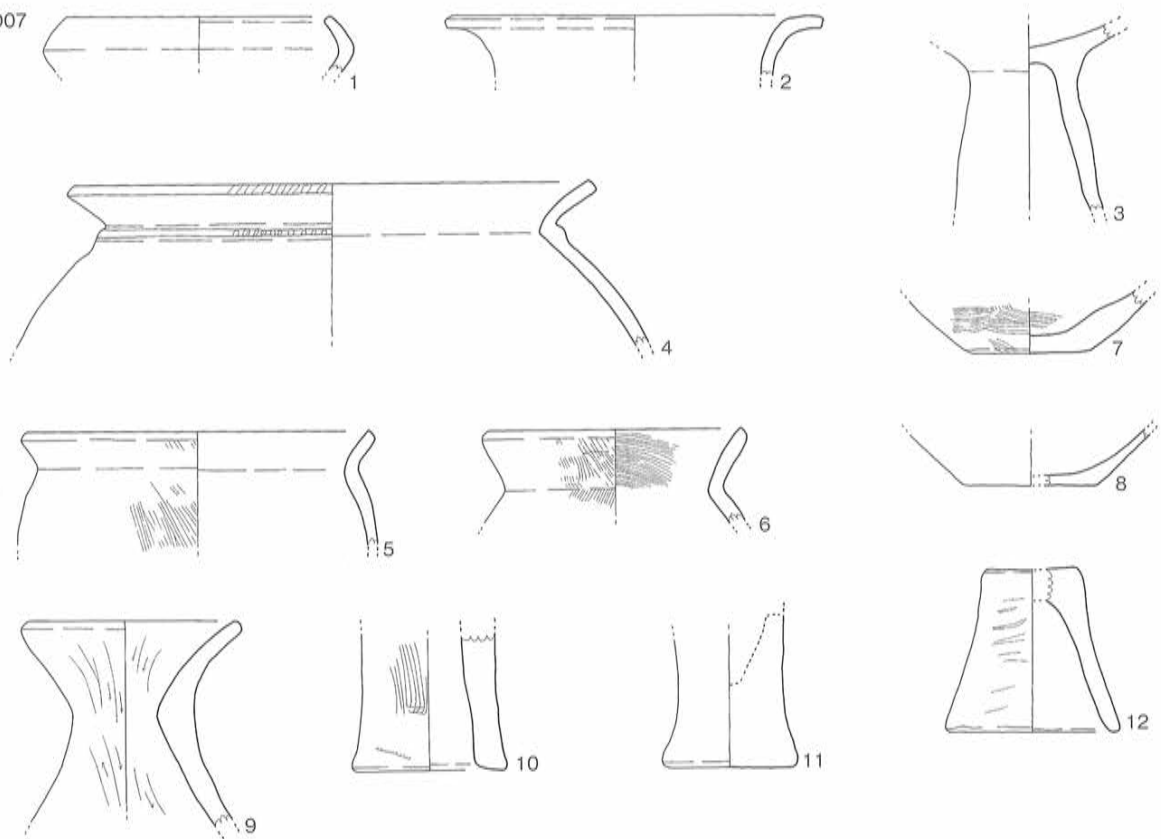


第 96 図 室岡山ノ上遺跡 溝 (SD04 ①) 出土土器実測図 [1/4]

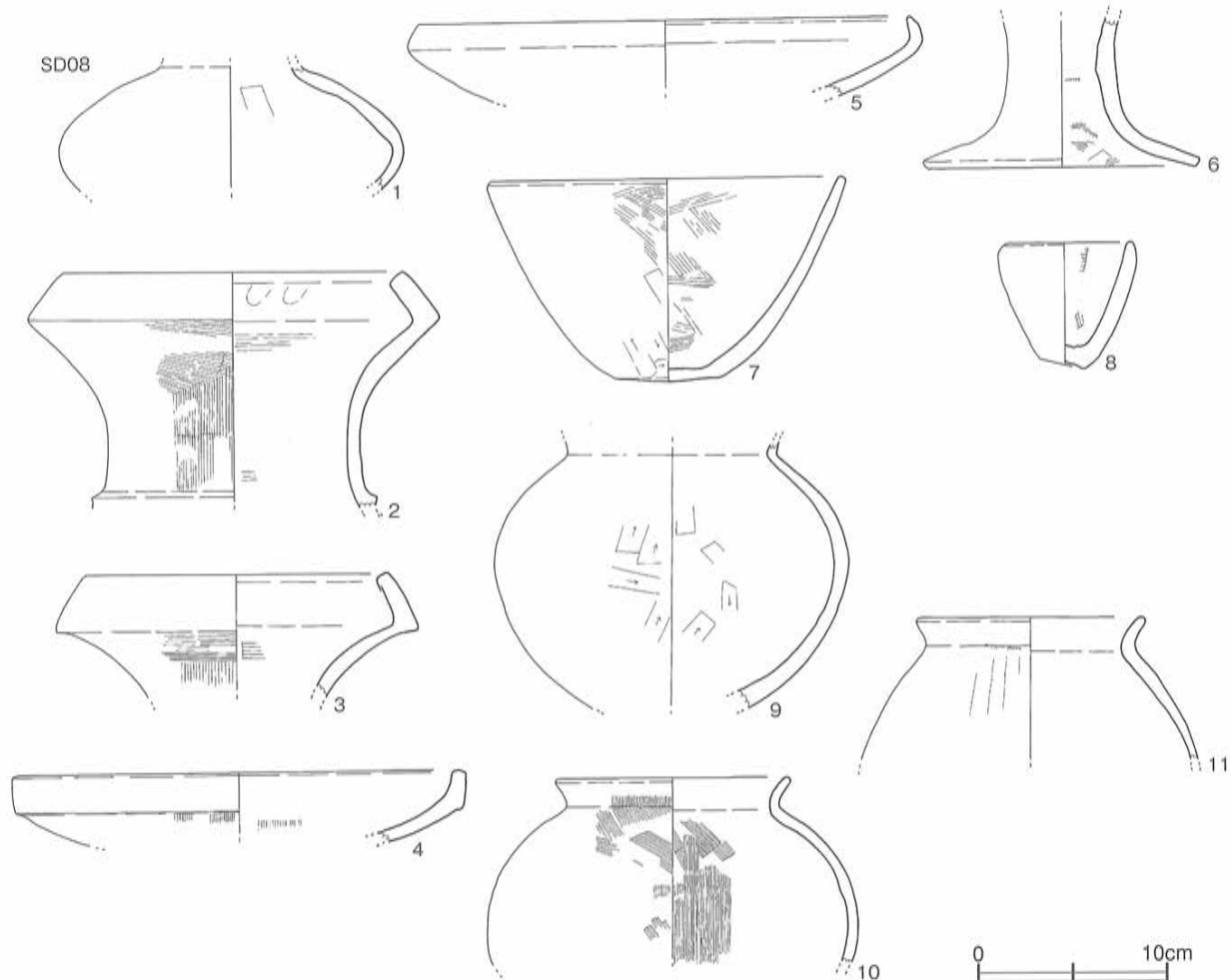


第 97 図 室岡山ノ上遺跡 溝 (SD04 ②) 出土土器実測図 [1/4]

SD07

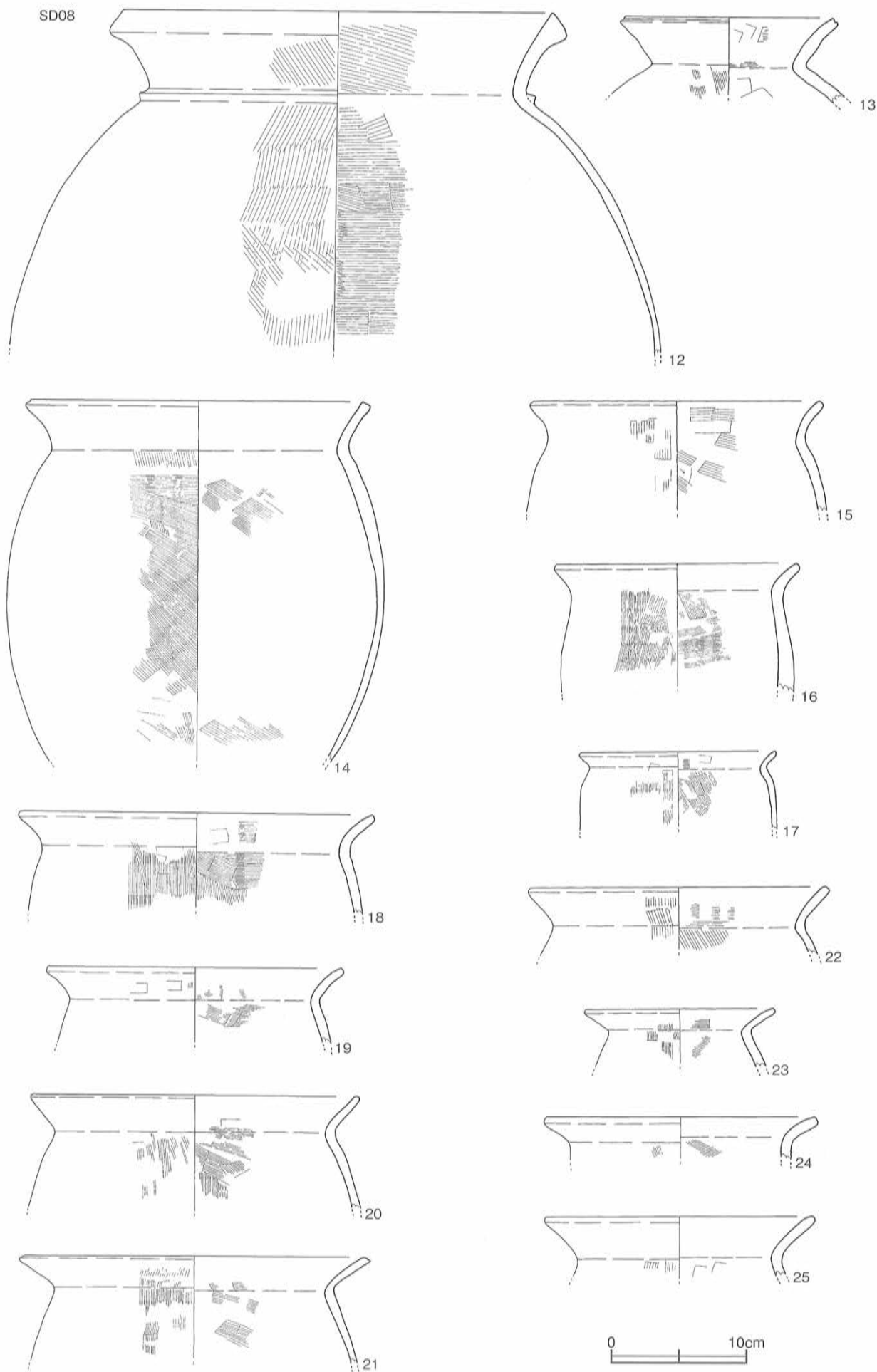


SD08



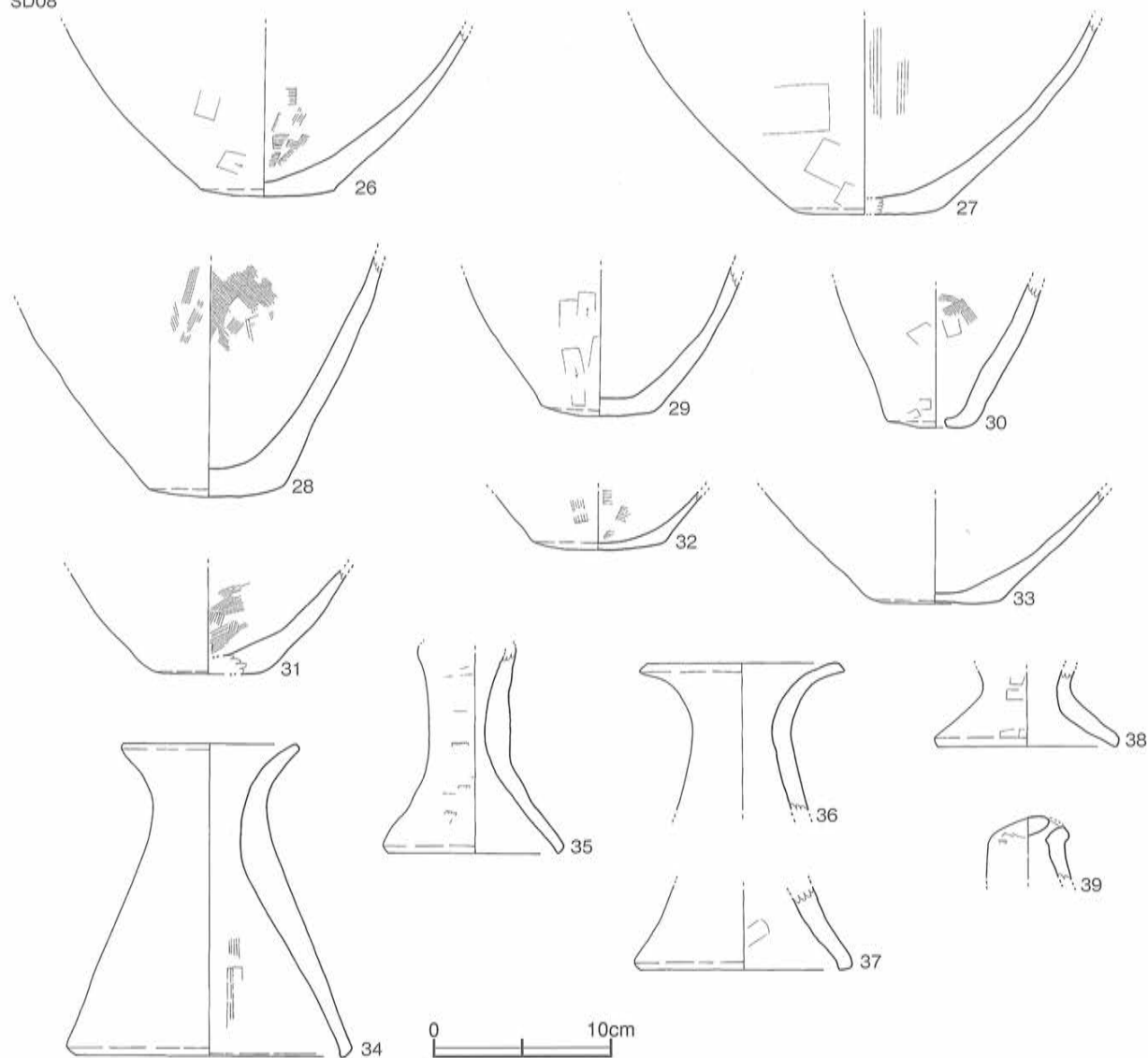
第 98 図 室岡山ノ上遺跡 溝 (SD07・08 ①) 出土土器実測図 [1/4]

SD08

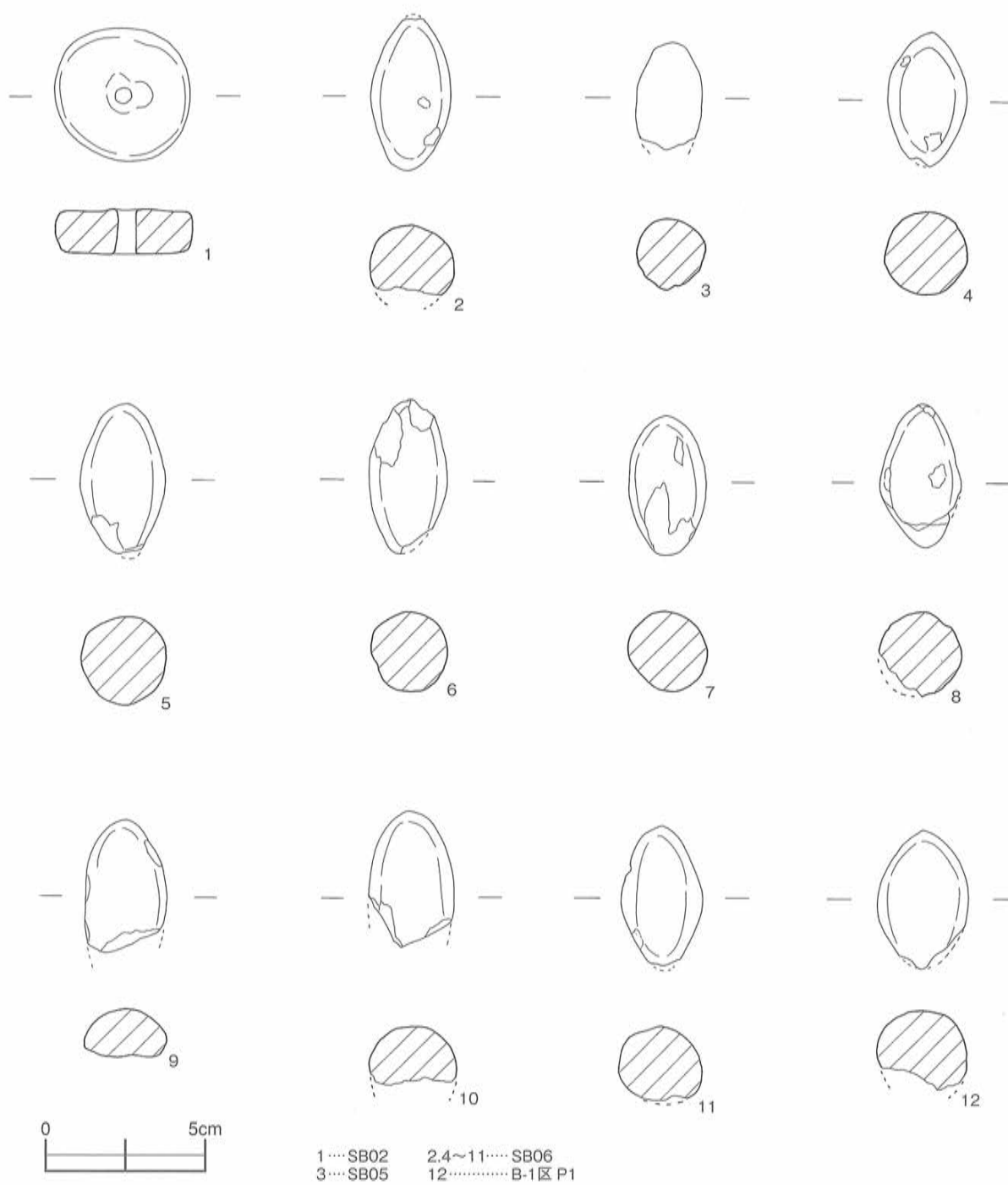


第 99 図 室岡山ノ上遺跡 溝 (SD08 ②) 出土土器実測図 [1/4]

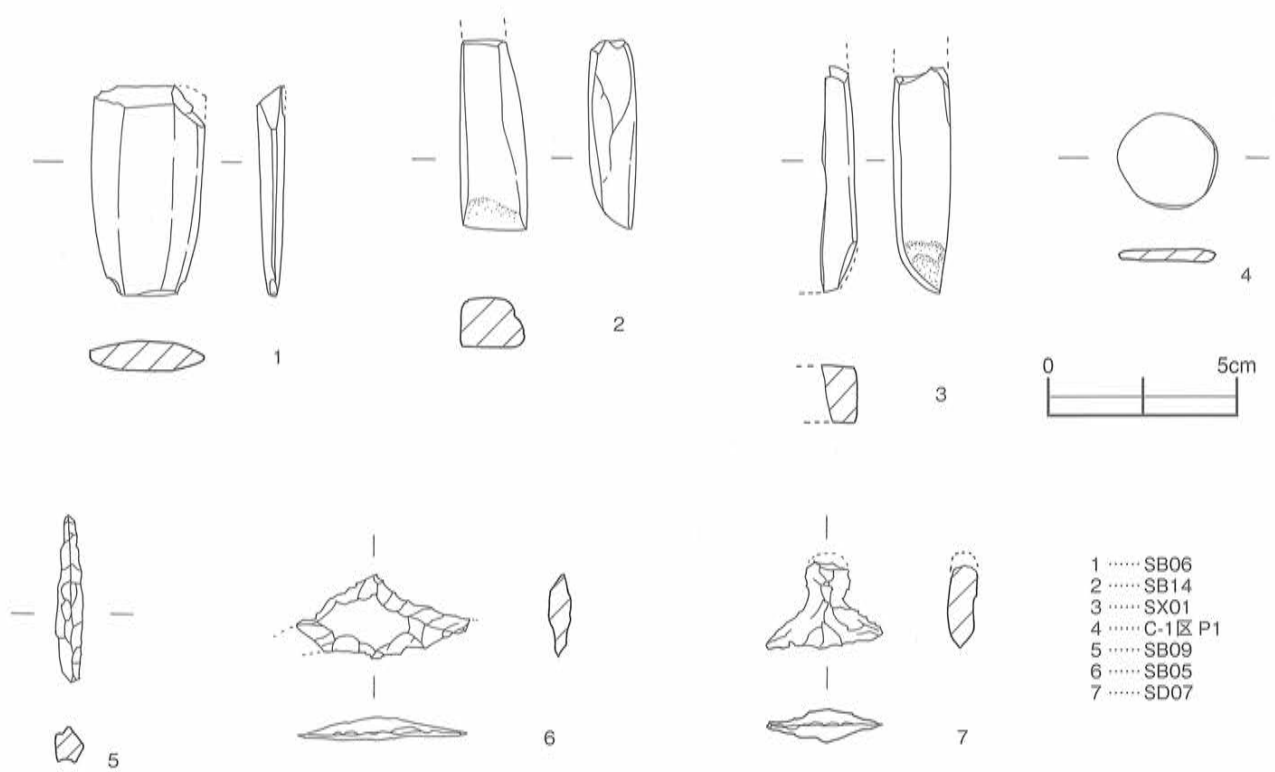
SD08



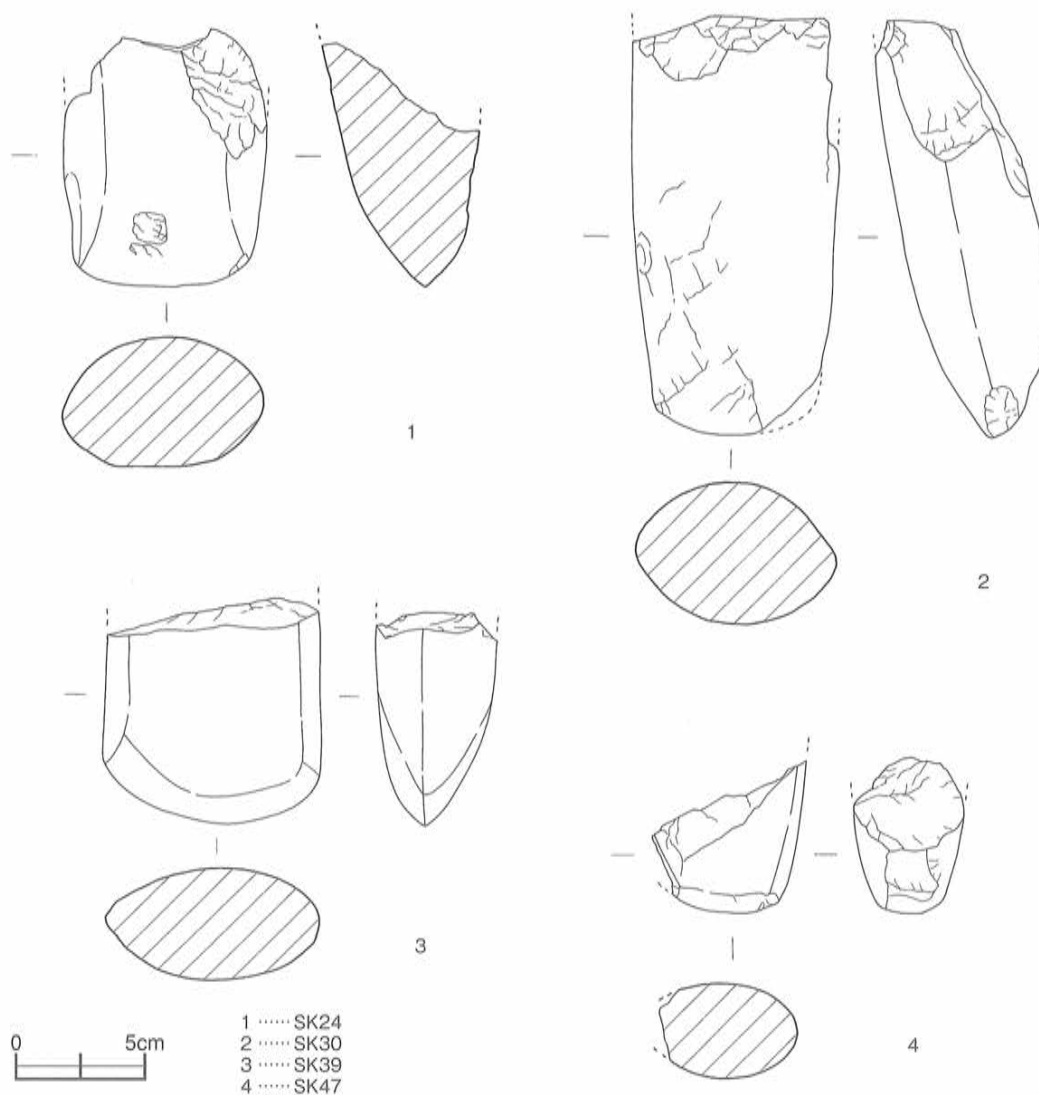
第 100 図 室岡山ノ上遺跡 溝 (SD08 ③) 出土土器実測図 [1/4]



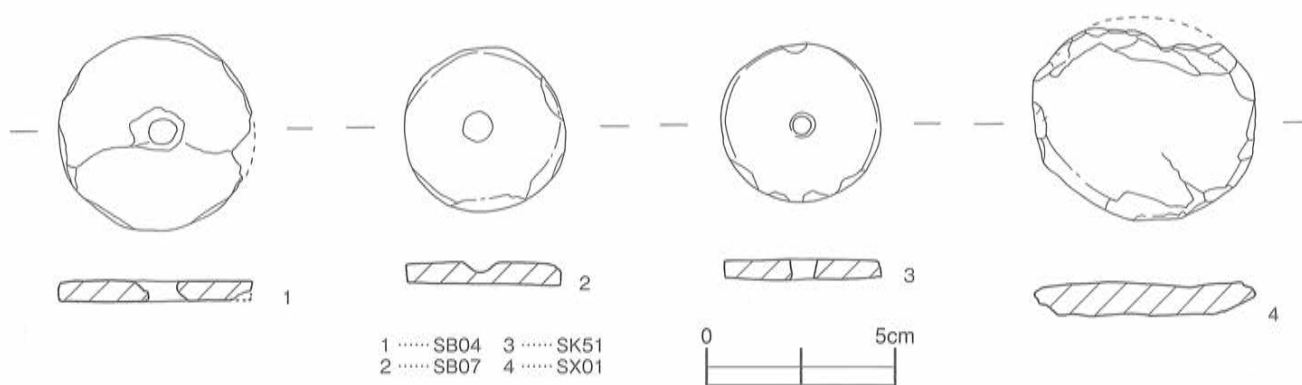
第 101 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居、ピット 出土土製品実測図 [1/2]



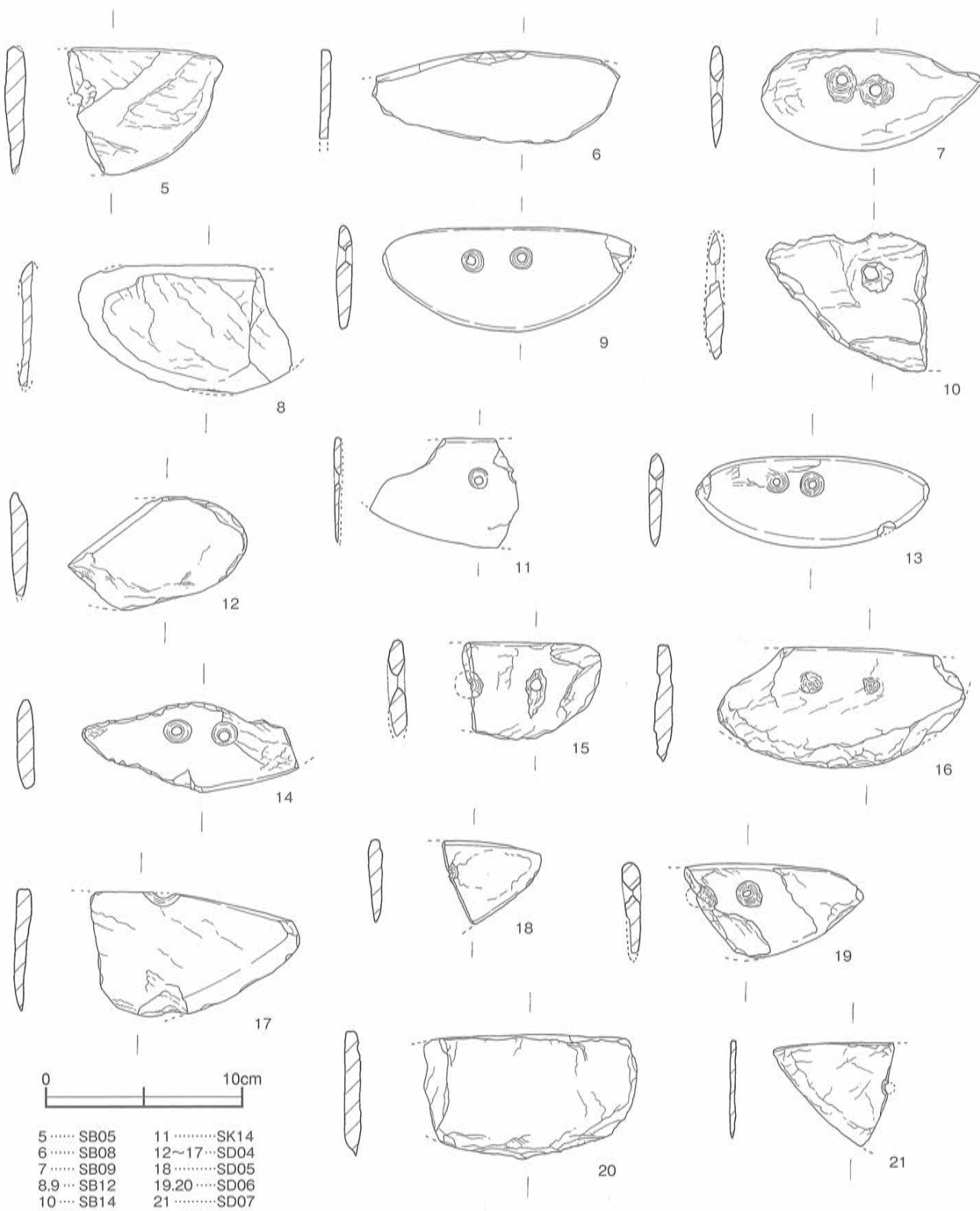
第 102 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居、周溝状遺構、溝、ピット 出土石製品実測図 [1/2]



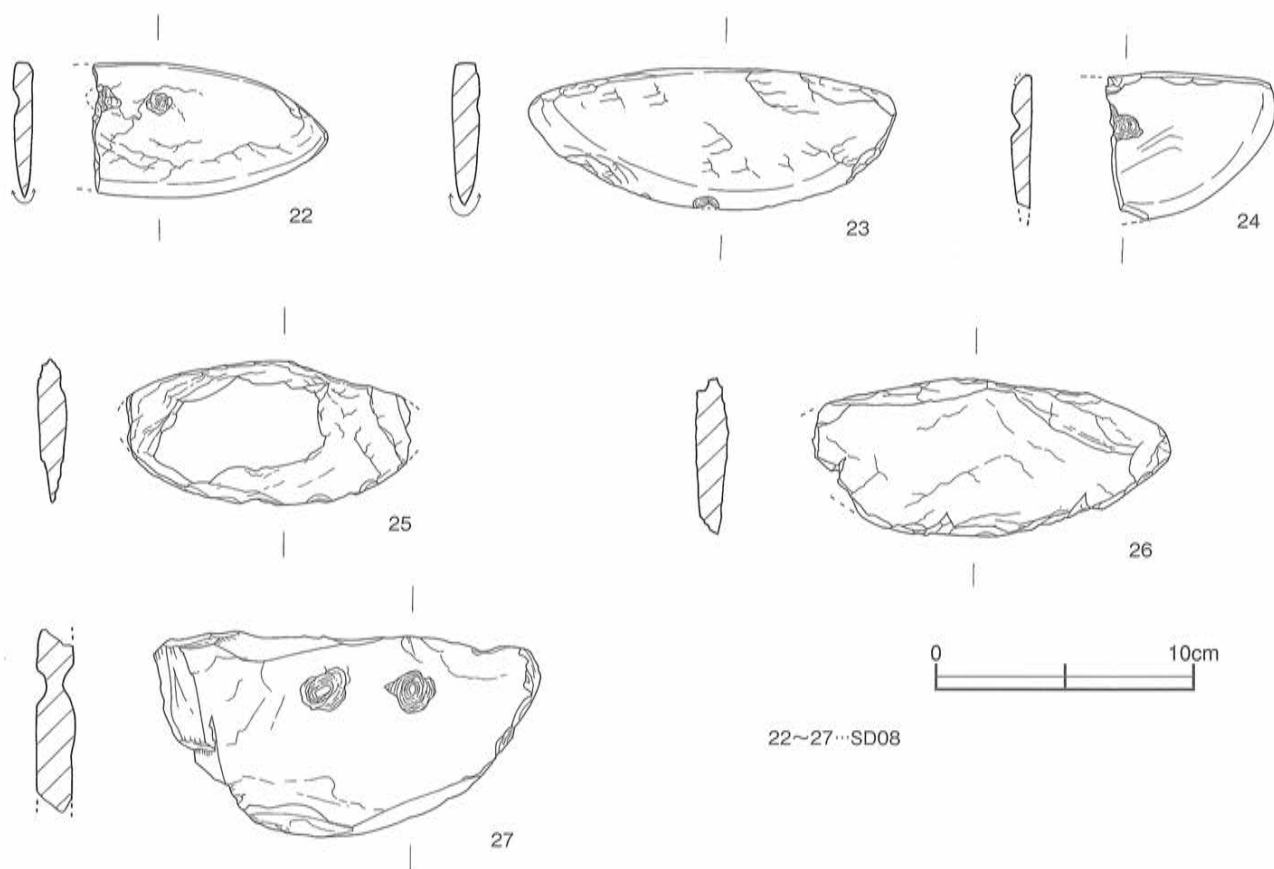
第 103 図 室岡山ノ上遺跡 土壙 出土石製品実測図 [1/3]



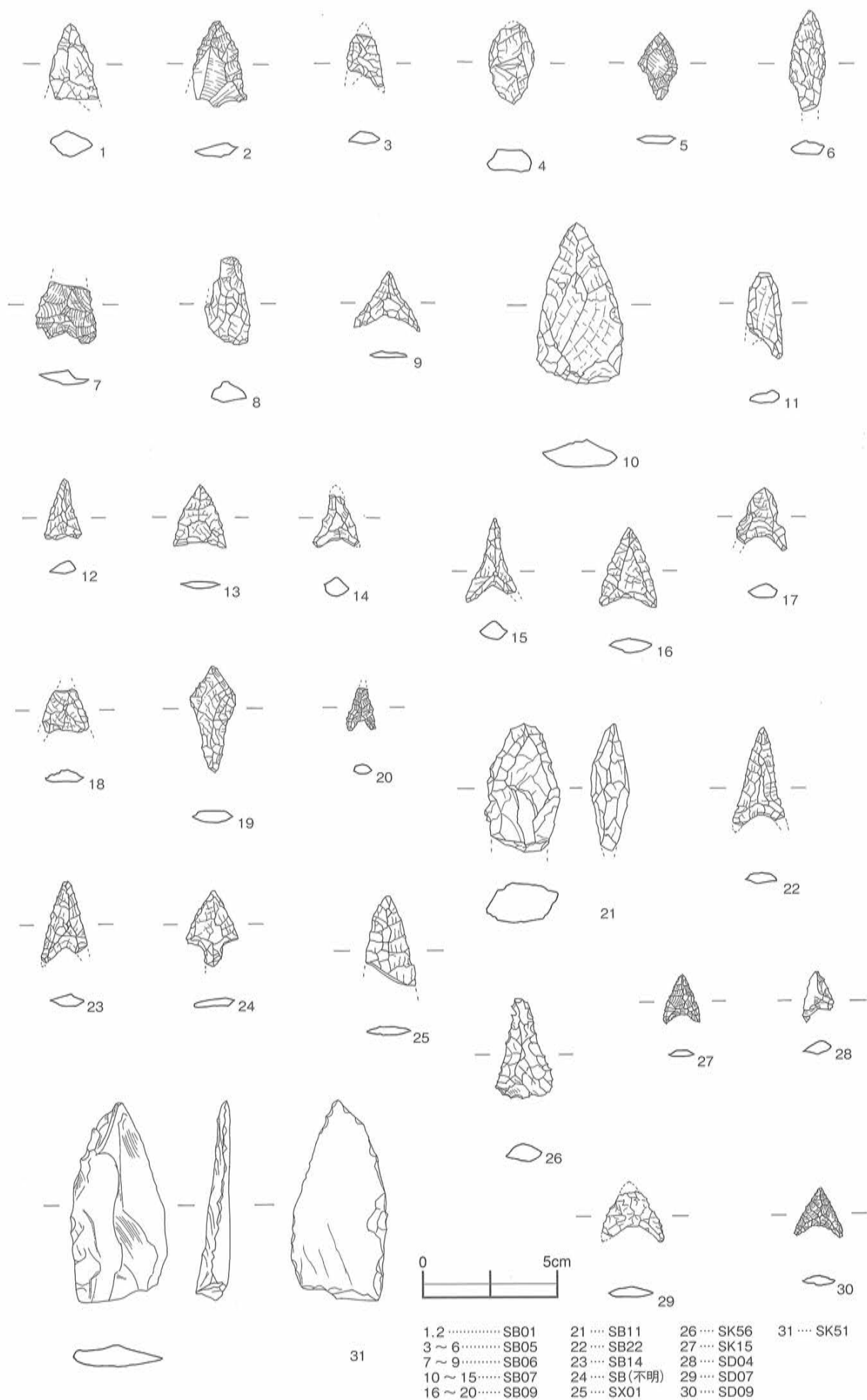
第 104 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居、土壙、周溝状遺構 出土石製品実測図 [1/2]



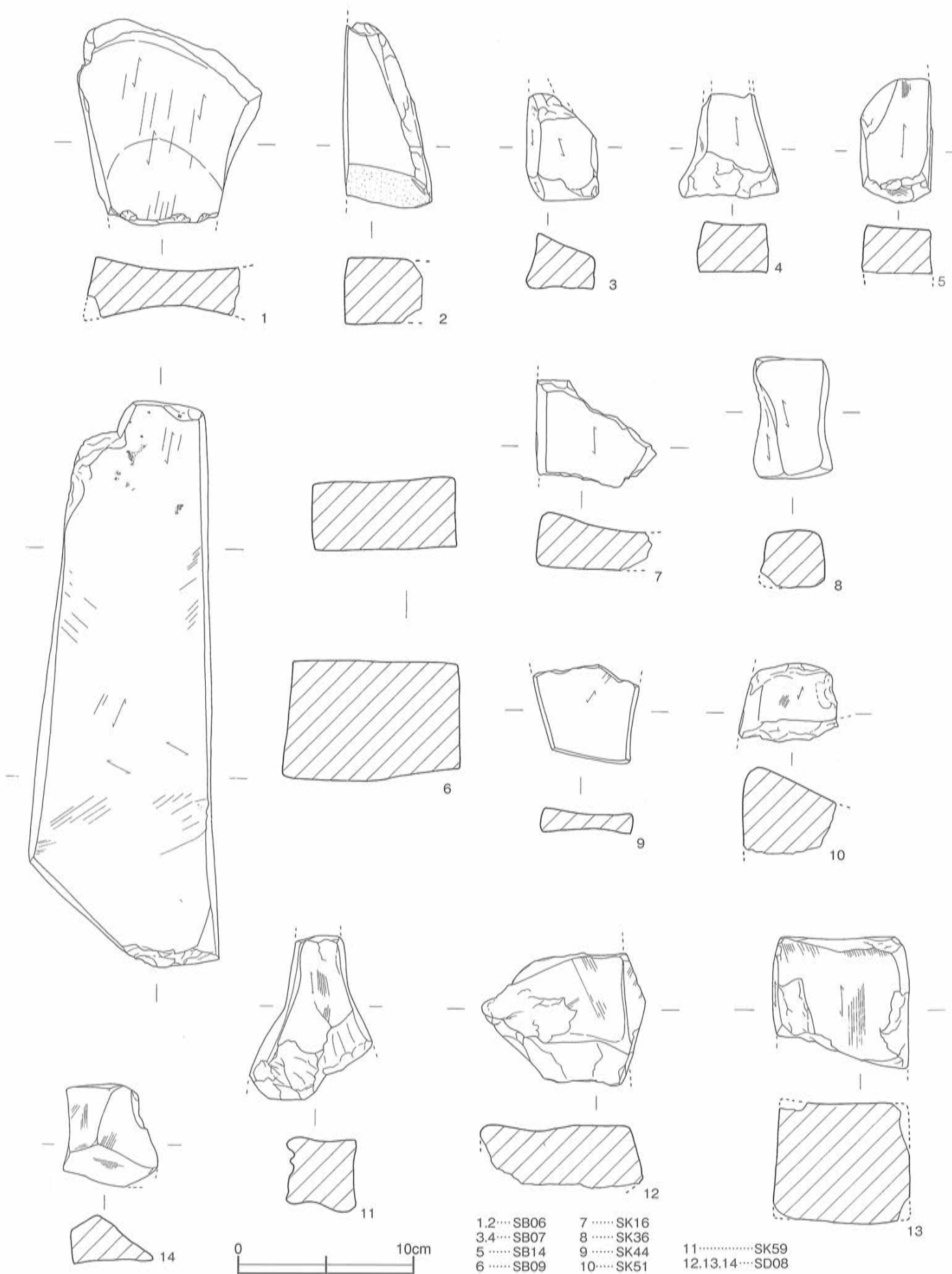
第 105 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居、土壇、溝 出土石製品実測図 [1/3]



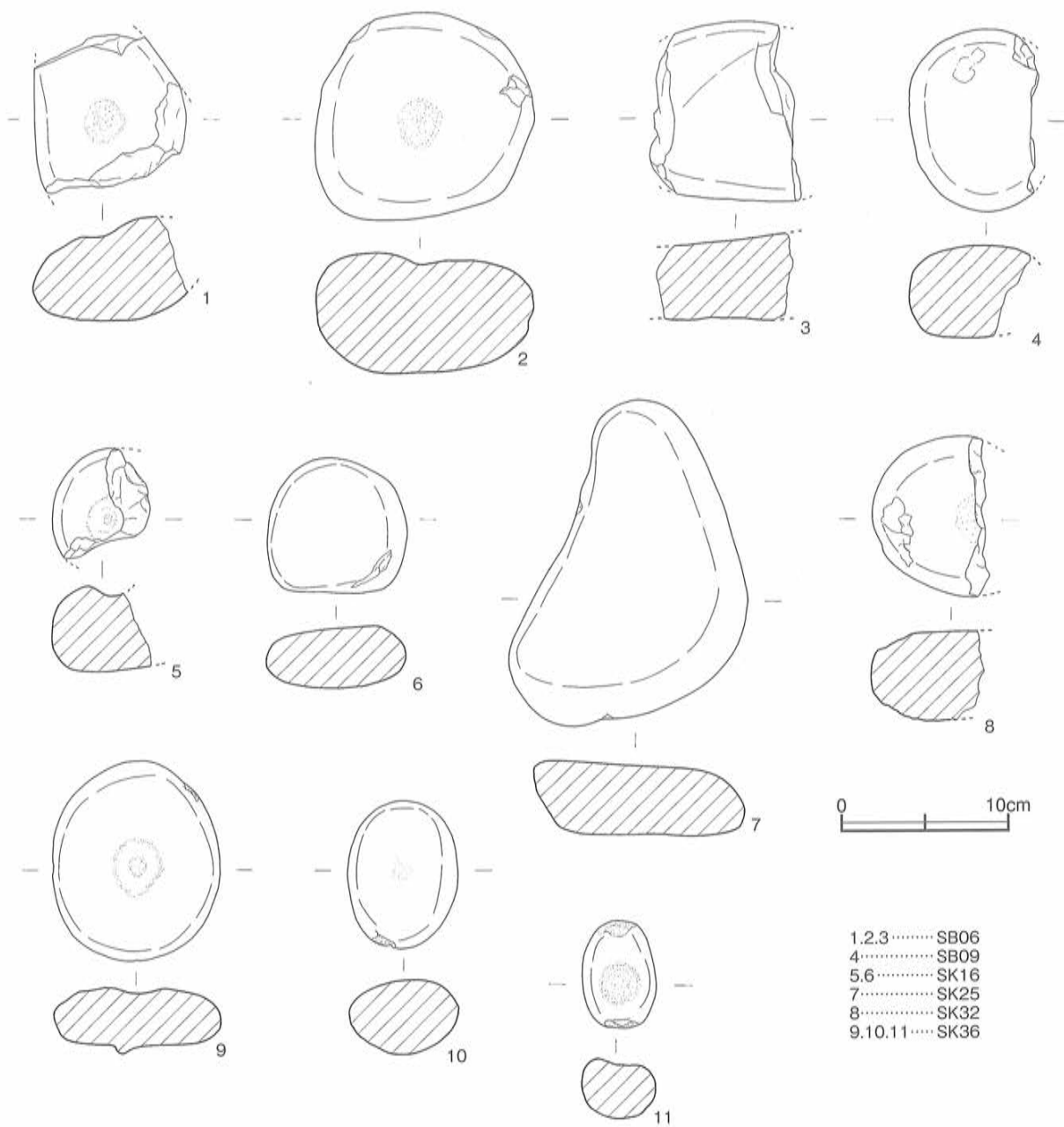
第 106 図 室岡山ノ上遺跡 溝 出土石製品実測図 [1/3]



第 107 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居、土壙、周溝状遺構、溝 出土石製品実測図 [1/2]



第 108 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居、土塋、溝 出土石製品実測図 [1/3]



第 109 図 室岡山ノ上遺跡 竪穴住居、土壙 出土石器実測図 [1/4]

押出 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第76図	SB01	1	甕 口縁部片	13.4			砂粒を含む。	暗褐色／黒色	普通	ナデ(摩耗)	ヨコナデ	
		2	甕 口縁部細片				砂粒を含む。	淡黄褐色		ナデ	ヨコナデ	
	SB02	1	甕 口縁部片	15.6			砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ	磨きがかかる	
		2	甕 口縁部片	26.2 (21.0)			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	赤茶褐色	普通	ヨコナデ(摩耗)	ヨコナデ	
	3	甕 口縁部片	22.4				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色／暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	浅い沈線
		4	甕 口縁部片	25.2			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	沈線
	5	甕 口縁部片	17				砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	浅い沈線
		6	甕 口縁部片	16.6			砂粒を含む。	淡褐色／淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	沈線、スス付着
	7	甕 口縁部片	18.2				砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	浅い沈線
		8	甕 口縁部片	27.8 (24.0)			砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、細かい ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
	9	甕 口縁部片	20.4				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色／暗茶黒褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	接合痕
		10	甕 口縁部片	25.2 (21.8)			砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	
	11	甕 口縁部片	23.4				1～2mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ	ヨコナデ	
		12	甕 口縁部片	22			砂粒を含む。	暗茶褐色(一部黒褐色)	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	浅いヘラ描沈線
	13	甕 口縁部片	34.2 (30.4)				1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ナデ、ヨコナデ、 ヘラ調整	ヨコナデ、ナデ	
		14	甕 口縁部片	21			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	15	甕 口縁部片	18				砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
		16	甕 口縁部細片				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
	17	甕 底部	5.2				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ナデ	不明(摩耗)	
		18	器台 底部	9			砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヘラ調整、ヨコナデ	ナデ	
	19	手捏土器	4.1	2.6	4.7		砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	一部ヘラ調整、ナデ	ナデ	
第77図	SB03	1	甕 底部	3			1～4mm大の小石がわずかに 混じる。砂粒を含む。	暗茶褐色／暗黄褐色	普通	ハケ目後ナデ、ナ デ、ヘラ調整	ヘラ調整、一部 ナデ	黒斑有り
	SB04	1	甕 口縁部片	24.8			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、細かい ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
	SB05	1	甕 口縁部片	20.6			砂粒を含む。	淡褐色／淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ヨコナデ	不明	
		2	甕 口縁部細片				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ナデ	不明	
	3	甕 底部	6.7				1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
		SB06	1	甕 口縁部片	19.6		1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、細かい ハケ目、ハケ目	ナデ	ヘラ描沈線
	2	甕 口縁部細片					1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ	ナデ	刻目(摩耗)
		3	甕 口縁部細片				1～2mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗灰褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	刻目
	4	甕 口縁部片	21.2				砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
		5	甕 口縁部片	17.6			砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	
	6	甕 口縁部細片					1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目 後ヨコナデ	ヨコナデ	
		7	甕 口縁部片	21.8			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、一部不 明(摩耗)	ナデ	
	8	甕 口縁部片	25.2				砂粒を含む。	黒茶褐色／淡灰褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	スス付着
		9	甕 口縁部片	26.6			砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
	10	甕 口縁部片	20.6				砂粒を含む。	淡黒褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
		11	甕 口縁部片	23.6			砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	一部ヘラ調整	
	12	甕 口縁部片	26.4 (22.8)				砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	
		13	甕 口縁部片	27.6				淡黄茶褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ、ヨ コナデ、不定方向のハケ目	一部ハケ目、ナデ	
	14	甕 口縁部片	24.8				砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ、ヨ コナデ、ハケ目(摩耗)	ナデ	
		15	甕 口縁部片	21.4			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
	16	甕 口縁部片	24 (20.4)				砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
		17	甕 口縁部片	23.8			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
第78図	18	甕 口縁部片	25.4				砂粒を含む。	淡黄茶褐色／暗褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
		19	甕 口縁部片	22.8			砂粒を含む。	黒淡褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
	20	甕 口縁部片	24.2				砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ(摩耗)、 ハケ目	ナデ	
		21	甕 口縁部細片				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ヨコ方 向ハケ目(摩耗)	ナデ	
	22	甕 口縁部細片					砂粒を含む。	灰黒褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ	
		23	甕 口縁部片				1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通			
	24	甕 口縁部細片					1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
		25	甕 口縁部細片				砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、細かいハケ目	不明	
	26	甕 口縁部片					1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	
		27	甕 口縁部細片				砂粒を含む。	暗褐色／暗茶黒褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	刻目
	28	鉢 口縁部片	18				砂粒を含む。	黒色／淡褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ磨き	磨きがかかる	

表 15 室岡山ノ上遺跡 SB・SK・SX・SD 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◇	◇	29	鉢 口縁部片	21.4			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、磨きがかかる(摩耗)	磨きがかかる	
◇	◇	30	壺 底部	11.9			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黒茶褐色	普通	ヘラ調整後磨きがかかる、ナデ圧痕、ナデ	ヘラ調整	
◇	◇	31	壺 底部	7.5			砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ナデ	ナデ(摩耗)	
◇	◇	32	甕 底部	9.8			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◇	◇	33	甕 底部	6.2			砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ハケ目、ハケ目後ナデ、ナデ	ナデ	
◇	◇	34	甕 底部	8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	ナデ、ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	35	甕 底部	7			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ナデ	押圧痕
◇	◇	36	甕 底部	6.7			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目後ナデ、ヨコナデ、ナデ	不明	
◇	◇	37	支脚 2/3片	5			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ナデ		圧痕
◇	SB07	1	蓋 口縁部片	30			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黒灰褐色	普通	細かいハケ目、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	
◇	◇	2	壺 口縁部片	12			砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ヘラ調整(摩耗)	磨きがかかる(摩耗)	
◇	◇	3	甕 口縁部片	24			砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	刻目
◇	◇	4	甕 口縁部片	23.6 (20.2)			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	一部ハケ目、ナデ	細い刻目
◇	◇	5	甕 口縁部片	22		18.4	砂粒を含む。	淡黄茶褐色/茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
第79図	◇	6	甕 口縁部片	22			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黒灰褐色/淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、一部不明(剥落)	ナデ	スス付着
◇	◇	7	甕 口縁部細片				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡橙褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	刻目
◇	◇	8	甕 口縁部細片				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	刻目
◇	◇	9	甕 口縁部細片				砂粒を含む。	淡橙褐色	やや不良	ヨコナデ	不明(摩耗)	
◇	SB08	1	壺 口縁部片	15.6			砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後ヨコナデ	ハケ目	黒斑有り
◇	◇	2	鉢 1/3片	15			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、細かいハケ目(摩耗)	ヨコナデ、ハケ目後ナデ	
◇	◇	3	鉢 口縁部片				砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	4	壺 口縁部片	16			砂粒を含む。	暗黄淡褐色	普通	ハケ目(摩耗)	ヨコナデ	
◇	◇	5	壺 口縁部片	14			砂粒を含む。	暗黄褐色~淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ヨコナデ	
◇	◇	6	壺 1/6片	12			砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗黄褐色/暗茶褐色	普通	指ナデ	指ナデ、ヘラ調整	一部黒斑有り
◇	◇	7	手捏土器壺	11.8	4.4		砂粒を含む。	淡褐色	普通	指ナデ	指ナデ	指頭痕
◇	◇	8	甕 口縁部片	21.8			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ハケ目、一部ナデ	
◇	◇	9	壺 口縁部片	22			砂粒を含む。	灰黒褐色	普通	ヨコナデ	ヘラ調整	
◇	◇	10	甕 口縁部片				砂粒を含む。	淡褐色/灰黒黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目後ナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	11	鉢 口縁部細片				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色/黄茶褐色	やや不良	不明、ハケ目	不明(摩耗)	
◇	◇	12	鉢 口縁部片	10			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	細かいハケ目(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	13	脚付甕	13			砂粒を含む。	淡黄灰褐色/黒灰褐色	普通	ナデ	ハケ目後ナデ	
◇	◇	14	甕 底部片				砂粒を含む。	淡褐色/淡黄褐色	普通	ハケ目後ナデ、ナデ	不定方向のハケ目(摩耗)	黒斑有り
◇	◇	15	甕 底部片	7.8			砂粒を含む。	淡黄褐色/淡褐色	普通	ナデ、ハケ目(摩耗)	ナデ	
◇	◇	16	甕 口縁部片	22.8 (19)			砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
◇	◇	17	甕 口縁部片	21			砂粒を含む。	淡黄灰褐色/淡橙褐色~黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◇	◇	18	甕 口縁部片	23.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色~淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	刻目
◇	◇	19	甕 口縁部片				砂粒を含む。	淡黄褐色/淡黄褐色~淡橙色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	20	甕 口縁部細片				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ナデ	不明	
◇	◇	21	甕 口縁部片	18			砂粒を含む。	淡黄褐色/灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ナデ	
◇	◇	22	甕 口縁部片	22.8			砂粒を含む。	淡灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ヨコナデ	
第80図	SB09	1	壺 口縁部片	18			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	指押圧痕
◇	◇	2	壺 口縁部片	18			1~3mm大の小石が多く混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	不明(摩耗)、ヨコナデ、ハケ目	不明(摩耗)	
◇	◇	3	鉢 口縁部片	10.2			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ヨコナデ	
◇	◇	4	高坏 坏部片				1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	不明(摩耗)	
◇	◇	5	壺 1/3片	10.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	ハケ目(摩耗)	ナデ	
◇	◇	6	手捏土器壺(完形)	4.4	3.5		砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	7	甕 胴上部片	14.8			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗褐色/暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後ヘラ調整	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り
◇	◇	8	甕 口縁部片	17			砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ナデ	ハケ目(摩耗)	
◇	◇	9	甕 口縁部片	21.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコ方向ハケ目(摩耗)、ナデ	
◇	◇	10	甕 口縁部片	17.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色/黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	不明	スス付着
◇	◇	11	甕 胴中・下部片	5			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰黒褐色/淡黄褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ナデ	ハケ目(摩耗)	
◇	◇	12	甕 胴部片	6.3			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄暗褐色/淡黄茶褐色	普通	ハケ目後ヘラ調整、ナデ(摩耗)	ヘラ調整	黒斑有り
◇	◇	13	甕 1/3片	17.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	一部調整	黒斑有り
◇	◇	14	甕 胴上部片	23.6			1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色/暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	不明(摩耗)	スス付着

表 15 室岡山ノ上遺跡 SB・SK・SX・SD 出土土器観察表

検出 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◆	◆	15	甕 口縁部片	26.8			1~8mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	不明(摩耗)	不明	
◆	◆	16	甕 口縁部片	32			1~4mm大の小石が多く混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色/暗茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ナデ	ハケ目後ナデ、ヘ ラ調整	
◆	◆	17	甕 口縁部片	24			砂粒を含む。	暗黄黒茶褐色	やや不良	ヨコナデ(摩耗)、 一部不明(剥離)	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	
◆	◆	18	甕 口縁部片	26			砂粒を含む。	暗褐色/暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ハケ目	
◆	◆	19	甕 口縁部片	24			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色/暗黄黒灰褐色	やや不良	ハケ目(摩耗)、 一部ヨコナデ	ヨコナデ、不明	
◆	◆	20	甕 口縁部片	27.8			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色/暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ (摩耗)	
第81図	◆	21	鉢 口縁部欠損・ 鉢胴部片				砂粒を含む。	黄茶褐色/黄褐色	普通	ナデ	ナデ調整	
◆	◆	22	鉢 2/3片	12.9	5	7.1	砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ハケ目(摩耗)、ナデ	ハケ目(摩耗)、ナデ	黒斑有り
◆	◆	23	壺 胴下部片	11.8			砂粒を含む。	灰黒黄褐色/暗黄褐色	普通	ハケ目	ヘラ調整、一部不明(剥 離)	
◆	◆	24	壺 底部片	8.3			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◆	◆	25	甕 底部片	8			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色/淡黒褐色	普通	ナデ		
◆	◆	26	壺 底部片	6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗黄褐色	やや不良	ハケ目(摩耗)、 ハケ目	ナデ	
◆	◆	27	壺 底部片	8			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶黒褐色/茶褐色	普通	ハケ目(摩耗)、 ハケ目	ハケ目後一部ヘ ラ調整、ナデ	
◆	◆	28	甕 胴下部片	7.2			1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶黒褐色/暗茶褐色	普通	ハケ目、ナデ	ハケ目、ナデ	
◆	◆	29	甕 底部片	8.9			1~9mm大の小石が多く混 じる。砂粒を含む。	明黄灰黒褐色/明黄褐色	普通	ナデ	ナデ(摩耗)	
◆	◆	30	器台 胴部片				1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目(摩耗)	ハケ目、ナデ、ハケ 目後シボリ圧痕	
◆	◆	31	器台 底部片	9.8			砂粒を含む。	黄茶褐色/黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	32	甕 口縁部片	19.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	不明(摩耗)	ナデ	
◆	◆	33	甕 口縁部片	21.6 (17.8)			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	34	甕 口縁部片	23			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色/黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	35	甕 口縁部細片				1~3mm大の小石がわずかに 混じる。砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◆	SB10	1	壺 1/4片	9.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整 ナデ	一部ヘラ調整、 ナデ	刻目
◆	◆	2	壺 口縁部片	9.4			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰黒褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅い沈線
◆	◆	3	甕 口縁部片	20			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄明茶褐色	普通	ハケ目後ヨコナ デ、ハケ目	ヨコナデ、ヨコ方 向ハケ目(摩耗)	
◆	◆	4	甕 口縁部片	25.4			砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (ナデ)、ハケ目	ハケ目、ナデ	
◆	◆	5	甕 口縁部片	27.8			砂粒を含む。赤粒子がわず かに混じる。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコ方向ハケ目、 ハケ目後ナデ	
◆	◆	6	壺 底部	7.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄黒褐色/暗黄褐色	普通	ハケ目、ハケ目 (摩耗)	ナデ	
◆	◆	7	甕 底部	6.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	やや不良	ヘラ調整	ハケ目	黒斑有り
◆	◆	8	甕 底部	7.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄赤茶褐色	普通	ハケ目、一部不明 (摩耗)	ナデ	
◆	◆	9	器台 底部	13.8			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヘラ調整、ナデ	ヨコナデ	
第82図	SB11	1	甕 口縁部片	28.2 (25.2)			砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
◆	SB12	1	壺 口縁部片	13.8			砂粒を含む。	淡黄灰黒褐色	普通	不明(摩耗)、ハ ケ目後ヨコナデ	ヘラ調整(摩耗)	貼り付痕
◆	◆	2	壺 手捏1/2	4.1	3.7	6.2	砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ナデ、一部ヘラ 調整	ヨコナデ	指頭痕
◆	SB13	1	(ミニチュア土器) 手捏鉢	6.1	2	5	砂粒を含む。	暗灰茶褐色/暗黄黒褐色	普通	ハケ目後指ナデ	ナデ	
◆	◆	2	甕 1/4片	13.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	明黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目、 一部不明(摩耗)	不明(摩耗)	スス付着
◆	◆	3	甕 胴下部片	4.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目後ナデ	
◆	◆	4	甕 底	5.7			砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ナデ	ナデ	
◆	◆	5	甕 胴上部片	20			砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	不明(摩耗)、一 部ヘラ調整	ヘラ調整	
◆	◆	6	甕 口縁部片	20			砂粒を含む。	暗黄褐色/黄褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ヨコナデ、ヘラ調整	
◆	◆	7	高坏(脚底部片)	13.6			砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ハケ目(摩耗)、ナデ	ハケ目(摩耗)	
◆	SB14	1	壺 口縁部片	16			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ(摩耗)	
◆	◆	2	高坏 口縁部片	20			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	やや不良	不明	不明	
◆	◆	3	高坏 口細片				砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	不明	ヨコナデ	
◆	◆	4	鉢 口縁部片	20			砂粒を含む。	暗灰黒褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	5	鉢 1/6片	16	6	6.4	砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ(摩耗)	
◆	◆	6	壺 口縁部片	13.2			砂粒を含む。	明黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◆	◆	7	甕 底径				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヘラ調整、ハケ目 後ナデ、ナデ	磨きがかかる	押圧痕
◆	SB15	1	甕 細片				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	刻目
◆	◆	2	甕 底部	6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	やや不良	不明(摩耗)、一 部ナデ	ナデ、ヨコナデ	
◆	◆	3	甕 底部	7.1			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ハケ目後ヘラ調 整	ナデ	圧痕

表 15 室岡山ノ上遺跡 SB・SK・SX・SD 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口徑 (cm)	底徑 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◆	SB16	1	壺 口縁部片	9.8			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ	不明(摩耗)	
◆	◆	2	壺 口縁部片	17.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ	不明(摩耗)	刻目
◆	◆	3	壺 口縁部片	26 (23.2)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	刻目
◆	◆	4	壺 胴上部片				1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色／黒灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後 ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
第83図	SK02	1	壺 口縁部片	21.8			小石が混じる。砂粒を含む。	暗茶褐色／暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	黒斑有り
◆	◆	2	壺 口縁部片	19.6 (16.2)			小石が混じる。砂粒を含む。	暗茶褐色／茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	3	壺 口縁部片	21 (17.8)			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色／黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	4	壺 口縁部片	20.2			小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ヨコナデ、ヘラ調整	
◆	◆	5	壺 底部片	8.1			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナ デ、ハケ目後ナデ	ナデ	
◆	◆	6	壺 底部片	7.5			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目後ヨコナ デ、ナデ	ナデ	
◆	◆	7	壺 底部片	6.9			小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヘラ調整、ナデ	不明	
◆	SK03	1	高坏 口縁部片				小石が混じる。砂粒を含む。	淡黄褐色／淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	
◆	◆	2	壺 口縁部片	24.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	3	壺 口縁部片	27			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	4	壺 底部片	6			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目、ナデ	不明	
◆	◆	5	壺 底部片	6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	不明	ナデ	
◆	SK04	1	壺 口縁部片	26.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
◆	SK10	1	壺 胴上部片	30.4 (26.4)			砂粒を含む。	暗黄褐色／淡褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ調整、 一部不明(剥離)	ヨコナデ、ナデ	スス付着
◆	SK13	1	蓋 口縁部片	29.8			小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色／黄茶灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ 後ハケ目	ナデ、ハケ目	黒斑有り
◆	◆	2	壺 底部	10			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰褐色／黄褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◆	◆	3	壺 底部	6.8			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰褐色／黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ 後ハケ目	ナデ	
第84図	SK14	1	壺 復原完形	20.4	6.5	32.4	砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、磨きか かる、ナデ	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り
◆	◆	2	壺 復原完形	19	5.9	32	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色	やや不良	ナデ、一部磨きか かる(摩耗)	一部ヨコナデ、ナ デ(摩耗)	
◆	◆	3	壺 胴上部片	19.9			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目(摩 耗)、ナデ(摩耗)	ハケ目(摩耗)、ナデ	
◆	◆	4	壺 口縁部片	20.9			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、不明、 不明(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	5	壺 口縁部片	24.2 (20)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◆	◆	6	壺 胴部片				1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄黒褐色	普通	ヨコナデ、ナデ、 磨き後ナデ	ヨコナデ、ヘラ磨き後ナ デ、ヘラ調整後ナデ	黒斑有り、スス付着
◆	◆	7	壺 底部	5.6			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色	やや不良	ナデ、不明	ナデ	
◆	◆	8	壺 底部	6.1			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色／暗灰黄褐色	普通	ナデ、不明(摩 耗)	ナデ	
第85図	◆	9	高坏 口縁部片	12.8			砂粒を含む。	暗黄黒褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ナデ	ナデ	
◆	◆	10	蓋 1/3片	26.1	つまみ 6.3	13.1	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ナデ、ヨコナデ、ヘラ調 整、ハケ目(摩耗)	ナデ(摩耗)	
◆	◆	11	蓋 つまみ片	つまみ 5.6			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色／淡黄茶褐色	普通	ナデ、不明、ハケ目	ナデ	黒斑有り
◆	◆	12	壺 復原完形	14.4	6.4	29.4	1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄灰褐色／黒褐色	普通	ヨコナデ、磨きか かる(摩耗)、ナデ(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り
◆	◆	13	壺 復原完形	27.2 (23.3)			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、細かい ハケ目、ナデ	ヨコナデ、ナデ、 不明	スス付着、黒斑有り
◆	◆	14	壺 胴上部片	22.1			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	淡黄茶褐色／明黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	
◆	◆	15	壺 胴上部片	18			砂粒を含む。	淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	16	壺 口縁部片	23.8 (20.6)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	茶褐色	やや不良	ヨコナデ、不明 (剥離)	ナデ	
◆	◆	17	壺 口縁部片	29.4			砂粒を含む。	淡黄茶褐色／淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	
◆	◆	18	壺 口縁部片	23.8			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	19	壺 口縁部片	26.8 (23.2)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
◆	◆	20	壺 口縁部片	36		30.8	1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ヨ コナデ	ナデ	
第86図	◆	21	壺 口縁部片	38			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色／暗灰黒褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調 整、ナデ(摩耗)	ナデ	
◆	◆	22	壺 口縁部片	27.2			砂粒を含む。	淡黄褐色／赤茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ヨコナデ	ナデ	
◆	◆	23	壺 底部	6.1			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ナデ	ナデ	
◆	◆	24	器台 ほぼ完形	8.7	7.9	14.6	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	明黄茶褐色(一部黒褐色有り)	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ハケ目後ヨコナ デ、ヨコナデ	シボリ痕
◆	◆	25	器台 完形	7.7	8.3	13	砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)、ナデ	ヨコナデ、ヘラ調 整、ナデ	
◆	◆	26	器台 ほぼ完形	6.1	6.2	12.2	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ヘラ調 整、ナデ	
◆	SK15	1	手捏土器 復原完形	6.7	1.1		小石が混じる。砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ナデ	ナデ	
◆	◆	2	鉢 1/2片	28.6			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、一部不 明(摩耗)	ナデ	

表 15 室岡山ノ上遺跡 SB・SK・SX・SD 出土土器観察表

押印 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口徑 (cm)	底徑 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◇	◇	3	甕 口縁部片	18.2			小石が混じる。砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	4	甕 口縁部片				1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	刻目、押圧痕有り
◇	◇	5	甕 底部	6.6			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色／暗灰褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◇	◇	6	甕 底部	10			砂粒を含む。	暗灰褐色／黄茶褐色	普通	磨きがかかる	ヘラ磨き	黒斑有り
◇	SK16	1	蓋 1／3片	28.8	5.9	11.7	1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗黄灰褐色／淡黄灰黒褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ、ハケ目後ナ デ	
◇	◇	2	蓋 片	つまみ 6			砂粒を含む。	淡黄茶灰褐色	普通	ナデ、ハケ目(摩耗)	ナデ	切り込み、遺構分
◇	◇	3	鉢、瓦器 口縁部片	19.2			砂粒を含む。	黒灰褐色	普通	ヨコナデ、磨きがかかる	磨きがかかる(摩耗)	
◇	◇	4	甕 口縁部片	24			1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色／明茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	浅い沈線
◇	◇	5	甕 胴上部片	26.6 (23.5)			1～3mm大の小石が混じる。 赤粒が混じる。	淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り
第87図	◇	6	甕 口縁部片	28.2 (24.2)			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	7	甕 口縁部片	25.6 (21.8)			砂粒を含む。	黄灰褐色／暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	8	甕 口縁部片	22			1～3mm大の小石がわずかに 混じる。砂粒を含む。	暗茶黒褐色／淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	スス付着
◇	◇	9	甕 口縁部片	25.8			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	
◇	◇	10	甕 口縁部片	29.6 (25.6)			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ	
◇	◇	11	甕 口縁部片	25.8			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ナデ	
◇	◇	12	甕 口縁部片	31.8 (27.8)			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	13	壺 底部	6.8			1～10mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◇	◇	14	壺 底部	7.4			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰黒褐色／灰黒褐色	普通	磨きがかかる、不明	磨きがかかる、ナデ	
◇	◇	15	壺 底部	6			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ナデ	ナデ	
◇	◇	16	甕 胴下部片	6.2			1～5mm大の小石が多く混 じる。砂粒を含む。	暗茶褐色／暗黄灰黒褐色	やや不良	ハケ目(摩耗)、 一部不明(剥離)	ナデ	スス付着
◇	◇	17	甕 底部	6.8			1～3mm大の小石が多く混 じる。砂粒を含む。赤粒子が混 じる。	暗黄褐色／淡黄褐色	普通	ハケ調整、ナデ	ナデ	
◇	◇	18	甕 底部	6			1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗褐色／暗黄灰黒褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ヨ コナデ、ナデ	不明(摩耗)、ナデ	スス付着
◇	◇	19	甕 底部	6.8			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◇	◇	20	甕 底部	5.9			1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色／灰黒褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◇	◇	21	甕 底部	7.2			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	全体にスス付着、浅い 沈線
◇	◇	22	甕 底部	6.9			1～4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、ハケ目後 ヨコナデ、ナデ	ナデ	黒斑有り
◇	◇	23	甕 底部	6.6			1～5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡褐色	やや不良	ハケ目、ナデ	不明	
◇	◇	24	甕 底部	6.2			1～3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色／暗褐色	やや不良	不明(摩耗)、不明	ナデ	
第88図	◇	25	器台 完形	7.4	8.1	13.2	砂粒を含む。	淡黄茶褐色／淡黄褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ヨコナ デ	ハケ目後ヨコナデ、ナ デ	
◇	◇	26	器台 完形	8	8.3	13.5	砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目(摩 耗)	ナデ、ヨコナデ	
◇	◇	27	器台 1／2片	8.6			砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ		
◇	◇	28	器台 1／5片	8			砂粒を含む。赤粒子が混 じる。	淡黄褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ヨコナ デ	ナデ、ヨコナデ	
◇	◇	29	器台 底	9			砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目(摩耗)、不明	ナデ、ヨコナデ	
◇	SK19	1	甕 口縁部片	23.1			小石が混じる。砂粒を含む。	暗褐色／淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◇	SK21	1	甕 復原完形	27.4	6.5	36.3	1～7mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。赤粒子が混 じる。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後ナ デ、磨き、ハケ目、ナ デ	ナデ	
◇	◇	2	甕 口縁部片	23.8			1～3mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。	淡黄褐色／暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	3	甕 口縁部片	27.6			小石が混じる。砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後 ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	4	甕 底部	6.4			1～4mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナ デ、不明	ナデ	
◇	◇	5	甕 底部	7.3			1～5mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヘラ調整、ヨコナ デ、ナデ	ナデ	
◇	◇	6	甕 底部	5.3			1～4mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目(摩耗)、 不明	ヘラ調整	
◇	◇	7	甕 底部	8			1～5mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。	淡黄茶褐色／黄灰黒褐色	普通	ナデ、ハケ目(摩 耗)	ナデ	
◇	SK23	1	甕 口縁部片	28.4			小石が混じる。砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後ヨ コナデ、ハケ目(摩 耗)	ヨコナデ、ナデ	ススわずかに付着
◇	◇	2	甕 底部	8.9			1～3mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	スス付着
第89図	SK24	1	甕 復原完形	22.1	6.3	30.1	砂粒を含む。	暗黄茶灰黒褐色／暗黄淡褐色	やや不良	ヨコナデ、ヘラ調整、ナ デ、ハケ目(摩耗)、ハ ケ目(摩耗)、ハケ目後 ナデ	ナデ(摩耗)、不明 (摩耗)	一部黒斑有り
◇	◇	2	甕 口縁部片	23.5			小石が混じる。砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	スス付着、浅い沈線
◇	SK25	1	壺 口縁部片	17.3			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後ヨ コナデ、ヘラ調整	ヘラ磨き、ナデ	黒斑有り
◇	◇	2	甕 胴上部片	34.6			1～5mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、不明、 ハケ目(摩耗)	ナデ	刻目
◇	◇	3	甕 口縁部片	27.7 (23.5)			1～4mm大の小石が混 じる。砂粒を含む。	淡黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り
◇	◇	4	甕 口縁部片				1～5mm大の小石が多く混 じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、 ハケ目(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	スス付着
◇	◇	5	甕 2／3片	27.3 (23.6)	8.5	28.2	1～5mm大の小石が多く混 じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ 目、ナデ	ヨコナデ、ナデ、 ハケ目(摩耗)	スス付着

表 15 室岡山ノ上遺跡 SB・SK・SX・SD 出土土器観察表

棟号 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◇	SK26	1	甕 口縁部片	23			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	沈線
◇	◇	2	甕 底部	9.8			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ、 不明、ヘラ調整	ナデ	
◇	◇	3	甕 底部	7.5			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、ハケ目後ヨコ ナデ、ナデ、ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	4	甕 底部	7.7			小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰黒褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ナデ	ナデ	
◇	◇	5	甕 底部	6.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶灰褐色	普通	ハケ目、ハケ目後ヨ コナデ、ヘラ調整	ナデ	
◇	◇	6	甕 底部	9			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ハケ目、一部ヨコ ナデ、不明、ナデ	ナデ、不明	
第90図	SK29	1	甕 底部	6.2			小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ナデ	ナデ	黒斑有り
◇	SK30	1	甕 底部	8.8			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ、 ヘラ調整、ナデ	ナデ	スス付着
◇	SK32	1	壺 口縁部片	9.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目	不明	
◇	◇	2	甕 底部	6.7			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	明黄茶褐色	普通	ハケ目、ナデ	不明、ナデ	
◇	SK35	1	壺 口縁部片	17.9			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	丹塗/暗茶褐色	普通	丹塗(摩耗)	磨きがかかる、一 部ヨコナデ	
◇	SK36	1	甕 胴上部片	23.7			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後ヨコ ナデ(摩耗)、ハケ目(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	2	甕 口縁部片	26.6			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	3	甕 胴下部片	8.7			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色/黒灰褐色	普通	ハケ調整、ヨコナ デ、ナデ	ナデ	黒斑有り
◇	SK37	1	甕 胴上部	16			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄黒灰褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調 整	ヘラ調整	黒斑有り
第91図	SK39	1	壺 胴上部片	16.7			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後ヘラ 調整(摩耗)、磨きがかかる、 ハケ目後磨きがかかる	磨きがかかる、指ナ デ、ヘラ調整、ナデ	スス付着
◇	◇	2	壺 口縁部片	24.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	明茶黄褐色/淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	磨き後ナデ、ナデ (摩耗)	細く浅いヘラ描き線
◇	◇	3	壺 口縁部片	18			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄茶褐色	普通	ヨコナデ、磨きか かる、一部ナデ	磨きがかかる、ナ デ	黒斑有り、沈線
◇	◇	4	壺 底部	6.8			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗灰黒褐色	やや不良	不明(摩耗)、不明	不明(剥離)	
◇	◇	5	壺 底部	9			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	不明(摩耗)、 ハケ目(摩耗)	ナデ、ヘラ調整	
◇	◇	6	甕 1/2片	25.2	7.2	27.4	1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ後ヘラ押 痕有り、ヘラナデ、ハケ 目、一部ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	スス付着、少々黒斑有り
◇	◇	7	甕 胴上部片	25.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗灰黄褐色/暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	口縁部に黒斑有り
◇	◇	8	甕 胴上部片	24.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ、ハケ目 後ヨコナデ、ハケ 目(摩耗)、不明	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	9	支脚 完形、底部 一部欠損	6.7	6.4	10.5	1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	一部ハケ目、ナ デ、ナデ	ナデ	
◇	◇	10	支脚 はぼ完形	6.1	7.9	10.7	1~3mm大の小石がわずかに 混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◇	◇	11	支脚 はぼ完形	6.9	6.3	10	1~9mm大の小石がわずかに 混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目(摩耗)、ナ デ、ハケ目	ナデ	
第92図	SK40	1	壺 口縁部片	27			1~3mm大の小石がわずかに 混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ、磨きか かる	口縁端部に黒斑わず かに有り
◇	◇	2	鉢 復原完形	21.6	7.3	13.8	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶灰褐色	普通	不明、ヘラ調整 後ナデ、ナデ	不明(摩耗)、ナデ	
◇	◇	3	甕 口縁部片	28.2 (23.6)			砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り、浅い沈線
◇	◇	4	甕 胴上部片	33.3			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 後ナデ(摩耗)	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	5	甕 胴下部片	6.4			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナ デ、ナデ	ナデ(摩耗)	
◇	SK41	1	甕 復原完形	24.1	7	29.3	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子が混じる。	暗黄茶褐色/黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ、ハケ目 後ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	黒斑有り、浅い沈線
◇	SK47	1	甕 口縁部片	21.6			砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	SK51	1	甕 口縁部片	31.8 (26.4)			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目	ヨコナデ、ヘラ調整	黒斑有り
◇	◇	2	甕 胴上部片	24.2 (20.6)			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。赤粒子がわずかに 混じる。	暗黄淡褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	一部ヘラ調整、 ナデ	
◇	◇	3	甕 底部	6.6			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗灰黒褐色	やや不良	ハケ目、ヨコナ デ、ヘラ調整(摩耗)	不明、ナデ	
◇	◇	4	甕 底部	6.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナ デ、ナデ	ナデ	
第93図	SK52	1	壺 口縁部片	9.4			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	不明(摩耗)、一 部ハケ目	不明(摩耗)、ハ ケ目(摩耗)	黒斑有り
◇	SK58	1	蓋 片	つまみ 6.7			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶灰褐色/淡黄褐色	普通	ハケ目後ナデ	ヘラ調整、ナデ	
◇	◇	2	甕 胴上部片	19.4			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黒灰褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	3	甕 胴上部片	33.6 (30)			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色/暗黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ、ヨコナデ、 ナデ	スス付着、刻目
◇	SK59	1	甕 口縁部片	30.2 (25.4)			砂粒を含む。赤粒子がわずかに 含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	ヨコナデ、ナデ	浅いヘラ描き線有り
◇	SK61	1	甕 口縁部片	34			砂粒を含む。	暗灰褐色/淡褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
◇	◇	2	甕 底部	7			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目、ヨコナ デ、ナデ	ナデ	圧痕
◇	◇	3	甕 底部	7.5			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	やや不良	ハケ目後ナデ、 不明、ナデ	ナデ	孔痕
◇	◇	4	壺 口縁部片	13.8			砂粒を含む。	灰黒褐色/淡褐色	普通	ヨコナデ(摩耗)	磨きがかかる(摩耗)	

表 15 室岡山ノ上遺跡 SB・SK・SX・SD 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◆	◆	5	器台 3/4片	7.9			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	淡黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	
◆	SK62	1	壺 底部片		8.3		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰茶褐色	普通	ヘラ磨き、不明	ヘラ調整	黒斑有り
◆	◆	2	壺 底部片		8.2		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
◆	SK63	1	壺 口縁部片	20.2			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ヘラ調整	
◆	◆	2	壺 口縁部片	18.8			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ナデ	スス付着、沈線
第94図	SK64	1	壺 口縁部片	24.3			小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰黒褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ヘラ調整	沈線
◆	SK66	1	鉢 口縁部片	24.4			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	不明、一部ヨコナデ	ハケ目、ナデ	
◆	◆	2	壺 口縁部片	19.8			小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰褐色／黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヘラ調整	
◆	SK67	1	壺 口縁部片	18.4			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	
◆	◆	2	壺 口縁部細片				小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目後 ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
◆	◆	3	壺 底部片		7.4		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰黒褐色	普通	ナデ	ナデ	
◆	◆	4	壺 底部片		6.6		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄灰黒褐色	普通	ハケ目、ヨコナ デ、ナデ	ナデ	黒斑有り
第95図	SX01	1	壺 口縁部片	27.4			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ヨコナデ	
◆	◆	2	壺 口縁部細片				1~3mm大の小石、砂粒を含む。	黄赤褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ	
◆	◆	3	支脚 底部片	7.4			1~3mm大の小石、砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ナデ		焼成前穿孔
◆	◆	4	無頸壺片(丹塗)	12.2			小石が混じる。砂粒を含む。	淡黒褐色	普通		ハケ目(丹塗磨研)	
◆	◆	5	壺 口縁部細片 (丹塗)				小石が混じる。砂粒を含む。		普通	(丹塗磨研)	(丹塗磨研)	
第96図	SD04	1	壺 口縁部片	15.7			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	
◆	◆	2	高坏 口縁部片	26			小石が多く混じる。	黄灰茶褐色／黄褐色	やや不良	ヨコナデ	不明、ヨコナデ	
◆	◆	3	蓋 3/4片	6	つまみ 2.2	4.9	1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヘラ調整のちナ デ、ヨコナデ	ヘラナデ、ヨコナ デ	黒斑有り
◆	◆	4	小鉢 2/3片	7.9	2.9	5.5	砂粒を含む。	黄赤茶褐色	普通	ヘラ調整、ナデ	ヘラ調整	黒斑有り
◆	◆	5	碗 2/3片	9.3	5	4.2	1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヘラ調整、ナデ	ナデ	
◆	◆	6	碗 底部片		5.1		小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◆	◆	7	手捏土器		1.6		砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ナデ	ナデ	
◆	◆	8	手捏土器 2/3 片	6.1	2.7	3.8	小石が多く混じる。	黄茶褐色	普通	ヘラ調整、ナデ	ナデ	
◆	◆	9	手捏土器 1/2 片	5.2	2.2	4.6	砂粒を含む。	赤茶色	普通	ナデ	ナデ	
◆	◆	10	高坏 坏部片	16			小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰褐色	やや不良	ヨコナデ、不明	ナデ	黒斑有り
◆	◆	11	鉢 口縁部片	18.2			小石が混じる。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヘラ調整	
◆	◆	12	壺 復原完形	17	6.2	19.8	小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ヨコナ デ後ハケ目、ハケ目	ヨコ方向のハケ 目、ハケ目	黒斑有り
◆	◆	13	壺 口縁部片	19.6			小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、タタキ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	刻目
◆	◆	14	壺 口縁部片	16			砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ヘラ調整	
◆	◆	15	壺 口縁部細片				小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ハケ目	
◆	◆	16	壺 口縁部細片				小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目、ナデ	
◆	◆	17	支脚 上部一部欠損	8.6	9.4		小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ナデ	ヨコナデ後縦ナデ	
◆	◆	18	器台 底部片		16		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	不明	ヘラ調整	
◆	◆	19	器台 口縁部片	16			3mm大の小石が混じる。砂 粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目後ナデ	ヘラナデ	
◆	◆	20	壺 底部片		6.6		1~7mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色／茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目	
◆	◆	21	壺 底部片		6.8		小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色／暗黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ、ナデ	ナデ	
◆	◆	22	壺 口縁部片	20			3mm大の小石が混じる。砂 粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ヨコナデ	不明	
◆	◆	23	壺 口縁部片	21.8			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目、ナデ	刻目、沈線
◆	◆	24	壺 口縁部細片				1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	ヨコナデ、ナデ	ナデ	黒斑有り
◆	◆	25	壺 口縁部片	28.2			1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黒黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ヨコナデ	スス付着、刻目
◆	◆	26	壺 口縁部片	28			1~6mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色／暗黄褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ	ヘラ調整	スス付着、刻目
◆	◆	27	壺 口縁部片	22			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色／茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ヘラ調整	黒斑有り、沈線
◆	◆	28	壺 口縁部片	22			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ナデ	刻目
第97図	◆	29	壺 口縁部片	20			1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラ調 整	刻目
◆	◆	30	壺 口縁部細片				小石が混じる。砂粒を含む。	暗茶褐色／黄茶褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	刻目
◆	◆	31	壺 口縁部片	14			小石が混じる。砂粒を含む。	赤茶褐色／黄茶褐色	やや不良	不明、ヨコナデ	不明	刻目
◆	◆	32	壺 口縁部片	20			1~5mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗茶褐色	やや不良	ヨコナデ、不明、 ハケ目	ヘラ調整	
◆	◆	33	壺 口縁部片	20			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヘラ調整	スス付着
◆	◆	34	壺 口縁部片	26.2			小石が多く混じる。	暗赤茶褐色	やや不良	ヨコナデ	不明	
◆	◆	35	壺 口縁部片	28			小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰褐色／淡黄褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	刻目
◆	◆	36	壺 口縁部片	26			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ヘラ調整	刻目
◆	◆	37	壺 口縁部片	40			小石が混じる。砂粒を含む。	暗赤茶褐色／暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調 整、ハケ目	ヘラ調整	
◆	◆	38	壺 底部片		5.6		1~3mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	暗黄茶褐色／暗茶褐色	やや不良	ヘラ調整、ナデ	不明	
◆	◆	39	壺 底部片		5.8		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	不明、ナデ	ナデ	
◆	◆	40	壺 底部片		7		1~4mm大の小石が混じる。 砂粒を含む。	黄茶褐色／黄褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	

表 15 室岡山ノ上遺跡 SB・SK・SX・SD 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺物	遺物 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
◇	◇	41	甕 底部片		7		1~3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	赤茶色／暗茶色	普通	ヘラ調整、ナデ	ハケ目	
◇	◇	42	甕 底部片		6.4		小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色／黄褐色	普通	ハケ目、ナデ	ナデ	
第98図	SD07	1	壺 口縁部片	14			1~3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	
◇	◇	2	壺 口縁部片	20			1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	
◇	◇	3	高坏 胴中央部片				1~3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗灰褐色	普通	不明	不明	
◇	◇	4	甕 口縁部片	27.2			1~3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。赤粒石が混じる。	黄茶褐色	普通	刻目	不明	押圧痕、黒斑有り
◇	◇	5	甕 口縁部片	18			1~3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ハケ目、ヨコナデ後ハケ目	ナデ、ヨコナデ	
◇	◇	6	甕 口縁部片	13.2			小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目	ヨコ方向のハケ目	
◇	◇	7	壺 底部片		6.6		1~7mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	普通	ハケ目	ハケ目	
◇	◇	8	壺 底部片		6.8		小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	不明	不明	
◇	◇	9	器台 口縁部片	11.3			小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヘラ調整	ヘラ調整	
◇	◇	10	器台 底部片		8.2		1~3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ハケ目	ナデ	
◇	◇	11	支脚 底部片	6.6			小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ナデ		
◇	◇	12	支脚 1/2片	4.6	9.2	8.5	1~3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	タキ後ヘラ調整	ナデ	
◇	SD08	1	壺 胴中央部片				砂粒を含む。	黄茶褐色／暗黄褐色	普通	ナデ、ヨコナデ	ヘラ調整、ヨコナデ	黒斑有り
◇	◇	2	壺 口縁部片	17.8			1~7mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ヨコ方向のハケ目	
◇	◇	3	壺 口縁部片	15.8			1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ヨコ方向のハケ目	
◇	◇	4	高坏 坏部片	24			小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	
◇	◇	5	高坏 坏部片	26			小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	やや不良	ヨコナデ、不明	ヨコナデ	
◇	◇	6	高坏 脚部片		14		小石が混じる。砂粒を含む。	明黄茶褐色	やや不良	不明	ハケ目	
◇	◇	7	鉢 1/2片	19	5.4	10.6	小石が混じる。砂粒を含む。	茶褐色／暗茶褐色	普通	ハケ目、ヘラ調整	ハケ目	
◇	◇	8	鉢 完形	6.8	2.3	6.4	1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ナデ	ハケ目	黒斑有り
◇	◇	9	壺 胴中央部片				小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰褐色／黄褐色	普通	ヨコナデ、ヘラ調整	ヨコナデ、ヘラ調整	黒斑有り
◇	◇	10	壺 口縁部片	12.4			小石が混じる。砂粒を含む。	茶褐色	やや不良	ハケ目	ハケ目	
◇	◇	11	甕 口縁部片	12			砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
第99図	◇	12	甕 口縁部片	32			1~6mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色／暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	
◇	◇	13	甕 口縁部片	15.4			小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目、ヘラ調整	
◇	◇	14	甕 口縁部片	24.5			小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色／黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後ヘラ調整	ヨコナデ、ハケ目	黒斑、スス付着
◇	◇	15	甕 口縁部片	21.6			1~5mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	黒灰色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	
◇	◇	16	甕 口縁部片	17.6			3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗茶褐色／黄茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	スス付着
◇	◇	17	甕 口縁部片	14.4			砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	
◇	◇	18	甕 口縁部片	26			1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	
◇	◇	19	甕 口縁部片	22			1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色／茶褐色	やや不良	ハケ目後ヨコナデ	ハケ目	
◇	◇	20	甕 口縁部片	24.4			1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄灰褐色／暗黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	スス付着
◇	◇	21	甕 口縁部片	26			1~5mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目	黒斑有り
◇	◇	22	甕 口縁部片	22.2			小石が混じる。砂粒を含む。	黄灰褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	
◇	◇	23	甕 口縁部片	13.8			小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	不明、ハケ目	ハケ目	
◇	◇	24	甕 口縁部片	19.8			砂粒を含む。	暗黄茶褐色／茶褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	
◇	◇	25	甕 口縁部片	20			1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色／黄褐色	普通	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ヘラ調整	
第100図	◇	26	甕 底部片		7.5		小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヘラ調整	ハケ目	
◇	◇	27	甕 底部片		8.2		1~3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	普通	ヘラ調整	ハケ目	黒斑有り
◇	◇	28	甕 底部片		7.4		小石が混じる。砂粒を含む。	黄茶褐色	やや不良	ハケ目	ハケ目	黒斑有り
◇	◇	29	甕 底部片		5.9		1~6mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄灰褐色	普通	ヘラ調整	ナデ	
◇	◇	30	甕 底部片		4.7		1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ヘラ調整	ハケ目	黒斑有り
◇	◇	31	甕 底部片		6		小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄褐色	やや不良	ナデ	ハケ目	
◇	◇	32	甕 底部片		7.2		砂粒を含む。	暗黄褐色／黄褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ハケ目	
◇	◇	33	壺 底部片		7		小石が多く混じる。砂粒を含む。	黒灰茶褐色／黒茶色	普通	ナデ	ナデ	
◇	◇	34	器台 1/2片	10	16	17.6	1~4mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	明黄茶褐色	普通	ナデ	ナデ、ハケ目	
◇	◇	35	器台 3/4片		10.1		小石が混じる。砂粒を含む。	黄褐色	普通	ハケ目	しぼり底、ヨコナデ	
◇	◇	36	器台 口縁部片	10.8			小石が混じる。砂粒を含む。	明茶色	不良	不明	不明	
◇	◇	37	器台 底部片		12.2		砂粒を含む。	暗黄褐色／黄褐色	普通	ナデ	ヘラ調整	黒斑有り
◇	◇	38	高坏 脚部片		10		3mm大の小石が混じる。砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヘラ調整	ナデ、ヨコナデ	
◇	◇	39	支脚 上部片				砂粒を含む。	暗黄茶褐色	普通	ヘラ調整	ナデ	

表 15 室岡山ノ上遺跡 SB・SK・SX・SD 出土土器観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	備 考
第101図	SB02	1	紡錘車	直径4.2	1.4	
〃	SB06	2	投弾		2.6	一部欠
〃	SB05	3	投弾		2.1	一部欠
〃	SB06	4	投弾	4.2	2.5	
〃	SB06	5	投弾	4.6	2.6	
〃	SB06	6	投弾		2.5	一部欠
〃	SB06	7	投弾	4.3	2.5	
〃	SB06	8	投弾	4.4	2.5	
〃	SB06	9	投弾		2.6	一部欠
〃	SB06	10	投弾		2.7	一部欠
〃	SB06	11	投弾		2.6	一部欠
〃	B-1区 P-16	12	投弾	4.3	2.8	

表 16 室岡山ノ上遺跡 出土土製品観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	備 考
第102図	SB-06	1	石剣	幅2.9	0.8	粘板岩	
〃	SB-14	2	石のみ		1.4	粘板岩	
〃	SX-01	3	石のみ			粘板岩	
〃	C-1区 P-01	4	石製円盤	最大径 26mm	0.3	片岩	
〃	SB-09	5	石錐			サヌカイト	
〃	SB-05	6	ナイフ形石器		0.6	サヌカイト	
〃	SD-07	7	石匙		0.9	サヌカイト	
第103図	SK24	1	太形蛤刃石斧	10	5	安山岩	1／3片
〃	SK30	2	太形蛤刃石斧	16.3	5.5	安山岩	2／3片
〃	SK39	3	太形蛤刃石斧	8.5	4.4	安山岩	1／3片
〃	SK47	4	太形蛤刃石斧	6	3.7	安山岩	一部片
第104図	SB04	1	紡錘車	直径5.2	0.5	片岩	
〃	SB07	2	紡錘車未製品	直径4.2	0.6	片岩	未穿孔
〃	SK51	3	紡錘車	直径4.3	0.6	片岩	
〃	SX01	4	紡錘車未製品	直径5.8	0.8	片岩	
第105図	SB05	5	石庖丁未製品	8	1	片岩	1／2片
〃	SB08	6	石庖丁未製品	12.5	0.5	片岩	未穿孔
〃	SB09	7	石庖丁未製品	11.1	0.7	片岩	
〃	SB12	8	石庖丁未製品	11	0.4	片岩	
〃	SB12	9	石庖丁	12.6	0.8	片岩	
〃	SB14	10	石庖丁未製品	8.2	0.9	片岩	1／2片
〃	SK14	11	石庖丁未製品	6.5	0.3	片岩	
〃	SK31	12	石庖丁未製品	8.8	0.8	片岩	
〃	SD04	13	石庖丁	11.9	0.6	片岩	
〃	SD04	14	石庖丁未製品	11	0.8	片岩	
〃	SD04	15	石庖丁未製品	7.1	0.8	片岩	
〃	SD04	16	石庖丁未製品	11.6	0.9	片岩	
〃	SD04	17	石庖丁未製品	10.4	0.8	片岩	
〃	SD05	18	石庖丁未製品	4.6	0.7	片岩	
〃	SD06	19	石庖丁未製品	8.5	0.9	片岩	
〃	SD06	20	石庖丁未製品	10.9	0.8	片岩	
〃	SD07	21	石庖丁未製品	6.1	0.3	片岩	1／2片
第106図	SD08	22	石庖丁未製品	9.2	0.8	片岩	
〃	SD08	23	石庖丁未製品	14.3	1.1	片岩	
〃	SD08	24	石庖丁未製品	6.3	0.8	片岩	
〃	SD08	25	石庖丁未製品	10.7	1	片岩	
〃	SD08	26	石庖丁未製品	13.8	1.2	片岩	
〃	SD08	27	石庖丁未製品	14.8	1.5	片岩	

表 17 室岡山ノ上遺跡 出土石製品観察表

挿図 番号	出土 遺構	遺物 番号	器 種	長さ (cm)	厚さ (cm)	岩 質	備 考
第107図	SB-01	1	石鏃	2.8	1	サヌカイト	
◇	SB-01	2	石鏃	3.2	0.4	黒曜石	色調 半透明
◇	SB-05	3	石鏃		0.5	サヌカイト	
◇	SB-05	4	石鏃	3.1	0.9	サヌカイト	
◇	SB-05	5	石鏃(有柄)	2.6	0.3	黒曜石	
◇	SB-05	6	石鏃(有柄)	3.7	0.5	サヌカイト	
◇	SB-06	7	石鏃		0.5	黒曜石	
◇	SB-06	8	石鏃	3.2	0.8	サヌカイト	
◇	SB-06	9	石鏃	1.7	0.2	サヌカイト	
◇	SB-07	10	石鏃	5.9	1	サヌカイト	
◇	SB-07	11	石鏃	2.5	0.4	サヌカイト	
◇	SB-07	12	石鏃	2.1	0.4	サヌカイト	
◇	SB-07	13	石鏃	2.1	0.3	サヌカイト	
◇	SB-07	14	石鏃		0.7	サヌカイト	
◇	SB-07	15	石鏃	2.5	0.7	サヌカイト	
◇	SB-09	16	石鏃	2.6	0.5	サヌカイト	
◇	SB-09	17	石鏃	1.8	0.5	サヌカイト	
◇	SB-09	18	石鏃		0.4	サヌカイト	
◇	SB-09	19	石鏃(有柄)	4	0.4	サヌカイト	
◇	SB-09	20	石鏃		0.4	黒曜石	
◇	SB-11	21	石鏃	4.8	1.5	サヌカイト	
◇	SB-12	22	石鏃	3.3	0.4	サヌカイト	
◇	SB-14	23	石鏃	2.5	0.4	サヌカイト	
◇	SB(不明)	24	石鏃(有柄)	2.8	0.3	サヌカイト	C-1区
◇	SX-01	25	石鏃		0.3	サヌカイト	
◇	SK-56	26	石鏃	3.7	0.6	サヌカイト	
◇	SK-15	27	石鏃	1.4	0.3	黒曜石	
◇	SD-04	28	石鏃	1.4	0.4	サヌカイト	
◇	SD-07	29	石鏃	2.3	0.4	サヌカイト	
◇	SD-09	30	石鏃	1.9	0.4	黒曜石	
◇	SK-51	31	石鏃未製品	7.2	0.8	サヌカイト	
第108図	SB-06	1	砥石	10.6	3.3	砂岩	
◇	SB-06	2	砥石		3.7	頁岩	
◇	SB-07	3	砥石		3.1	砂岩	
◇	SB-07	4	砥石		2.7	砂岩	
◇	SB-14	5	砥石		2.7	頁岩	
◇	SB-09	6	砥石		6.8	頁岩	鉄付着
◇	SK-16	7	砥石			砂岩	
◇	SK-36	8	砥石	6.8	3.2	砂岩	全面使用痕有り
◇	SK-44	9	砥石		1.3	砂岩	
◇	SK-51	10	砥石		4.8	砂岩	
◇	SK-59	11	砥石		4.1	砂岩	四面使用
◇	SD-08	12	砥石		3.5	砂岩	
◇	SD-08	13	砥石		6.9	砂岩	
◇	SD-08	14	砥石		2.6	砂岩	全面使用
第109図	SB06	1	くぼみ石		6	安山岩	
◇	SB06	2	くぼみ石		7	安山岩	
◇	SB06	3	磨石		5.2	安山岩	
◇	SB09	4	磨石		5.5	安山岩	
◇	SK16	5	くぼみ石			安山岩	
◇	SK16	6	磨石	8.5	3.5	安山岩	
◇	SK25	7	台石	12.8	4.2	安山岩	
◇	SK32	8	磨石		5.3	安山岩	
◇	SK36	9	磨石	10	3.2	安山岩	
◇	SK36	10	磨石	6.5	4.5	安山岩	
◇	SK36	11	くぼみ石	4.5	3.2	安山岩	

表 17 室岡山ノ上遺跡 出土石製品観察表

9 後田遺跡

(1) 調査の概要

後田遺跡は、八女市亀ノ甲字後田に所在する遺跡で八女丘陵の西部に位置する。本遺跡の北西120mの所には、山ノ上遺跡1次～3次があり、さらにその南側には亀ノ甲遺跡や北小路遺跡など弥生時代の遺跡が分布している。しかしながら、本遺跡については、土取りや開墾のため前述の遺跡の地表から、かなり掘削されており約6mの比高差がある。

(2) 遺構と遺物

発掘調査の結果、溝状の遺構1条が確認された。

1 地点

後田遺跡1地点は、県道唐尾・広川線の西側にあり、「八女市文化財等分布地図」では室岡遺跡群の範囲に含まれている。本遺跡は、発掘調査を行う以前からかなり掘削されており、西側の台地から約300cm低くなっている。調査区は、東西方向に長くなっており、西側の標高は29.6m前後で一段高く、東側は標高28m前後である。

発掘調査の結果、かなり掘削されているため遺構が残っていないことを確認した。

この台地の最下部は、久留米層の泥岩・シルト岩からなっており、その上を阿蘇火砕流堆積物がおおっている。最上部にはクロボクがみられ、本遺跡南側壁面の土層の観察によれば、室岡台地上の弥生時代の遺構にはこのクロボクが堆積しているようである。

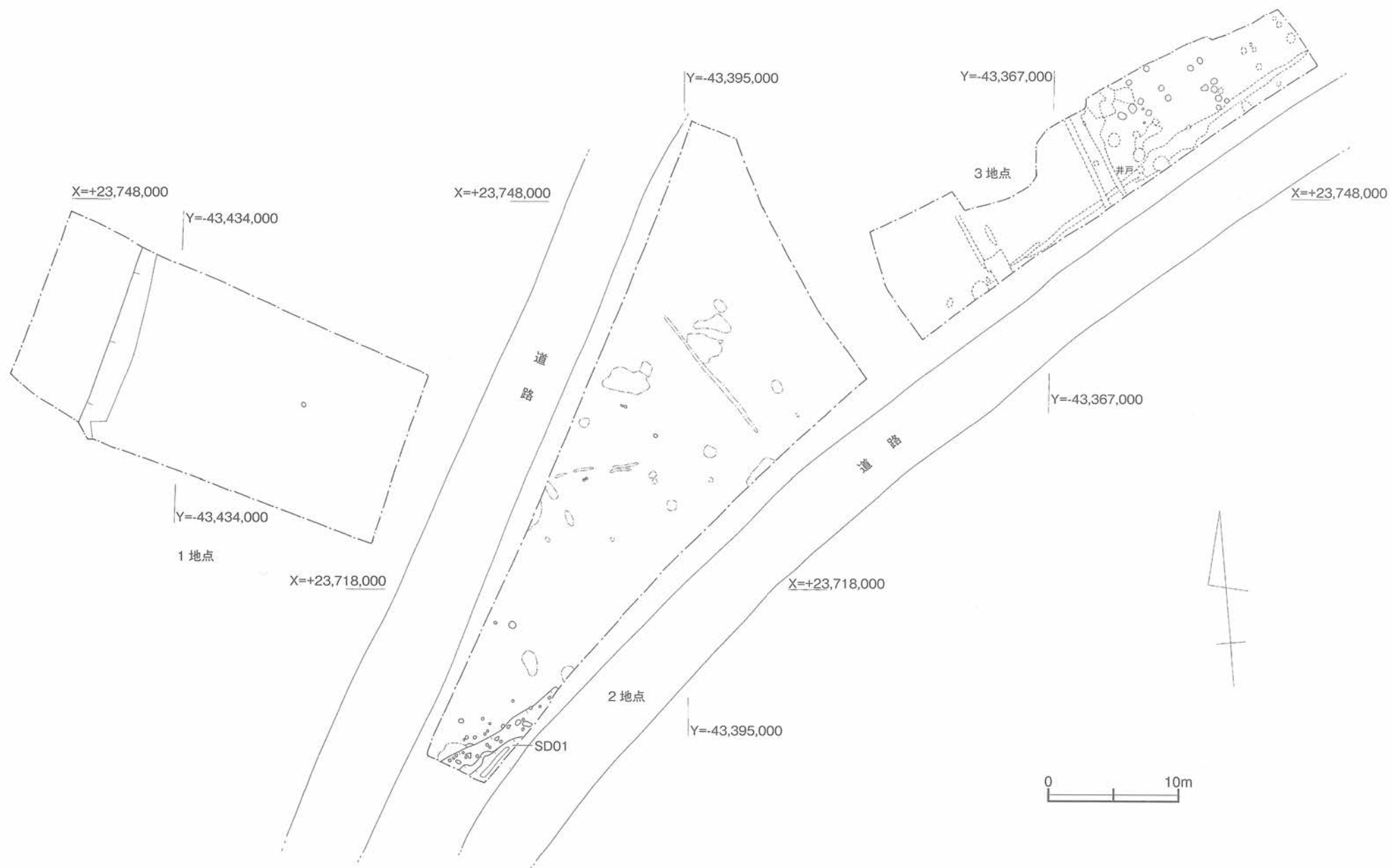
2 地点

本遺跡は、県道唐尾・広川線を挟んで後田遺跡1地点の東側に位置し、北側には西日本短期大学付属高校がある。発掘前は茶畑であった。調査区は南北に長く、標高は29m～27.7m前後で、北側から南側にかけて緩やかに傾斜している。

発掘調査の結果、溝状の遺構が1条見つかった。

溝 (SD)

SD01



第 110 図 後田遺跡 1・2・3 地点 遺構配置図 [1/400]

本遺構は、調査区南東隅で見つかり、南東から北西方向に延びている。深さは100cm前後であるが、規模については不明である。

遺物は、弥生時代前期後半から中期前半にかけての甕の口縁部が出土している。

3 地点

本遺跡は、後田遺跡2地点の北東にあり、北西には西日本短期大学付属高校が隣接する。また、東側には北東から南西方向に市道亀甲—今福線が通っている。標高は、29m前後である。以前は廃屋があったらしく、その跡と思われる井戸や柱の跡、また攪乱が検出された。遺構らしきものは見つからないため、平板測量のみの調査で終了した。

(3) まとめ

以上、後田遺跡の発掘調査の結果として、1地点では壁の土層の状況から判断して、上層面に弥生時代の遺構が残っており、台地の続きであったことがわかった。また、2地点においては南側の端の部分に谷かあるいは落ちがあり、台地が終了していることを示している。遺跡としては、室岡山ノ上遺跡の続きであると考えられるが、本遺跡とその周辺はかなり掘削されているため、遺跡の広がりについては確認できなかった。

久留米・八女地域の地形と地質

—郷土の山や平野・丘陵地の生い立ちをさぐる—

木戸道男（黒木高等学校）

はじめに

鶴見山古墳の石室をつくる石材の産地をめぐって、調査する機会をいただいた。以前より、久留米市・広川町・八女市・黒木町の調査が続けていたので、今回はこの地域の地質の概略と鶴見山古墳が位置する、東西に伸びた八女丘陵をつくる土石流堆積物について述べる。

八女丘陵をつくる土石流堆積物を上津荒木礫岩（浦田、1958）と呼んでいる。八女丘陵で調べた礫調査の結果から、土石流堆積物の上流部と下流部とで礫の大きさや含まれる礫の種類がどのように変化しているかを報告する。また、八女丘陵に分布している土石流堆積物の起源、土石流の流路、土石流が流れてきた時代と流れてきた原因についてまとめる。

この地域の研究には、鳥山（1932）、赤木（1933）、浦田（1958、1964、1985）、浦田ほか（1982）、沢村ほか（1983）がある。詳細については文献欄の資料を参照してください。

地 形

筑後地区の地形区分を第1図に示した。

1. 耳納山地と久留米丘陵

耳納山地は東西にのび、約20kmの長さである。耳納山地の山地の西側には、海拔50～60mの久留米丘陵が広がっている。久留米丘陵は、北北東－南南西方向に約7km、東西約3kmで、その上面は北北東－南南西断面では高度変化が見られない（第3図、X－X'）。東西断面でみると、尾根部の高度は東半分は侵食による多少の凹凸があるもののほぼ一定であるが、西半分は西へ緩く傾斜している。このさらに西側には、海拔15m以下の筑紫平野が広がり、筑後川が基本的には南西方向へ流れ下っている。

2. 八女丘陵と広川低地及び福島低地

八女地域には八女丘陵（第1図）が広がる。八女丘陵は、その北側に広がる海拔25～50mの広川低地より30m前後高く、海拔高度は50～70mである。東西の長さが8kmを越え、南北幅は0.5～2.5kmと変化に富み、特に西部がふくらんでいる。丘陵の上面には、河川跡の谷が、蛇行しながら大局的には東西に伸びている。八女丘陵の南側に広がる福島低地の海拔高度は、広川低地より約10m低く、海拔15～35mである。平野の南端には北東から南西へ流下する矢部川が位置し、その南側は筑肥山地が広がっている。八女丘陵の卓面、広川低地と福島低地の地表面は1～3°南傾斜している。

第1図 筑後地域の地形概要

太線は断層。断層の符合は本文と一致する。二重線の範囲が第2図。

もう一つの特徴は、筑後川が南西方向へ流れているにもかかわらず、広川が、東から西へ流れてきて、広川西部で西北西方向へ流向を変え、さらに久留米市荒木町では北西方向へ流れ下ることである。この傾向は広川の北方に位置する高良川で顕著で、久留米丘陵部を北西方向にぬけて後、筑紫平野を北流し、筑後川に合流している。

3. 黒木盆地

福島低地の東方には、東西4km、南北2～3kmの、平行四辺形状の黒木盆地が位置する。黒木盆地の海拔は80～140mで、盆地の南北および東方は海拔250～350mの山地になっている。盆地の南端を矢部川が西流している。

時 代	久留米・広川・八女	黒木・上陽
更新世後期～現世	沖 積 層	
	段 丘 礫 層 20 m	
	扇 状 地 堆 積 物 20 m	
	阿蘇火砕流堆積物 30 m	阿蘇火砕流堆積物 30 m
鮮新世後期～更新世初頭 (200万～130万年前)	上津荒木礫岩 65 m	上津荒木礫岩
鮮新世末期(230万年前)		女郎岳溶岩 150 m
鮮新世前期(～中期) (450万～350万年前)	久留米層上部層 200 m	子寄礫岩 270 m
	久留米層下部層 130 m	黒木層上部層 70 m
		黒木層上部層 70 m
三疊紀末～ジュラ紀初期	筑後変成岩 4000 m 以上	筑後変成岩

第1表 久留米・八女地域の層序表

地 質

本地域に分布する地質の層序を第1表に、地質図を第2図に、地質断面図を第3図に示す。

この地域には基盤の筑後変成岩を久留米層と黒木層が不整合に覆っている。黒木地域では黒木層を子寄礫岩こよりがおおい、さらに角閃石安山岩の溶岩がおおっている。上津荒木礫岩は谷部を流れ下った土石流が筑紫平野まで達して形成している。

1. 筑後変成岩

基盤を構成するのは筑後変成岩(松本達、1958)である。本地域での岩層は、主に黒色片岩・緑色片岩・絹雲母片岩からなっている。広川町北部では緑色片岩が広く分布し逆瀬谷西方1kmの標高299mの山体南東山麓では紅れん片岩がみられる。一般に原岩の地層面が残存し、明星山周辺おんじやくと温石温泉西方でみられる輝緑岩(最大幅が10m以下)の分布する地域を除くと変成度は低い。

2. 久留米層

久留米層(鳥山、1932)は、久留米丘陵から広川工業団地を経て、広川町役場北方地域に露出するが、ボーリング結果ではさらに広川低地および八女丘陵の地下にも広く分布することが知られている。広川町東部の草場、内山北方および広川ダム周辺で、基盤である筑後変成岩を久留米層

に属する細礫～中礫からなる礫岩が直接おおうことから、両者の関係は不整合である。この付近では久留米層は海拔100～160mに分布する。さらに東方の黒木盆地に分布するが、福島低地以南には本層の分布は認められない。

浦田(1985)は久留米層を下部・中部・上部に分けられるが、中部層の記載が十分でなく、下部層との識別ができないことから、本論では礫岩と砂岩主体の下部層と、泥岩・砂岩主体の上部層とに区分する。両者は層相が漸移している。下部層は高良内町から広川町にかけて、山地に沿って山地の西側に帯状に分布する。下部層の最下部20～40mは大礫(ゴルフボールから人頭大の礫)の円礫を主とする土石流堆積物からなる。構成礫は安山岩(40～50%を占める)と変成岩で、マトリックス(礫の隙間を埋める物質)は砂質凝灰岩からなる。黒雲母デイサイトの火山礫凝灰岩の薄層をはさみ、その上を変成岩礫が85%以上を占める中礫～細礫(直径4～2mm)の礫岩がおおう。礫岩にはラミナ・正級化がみられ、泥岩と二枚の白～ピンク色の流紋岩質凝灰岩がはさまれる。さらに砂岩が重なり、単層の厚さが1.5m以下の砂岩・泥岩互層が続いている。下部層の層厚は110～130mである。

上部層の分布は下部層分布域の西側に広がり、また広川工業団地及びその西方から広川低地、及び八女丘陵の地下に広く分布する。層相は泥岩主体で、しばしば黒雲母デイサイトの凝灰岩の薄層、アルコース質砂岩、細礫岩～砂岩をはさむ。細礫岩は変成岩礫が主であり、これにしばしば花崗岩礫がみられ、輝石安山岩礫は含まれないか含んでも10%以下である。上部層の層厚は200mをこえる。

久留米層の基底面は、国土庁土地局国土調査課(1970)による久留米市内三カ所の試錐では、海拔-150mより深く、広川町南部の一条、知徳、六田の3ヶ所および八女市岩崎東方の1カ所の試錐では、海拔-60m付近である(試錐施業者の談話)。露頭による調査では、広川ダム周辺で海拔160m前後、黒木盆地では同60～70mである。このように基底面高度から知られる久留米層堆積面は大きくみると北西へ傾斜している。なお、久留米層のクロスラミナから判断される古流系は、久留米地域では南から北方向を指し(第2図)、広川地域では南東から北西方向を指す。地層面も久留米地域では北西から北北西方向へ10～30°傾斜する。

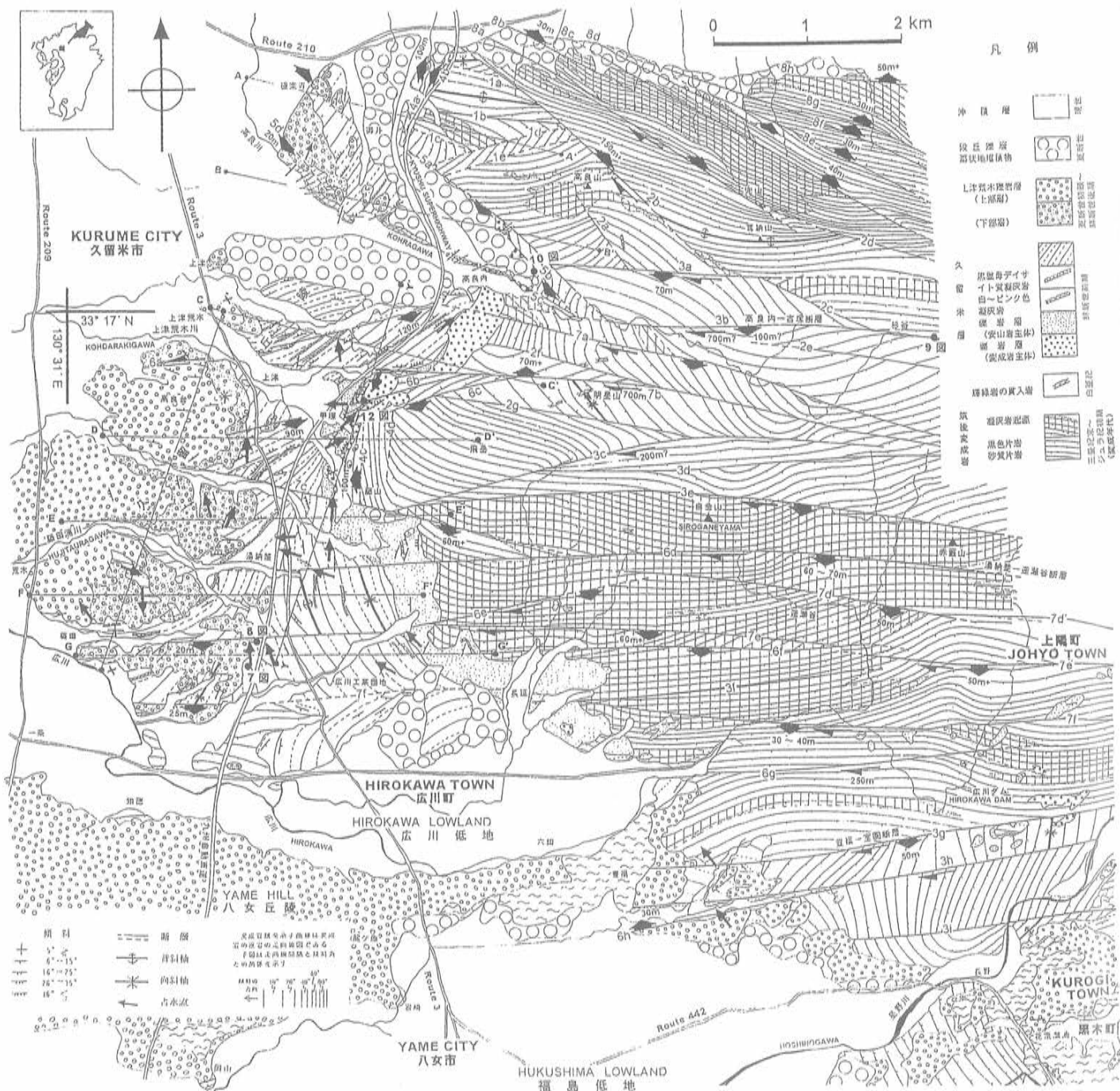
久留米層下部層の白～ピンク色の流紋岩質凝灰岩では400万年前(松田ほか、1981:本研究)、黒木盆地にみられる軽石凝灰岩では450万年前(澤村ほか、1983:本研究)のF. T. 放射年代がえられていることから、久留米層の堆積は鮮新世前期である。

3. 子寄礫岩

子寄礫岩(浦田、1958)は黒木町子寄の矢部川左岸の高さ約90mの崖を模式地とする。黒木層を整合的にとおおい、女郎岳溶岩におおわれている。巨礫(人頭大以上の大きさの礫)を大量に含み、礫の種類は輝石安山岩が主で、変成岩と金鉱石に似た岩石を少量含んでいる。厚さ1m以上の軽石凝灰岩を4枚、火山灰層を12枚以上はさんでいる。最大層厚は270mである。

4. 女郎岳溶岩(新称)

模式地は黒木町女郎岳東方の山体である。模式地及びその南方地域に広く分布し、雌岳、姫御前岳をつくっている。溶岩流堆積物から成り、最大層厚は150mに達する。新鮮な面は多孔質な部分は淡灰色、緻密な部分は灰色で、この2色の層が縞をなして流理構造を形成していることが多い。この流理構造に平行に板状節理(マグマが冷えるとき、体積が縮むため生じる平行な割れ目)を生

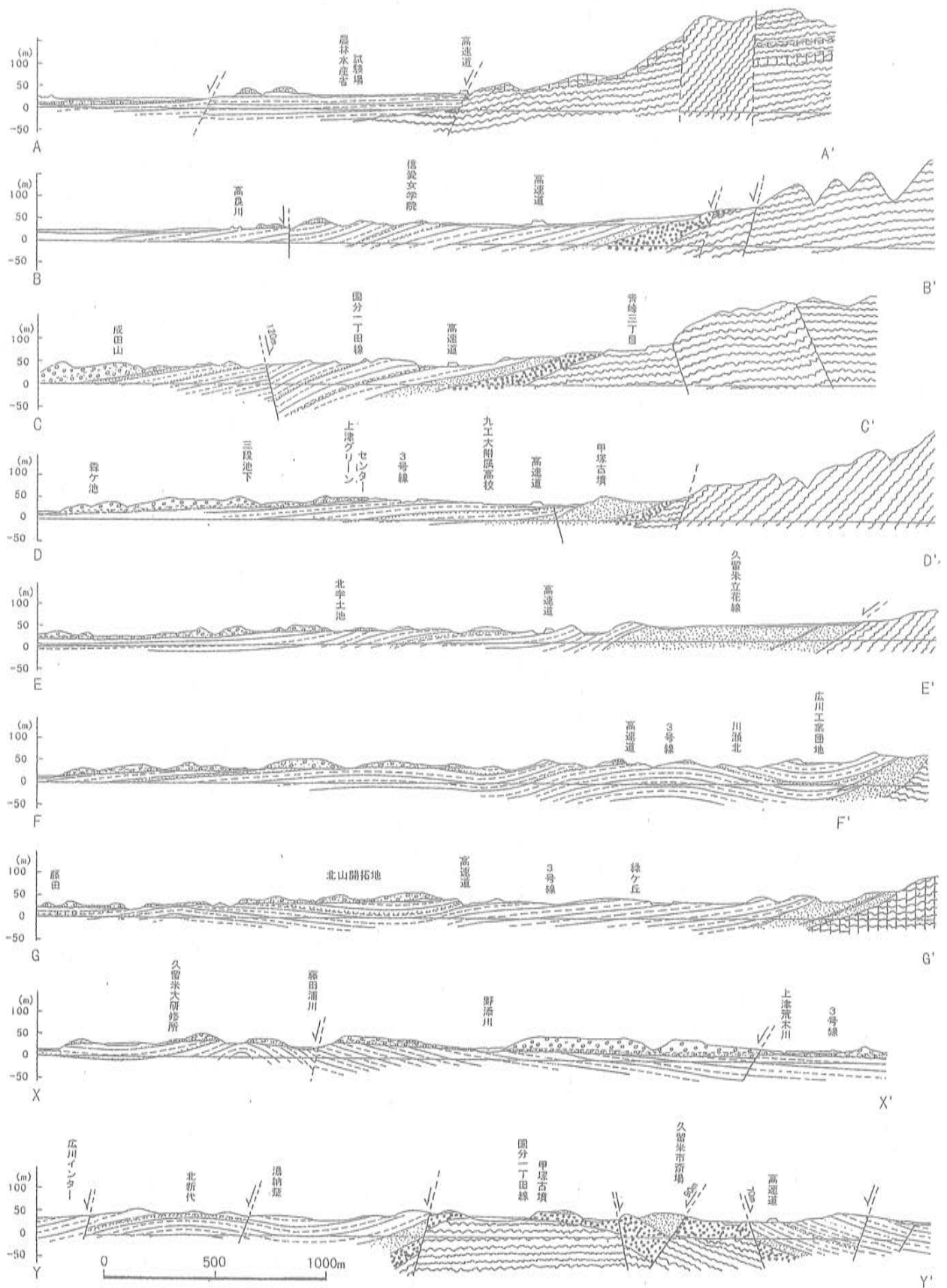


第2図 久留米・広川・八女・黒木・上陽地域の地質図

符合は断層を示す。長い矢印は横ずれのセンスを示し、短い矢印は沈降側を示す。横ずれ変位量と沈降量を表示した。位置は第1図に示す。

じている。長さが7~8mmに達する角閃石や長径6~10mmの斜長石を含む、きわめて粗粒な角閃石安山岩からなる。K/Ar放射年代で230万年前をえた(今研究)。顕微鏡観察による特徴は、ガラス基流晶質(斑晶という大きな結晶のすきまをガラスを主とする石基が埋めている火山岩の組織)な含シソ輝石角閃石安山岩。石基には流理構造が見られる。

この溶岩は鶴見山古墳の石室をつくる岩石にきわめて似ている。



第3図 地質断面図

位置は第2図に示す。筑後変成岩は地質図の凡例を変更して太線の波線で示した。

5. ^{こうだらき}上津荒木礫岩層

^{こうだらき}上津荒木礫岩層は浦田（1958）が久留米層より新しく“旧洪積層”より古いものとして定義したものであるが、浦田（1985）では、これを改め、相当する層を高位段丘層に含めて、上津荒木礫岩層を抹消した。今研究で、上津荒木礫岩層上部層には含まれる流紋岩質の凝灰岩から200万年前、150万年前および130万年前のF. T. 放射年代が得られたことから、上津荒木礫岩層は、久留米層を不整合におおう鮮新世末～更新世初頭の堆積物となった。

上津荒木礫岩層は久留米丘陵の西部を占め、南は八女丘陵に広く分布、また黒木盆地まで追跡される（第5図）。上部層と下部層とに分けられ、両者は漸移的に変化する。下部層は主に中礫（ピーズ玉～ゴルフボール大の礫）からなり、礫の構成比は輝石安山岩が10～40%、石英片岩が20～40%、絹雲母片岩が20～35%である。マトリックスは砂礫である。上部層は大礫を主とし、巨礫を多く含む円礫である。礫の構成比では、輝石安山岩が60～90%と圧倒的に多く、石英片岩は3～10%、絹雲母片岩は10～20%、珪化した安山岩が3～10%である。礫の産状は不淘汰で、マトリックスは凝灰質な砂礫または凝灰質砂岩からなる。層厚数10mの塊状の礫岩である。単層部分ではしばしば逆級化が認められる。上津荒木礫岩層の全層厚は65mであり、久留米丘陵では西へ緩やかに傾斜している。

上津荒木礫岩の上流と下流部で礫径と礫種の割合がどう変化するかは、次章で述べる。

6. 扇状地堆積物、阿蘇火砕流堆積物および段丘礫層

基盤岩類、久留米層、上津荒木礫岩層をおおって扇状地堆積物、阿蘇火砕流堆積物および段丘礫層があるが、互いに分布が離れていて層序関係は明らかになっていない。

阿蘇火砕流堆積物は黒木盆地から八女丘陵にかけて分布する。黒木盆地の南部と西部に分布する阿蘇火砕流堆積物は厚さが30mを越え、強く溶結している。八女丘陵東部のものは厚さが20m以下である。また八女丘陵では阿蘇火砕流堆積物の最下部にしばしば層厚数m以下の粘土層またはシルト層を敷いている。この地域の阿蘇火砕流堆積物は、斜長石のほか、多量の角閃石に普通輝石、シソ輝石、磁鉄鉱が伴い、また黒色～褐色ガラスを含み、阿蘇4火砕流堆積物にあたる。

扇状地堆積物と段丘礫層については省略する。

八女丘陵を構成する土石流堆積物

野外調査を行い、調査結果を地形図に書き込み、各個柱状図や地質図をつくった。

88ヶ所の土石流堆積物の礫の大きさと礫の種類を調べた。谷を埋めている礫岩が、上流と下流でどう違うのかが分かるように礫調査地点を決め、それぞれの地点の調査結果を表にした（その例が第2表）。この表から、礫の平均直径と、含まれる礫の種類とその割合が一目で分かるような円グラフにして、上流と下流に並べて示した（第4図）。その結果を以下にまとめる。

①礫岩の礫の大きさ：土石流堆積物の上流と下流での違い；黒木の東方で最大で、直径が1 m以上のものを多量に含んでいる。黒木高校付近では人頭大より大きい。九州大谷短大付近では人頭大から握りこぶしぐらい。久留米大学付近ではそれより小さくなっている。礫の大きさが東が大きく、西へ小さくなっている（第4図）。

②礫岩を構成する礫の種類：含まれる礫の種類は、輝石安山岩、変成岩、変質した安山岩、金鉱石に似た岩石、角閃石安山岩である。土石流堆積物の上流と下流での違い；土石流堆積物の上流、中流、下流で、この割合が異なっている（第4図）。上流では輝石安山岩が90%以上を占め、中流の八女丘陵東部では75%程度で残りは変成岩と金鉱石である。下流では、全体の40～60%が安山岩、40～50%が変成岩、5%前後が金鉱石に似た岩石からなっている。

久留米・広川・八女・黒木・上陽地域の後期新生代のできごと

1. 古久留米湖の形成と消滅について

鮮新世前期の400万～450万年前に、久留米から広川を経て八女市北端部および黒木盆地地域に至る地域に湖沼成堆積物（久留米層上部層、黒木層上部層：浦田、1958）が堆積した。浦田（1958）はこの堆積物を堆積させた湖に対して古久留米湖と呼んだ。この時期、北部九州には多くの湖沼が断続的に分布し、古久留米湖の他、北野平野に当たる地域、日田市北西方、日田市北東方、玖珠町、安心院南方、別府湾北方に湖沼が形成していた（第6図）。

2. 久留米丘陵と八女丘陵にみられる上津荒木礫岩（土石流堆積物）の堆積原因

上津荒木礫岩は含まれる礫が変成岩、輝石安山岩、角閃石安山岩、硅化した安山岩など種類が多く、ラミナがみられず、単層（一回の堆積でできる地層）が確認されるものでは、しばしば逆級化（堆積物の粒の大きさが下部が小さく上部が大きい）が認められることから、土石流堆積物を主としている。おそらく250万年前から100万年前にかけて、多くの回数の土石流が流下して堆積している。土石流堆積物の現存する総量は約3 以上である。

この時期になぜ土石流堆積物が流れ下ってきたかについては、北部九州全域を広くみる必要がある。北部九州には九重－別府地溝（日田・玖珠・湯布院の各盆地及びその南方地域広がる沈降盆地：松本、1979）を取り巻くように、久留米地域（上津荒木礫岩層）、黒木地域（小寄礫岩：浦田、1958）、星野地域（夜明火山岩類上部：木戸、1997）、浮羽地域（久保田礫岩：木戸、1997）、日田・山国地域、安心院南方地域（津房川層上部：岩内・長谷、1986）、大分・犬飼地域（碩南層群：寺岡ほか、1992）、などに礫岩を主とする堆積物が分布している（第7図）。これらの堆積物は、いずれも鮮新世（中～）後期の堆積で、基本的に巨礫を主とする土石流

礫調査表			調査地点		黒木町太明館(下)										
			調査者		上村 木戸										
	長径	短径	平均	輝石安	変成岩			金鉱		輝石安	変成岩			金鉱	
No					絹	緑	砂	石英		No		絹	緑	砂	石英
1	14	9	11.5	○						51		○			
2	14	25	19.5	○						52		○			
3	13	9	11	○						53	○				
4	10	11	10.5	○						54	○				
5	9	14	11.5						○	55	○				
6	7	8	7.5	○						56	○				
7	4	8	6	○						57	○				
8	7	10	8.5	○						58	○				
9	10	14	12	○						59	○				
10	11	16	13.5	○						60	○				
11	10	14	12	○						61			○		
12	11	9	10	○						62			○		
13	14	15	14.5	○						63	○				
14	11	12	11.5	○						64	○				
15	10	15	12.5	○						65	○				
16	9	15	12	○						66	○				
17	11	13	12	○						67	○				
18	9	10	9.5	○						68	○				
19	6	10	8	○						69	○				
20	7	18	12.5	○						70	○				
21	22	9	15.5	○						71	○				
22	10	12	11	○						72	○				
23	12	5	8.5	○						73		○			
24	10	7	8.5	○						74	○				
25	7	18	12.5	○						75	○				
26	6	6	6	○						76	○				
27	7	10	8.5	○						77		○			
28	12	15	13.5	○						78	○				
29	17	14	15.5	○						79	○				
30	22	16	19	○						80	○				
31	11	18	14.5	○						81	○				
32	9	12	10.5	○						82	○				
33	8	12	10	○						83	○				
34	16	18	17	○						84	○				
35	17	17	17	○						85	○				
36	10	26	18	○						86	○				
37	11	16	13.5	○						87	○				
38	9	12	10.5	○						88	○				
39	40	14	27	○						89	○				
40	20	10	15	○						90	○				
41	15	25	20	○						91	○				
42	10	7	8.5	○						92	○				
43	13	6	9.5	○						93	○				
44	15	8	11.5	○						94	○				
45	15	9	12	○						95	○				
46	10	14	12	○						96	○				
47	7	10	8.5	○						97	○				
48	5	9	7	○						98		○			
49	13	15	14	○						99	○				
50	14	8	11	○						100	○				
平均			12.2												

第2表 礫岩の調査表 (例)

堆積物からなっている。この分布は、次の150万～50万年前に陥没を起こす「九重—別府地溝」地域の周辺にあたっている。このことは、津江山地から玖珠町南部、久住山にかけてが、かつて今より遙かに高い山地であったことを意味する。礫岩の分布高度（海拔700m以上にも70m以上の層厚で分布）からすると、礫を供給したこの山地は1000mを越えていたと思われる（木戸、2007）。

上津荒木礫岩には、近辺に見られないケイ化した安山岩の礫を含んでいる。上津荒木礫岩の分布および岩石の類似から、この礫は上昇した津江山地の金銀鉱床を伴うケイ化帯から供給されたと思われる。津江地域の金銀鉱床の放射年代値は200万～200万年前であり、この時期、上昇域の中央部の地下でマグマに伴う熱水活動により、ケイ化帯と金銀鉱床形成がおこなわれた。その後、浸食により地表に露出したケイ化帯が崩壊し、土石流に取り込まれたものと思われる。

3. 上津荒木礫岩の流下経路について

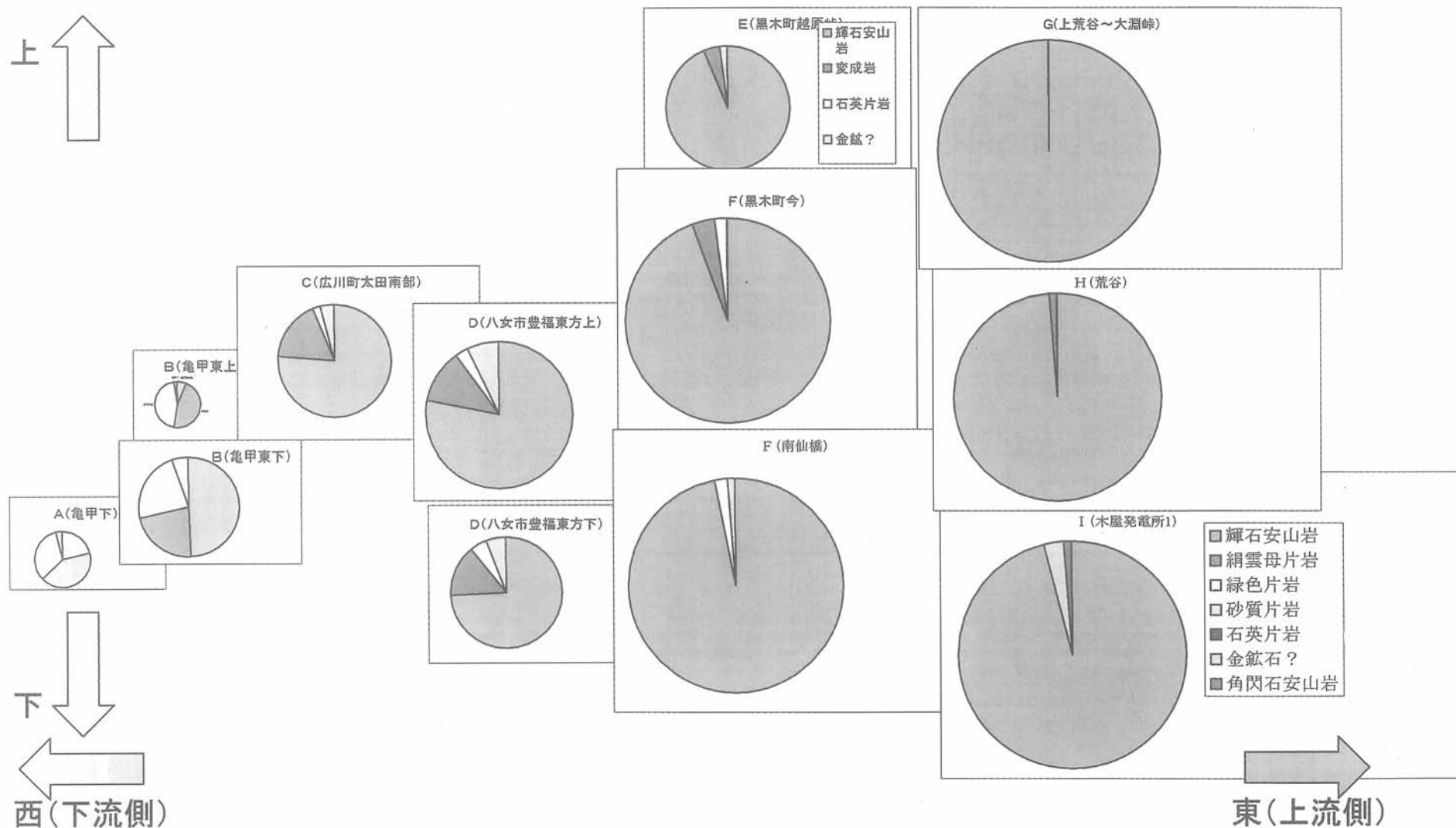
追跡できた流下経路は、黒木盆地から八女市東部の長野を経て、八女市豊福付近で八女丘陵に入り、西流してJR鹿児島本線西牟田駅付近に達し、そこから流路を北へ変え、久留米市の荒木・上津をへて、高良内西方に達している（第5図）。この土石流の流路は、現在の地形分布では決して説明がつかない。とくに現在の福島低地に当たる地域には、流路を妨げる小高い丘があったと考えざるをえない。その名残りの変成岩の高まりが福島低地北西部の岩崎や岡山の丘陵にみられる。また福島低地では、基盤の変成岩に現世の礫層がのっているだけである。土石流を流した後もしばらく古矢部川は土石流堆積物分布地域の南部を西へ流れていた。八女丘陵西部の竜ヶ原の台地及びその西方には、蛇行した河川跡地形（幅が150～300m、周囲より20～30m低い平坦面）が5km以上続いている（第2図）。

上津荒木礫岩堆積後、八女丘陵付近にあった古矢部川は、しだいに南へ移動し、しばらくの間下方浸食を行う。この間に生じたのが八女丘陵南端にみられる幾重にも湾曲して、福島低地との間に比高、約20mの急崖を生じている（第2図：龍ヶ原東部や南部の屈曲した台地の縁）。この急崖では上津荒木礫岩層が露出しているが、その基盤の変成岩も露出している（たとえば岡山や岩崎）。福島低地を流れる山ノ井川、星野川、矢部川では、河床にはしばしば基盤の変成岩が露出しているが上津荒木礫岩は見られないので、上津荒木礫岩の堆積南限は谷川—観音平断層（第1図）およびその西方延長付近である。古矢部川はその後南下を続け、最終的には現在の位置になった。この移動の過程で古矢部川による下方浸食が行われた。また、八女丘陵北側の広川低地の形成も同様に、古広川の流路がしだいに南下し、その下方浸食で説明できる。

次に西流した土石流が、西牟田駅付近から流路を北方向へ変えた理由について議論する。まず、土石流が流れてきた時代に、西牟田駅付近の西方に地形の高まりがあったと推定せざるを得ない。このため土石流は西方へは流れ下ることができなかった。それでは、ここから北へ流れたのはなぜか。現在の西牟田駅はほぼ断層7f（第2図）の西方延長部に当たる。この断層の北側の久留米層は一般に北傾斜である。このことは、久留米層の堆積後、地表が北傾斜していた可能性が強い。これが、土石流が西牟田付近から北方へ流れ下ることのできた原因と考えられる。西牟田駅の約7km北方にある高良川（第4図の左上部）は現在も北西へ、最下流部では北方向へ流れている。

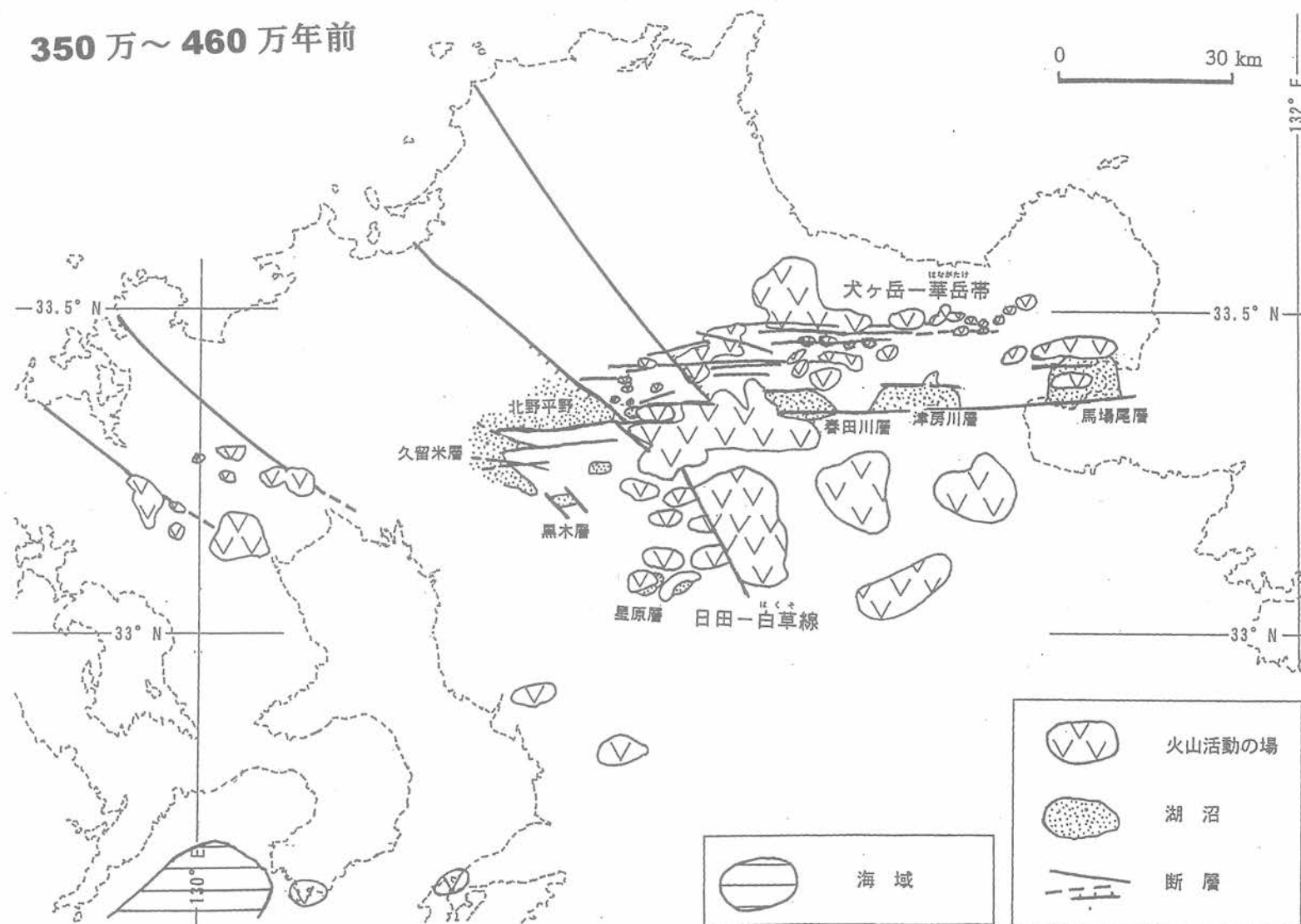
4. 有明海形成と阿蘇火砕流の放出

上記のように、古矢部川はしだいにその流路を南下させ、現在は福島低地の南端を西南西方向へ



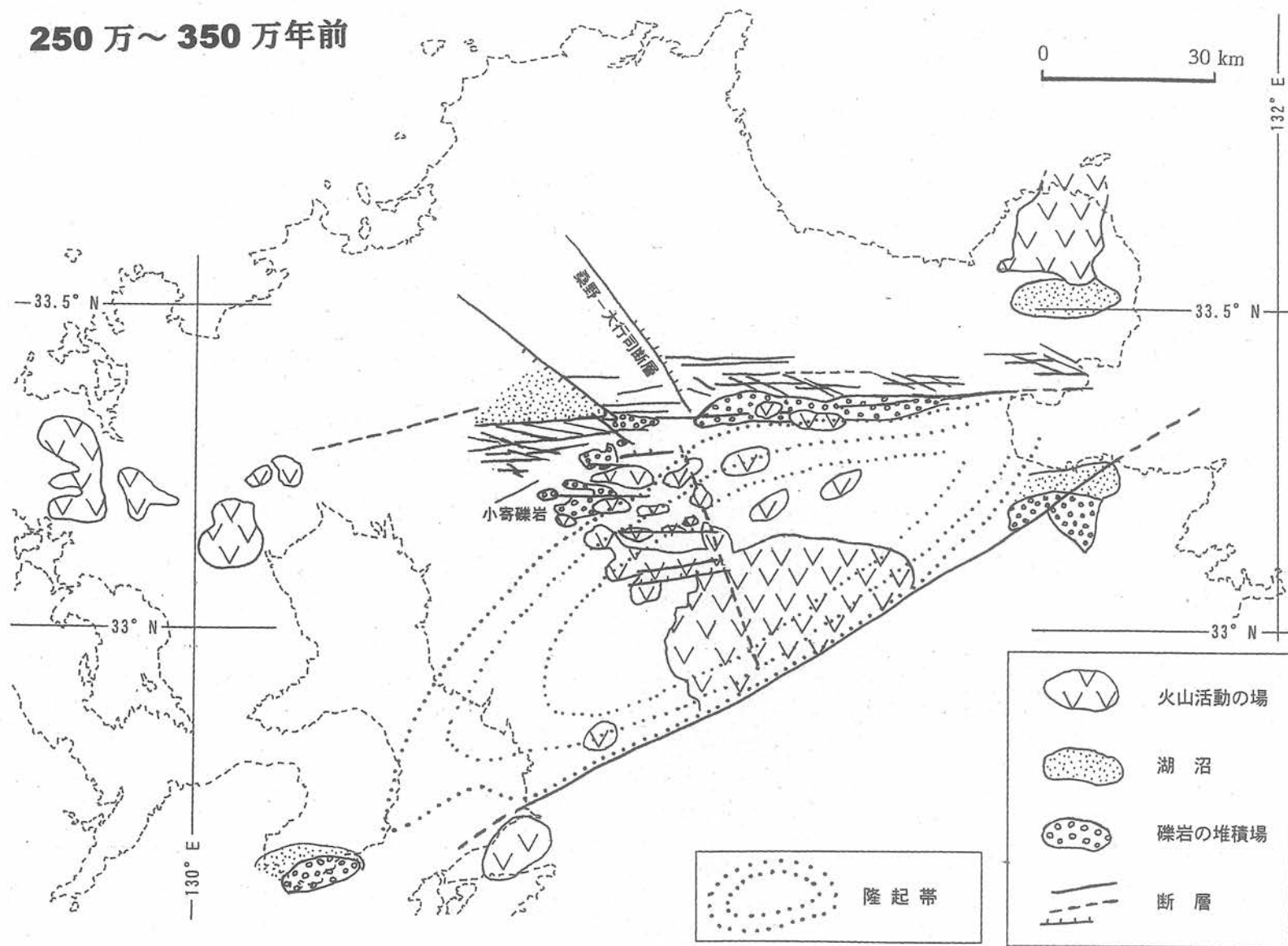
第5図 鮮新生後期～更新世前期（130万～250万年前）の上津荒木礫岩の分布

350 万～ 460 万年前



第6図 鮮新世前期に堆積した火山岩類と湖成層（約350万～460万年前）
多くの凹地が形成して湖沼堆積物（春田川層、津房川層、馬場尾層など）が堆積した。これと同時におよび遅れて、輝石安山岩が流出して溶岩台地が形成した。

250 万～ 350 万年前



第7図 八女地域の東方に生じた隆起帯 (約250万～350万年前)
湖沼は消失し、引き続いて北部九州南部に隆起帯が生じ、その周辺では膨大な量の礫岩が堆積した。
隆起帯地下では、マグマに伴う熱水活動により金銀鉱床形成が行われた。また、頻繁に小規模なデイサイト質
マグマの火砕流が放出された。

流れている。また、古広川も現在は、広川低地の南端に位置して八女丘陵の北端部を浸食しつつある。八女丘陵北側地域の久留米層と黒木層は約 10° 前後南傾斜している。堆積後八女丘陵の桌面、広川低地と福島低地の地表面は共にきわめて緩く南傾斜している。八女丘陵の竜ヶ原、立花町谷川、黒木町花宗溜池周辺では、上津荒木礫岩層をおおう粘土またはシルトの薄層が、南へ数度傾斜している。

上津荒木礫岩の堆積時までは北傾斜の基本構造が、南傾斜に変換した原因に、有明海の形成が考えられる。筑後川は筑紫平野を北東から南西へ流れている。

まとめ

北部九州では、古第三紀最末期～中新世後期の前半（約800万年前）までは大規模な地殻変動はみられず、比較的なだらかな準平原が広がっていた。一変して、中新世末期から東西方向と西北西－東南東方向の断層群の形成が始まり、大地はブロック化し、山地や盆地が形成され始めた。その一つとして450万年前頃から、久留米－日出線付近の南北幅10～15kmの地域で古久留米湖をはじめ多くの湖沼が形成された。

250万年前頃になると、本地域東方地域一帯の津江地域が高い山地となり、黒木方面から土石流が何度も流下して上津荒木礫岩が堆積した。この土石流は現在の八女丘陵に当たる地域を流下し、西牟田駅付近からは北流している。

久留米層と上津荒木礫岩堆積時（450万～130万年前）は、堆積物の供給方向が基本的に南東から北西方向ないし南から北へであった。この久留米層堆積後の断層運動によって、上津荒木礫岩を堆積させた土石流の南側バリアであった地域がしだいに沈降して、古矢部川の流路が南下していき、下方浸食の結果福島低地が形成した。また小矢部川と古広川の流路南下には、更新世後期の有明海の形成・拡大がその一因と考えられる。この結果、西牟田駅西方に存在したであろう土石流に対するバリアも消滅したと考えられる。

文 献

赤木 健、1933、7万5千分の1地質図幅「山鹿」及び同説明書。地質調査所。

岩内明子・長谷義隆、1986、中・北部九州新生代の植生と古環境—その2安心院—院内地域（上部鮮新統）—。地質雑、92、591－598。

木戸道男、1997、北部九州、耳納山地と北野平野の断層形成史。地質雑、103、447－461。

木戸道男、2007、北部九州の後期新生代火山層序と岩脈および小規模断層解析に基づく地質構造成史、平成18年度熊本大学大学院自然科学研究科学学位論文。

国土庁土地局国土調査課、1970、20万分の1土地分類図（福岡県）及び同説明書、1－58。

松田高明・竹村恵二・岡崎美彦、1981、黒木層軽石凝灰岩のフィッシュ・トラック年代－旧象化石産出層準に関連して－北九州市立自然史博物館研究報告、3、85－92。

松本征夫、1979、九州における火山活動と陥没構造に関する諸問題。地質学論集、16、127-139。

松本達郎、1958、筑紫山地変成岩地域の地質。鈴木醇教授還暦記念論文集、141-161。

沢村昌俊・田中豊俊・千足恭平・鹿田昭男、1983、久留米層最下部層中の凝灰岩に含まれるジルコンのフィッシュ・トラック年代。地質雑、89、129-131。

鳥山武雄、1932、筑紫平野及び其の四辺の地質に関する造構史的考察（一）、（二）。地球、18、323-334、416-429。

寺岡易司・宮崎一博・星住英夫・吉岡敏和・酒井彰・小野晃司、1992、「犬飼地域の地質」。5万分の1地質図幅及び同説明書、地質調査書、95-99。

浦田英夫、1958、福岡県久留米南方の新第三系について。九大教養地研報、5、25-37。

浦田英夫、1964、福岡県北野平野南縁部の新第三系。九大理研報（地質）、7、61-66。

浦田英夫、1985、福岡県久留米・黒木地域新第三系再論。九大教養地研報、24、13-30。

浦田英夫・小原浄之介・唐木田芳文・田中豊俊・千足恭平・鹿田昭男・沢村昌俊、1982、5万分の1土地分類基本調査「久留米」。福岡県。

版 図



(1) 一般国道 442 号八女筑後バイパス調査地航空写真 (H.11 年撮影)



(1) 志計遺跡 発掘前（西から）



(2) 志計遺跡（西から）



(1) 志計遺跡 SD01 ~ 03 (西から)



(2) 志計遺跡 SD01 ~ 03 (東から)



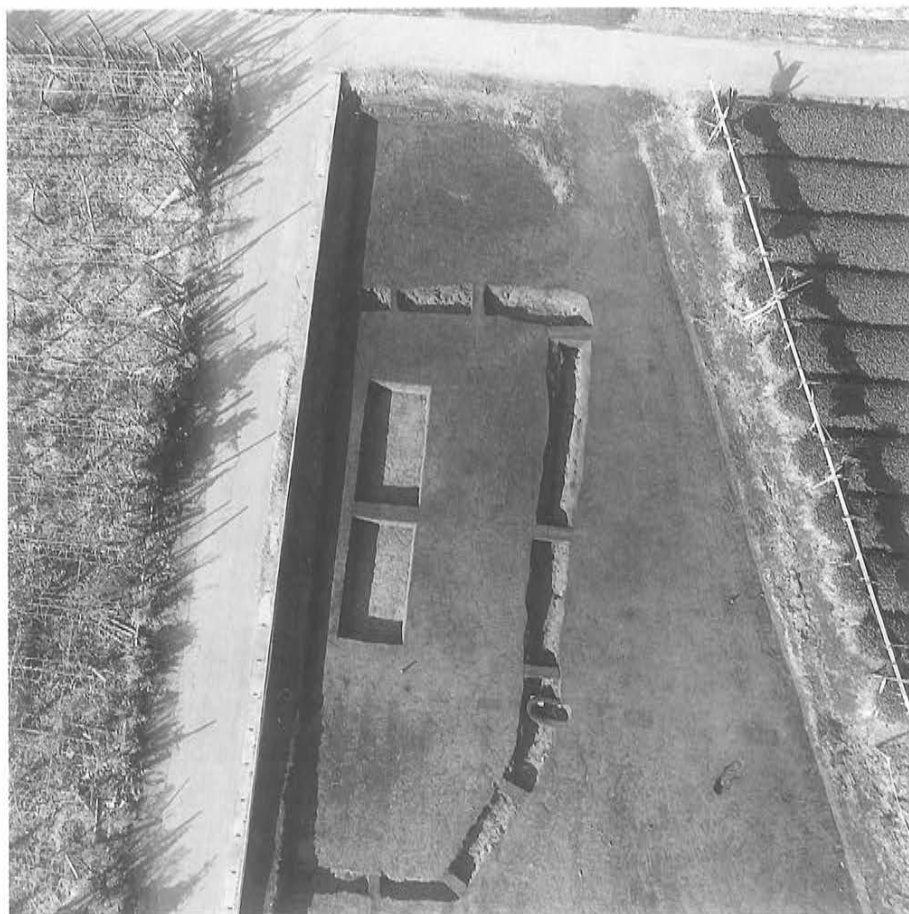
(1) 折部屋敷遺跡 発掘前 (東から)



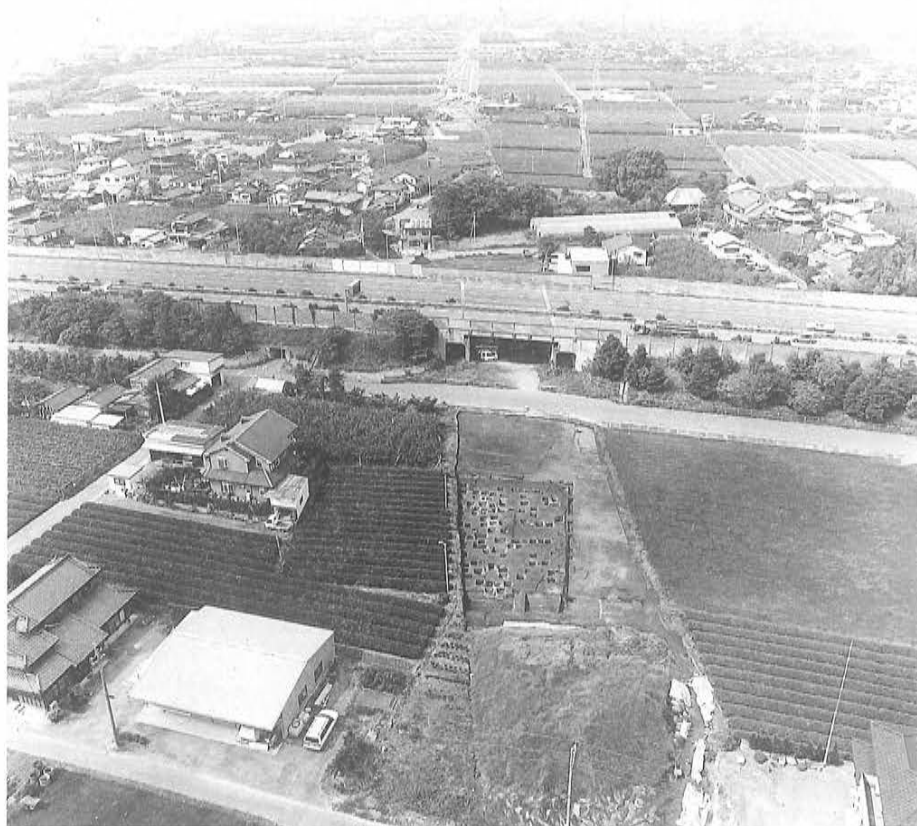
(2) 折部屋敷遺跡 全景 (西から)



(1) 折部屋敷遺跡 全景 (西から)



(2) 折部屋敷遺跡 SD05



(1) 田代遺跡 全景（西から）



(2) 田代遺跡 1 地点（東から）



(1) 近世墓



(2) 近世墓



(3) 甕と甕蓋



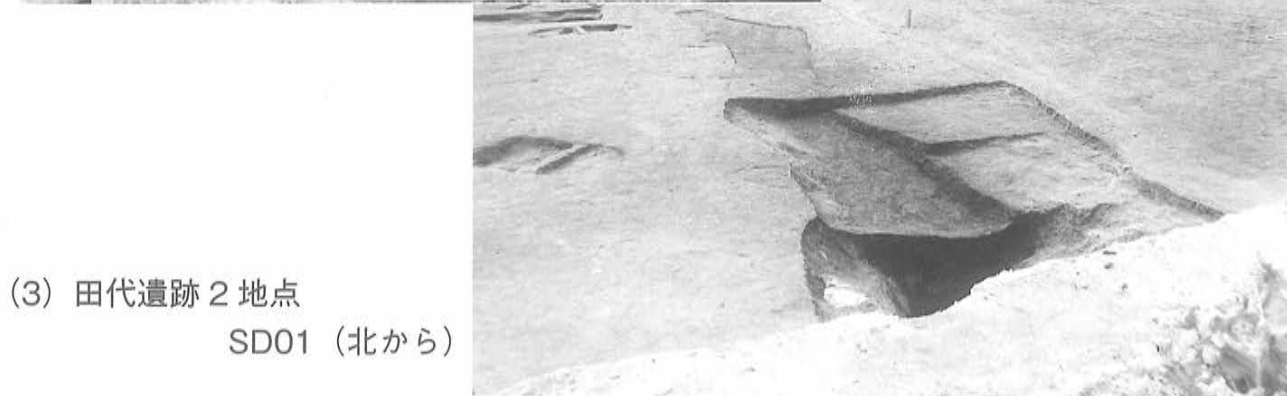
(4) SD02



(1) 田代遺跡 2 地点 (東から)



(2) 田代遺跡 2 地点 SK01



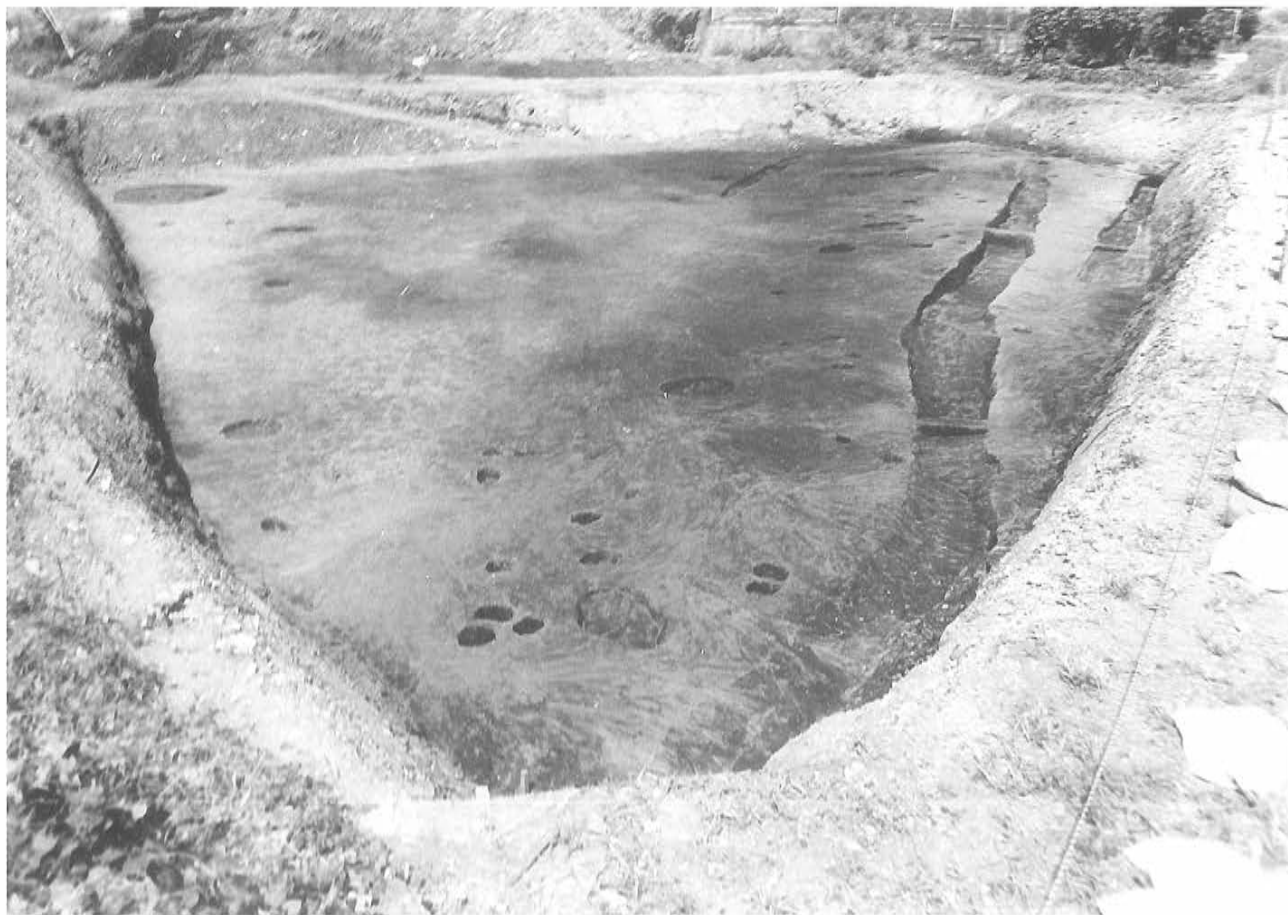
(3) 田代遺跡 2 地点
SD01 (北から)



(1) 四丁堀遺跡 2 次 1 地点



(2) 四丁堀遺跡 2 次 1 地点 (西から)



(1) 四丁堀遺跡 2 次 1 地点 SD01・02 (南から)



(2) 四丁堀遺跡 2 次 1 地点 SD03 (西から)



(1) 四丁堀遺跡 2 次 2 地点 (東から)



(2) 四丁堀遺跡 2 次 2 地点 SD01 (東から)



(1) 中道遺跡 全景（西から）



(2) 中道遺跡 全景（北から）



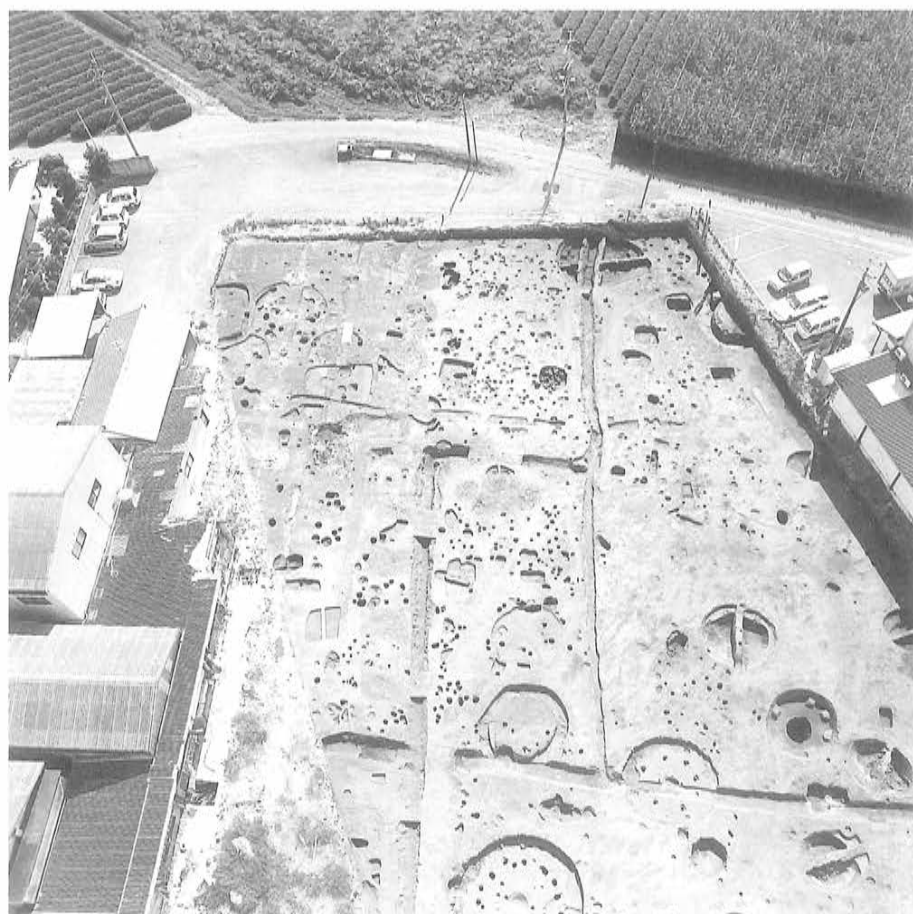
(3) 中道遺跡 SX01 (東から)



(4) 三反畑遺跡 全景 (西から)



(1) 西山ノ上遺跡 2 次調査 全景 (東から)



(2) 西山ノ上遺跡 2 次調査 全景 (西から)



(1) SB13



(3) SB16



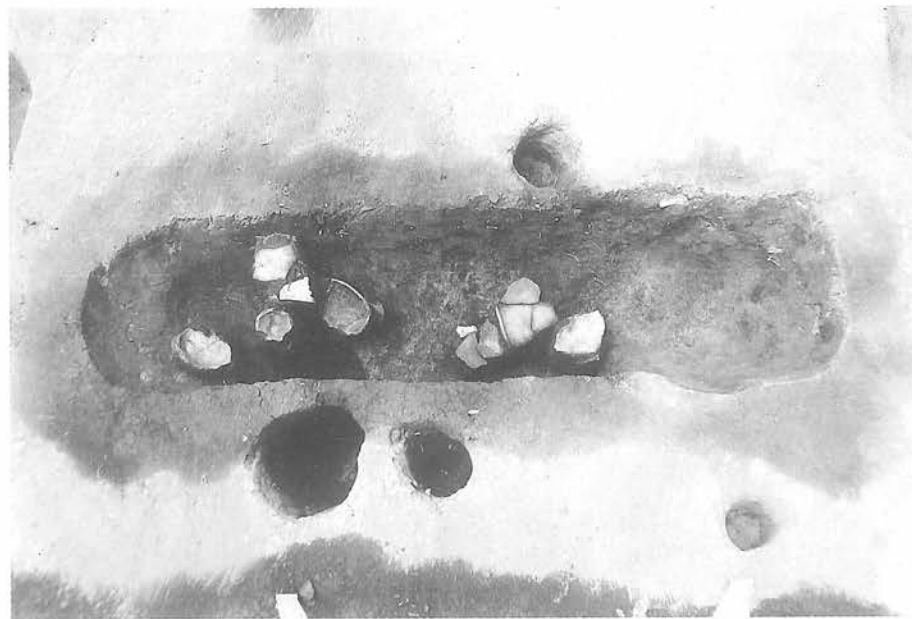
(2) SB14・15



(4) SB17



(1) SB18



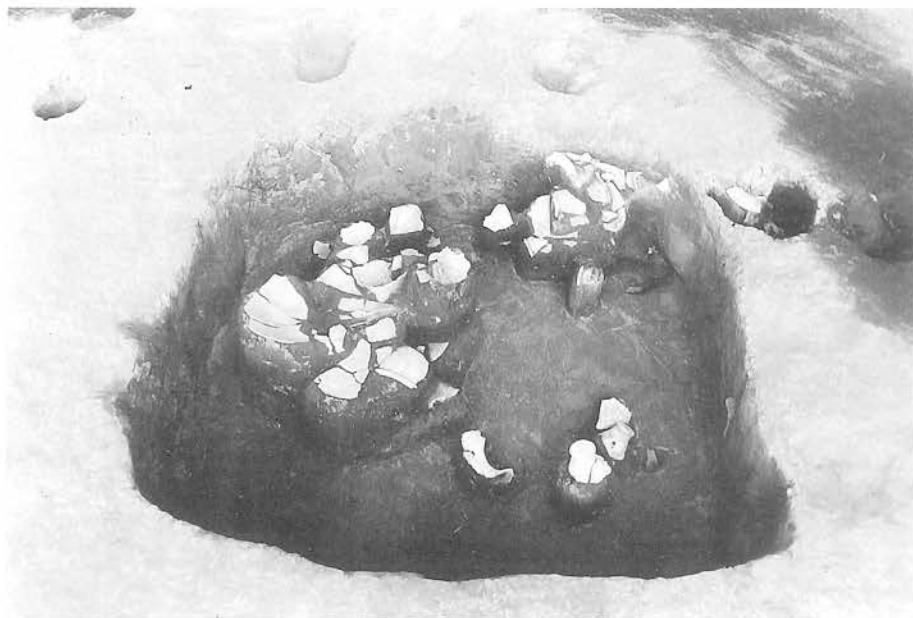
(3) SK56



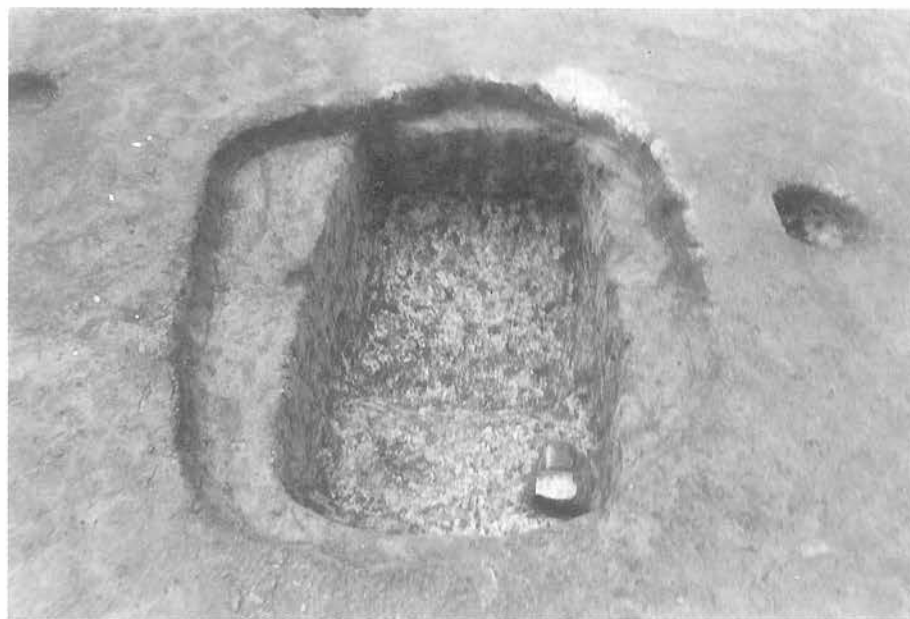
(2) SB19 · 20



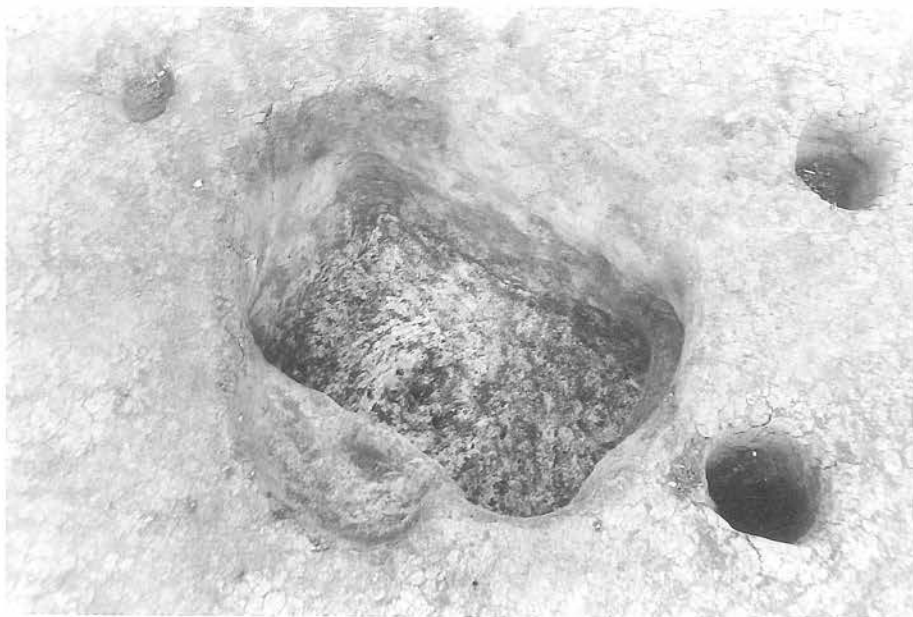
(4) SK57



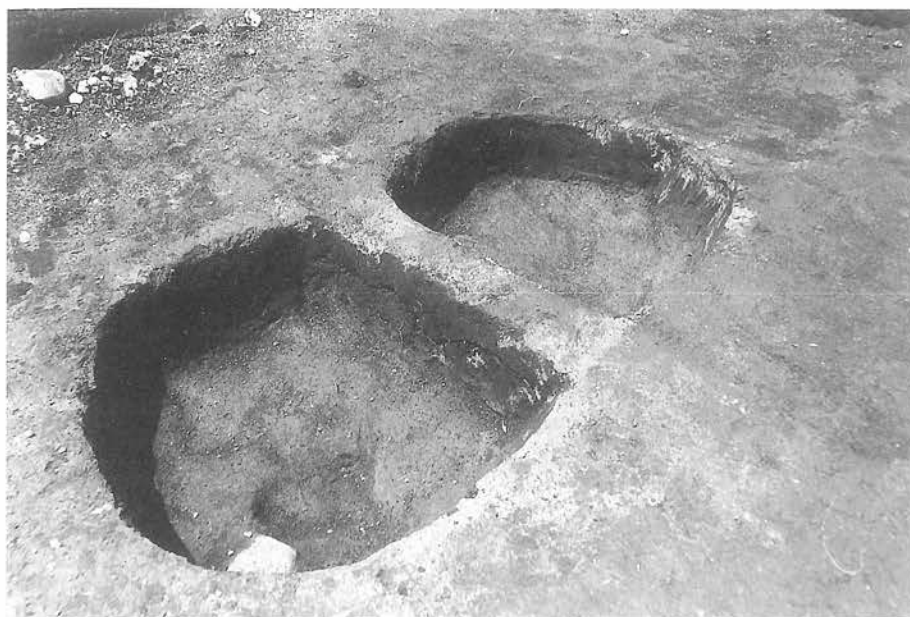
(1) SK59



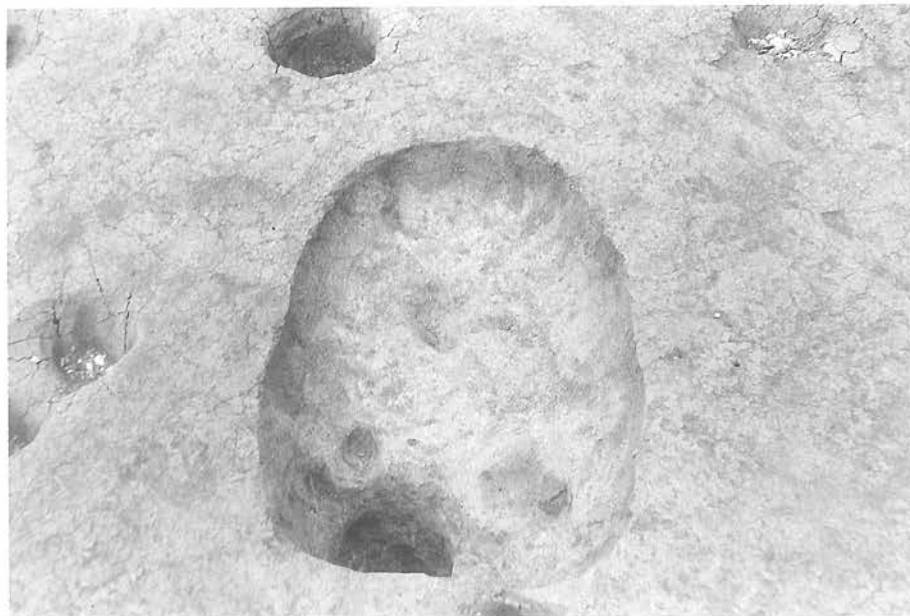
(3) SK61



(2) SK60



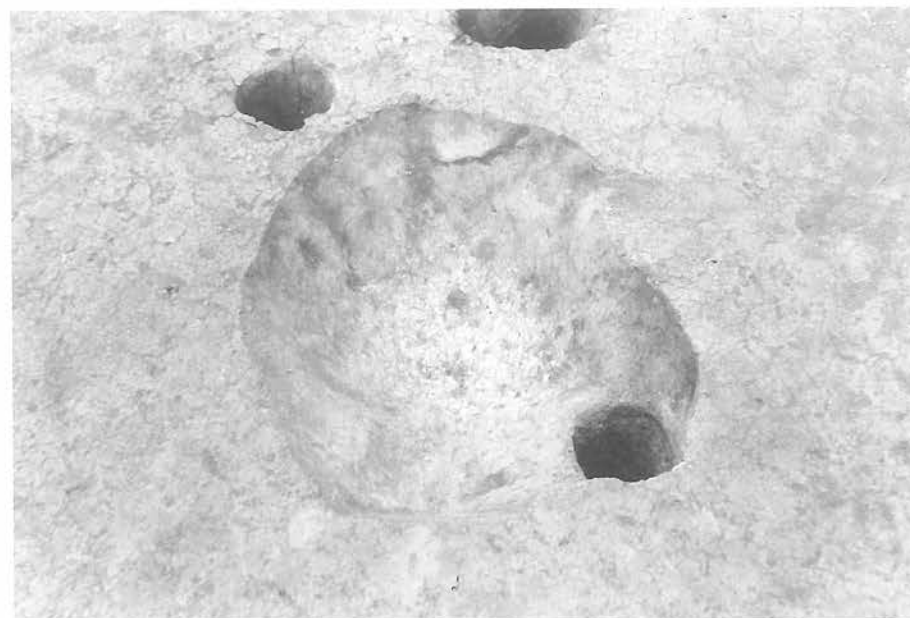
(4) SK62



(1) SK64



(3) SK67



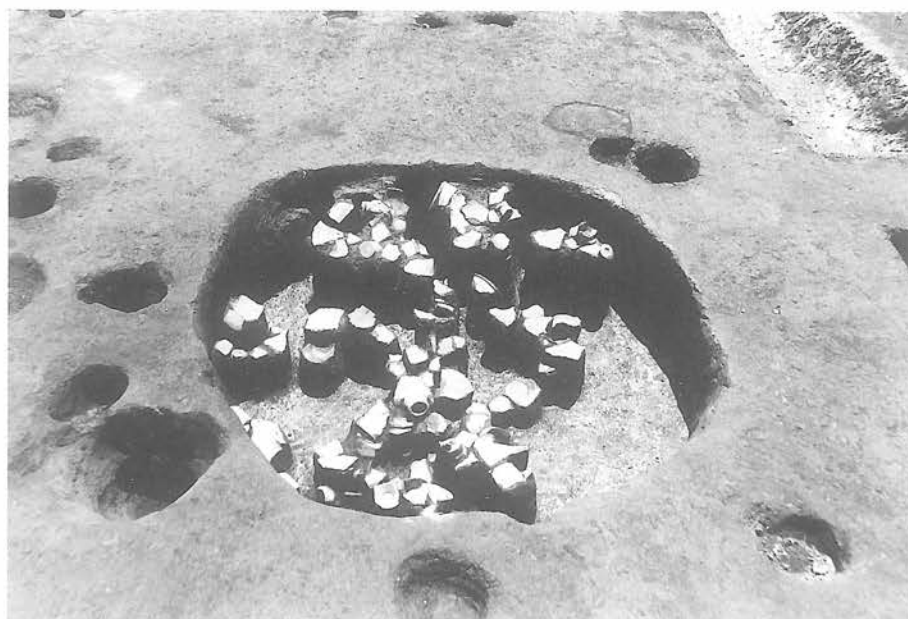
(2) SK66



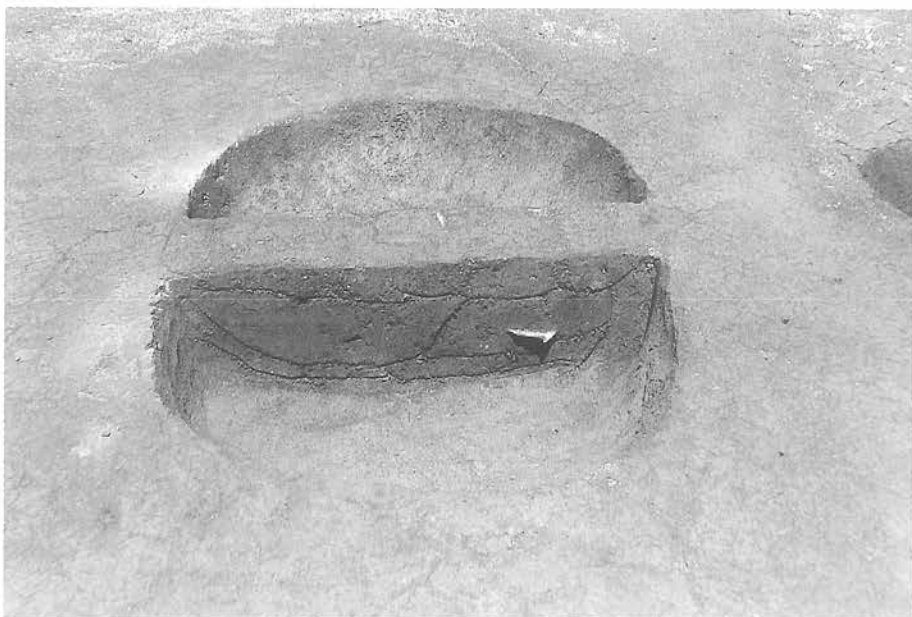
(4) SK69



(1) SK70



(3) SK74



(2) SK72



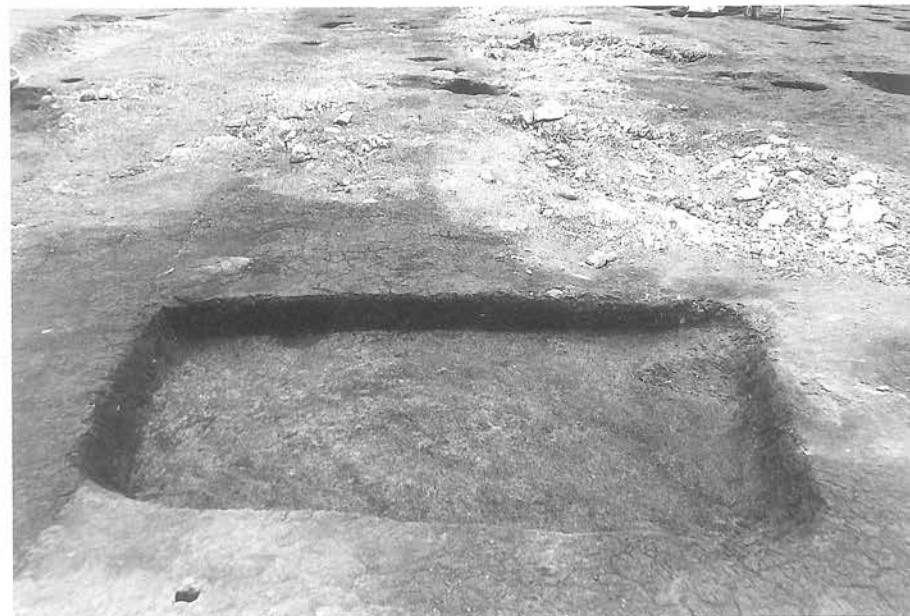
(4) SK77



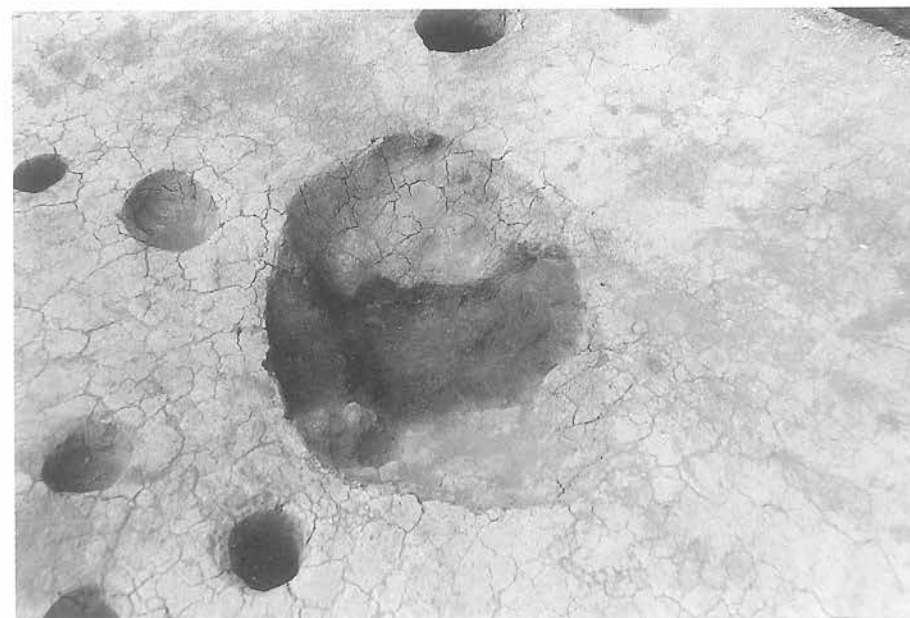
(1) SK81



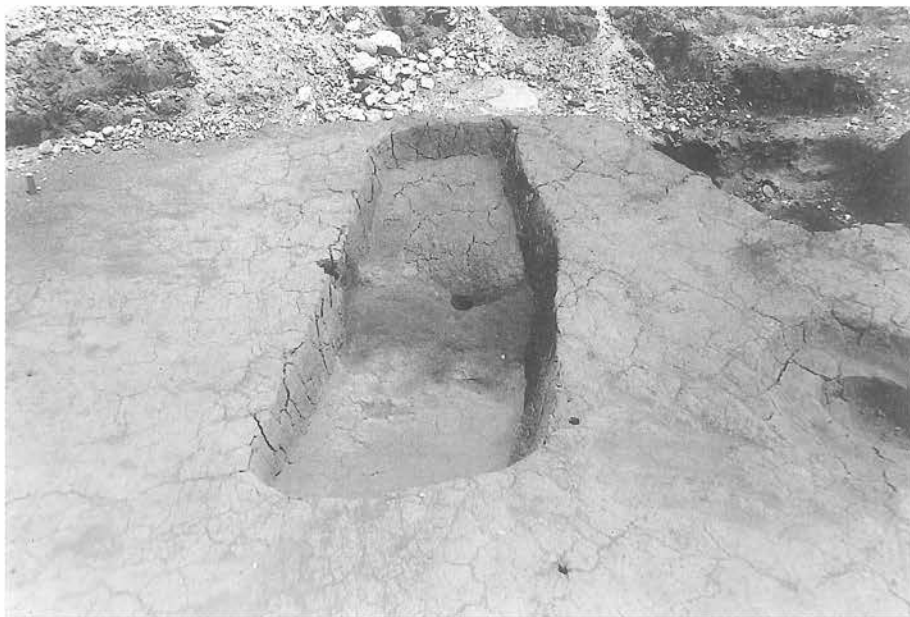
(3) SK84



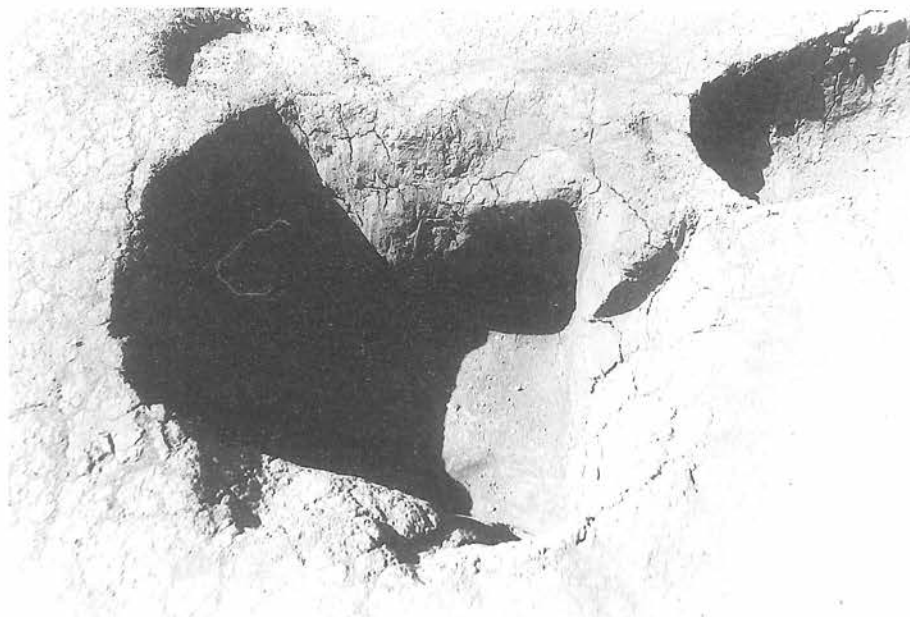
(2) SK82



(4) SK88



(1) SK89



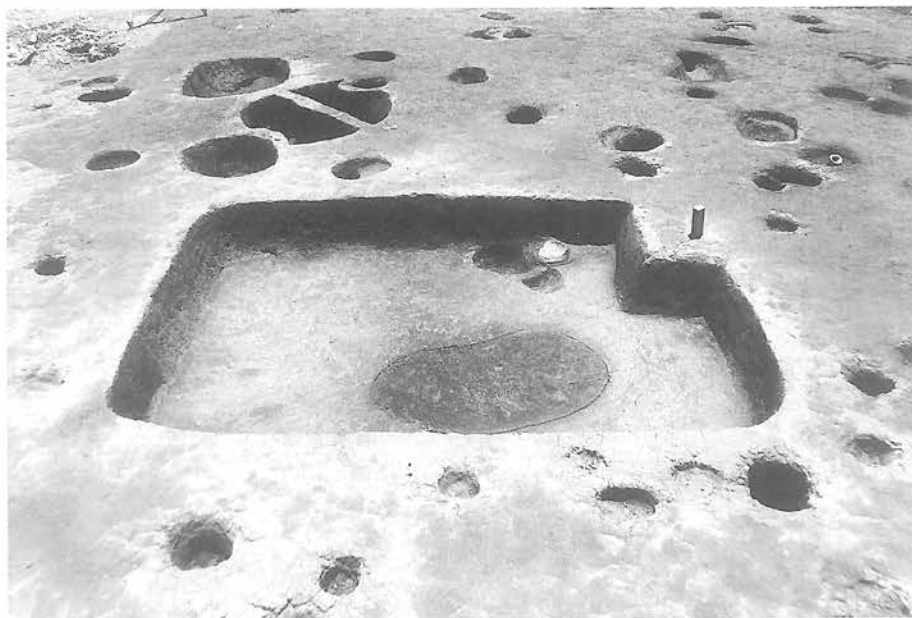
(3) SK92



(2) SK90



(4) SK95



(1) SX06



(3) SX10



(2) SX09



(4) SX11



(1) 室岡山ノ上遺跡 全景 (東から)



(2) 室岡山ノ上遺跡 (上空から)



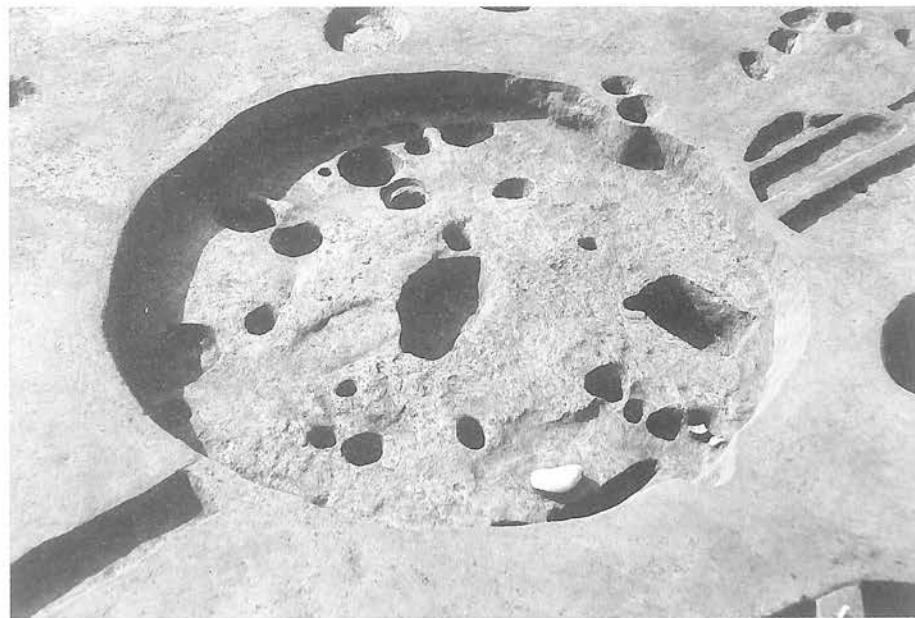
(1) SB01



(3) SB05



(2) SB02



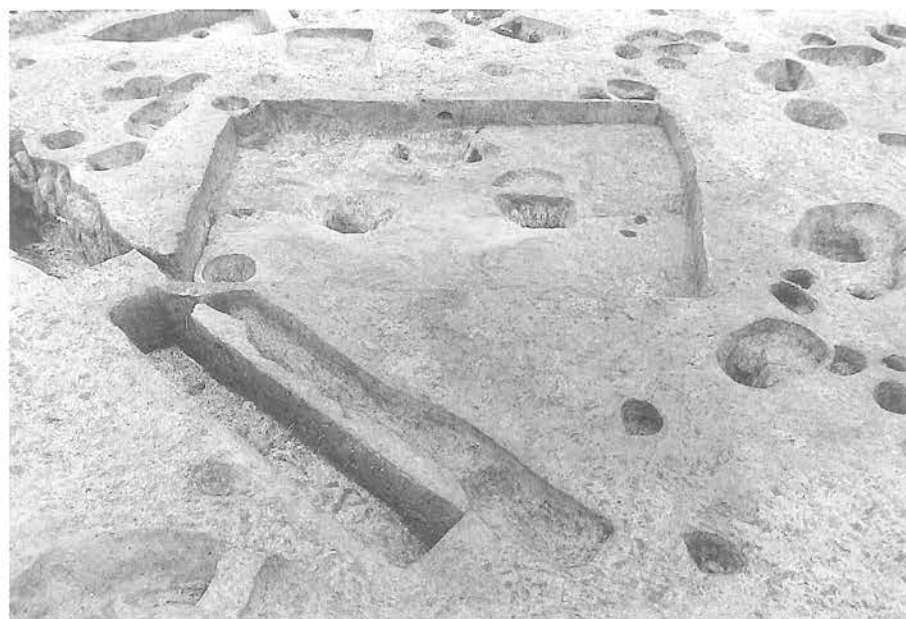
(4) SB06



(1) 室岡山ノ上遺跡（上空から）



(2) SB07



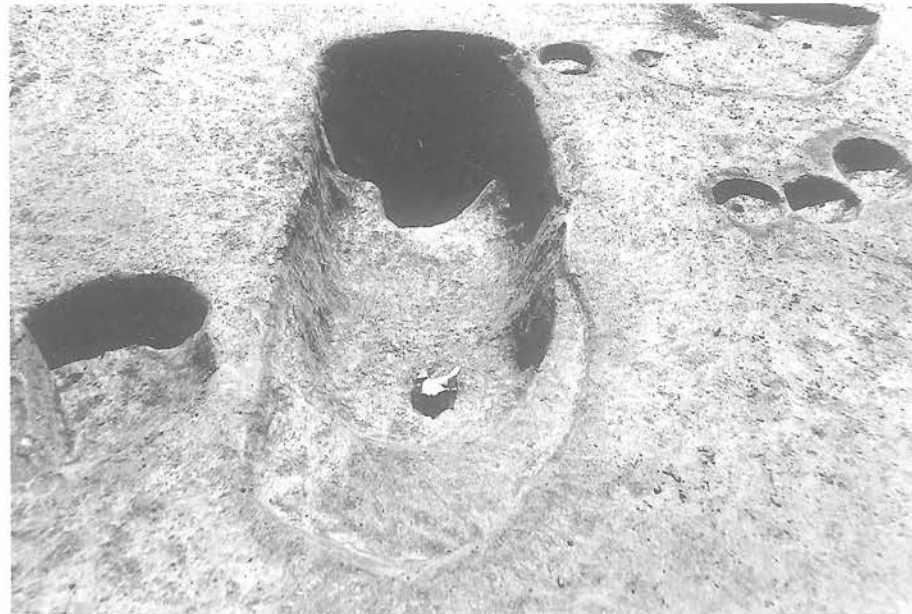
(3) SB08



(1) SK11



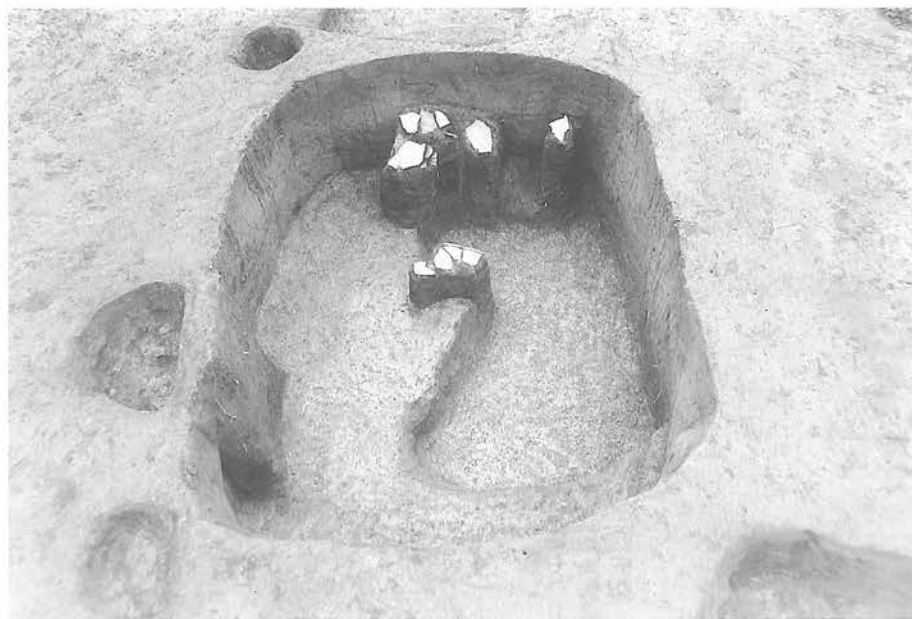
(3) SK19



(2) SK16



(4) SK25



(1) SK36



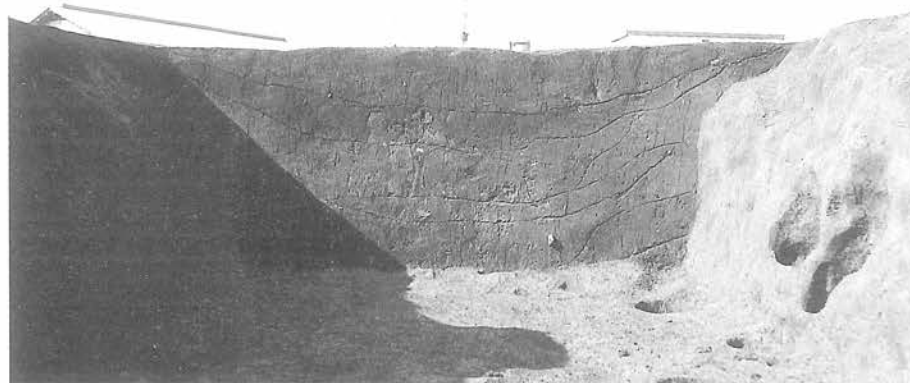
(3) SK45



(2) SK37



(1) 室岡山ノ上遺跡 (上空から)



(2) SD04 (溝内堆積状況)



(3) SD04 (南から)



(4) SD08 (北から)



(1) 後田遺跡 発掘前（南から）



(2) 後田遺跡 2 地点（南から）



(1) 後田遺跡 2 地点 (北から)



(2) 後田遺跡 2 地点
斜面土層 (北から)



(3) 後田遺跡 3 地点 (東から)



(1) 後田遺跡 1 地点 発掘前（北から）



(2) 後田遺跡 1 地点（東から）



(1) 後田遺跡 1 地点 土層 (北から)

報告書抄録

ふりがな	いっばんこくどう442ごうやめちくごばいばすまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	一般国道442号八女筑後バイパス埋蔵文化財調査報告書							
副書名	福岡県八女市室岡・亀ノ甲所在遺跡の調査報告書							
巻次	II							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第77集							
編著者名	赤崎敏男							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL0943-23-1982							
発行年月日	西暦 2007年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しげ 志計遺跡 おりべやしき 折部屋敷遺跡 たしろ 田代遺跡 よんちようほり 四丁堀遺跡 (2次調査) ななみち 中道遺跡 さんたんぼた 三反畑遺跡 にしやまのうえ 西山ノ上遺跡 (2次調査) むろおかやまのうえ 室岡山ノ上遺跡 うしろだ 後田遺跡	福岡県	402109		33°12'45"	130°31'20"	030408 ~ 040325	1,800 m ²	道路建設
	八女市室岡							
	字志計							
	字折部屋敷							
	字田代							
	字四丁堀							
	字中道							
	字三反畑							
	字西山ノ上							
	字山ノ上							
	八女市亀ノ甲							
字後田								

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
志計遺跡	集落	近世	溝・土塋	石鏃・ガラス小玉・陶磁器片	
折部屋敷遺跡	集落	近世	溝・土塋・井戸	陶磁器片	
田代遺跡	集落	中世・近世	溝・土塋	土師器・瓦器・陶磁器	
四丁堀遺跡 (2次調査)	集落	中世・近世	溝・土塋	土師器・瓦器・陶磁器	
中道遺跡	集落	中世・近世	溝・土塋・不明遺構	円筒埴輪片・土師器・陶磁器	
三反畑遺跡			ピット	なし	
西山ノ上遺跡 (2次調査)	集落	弥生・中世	住居跡・土塋・周溝状遺構・溝	弥生式土器・土製品・石器・土師器	
室岡山ノ上遺跡	集落	弥生	住居跡・土塋・周溝状遺構・溝・溝(環濠)	弥生式土器・土製品・石器	
後田遺跡			溝・ピット	弥生式土器	

埋藏文化財調査報告書Ⅱ

八女市文化財調査報告書

第 77 集

平成19年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647

印刷 橋 爪 印 刷
八女市大字吉田1899-1